



講義内容 2012

医療健康科学部

グローバル・メディア・スタディーズ学部

講 義 内 容

目次案内

専門教育科目

1. 医療健康科学部 … (2)
2. グローバル・メディア・スタディーズ学部 … (7)

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

1. 医療健康科学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
医学英語	吉川 宏起	159201	3
医学概論	吉川 宏起	154901	3
医学特論	山口 晶	164801	4
医用化学実験〔実験〕	原田 和正 漆山 秋雄 山本 裕右 本多 貴之 秋山 稔	153701	4
医用化学実験〔実験〕	原田 和正 漆山 秋雄 山本 裕右 本多 貴之 秋山 稔	153801	5
医用画像工学 画像工学概論Ⅲ 画像数学	近藤 啓介	156301・156302・ 156303	5
医用検査学	名古屋 安伸	159501	6
医用物理学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 羽生 毅 藤森 成一 小川 雅生 鳥山 保	153501	6
医用物理学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 羽生 毅 藤森 成一 小川 雅生 鳥山 保	153601	7
医療画像科学総合研究	瀬尾 育武 森口 央基 近藤 啓介 飯田 幸雄 熊坂 さつき	162401	7
医療画像科学論文講読	熊坂 さつき	164201	8
医療経済学	柚木園 隆	164701	8
医療宗教学	吉津 宜英	164601	9
医療統計学	近藤 啓介	164301	9
医療統計学	森口 央基	164351	10
医療放射線科学総合研究	西尾 誠示 山本 裕右 佐藤 昌憲 青木 清 原田 和正 吉川 宏起 奥山 康男 金子 順一 嶋田 守男 小川 雅生 名古屋 安伸	162301	10
医療放射線科学論文講読	吉川 宏起	164101	11

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
応用機器工学	名古 安伸	158601	11
応用計測学	小川 雅生	158701	12
応用数学	森口 央基	153401	12
解剖学	嶋田 守男	153101	13
核医学	奥山 康男	158901	14
核医学検査技術学基礎実習〔実験〕	山本 裕右 原田 和正 奥山 康男 金子 順一 外山 真理	160701	15
核医学検査技術学基礎実習〔実験〕	山本 裕右 原田 和正 奥山 康男 金子 順一 外山 真理	160801	15
核医学検査技術学実習〔病院実習〕	吉川 宏起 原田 和正 奥山 康男	163001	16
画像解剖学	嶋田 守男	158301	16
画像検査技術学基礎実習〔実験〕	西尾 誠示 谷口 貴久 五十嵐 太郎 吉川 達生 名古 安伸 田仲 隆	156801	17
画像検査技術学基礎実習〔実験〕	西尾 誠示 谷口 貴久 五十嵐 太郎 吉川 達生 名古 安伸 田仲 隆	156901	18
画像検査技術学実習〔病院実習〕	嶋田 守男 西尾 誠示 飯田 幸雄 名古 安伸	160901	19
画像工学 I	瀬尾 育式	159801	19
画像工学 II	瀬尾 育式	159901	20
画像工学概論 I 放射線写真学	飯田 幸雄	153001・153002	21
画像工学概論 II 画像工学概論	飯田 幸雄	156001・156002	22
画像工学実験〔実験〕	瀬尾 育式 酒井 芳雄 近藤 啓介 俣野 公志 飯田 幸雄 熊坂 さつき	160301	23

医療健康科学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
画像工学実験〔実験〕	瀬尾 育弉 酒井 芳雄 近藤 啓介 俣野 公志 飯田 幸雄 熊坂 さつき	160401	23
画像構築論Ⅰ 画像処理工学	志村 一男	163501・163502	24
画像処理概論	近藤 啓介	164251	24
画像処理概論	近藤 啓介	164261	25
画像処理言語論 画像処理言語論Ⅰ	近藤 啓介	159301・159302	25
画像処理論	近藤 啓介	162101	26
画像診断機器工学	瀬尾 育弉	158501	26
画像診断技術学Ⅰ	嶋田 守男	159401	27
画像診断技術学Ⅱ	吉川 宏起	163701	27
画像伝送論	大楠 清央	163601	28
画像と放射線治療	吉川 宏起	164001	28
環境保健医学	黒子 幸一	153201	29
技術英語	高橋 優身	160001	29
救急医療学	奥山 康男	159601	30
計算機言語論	近藤 啓介	164401	30
計算機言語論Ⅰ 計算機言語論	近藤 啓介	164451・164452	31
計算機言語論Ⅱ	近藤 啓介	164461	31
原子核物理学	永井 喜則	155601	32
最新医療技術 最新医療科学	吉川 宏起	165301・165302	32
診療画像技術学	西尾 誠示	156101	33
診療画像技術学概論	西尾 誠示	153301	34
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 酒井 芳雄 飯田 幸雄 熊坂 さつき	153901	35
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 酒井 芳雄 飯田 幸雄 熊坂 さつき	154001	36
診療画像情報学Ⅰ	西尾 誠示	158801	37
診療画像情報学Ⅱ	西尾 誠示	163801	38
診療機器システム学	近藤 啓介	165601	38
生化学	原田 和正	155401	39
生理学	樋口 雄三	155301	39
線量計測工学	小川 雅生	162201	40
電気工学	佐藤 昌憲	152801	40
電気電子工学実験〔実験〕	青木 清 片岳 格 吉田 正廣 金子 順一	156401	41
電気電子工学実験〔実験〕	青木 清 片岳 格 吉田 正廣 金子 順一	156501	42
電子工学	金子 順一	155801	43

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
病理学	吉川 宏起	155201	43
放射化学	山本 裕右	155701	44
放射化学特論	原田 和正	165401	44
放射線医学概論	嶋田 守男	158401	45
放射線化学特論	原田 和正	165101	45
放射線学総合演習	金子 順一	162001	46
放射線学特論	熊坂 さつき	165501	47
放射線関係法規	青木 清	158101	48
放射線関係法規	青木 清	158151	49
放射線感光化学	山本 裕右	165001	49
放射線管理学	青木 清	159101	50
放射線管理学実験〔実験〕	青木 清 永井 喜則 金子 順一 大西 孝明 高橋 忍	160501	51
放射線管理学実験〔実験〕	青木 清 永井 喜則 金子 順一 大西 孝明 高橋 忍	160601	52
放射線機器概論	名古 安伸	152901	53
放射線機器工学	奥山 康男	155901	54
放射線機器工学実験〔実験〕	奥山 康男 羽生 毅 瀬尾 育武	156601	55
放射線機器工学実験〔実験〕	奥山 康男 羽生 毅 瀬尾 育武	156701	56
放射線計測学	青木 清	156201	57
放射線検出器工学	鳥山 保	164901	58
放射線腫瘍学	高山 誠	159001	58
放射線生物学	熊坂 さつき	155101	59
放射線治療技術学	高山 誠	163401	59
放射線治療技術学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 森口 央基 羽生 毅 高城 保 小川 雅生	160101	60
放射線治療技術学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 森口 央基 羽生 毅 高城 保 小川 雅生	160201	61
放射線治療技術学実習〔病院実習〕	森口 央基 佐藤 昌憲 飯田 幸雄	163101	61
放射線被曝管理論	羽生 毅	165901	62
放射線物理学	小川 雅生	152701	62
量子論	金子 順一	164501	63

医療健康科学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
臨床医学概論	嶋田 守男	155001	63
臨床医療人間学Ⅰ	名古 安伸	159701	64
臨床医療人間学Ⅱ	奥山 康男	163901	65
医用材料工学	休講		
医療生物工学	休講		
画像構築論Ⅱ	休講		
画像処理言語論Ⅱ	休講		

2. グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
Academic Writing	アシュウェル, T.	410101	69
Academic Writing	アシュウェル, T.	411061	71
Academic Writing	金子 カムシン	410401	73
Academic Writing	金子 カムシン	411001	75
Academic Writing	クオック, R. Y. F.	410201	77
Academic Writing	クオック, R. Y. F.	410801	79
Academic Writing	ゴールド, F.	410001	81
Academic Writing	ゴールド, F.	410501	83
Academic Writing	ゴールド, F.	410701	85
Academic Writing	ゴールド, F.	411011	87
Academic Writing	ダーリン, M.	410301	89
Academic Writing	ダーリン, M.	410901	91
Academic Writing	ダーリン, M.	411021	93
Academic Writing	ダーリン, M.	411031	95
Academic Writing	モハメッド, G.	409901	97
Academic Writing	モハメッド, G.	410601	99
Academic Writing	モハメッド, G.	411041	101
Academic Writing	モハメッド, G.	411051	103
E-コマース論	今村 誠	434401	104
イスラムと文化	奥田 敦	434711	105
イノベーション普及論	白水 繁彦	430911	106
異文化間コミュニケーション論	高 媛	432901	107
異文化経営論	リンスキー, M.	431301	107
インターネットとメディア	吉田 尚史	417001	108
Integrated English I	ダーリン, M.	441001	109
Integrated English II	ダーリン, M.	441151	110
Integrated English III	ギャリソン, E.	441201	111
Integrated English IV	ギャリソン, J. G.	441351	112
Integrated English V	ボシュー, E.	441401	113
Integrated English VI	モハメッド, G.	441501	114
Integrated English VII	ギャリソン, E.	441601	115
Integrated English VIII	モハメッド, G.	441701	116
Webコンテンツ	南 政樹	434701	117
Webコンテンツデザイン演習	吉田 尚史	436781	118
Webコンテンツデザイン各論	吉田 尚史	436761	119
英語圏文学概論	佐藤 アヤ子	433201	120
映像産業論	高橋 直治	435011	121
エスニシティの文化心理学	白水 繁彦	435611	122
演習 I a	アシュウェル, T.	419321	123
演習 I a	石川 憲洋	418101	123
演習 I a	石橋 直樹	418801	124
演習 I a	各務 洋子	418301	125
演習 I a	川崎 賢一	417801	125
演習 I a	絹川 真哉	418901	126
演習 I a	クボタ, L.	417701	126
演習 I a	高 媛	419001	127
演習 I a	芝崎 厚士	419101	128
演習 I a	白水 繁彦	418001	128

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習 I a	杉森 建太郎	419351	129
演習 I a	西岡 洋子	418601	129
演習 I a	福家 秀紀	418201	130
演習 I a	南 政樹	417901	131
演習 I a	山口 浩	418701	132
演習 I a	吉田 尚史	419301	133
演習 I a	リンスキー, M.	419201	134
演習 I b	アシュウェル, T.	421121	134
演習 I b	石川 憲洋	419901	135
演習 I b	石橋 直樹	420601	136
演習 I b	各務 洋子	420101	137
演習 I b	川崎 賢一	419601	137
演習 I b	絹川 真哉	420701	138
演習 I b	クボタ, L.	419501	139
演習 I b	高 媛	420301	140
演習 I b	芝崎 厚士	420901	141
演習 I b	白水 繁彦	419801	141
演習 I b	杉森 建太郎	421151	142
演習 I b	西岡 洋子	420401	142
演習 I b	福家 秀紀	420001	143
演習 I b	南 政樹	419701	144
演習 I b	山口 浩	420501	145
演習 I b	吉田 尚史	421101	146
演習 I b	リンスキー, M.	421001	147
演習 II a	アシュウェル, T.	422851	147
演習 II a	石川 憲洋	421601	148
演習 II a	石橋 直樹	422301	149
演習 II a	各務 洋子	421801	150
演習 II a	金山 智子	421901	150
演習 II a	川崎 賢一	421301	151
演習 II a	絹川 真哉	422401	152
演習 II a	クボタ, L.	421201	153
演習 II a	高 媛	422501	153
演習 II a	芝崎 厚士	422601	154
演習 II a	白水 繁彦	421501	154
演習 II a	杉森 建太郎	422821	155
演習 II a	西岡 洋子	422101	155
演習 II a	福家 秀紀	421701	156
演習 II a	南 政樹	421401	157
演習 II a	山口 浩	422201	158
演習 II a	吉田 尚史	422801	159
演習 II a	リンスキー, M.	422701	160
演習 II b	アシュウェル, T.	424551	160
演習 II b	石川 憲洋	423301	161
演習 II b	石橋 直樹	424001	162
演習 II b	各務 洋子	423501	163
演習 II b	金山 智子	423601	163
演習 II b	川崎 賢一	423001	164
演習 II b	絹川 真哉	424101	164
演習 II b	クボタ, L.	422901	165

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ b	高 媛	424201	165
演習Ⅱ b	芝崎 厚士	424301	166
演習Ⅱ b	白水 繁彦	423201	166
演習Ⅱ b	杉森 建太郎	424521	167
演習Ⅱ b	西岡 洋子	423801	167
演習Ⅱ b	福家 秀紀	423401	168
演習Ⅱ b	南 政樹	423101	169
演習Ⅱ b	山口 浩	423901	170
演習Ⅱ b	吉田 尚史	424501	171
演習Ⅱ b	リンスキー, M.	424401	172
演習Ⅲ a 卒業研究	石川 憲洋	412601・412602	172
演習Ⅲ a 卒業研究	石橋 直樹	412701・412702	173
演習Ⅲ a 卒業研究	各務 洋子	412301・412302	174
演習Ⅲ a 卒業研究	金山 智子	413901・413902	174
演習Ⅲ a 卒業研究	川崎 賢一	412401・412402	175
演習Ⅲ a 卒業研究	絹川 真哉	413701・413702	175
演習Ⅲ a 卒業研究	クボタ, L.	413001・413002	176
演習Ⅲ a 卒業研究	高 媛	412801・412802	176
演習Ⅲ a 卒業研究	芝崎 厚士	413501・413502	177
演習Ⅲ a 卒業研究	白水 繁彦	413801・413802	177
演習Ⅲ a 卒業研究	テヅカ ヨシハル	413201・413202	178
演習Ⅲ a 卒業研究	西岡 洋子	413101・413102	178
演習Ⅲ a 卒業研究	福家 秀紀	413601・413602	179
演習Ⅲ a 卒業研究	南 政樹	412501・412502	179
演習Ⅲ a 卒業研究	山口 浩	413301・413302	180
演習Ⅲ a 卒業研究	吉田 尚史	413401・413402	181
演習Ⅲ a 卒業研究	リンスキー, M.	412901・412902	182
演習Ⅲ b 卒業研究	石川 憲洋	414301・414302	182
演習Ⅲ b 卒業研究	石橋 直樹	414401・414402	183
演習Ⅲ b 卒業研究	各務 洋子	414001・414002	184
演習Ⅲ b 卒業研究	金山 智子	415601・415602	184
演習Ⅲ b 卒業研究	川崎 賢一	414101・414102	185
演習Ⅲ b 卒業研究	絹川 真哉	415401・415402	185
演習Ⅲ b 卒業研究	クボタ, L.	414701・414702	186
演習Ⅲ b 卒業研究	高 媛	414501・414502	186
演習Ⅲ b 卒業研究	五野井 郁夫	414901・414902	187
演習Ⅲ b 卒業研究	芝崎 厚士	415201・415202	187
演習Ⅲ b 卒業研究	白水 繁彦	415501・415502	188
演習Ⅲ b 卒業研究	西岡 洋子	414801・414802	188
演習Ⅲ b 卒業研究	福家 秀紀	415301・415302	188
演習Ⅲ b 卒業研究	南 政樹	414201・414202	189
演習Ⅲ b 卒業研究	山口 浩	415001・415002	190
演習Ⅲ b 卒業研究	吉田 尚史	415101・415102	191
演習Ⅲ b 卒業研究	リンスキー, M.	414601・414602	192
Oral Communication I	ヴァン ヴィーレン D.	400701	193
Oral Communication I	エセックス, J.	400101	194
Oral Communication I	エセックス, J.	400401	195
Oral Communication I	オーラ, B.	401211	196
Oral Communication I	オーラ, B.	401231	197

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
Oral Communication I	オーラ. B.	401241	198
Oral Communication I	スミス. G. A.	400201	199
Oral Communication I	パイプ. J.	400601	200
Oral Communication I	フアーロー. D.	400301	201
Oral Communication I	フアーロー. D.	400801	202
Oral Communication I	フアーロー. D.	401201	203
Oral Communication I	ブーハー. U. J.	400501	204
Oral Communication I	モエ. R. A.	401221	205
Oral Communication I	ローズ. S.	400901	206
Oral Communication I	ローズ. S.	401001	207
Oral Communication I	ローズ. S.	401101	208
Oral Communication II	ヴァン ヴィーレン D.	401901	209
Oral Communication II	エセックス. J.	401301	210
Oral Communication II	エセックス. J.	401601	211
Oral Communication II	オーラ. B.	402411	212
Oral Communication II	オーラ. B.	402431	213
Oral Communication II	オーラ. B.	402441	214
Oral Communication II	スミス. G. A.	401401	215
Oral Communication II	パイプ. J.	401801	216
Oral Communication II	フアーロー. D.	401501	217
Oral Communication II	フアーロー. D.	402001	218
Oral Communication II	フアーロー. D.	402401	219
Oral Communication II	ブーハー. U. J.	401701	220
Oral Communication II	モエ. R. A.	402421	221
Oral Communication II	ローズ. S.	402101	222
Oral Communication II	ローズ. S.	402201	223
Oral Communication II	ローズ. S.	402301	224
Oral Communication III Public Speaking	エラム. J. R.	408701・408702	225
Oral Communication III Public Speaking	エラム. J. R.	409301・409302	226
Oral Communication III Public Speaking	エラム. J. R.	409601・409602	227
Oral Communication III Public Speaking	エラム. J. R.	409841・409842	228
Oral Communication III Public Speaking	金子 カムシン	408801・408802	229
Oral Communication III Public Speaking	金子 カムシン	409811・409812	230
Oral Communication III Public Speaking	クオック. R. Y. F.	409401・409402	231
Oral Communication III Public Speaking	クオック. R. Y. F.	409701・409702	232
Oral Communication III Public Speaking	ゴールド. F.	409821・409822	233
Oral Communication III Public Speaking	スミス. G. A.	409001・409002	234
Oral Communication III Public Speaking	スミス. G. A.	409831・409832	235
Oral Communication III Public Speaking	スメザム. M.	409201・409202	236
Oral Communication III Public Speaking	スメザム. M.	409501・409502	237
Oral Communication III Public Speaking	ダーリン. M.	409801・409802	238
Oral Communication III Public Speaking	パイプ. J.	408901・408902	239
Oral Communication III Public Speaking	モハメッド. G.	409101・409102	240
Oral Communication IV Strategic Presentation	エラム. J. R.	411101・411102	241
Oral Communication IV Strategic Presentation	エラム. J. R.	411611・411612	242
Oral Communication IV Strategic Presentation	エラム. J. R.	411901・411902	243
Oral Communication IV Strategic Presentation	エラム. J. R.	412231・412232	244
Oral Communication IV Strategic Presentation	金子 カムシン	411201・411202	245
Oral Communication IV Strategic Presentation	金子 カムシン	412201・412202	246

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
Oral Communication IV Strategic Presentation	クオック. R. Y. F.	411701・411702	247
Oral Communication IV Strategic Presentation	クオック. R. Y. F.	412001・412002	248
Oral Communication IV Strategic Presentation	ゴールド. F.	412211・412212	249
Oral Communication IV Strategic Presentation	スミス. G. A.	411401・411402	250
Oral Communication IV Strategic Presentation	スミス. G. A.	412221・412222	251
Oral Communication IV Strategic Presentation	スメザム. M.	411601・411602	252
Oral Communication IV Strategic Presentation	スメザム. M.	411801・411802	253
Oral Communication IV Strategic Presentation	ダーリン. M.	412101・412102	254
Oral Communication IV Strategic Presentation	パイプ. J.	411301・411302	255
Oral Communication IV Strategic Presentation	モハメッド. G.	411501・411502	256
Honors English Seminar I	ギャリソン. J. G.	442201	257
Honors English Seminar II	ギャリソン. J. G.	442301	258
Honors English Seminar III	モエ. R. A.	442401	259
Honors English Seminar IV	モエ. R. A.	442501	259
Honors English Seminar V	アシュウェル. T.	442601	260
Honors English Seminar VI	アシュウェル. T.	442701	260
音楽メディア論	増淵 敏之	435201	261
海外演習実践講座 I	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛	437501	262
海外演習実践講座 II	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛	437601	263
海外演習実践講座 III	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛	437701	264
韓国の文化と社会 I	渡辺 吉鎔	434731	265
韓国の文化と社会 II	渡辺 吉鎔	434741	265
企業会計の実務	伊藤 克容	431701	266
教育環境とメディア	南 政樹	434601	267
キリスト教文化	豊川 慎	434721	268
クリエイティブビジネス論	クボタ. L.	415901	269
クリエイティブビジネス論	クボタ. L.	416001	270
グローバルアート政策論	川崎 賢一	432601	271
グローバル英語概論	町田 尚子	433101	272
グローバル企業行動論	リンスキー. M.	416501	273
グローバル経営論	各務 洋子	427911	274
グローバル交流論	芝崎 厚士	432801	275
グローバルシティズンシップ	関根 政美	433001	276
グローバル市民社会論	芝崎 厚士	433401	277
グローバル戦略論	各務 洋子	431111	278
グローバル創造都市論	川崎 賢一	432701	279
グローバルネットワーク論	福家 秀紀	435901	280
グローバルビジネス人材マネジメント	リンスキー. M.	431601	280
グローバル文化論	川崎 賢一	417501	281
グローバルマネジメント グローバル経営論 I	各務 洋子	406901・406902	282
グローバルメディア概論	川崎 賢一	406501	283
グローバルメディアガバナンス論	西岡 洋子	432301	284

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
グローバルメディアスタディーズ概論	福家 秀紀 川崎 賢一 山口 浩 石橋 直樹 クボタ L. 芝崎 厚士 南 政樹 絹川 真哉 白水 繁彦 リンスキー M. 石川 憲洋 杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛	406101	285
広告文化論	高 媛	435311	286
国際移動とメディア	白水 繁彦	435511	287
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	288
国際協手法	山村 恒雄	434761	288
国際標準化論	石川 憲洋	437401	289
国際法	山村 恒雄	434751	289
コミュニケーション社会史	白水 繁彦	431011	290
コンテンツデザイン演習	高橋 克三	433811	291
コンテンツデザイン概論	岡田 智博	434201	291
コンテンツデザイン各論	高橋 克三	433711	292
コンテンツビジネス論	クボタ L.	416201	293
コンテンツビジネス論	山口 浩	416101	294
コンピュータワークショップ	明田 守正	428001	295
コンピュータワークショップ	石川 憲洋	428201	296
コンピュータワークショップ	石橋 直樹	428301	297
コンピュータワークショップ	松原 大悟	428101	298
実践メディアビジネス講座Ⅰ	各務 洋子 山口 浩	433901	299
実践メディアビジネス講座Ⅲ	石川 憲洋 吉田 尚史 石橋 直樹 南 政樹	436801	299
実践メディアビジネス講座Ⅳ	福家 秀紀 絹川 真哉 西岡 洋子	436901	300
Journalism I	前田 利継	443001	301
Journalism II	前田 利継	443101	303
社会調査法入門	廣瀬 毅士	434811	304
就業力基礎Ⅲ	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450101・450102	305
就業力基礎Ⅳ	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450151・450152	306

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
情報社会論	高 媛	430801	307
情報保護と社会	石川 憲洋	434301	308
情報メディア産業論Ⅰ	福家 秀紀	432001	309
情報メディア産業論Ⅱ	福家 秀紀	432101	310
情報リテラシー	明田 守正	407701	311
情報リテラシー	石川 憲洋	407201	312
情報リテラシー	石橋 直樹	407301	313
情報リテラシー	廣瀬 毅士	407801	314
情報リテラシー	松原 大悟	407501	315
情報リテラシー	松原 大悟	407601	316
情報リテラシー	南 政樹	407401	317
情報リテラシー	吉田 尚史	407101	318
情報リテラシー実習	明田 守正	408501	319
情報リテラシー実習	石川 憲洋	408001	320
情報リテラシー実習	石橋 直樹	408101	321
情報リテラシー実習	廣瀬 毅士	408601	322
情報リテラシー実習	松原 大悟	408301	323
情報リテラシー実習	松原 大悟	408401	324
情報リテラシー実習	南 政樹	408201	325
情報リテラシー実習	吉田 尚史	407901	326
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	327
知識経営論	リンスキー, M.	431201	327
知的財産権と経済	絹川 真哉	417301	328
知的財産権と統計	絹川 真哉	417401	329
知的財産法／個人情報保護法	新保 史生	436201	329
著作権の経済分析	絹川 真哉	436001	330
テクノロジーマネジメント	石橋 直樹	437001	331
デジタルコンテンツビジネス論	クボタ, L.	431511	332
統合リスクマネジメント論	山口 浩	435701	333
TOEIC(R) prep	杉森 建太郎	442901	334
TOEFL(R) prep	杉森 建太郎	442801	335
ドキュメンタリー制作演習	テヅカ ヨシハル	436511	336
ドキュメンタリーの視線と実践	テヅカ ヨシハル	436411	337
都市とメディア	高 媛	432501	338
特許権の経済分析	絹川 真哉	436101	339
ネットワーク経済論	福家 秀紀	435801	340
ネットワークコミュニケーション論	菅谷 実	432201	341
ネットワーク進化論	南 政樹	437201	342
比較メディア制度論	西岡 洋子	432401	343
表象メディア論	テヅカ ヨシハル	434911	344
ファイナンスと経営学Ⅰ	山口 浩	431811	345
ファイナンスと経営学Ⅱ	山口 浩	431911	346
複合ドキュメント概論	吉田 尚史	434501	347
放送メディア論	増淵 敏之	435101	348
マルチメディアコンテンツデザイン演習	石橋 直樹	436771	348
マルチメディアコンテンツデザイン各論	石橋 直樹	436611	349
マルチメディアビジネス論	クボタ, L.	431401	350
メディア・コミュニケーション概論	西岡 洋子	427501	351
メディアイベント論	高 媛	435401	352
メディア制度論	西岡 洋子	427811	353

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
メディアと企業	山口 浩	416301	354
メディアと情報	南 政樹	417201	355
メディアとセキュリティ	石川 憲洋	437301	356
メディアと知識論	南 政樹	437101	357
メディアとデータベース	石橋 直樹	434101	358
メディア文化論	高 媛	417601	359
メディア法	新保 史生	436301	360
メディアリテラシー	小寺 敦之	406701	361
メディアリテラシー	小寺 敦之	406801	362
Listening Skills & Strategies	エセックス, J.	404821	363
Listening Skills & Strategies	エセックス, J.	404831	364
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	403701	365
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	403801	366
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	404201	367
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	404301	368
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	404401	369
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, E.	404801	370
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, J. G.	403901	371
Listening Skills & Strategies	ギャリソン, J. G.	404501	372
Listening Skills & Strategies	スミス, G. A.	404101	373
Listening Skills & Strategies	スミス, G. A.	404701	374
Listening Skills & Strategies	レオーネ, J. V.	404001	375
Listening Skills & Strategies	レオーネ, J. V.	404601	376
Listening Skills & Strategies	レオーネ, J. V.	404841	377
Listening Skills & Strategies	レオーネ, J. V.	404851	378
Written Communication I Critical Reading	ヴァン ヴィーレン D.	402801・402802	379
Written Communication I Critical Reading	エセックス, J.	403201・403202	380
Written Communication I Critical Reading	オーラ, B.	403611・403612	381
Written Communication I Critical Reading	クオック, R. Y. F.	402501・402502	382
Written Communication I Critical Reading	杉森 建太郎	402601・402602	383
Written Communication I Critical Reading	パイブ, J.	402901・402902	384
Written Communication I Critical Reading	パイブ, J.	405021・405022	385
Written Communication I Critical Reading	フアーロー, D.	403631・403632	386
Written Communication I Critical Reading	ブーハー, U. J.	403301・403302	387
Written Communication I Critical Reading	ボシュー, E.	403401・403402	388
Written Communication I Critical Reading	ボシュー, E.	403501・403502	389
Written Communication I Critical Reading	ボシュー, E.	403661・403662	390
Written Communication I Critical Reading	ホニスツ グリーンズ J.	403651・403652	391
Written Communication I Critical Reading	ホニスツ グリーンズ J.	405011・405012	392
Written Communication I Critical Reading	町田 尚子	403641・403642	393
Written Communication I Critical Reading	レオーネ, J. V.	403001・403002	394
Written Communication I Critical Reading	レオーネ, J. V.	403601・403602	395
Written Communication I Critical Reading	ローズ, S.	403101・403102	396
Written Communication II Introduction to Writing	ヴァン ヴィーレン D.	405101・405102	397
Written Communication II Introduction to Writing	エセックス, J.	405601・405602	399
Written Communication II Introduction to Writing	オーラ, B.	406011・406012	401

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
Written Communication II Introduction to Writing	クオック, R. Y. F.	404901・404902	403
Written Communication II Introduction to Writing	杉森 建太郎	405001・405002	405
Written Communication II Introduction to Writing	パイプ, J.	405201・405202	407
Written Communication II Introduction to Writing	パイプ, J.	406091・406092	409
Written Communication II Introduction to Writing	フアーロー, D.	405901・405902	411
Written Communication II Introduction to Writing	ブーハー, U. J.	405801・405802	413
Written Communication II Introduction to Writing	ボシュー, E.	405301・405302	415
Written Communication II Introduction to Writing	ボシュー, E.	405401・405402	417
Written Communication II Introduction to Writing	ボシュー, E.	405701・405702	419
Written Communication II Introduction to Writing	ホニスツ グリーング J.	406031・406032	421
Written Communication II Introduction to Writing	ホニスツ グリーング J.	406081・406082	423
Written Communication II Introduction to Writing	町田 尚子	406041・406042	425
Written Communication II Introduction to Writing	レオーネ, J. V.	406001・406002	427
Written Communication II Introduction to Writing	レオーネ, J. V.	406051・406052	429
Written Communication II Introduction to Writing	ローズ, S.	405501・405502	431
Integrated English IX	休講		
Integrated English X	休講		
Integrated English XI	休講		
Integrated English XII	休講		
映像コミュニケーション実習	休講		
NPO/NGOとメディア	休講		
オルタナティブ・メディア論	休講		
実践メディアビジネス講座 II	休講		

專 門 教 育 科 目

1. 医 療 健 康 科 学 部

履修コード	159201
科目名	医学英語
担当者名	吉川 宏起

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医学領域では診療情報の伝達に英語が頻繁に用いられている。また英語圏におけるインターネットのホームページから得られる医学知識は膨大である。このように医療チームの一員として活躍する診療放射線技師にとって英語学習は必要不可欠なものとなっている。本講義では臨床の場に役立つ基本的な単語および診療録の慣用句を中心に学び、診療の場で実践に役立つ医学英語の習得を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 医学英語の特徴、体の部位に関する用語 (2) 体の方向や位置に関する用語 (3) ヒトの体の器官1: 体表(外皮)、筋骨格系 (4) ヒトの体の器官2: 呼吸器系 (5) ヒトの体の器官3: 体液の構成 (6) ヒトの体の器官4: 血液循環 (7) ヒトの体の器官5: リンパ循環 (8) ヒトの体の器官6: 消化、吸収、代謝 (9) ヒトの体の器官7: 消化器について (10) ヒトの体の器官8: 尿の生成、排泄 (11) ヒトの体の器官9: 内分泌器系(ホルモンと細胞) (12) ヒトの体の器官10: 内分泌器系(生殖器和ホルモン) (13) ヒトの体の器官11: 神経細胞の構造と情報伝達 (14) ヒトの体の器官11: 中枢神経と末梢神経 (15) 放射線診療で用いられる医学用語
----------	--

準備学習	1年次に学修した解剖学、2年次に学修した生理学、生化学に関する医学英語を学習していくので、基礎的事項を復習しておくとう理解しやすい。また2年次に学修した医学概論や病理学、臨床医学概論の基礎的事項を復習するとさらに知識が体系的・網羅的に身に付く。
------	--

履修上の留意点	基本的な医学英語を修得し、インターネット上での教育システムの活用を行う習慣をつける。
---------	--

成績評価の方法	授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
---------	---------------------

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

履修コード	154901
科目名	医学概論
担当者名	吉川 宏起

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	臨床医学で行われている実際の医療について幅広く理解し、その中での放射線医学の役割について理解する。さらに医療従事者として必要な人権を尊重した医療倫理について考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 医学の定義、生命とは、分子生物学 (2) 生活習慣病、QOL、インフォームドコンセント、IRB (3) 医学の起源、近代の医学(X線の発見) (4) 治療医学、予防医学(一次、二次、三次)、医用電子工学(ME) (5) 病気の内因1(年齢、性、遺伝、免疫など) (6) 病気の内因2(アレルギーと自己免疫疾患) (7) 病気の外因(栄養・ビタミン、高脂血症、メタボリック症候群など) (8) 病変の分類1: 血行性病変(動脈硬化症、高血圧、出血、梗塞、血栓症、塞栓症) (9) 病変の分類2: 進行性病変、退行性病変 (10) 病変の分類3: 炎症性病変と感染症 (11) 病変の分類2: 進行性病変、退行性病変 (12) 病変の分類4: 腫瘍、奇形、染色体異常 (13) 予防医学と衛生学、生活習慣病の予防 (14) 医療システムとその役割、一次医療(プライマリケア)、二次医療、三次医療(15) 救急医療(一次、二次、三次)、保健診療
----------	--

準備学習	1年次に学修した解剖学、環境保健医学の基礎的事項を復習しておく。また最近のわが国における人口統計、保健医療問題、公衆衛生問題などについて情報を収集し、疑問点を箇条書きしておく。
------	--

履修上の留意点	現代医学の発展に関する基礎的知識を修得することと、日常で起こる医学に関する問題について考える習慣をつける。
---------	---

成績評価の方法	授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
---------	---------------------

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	日野原重明著『医学概論』(医学書院)1,600円
-----	--------------------------

履修コード	164801
科目名	医学特論
担当者名	山口 晶

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実際の症例画像を提示しながら、臨床目的に即した撮像技術を修得する。具体的には単純X線撮影、超音波検査 (US)、X線CT、血管造影、核医学検査 (RI) および種々のモダリティによる3次元画像を提示しながら画像の検討、読影を行う。さらにより侵襲の少ない方法で診断するための撮像モダリティの応用法について講義を行う。
授業スケジュール	(1) 各撮像技術の特徴 (2、3) 呼吸器疾患 (4、5) 骨軟部疾患 (6、7) 中枢神経系疾患 (8、9) 消化管疾患 (10、11) 泌尿器疾患 (12、13) 婦人科系疾患 (14、15) 総合画像診断
準備学習	画像診断に必要な解剖学を学習しておく事 (特に胸部、腹部、骨盤)
履修上の留意点	これまで修得した画像解剖の復習と各種画像検査法の原理、特徴について復習しておくこと。
成績評価の方法	授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	

履修コード	153701
科目名	医用化学実験〔実験〕
担当者名	原田 和正 漆山 秋雄 山本 裕右 本多 貴之 秋山 稔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 医療分野において必要な化学に関する実験を通して、化学の基本原理や概念を理解すると共に、化学実験における基本操作、薬品取扱時の基礎知識を学ぶ。 (到達目標) 実験で得られたデータを客観的に評価し、分子レベルで化学的に考察してレポートにまとめる能力を修得する。
授業スケジュール	1. ガイダンス 2. ガラス細工、器具の洗浄 3. 容量、重量の測定、試薬の調製法 4. ハロゲン化銀の感光性と現像、定着試薬との反応 5. 中和滴定による酸の定量 6. 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定 7. 分子模型実習 8. pHメータによる緩衝能の測定 9. 硫酸銅 (II) 五水和物の合成 10. ヨウ素滴定による銅 (II) の定量 11. o-フェナントロリン法による鉄 (II) の比色分析 12. イオン交換樹脂の交換容量の測定 13~15. レポート指導
準備学習	・事前にプリントを配布するので、使用する試薬の性質、必要な実験器具などを予め調べ、実験操作のフローチャートをノートに書いてくること。
履修上の留意点	化学実験には危険や事故が付きまとうため、ガイダンスでの注意事項を厳守すること。
成績評価の方法	平常点30%、レポート40%、理解度の確認 (筆記試験) 30%により評価する。
教科書/テキスト	プリント使用
参考書	第7版『実験を安全に行うために-事故・災害防止編』(化学同人) 800円 第3版『(続) 実験を安全に行うために-基本操作・基本測定編』(化学同人) 800円 以上2冊は、実験時に常に持参すること。
その他	・この実験専用のノート (ルーズリーフ不可) を準備すること。 ・白衣・関数電卓を持参すること。また、必要に応じ、グラフ用紙等を用意すること。

履修コード	153801
科目名	医用化学実験〔実験〕
担当者名	原田 和正 漆山 秋雄 山本 裕右 本多 貴之 秋山 稔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 医療分野において必要な化学に関する実験を通して、化学の基本原理や概念を理解すると共に、化学実験における基本操作、薬品取扱時の基礎知識を学ぶ。 (到達目標) 実験で得られたデータを客観的に評価し、分子レベルで化学的に考察してレポートにまとめる能力を修得する。
---------------------	--

授業スケジュール	1. ガイダンス 2. ガラス細工、器具の洗浄 3. 容量、重量の測定、試薬の調製法 4. ハロゲン化銀の感光性と現像、定着試薬との反応 5. 中和滴定による酸の定量 6. 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定 7. 分子模型実習 8. pHメータによる緩衝能の測定 9. 硫酸銅(II)五水和物の合成 10. ヨウ素滴定による銅(II)の定量 11. o-フェナントロリン法による鉄(II)の比色分析 12. イオン交換樹脂の交換容量の測定 13~15. レポート指導
----------	---

準備学習	・事前にプリントを配布するので、使用する試薬の性質、必要な実験器具などを予め調べ、実験操作のフローチャートをノートに書いてくること。
------	--

履修上の留意点	化学実験には危険や事故が付きまとうため、ガイダンスでの注意事項を厳守すること。
---------	---

成績評価の方法	平常点30%、レポート40%、理解度の確認(筆記試験)30%により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	プリント使用
----------	--------

参考書	第7版『実験を安全に行うために-事故・災害防止編』(化学同人) 800円 第3版『(統)実験を安全に行うために-基本操作・基本測定編』(化学同人) 800円 以上2冊は、実験時に常に持参すること。
-----	--

その他	・この実験専用のノート(ルーズリーフ不可)を準備すること。 ・白衣・関数電卓を持参すること。また、必要に応じ、グラフ用紙等を用意すること。
-----	--

履修コード	156301 156302 156303
科目名	医用画像工学 画像工学概論III 画像数学
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理及び医療情報システムの知識を学習することを目的としている。 本科目では、医療に利用されている画像処理技術の仕組みを理解し、医療現場での画像処理パラメータの設定が自ら調整できるようになってもらいたい。また、最近のコンピュータ支援診断に利用されている画像処理技術を習得し、将来の最先端技術が理解できる基礎知識、及び病院内のネットワークシステムを理解して、現場での構築次に医療スタッフの一員として活躍できる基礎知識を身につけてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 デジタル画像ファイル 第2回 空間フィルタリング 平滑化フィルタ 第3回 空間フィルタリング エッジ検出フィルタ 第4回 空間フィルタリング 鮮鋭化フィルタ 第5回 空間周波数フィルタリング 第6回 階調処理 第7回 サブトラクション処理 第8回 しきい値処理 第9回 コンピュータ支援診断 第10回 PACS・DICOM 第11回 画像圧縮・画像表示モニタ 第12回 RIS・HIS・遠隔診断 第13回 DICOM 第14回 ネットワーク技術 第15回 セキュリティ技術
----------	--

準備学習	画像工学概論I、画像工学概論IIで学習した事項について再確認しておくこと。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	この授業は国家試験の出題範囲であるため、将来の国家試験勉強のためにしっかりと身につけるよう学習すること。
---------	--

成績評価の方法	中間試験(5割)と期末試験(5割)によって評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	医用画像情報学 改定2版 南山堂 桂川茂彦著
----------	------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	159501
科目名	医用検査学
担当者名	名古 安伸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 1895年のX線発見から出発した放射線医学は、急速な進歩とともに様々な検査法に発展している。この授業では、医療になくてはならない検査技術となったMRI検査と超音波検査について学ぶ。 (到達目標) この講義の到達目標は、MRI検査と超音波検査に使用される装置の理解と、基礎的な検査方法の習得を目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. MRI検査の概要と基礎知識 2. MRIの基本原理と装置 3. MRIの基本的撮像法 (SE法) 4. MRIの基本的撮像法 (IR法) 5. MRIの基本的撮像法 (GRE法) 6. MRIの基本的撮像法 (EPI法) 7. MRIの基本的撮像法 (MRA) 8. MRIの基本的撮像法 (造影とその他撮像法) 9. MRI検査の手順と安全性 10. MRI検査の臨床応用 11. 超音波検査の概要と基礎知識 12. 超音波検査の基本原理と装置 13. 超音波検査の基本的撮像法 14. 超音波検査の臨床応用 15. MRI検査と超音波検査の理解度の確認
----------	---

準備学習	1,2年次に学習して来た画像診断装置の基本原理、診療画像技術学及び人体解剖学の内容は基礎知識として重要です。よく復習しておいて下さい。
------	---

履修上の留意点	教科書・ノートの持参は必須です。 講義内容を理解することに努め、授業の予習・復習を心掛けて下さい。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績 (100%) により評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	小塚隆弘, 稲色清也, 監修: 『診療放射線技術 <上巻>』南江堂, 6800円, ISBN. 978-4-524-25026-4 *必要によりプリントを配布します。
----------	--

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高原太郎: 『MRI自由自在』, メジカルビュー社, 7000円, ISBN. 13. 978-4895537711 2. 笠井俊文, 土井司, 編: 放射線技術学シリーズ『MR撮像技術学』, オーム社, 5200円, ISBN. 978-4-274-20506-4
-----	---

履修コード	153501
科目名	医用物理学実験 [実験]
担当者名	佐藤 昌憲 羽生 毅 藤森 成一 小川 雅生 鳥山 保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の学習をする。後半はデータを処理する方法の実験をする。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>内容は手引書を製作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個々によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けスケジュールを発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 放射線実験室の立ち入り方 3. パソコンによるレポート作成法 4. 直流回路 (電界) 5. 交流回路 (磁界) 6. Excel関数の使用法 7. 計測に関する統計と誤差 8. GM計数管のプラトーの測定 9. サーベイメータの使い方 10. 電離箱の平衡厚測定・オシロスコープの使い方 11. X線の実効エネルギーの算定
----------	---

準備学習	実験の前に、実験テキストを予習してください。
------	------------------------

履修上の留意点	実験を欠席した場合には、予備日に再実験を行いますので、欠席届を必ず提出してください。
---------	--

成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート内容30% 2. 実験態度20% 3. 質疑応答10% 4. 定期試験40%にて点数化して総得点で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	実験のために用意した手引書を制作してある。
----------	-----------------------

参考書	
-----	--

履修コード	153601
科目名	医用物理学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲 羽生 毅 藤森 成一 小川 雅生 鳥山 保
授業概要/ 到達目標（ねらい）	多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の学習をする。後半はデーターを処理する方法の実験をする。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。
授業スケジュール	内容は手引書を製作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個々によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けスケジュールを発表する。 1. ガイダンス 2. 放射線実験室の立ち入り方 3. パソコンによるレポート作成法 4. 直流回路（電界） 5. 交流回路（磁界） 6. Excel関数の使用法 7. 計測に関する統計と誤差 8. GM計数管のプラトーの測定 9. サーベイメータの使い方 10. 電離箱の平衡厚測定・オシロスコープの使い方 11. X線の実効エネルギーの算定
準備学習	実験テキストにて、実習テーマについて予習すること。
履修上の留意点	実験を欠席した場合は、予備日に再実験を行いますので、必ず欠席届を提出ください。
成績評価の方法	1. レポート内容30% 2. 実験態度20% 3. 質疑応答10% 4. 定期試験40%にて点数化して総得点で評価する。
教科書／テキスト	実験のために用意した手引書を制作してある。
参考書	

履修コード	162401
科目名	医療画像科学総合研究
担当者名	瀬尾 育弉 森口 央基 近藤 啓介 飯田 幸雄 熊坂 さつき
授業概要/ 到達目標（ねらい）	3年次までに学習してきた基礎知識をベースにし、医療画像科学分野の諸課題について、文献調査、実験、結果の考察、今後の課題と解決策の検討など、未知の研究テーマに挑戦する。これまでのように筋道が示された実験ではなく、日々試行錯誤の連続となる。この過程を通して、問題を解決するために自ら工夫し、それが成功したときの楽しさ、達成感、充実感を体験して欲しい。研究で得られた成果は研究報告書としてまとめることにより、行った一連の流れを論理立てすることも学ぶ。また成果を総合研究発表会で発表する。
授業スケジュール	研究テーマは1人1テーマを原則とし、指導担当の先生と話し合っって選定し、推進する。また数回、画像技術科学コースの先生全員に対して進捗報告を行い、幅広い視点からのアドバイスを受ける。 4月 : テーマの選定と具体化 5～8月 : 文献調査、実験の推進、結果の考察 9～10月 : 追実験、報告書のまとめ 10月下旬 : 総合研究発表会
準備学習	自主的に、計画的にテーマに取り組むこと。
履修上の留意点	先生の指示を待つのではなく、自ら課題をもって相談に行き、指導を受けること。
成績評価の方法	自主性・積極性、原理の理解度、工夫の度合い、報告書と発表のできばえ等を総合して評価する。
教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて資料を配布する。
その他	自分にとって未知の新しい課題に取り組むことにより、壁を乗り越えるための進め方を経験し、身につけて欲しい。

履修コード	164201
科目名	医療画像科学論文講読
担当者名	熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 医療や画像技術は著しく進歩した。進歩の課程での多くの研究とその概要を論じた論文の講読は自分自らが今後進めべき技師像にもリンクする。この授業では、研究のテーマを見つけ出す為の基礎知識を養う。 (到達目標) この講義の到達目標は、学士論文、実験研究に必要な各自のテーマに沿った学術論文を読み、研究のテーマのターゲットを見つけ出すことである。さらに、学術論文の書き方、自分の考えを発表する方法を習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	画像コースの教員5人(瀬尾教授、熊坂教授、新任教授、近藤准教授、飯田助教)が参加して行う。画像コースを2つ(知能班、応用班)に分け、2教室で行う。その場合必ず複数の教員が参加して討議に加わる。その際は、必ず総合研究の指導教官が直接指導を行いながら論文講読の授業を行う。(授業回数は15回以上になる事がある) 1 論文講読とは 2 論文講読の講読対象論文、方法、発表方法 3～5 画像処理についての理解(論文講読と発表、知能班が中心) 6～8 画像の特性についての理解(論文講読と発表、知能班が中心) 9～11 超音波撮影、画像についての理解(論文講読と発表、応用班が中心) 12～14 CT撮影、画像についての理解(論文講読と発表、応用班が中心) 15 パノラマ撮影についての理解(論文講読と発表、応用班が中心) 16 セファロ撮影についての理解(論文講読と発表、応用班が中心) 17 被曝線量低下についての理解(論文講読と発表、応用班が中心)
----------	---

準備学習	論文の内容を発表出来る様に良く理解すること。参加者全員に配布するためのわかりやすい資料を作成し準備すること。
------	--

履修上の留意点	論文講読発表会と討論会形式で授業は行うので積極的に臨むこと。 画像コース担当の先生方が授業と討議に加わる。複数の教員で授業を行うため、開講日時と教場が変わる場合がある。 テーマにあわせた学術論文を各自が読みながら発表、論説、討論する。授業は週に2回行ったリ、2から3時間続けて行う場合がある。
---------	--

成績評価の方法	発表した学術論文の内容についての理解度20%、発表の仕方20%、討論参加への積極性20%、提出レポートの評価20%、平常点20%で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	教員または学生自らが選別した学術論文。
----------	---------------------

参考書	各ゼミの教員がそれぞれの学生の研究テーマに沿った学術雑誌を紹介する。
-----	------------------------------------

その他	複数の教員で授業を行うため、開講日時と教場が変わる場合がある。掲示や連絡に注意すること。
-----	--

履修コード	164701
科目名	医療経済学
担当者名	柚木園 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、少子・高齢社会の到来により、日本経済は様々な問題に直面している。その中でも社会保障問題は深刻で、医療を取り巻く環境は大きな影響を受け、多様な変化が求められている。当講義では医療経済学(Healthcare Economics)の観点から、医療提供者と医療消費者の役割を考え、21世紀の医療を支える人材育成を目指す。また、医療の質向上を行うためには、医療知識・技術・研究、医療安全管理、感染対策、そしてそれらを支える健全な病院経営などが重要となるが、そのためにも医療経済学の知識が益々必要とされる。主に、医療費や医療の受給関係、費用対効果、医療経済評価、医療制度などが対象である。当講義では、基礎的な知識を基に現在の医療問題点を紹介しながら医療経済学を理解していただく。
---------------------	---

授業スケジュール	講義は、テキストと資料を併用して行なう。資料は医療経済に関する最新の論文、行政公布書類等を使用する 1. 医療用語説明 1～2 2. 医療経済学を理解するために 3～4 3. 医療経済学の経済学的基礎 5 4. 医療経済学とはなにか 6 5. 医療と最新の経済学 7～8 6. 医療の仕組みを経済学で分析する 9～10 7. 医療のプレイヤーとその行動 11 8. 米国の医療制度を考える 12 9. 日本の医療制度を考える 13～15
----------	---

準備学習	医療に関する新聞記事を多く読んで参加して頂きたい。
------	---------------------------

履修上の留意点	実践に即した内容にするために参加型の授業を目指し、積極的な参加を求める。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	授業参加率、レポート、試験
---------	---------------

教科書/テキスト	真野俊樹著「入門 医療経済学」(中公新書)820円
----------	---------------------------

参考書	① 医療の質 用語事典「日本規格協会」3000円 ② 宇沢弘文「社会的共通資本」岩波新書 819円
-----	--

その他	厚生労働省、日本病院会、日本医師会
-----	-------------------

履修コード	164601
科目名	医療宗教学
担当者名	吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は将来皆さんが医療の現場に出て仕事をされる時、患者さんと接する場合に役立つことを目的としています。科目名が「医療宗教学」となっていますが、宗教学を講義するつもりはありません。それは「仏教と人間」という宗教教育科目で学んでもらいたいと思います。私はむしろ「医療人間学」というぐらいの科目名で考えてもらいたいと思います。ただ皆さんが受講する「臨床医療人間学」2科目とダブらないように注意します。医療人としての皆さんは様々な患者さんに出会うことでしょう。医療技術には自信があっても、人間的には好悪の感情は否定できないし、大いにストレスを感じることでしょう。どんなに嫌いな人であっても、誠意をもって治療に当たらなくてはなりません。そのためには皆さんの人間性においてどんな人にも柔軟に対処できる姿勢が形成されていなくてはならないと思います。この科目は様々な宗教的、また哲学的な人間観を示して、その参考に供したいと思います。ある一定の自分の人間観を持つと共に、いろいろな人々の人間観を認めることのできる医療者になったほしいのです。
---------------------	---

授業スケジュール	今年ドイツの医学者ヴァイツゼッカー『病いと人—医学的人間学入門—』(木村 敏訳、新曜社)をベースにして講義を行います。「自己紹介と講義の目的」(第1回)、「ヴァイツゼッカーについて」(第2回)、「医者になること、医者を専攻すること」(第3回)、「医学的人間学」(第4回)、「局在」(第5回)、「始まり」(第6回)、「診断あるいは「なぜ」」(第7回)、「意味あるいは「なぜ」」(第8回)、「健康を求め」(第9回)、「病気を求め」(第10回)、「死の連帯性」(第11回)、「生の相互性」(第12回)、「生と死の導入」(第13回)、「死と生の融合」(第14回)、「まとめ」(第15回)。取り上げるテーマに変更のあることをあらかじめご理解下さい。
----------	---

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に自分の意見や疑問を書きため、全体を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいと希望します。
成績評価の方法	毎回出席を取ります。最後に試験を行います。その結果を総合して成績評価を出します。
教科書/テキスト	特に使用しません。出来るだけプリントを配布します。
参考書	講義の中で随時紹介します。
その他	私の講義の最中でも挙手して質問して下さい。私語は厳禁です。授業開始時間後30分を経過してからは教場に入らないで下さい。

履修コード	164301
科目名	医療統計学
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療に関する多数のデータを整理・解析しようとするとき、統計学の知識が必要不可欠となる。特に医療データは、単に平均や標準偏差を求めれば良いというものでなく、その特殊性に応じたデータの収集方法や解析方法が必要となる。授業では統計学の初歩的事項から実用的な統計手法までを解説する。統計学の理論を理解するだけでなく、実際の業務に役立つ手段として身につけることに重点を置いて講義をする。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 医療統計学とは (2) 統計と表 (3~5) 統計とグラフ (6~7) 統計量 (8~9) 統計的推定 (10~11) 検定 (12~14) 実習 (15) ROC解析
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	単に計算式を覚えるのではなく、実際に使えるようになることが重要です。総合研究や将来の論文・研究で利用することを考えて、積極的に受講すること。
成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)により評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。
参考書	

履修コード	164351
科目名	医療統計学
担当者名	森口 央基
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療でよく使われる統計学について学んでいきます。授業では統計学の基礎、理論的側面を解説し、また実際に医療の現場で適切な統計的解析が行えるように実践力をつけることを目標としています。
授業スケジュール	(1) 医療統計学とは (2) データの指標 (3~8) いろいろな分布とその解析 (9~14) 統計的推定、検定 (15) ROC曲線
準備学習	特になし
履修上の留意点	統計学は実用的な学問であり、将来医療の現場に出た時、実際のデータに適用して役立たせるようにすることが大切です。実践力を身につけることを念頭に置き、受講すること。
成績評価の方法	演習、レポート、試験により評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。
参考書	加納・高橋「基礎医学統計学 改訂第6判」(南江堂) 2,300円。ISBN978-4-524-26311-0

履修コード	162301
科目名	医療放射線科学総合研究
担当者名	西尾 誠示 山本 裕右 佐藤 昌憲 青木 清 原田 和正 吉川 宏起 奥山 康男 金子 順一 嶋田 守男 小川 雅生 名古 安伸
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	授業概要及び到達目標 この科目は個々の学生の研究能力を高めることを目的としている。そのために各学生が、これまでに学修してきた基礎知識を生かして、医療放射線科学分野における諸問題を自分自身で解決することに挑戦する。したがって、通常の講義や実験と異なり、内容や結果が決まっているものではない。あくまで、各自が主体的に内容を深めていくことが大切である。学生には指導教員がつくが、教員の役割は研究の方向性や実施方法を示すことであり、実際に調査を行ったり、実験を行ったりするのはあくまで学生自身である。研究で得られた成果については、各自が報告書にまとめ、研究発表会にて発表する。
授業スケジュール	研究は次のような手順で進める。 (1~3) 興味ある分野について資料を検索・収集し、論文購読を行う。 (4~5) 指導教員と相談して研究テーマを決定する。 (6~8) 研究テーマについて基礎的な実験を行い、関連文献をさらに調査する。 (9~15) 本格的な実験を開始し、絶えず問題点を検証する。 (16~17) グループ単位で中間報告を行い、指導教員の下で問題点を検討する。 (18~25) さらに実験を継続し研究に必要なデータを作成する。 (26~29) 報告書をまとめ論文の形で作成する。 (30) 成果を発表する。 授業スケジュールは目安であり、各自の学修、実験等の進捗状況により変わることがある。
準備学習	研究テーマを決定するにあたり、関係分野の論文等をよく調べるとともに、関連学会や研究会にに参加する。
履修上の留意点	学生自身が主体的に考え、取り組むことが大切である。
成績評価の方法	平常の実験・研究の進め方、プレゼンテーション能力、報告書に基づき総合的に評価する。報告書は論文形式とし、研究内容とともに概要、背景(課題)目的、方法、結果、考察、結論(まとめ)を通じて論理性、整合性をもって記述されていることが重要視される。
教科書/テキスト	教科書は使用されない。
参考書	各自が調べた論文等が参考文献となる。

履修コード	164101
科目名	医療放射線科学論文講読
担当者名	吉川 宏起
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	診療放射線医学に関する英文に頻出する単語や熟語を習得し、英文論文の読み方を身に付ける。
授業スケジュール	(1) 学術論文(原著・総論)の構成と書き方についての解説を加える。 (2) 放射線診断学における代表的な日本語論文を選定し、全員で講読する。 (3~14) 3~4人のグループ分けを行って、各グループ毎に選定された英文論文の講読を進めていく。 (15) 各グループ毎に講読した論文の内容についてレポート作成を行うとともに、口頭発表を行い、全員で意見交換を行う。
準備学習	3年次に学修した医学英語と技術英語をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	医学英語に親しみ、身に付けた単語や熟語をキーワードとして、医療関連の英語のホームページに入っていて情報を収集する技術を修得する。また学術論文の構成をよく理解し、学士論文作成時の参考とする。
成績評価の方法	授業態度および発表態度と講読した論文内容をまとめたレポートによる。
教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	

履修コード	158601
科目名	応用機器工学
担当者名	名古 安伸
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 近年、放射線治療は侵襲性が低く臓器の形態・機能温存に優れていることから注目を集め、とくに高エネルギーX線・電子線・粒子線及び高精度放射線治療装置などの治療機器の進歩は著しい。また、放射性同位元素で標識された薬剤を患者さんに投与して行われる核医学検査もSPECT/CT装置 やPET/CT装置の開発によって、目覚ましい発展を遂げている。この授業では、これら使用される各種機器・装置・用具について学習する。 (到達目標) この講義の到達目標は、放射線治療機器とSPECT・PET/CT装置の基本原理と、その構造・特性を理解し、安全管理に必要な知識の習得を目的とする。
授業スケジュール	1. 核医学検査装置の概要 2. 核医学診断装置：放射能の測定 3. 核医学診断装置：試料測定装置 4. 核医学診断装置：シンチレーションカメラ 5. 核医学診断装置：SPECT 6. 核医学診断装置：PET 7. 核医学診断装置の性能評価と保守管理 8. 放射線治療装置の概要 9. 放射線治療装置：直線型加速器 10. 放射線治療装置：コバルト遠隔治療装置 11. 放射線治療装置：定位放射線照射装置 12. 放射線治療装置：治療計画装置 13. 放射線治療装置の性能評価と保守管理 14. 円軌道加速器と重粒子線治療装置 15. 核医学検査装置と放射線治療装置の理解度の確認
準備学習	1,2年次に学習して来た放射線計測学、放射線物理学、放射化学の内容は基礎知識として重要です。よく復習しておいて下さい。
履修上の留意点	教科書・ノートの持参は必須です。 講義内容を理解することに努め、授業の予習・復習を心掛けて下さい。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)により評価します。
教科書/テキスト	小塚隆弘, 稲色清也, 監修:『診療放射線技術 <下巻>』南江堂, 6800円, ISBN. 978-4-524-25027-1 *必要によりプリントを配布します。
参考書	1. 三枝健二 他:『新版 放射線機器学(Ⅱ)』コロナ社, 4700円, ISBN. 978-4-339-07081-1 2. 日本放射線技術学会監修:『核医学検査技術学』オーム社, 5700円, ISBN. 978-4-274-20505-7

履修コード	158701
科目名	応用計測学
担当者名	小川 雅生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中性子計測を含めた放射線計測について検出原理、応答特性、実測上の問題点などを学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 1 回 中性子の特殊性、ベータ崩壊 2 回 原子核反応、結合エネルギー、反応断面積 3 回 中性子による原子核反応、$1/v$法則、中性子検出の原理 4-5 回 He3計数管、BF3計数管 6 回 ロングカウンター、ボナー球カウンター 7-8 回 FWHM、標準偏差、ファノ因子、誤差の伝搬 9 回 ガラス線量計、熱蛍光線量計 10 回 輝尽発光、光刺激ルミネッセンス 11 回 イメージングプレート、フラットパネルディテクター 12 回 信号処理、AD変換 13 回 化学線量計、フリッケ線量計、アニリン線量計 14 回 荷電粒子加速器 15 回 福島原発事故に関連した放射線計測
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	授業において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。
成績評価の方法	定期試験の他、講義中に行う小問題および出席状況により評価する。
教科書／テキスト	YeStudyに掲載する参考資料をプリントすること。
参考書	なし

履修コード	153401
科目名	応用数学
担当者名	森口 央基

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「基礎数学」で学んだ微分・積分の知識をさらに発展させ、大学理工系としての数学の基礎を学習する。これにより、本学部・学科の専門科目で学ぶ高度な医療画像技術を理解するために必要となる基本的な数学の力を身につけることが目標である。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>微分・積分の応用、発展として以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定積分 (第1～6回) <ul style="list-style-type: none"> 定積分の計算、異常積分・無限積分、面積・体積の計算 等 2. 微分・積分の応用 (第7～11回) <ul style="list-style-type: none"> 関数の展開、不定形の極限、定積分の応用 等 3. 偏微分 (第12～18回) <ul style="list-style-type: none"> 偏微分、基本公式、偏微分の応用 等 4. 重積分 (第19～23回) <ul style="list-style-type: none"> 2重積分とその応用、3重積分とその応用 等 5. 微分方程式 (第24～30回) <ul style="list-style-type: none"> 1階微分方程式、定数係数線形微分方程式 等
----------	---

準備学習	スケジュール表を見て、きょう勉強する事は何か、をしっかりと意識して授業に臨んで欲しい。
履修上の留意点	数学は基礎の積み重ねが重要である。したがって毎回行う演習に真剣に取り組み、今日学んだことは今日習得する、という姿勢で臨むこと。また必要に応じて「基礎数学」で学んだ微分・積分を復習すること。
成績評価の方法	2～3回の理解度確認テスト、および学習態度の総合点による。
教科書／テキスト	矢野・石原編 『微分積分 改訂版』(裳華房), 2,100円+税, ISBN978-4-7853-1071-4
参考書	必要に応じて資料を配付する。
その他	「解を暗記するのではなく、考え方を理解する」ということが数学力向上のポイントである。この意識をしっかりと持とう！

履修コード	153101
科目名	解剖学
担当者名	嶋田 守男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：解剖学は人体の正常な形態と構造を研究する学問である。身体の正常形態および構造を理解することは、疾病患者の異常を理解する上で非常に大切なことである。これゆえに、解剖学は、現代医学とくに放射線医学を理解するうえで最も基礎となる重要な分野である。</p> <p>到達目標：上級生の3、4年生になって、CT、MRIやX線画像を学習するときに正常な部位の名称が理解できその機能役割などもある程度理解ができていようになることを到達目標とする。正常な人体解剖がわかることは、異常像を理解する上で必要である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 解剖学総論：解剖学用語（特に位置方向用語）の学習する。人体の区別の理解する。</p> <p>(2) 人体の基本構成：細胞、組織、器官を理解する。人体の発生と生殖について学習する。</p> <p>(3) 骨総論：骨bones、軟骨cartilages、関節jointsおよび靭帯ligamentsの基本構造について理解する。また骨の発育についても理解する。</p> <p>(4) 頭蓋骨：各部位の基本名称を覚える。</p> <p>(5) 脳神経系：脳神経の役割および脳の12の神経の名前を覚える。</p> <p>(6) 脊柱：構成する骨の基本構造を理解する。特に頸椎、胸椎、腰椎、および周囲の支持組織についても学習する。</p> <p>(7) 四肢：骨の名前、働きを覚える。</p> <p>(8) 体幹：骨の名前、働きを理解する。</p> <p>(9) 脈管系：心臓の構造および全身の血管について理解する。</p> <p>(10) 消化器系：食道、胃、小腸についての基本構造について理解する。</p> <p>(11) 呼吸器系：肺臓、縦隔について理解する。</p> <p>(12) 泌尿器系：腎臓、膀胱、尿管、尿道、前立腺について理解する。</p> <p>(13) 生殖器系：子宮、精巣などについて理解する。</p> <p>(14) 内分泌系：下垂体、甲状腺、副腎、膵臓などから分泌するホルモンの名前と働きを理解する。</p> <p>(15) 神経系感覚器系：自律神経系の働きを覚える。視覚、嗅覚、味覚の成り立ちを理解する。</p> <p>(16) 筋系：主な筋肉の名称と機能を理解する。</p>
----------	--

準備学習	<p>高校時代に学習した生物学をもう一度学習すること。 つまりセンターテストの平均点くらいの内容があれば準備学習としてはよいと考えられます。</p>
履修上の留意点	<p>教科書での予習、講義後の復習、テストを通して正確な知識を得るように努めること。</p>
成績評価の方法	<p>出席と期末試験によって成績を評価する。</p>
教科書/テキスト	<p>授業中にプリントを配布する。</p>
参考書	

履修コード	158901
科目名	核医学
担当者名	奥山 康男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 放射性同位元素標識化合物を人体に投与し、臓器の機能や代謝を核医学検査機器にて画像化、及び定量化する検査が核医学である。総論では、核医学検査機器の知識や放射性医薬品の集積機序、臨床応用に関する知識を総合的に解説し、各論で各臓器の解剖・生理・代謝を含めた講義を行う。</p> <p>(到達目標) 核医学検査は、測定の対象に従って生体の測定 (患者検査)、及び医学試料の測定 (血液・糞尿など) に大別される。使用する放射性医薬品も生体内に投与するもの (インビボ法) と投与しないもの (インビトロ法) の2種類となる。この様に核医学検査では、放射性医薬品や試薬キット類を取り扱うので放射線安全管理や医薬品の性質なども十分に理解しなければならない。したがって、本科目習得の到達目標は、臨床診断に役立つデータ収集・処理解析の知識のみならず、日進月歩の勢いで発展する技術の進歩に十分対応できる知識を習得する。また、卒業時に迎える診療放射線技師国家試験に合格できる能力を養わせることを指導目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 核医学総論：＜核医学検査のその歴史や現状＞ 核医学に必要な基礎知識：＜放射線物理、統計学、放射線計測、放射物質の安全管理＞ 放射性医薬品：＜インビボ診断用放射性医薬品、ジェネレータ＞ 核医学機器①：＜シンチカメラ装置、SPECT・SPECT/CT装置、PET・PET/CT装置＞ 核医学機器②：＜ガンマプローブ、サイクロトロン、データ処理装置、試料測定装置＞ 核医学技術①：＜デジタル画像の基礎、核医学と画像分解能、SPECT・PETの撮像原理＞ 核医学技術②：＜画像再構成理論、各種補正法、動態機能検査理論、各種定量検査法＞ 画像評価：＜単一画像評価と総合画像評価＞ 性能評価と保守：＜シンチカメラ・SPECT・PET装置の性能評価と保守＞ 核医学検査①：＜脳神経系＞ 核医学検査②：＜内分泌系＞ 核医学検査③：＜呼吸器系＞ 核医学検査④：＜循環器系＞ 核医学検査⑤：＜消化器系＞ 核医学検査⑥：＜泌尿器系＞ 核医学検査⑥：＜骨・カルシウム系＞ 核医学検査⑦：＜血液・造血臓器系＞ 核医学検査⑧：＜インビトロ検査＞ 核医学検査⑨：＜ポジトロン核医学 FDG-PET＞ 核医学検査⑩：＜ポジトロン核医学 脳神経-PET＞ 核医学検査⑪：＜ポジトロン核医学 心・血管PETと融合画像＞ 核医学内用療法①：＜核医学内用療法の歴史と総論＞ 核医学内用療法②：＜バセドウ病の治療＞ 核医学内用療法③：＜甲状腺がんの治療＞ 核医学内用療法④：＜I-131標識化合物治療＞ 核医学内用療法⑤：＜Sr-89骨転移による疼痛緩和＞ 核医学内用療法⑥：＜Y-90標識抗体による悪性リンパ腫の治療＞ 核医学内用療法⑦：＜安全対策と退出基準＞ 診療放射線技師の役割①：＜核医学に関する放射線管理＞ 診療放射線技師の役割②：＜核医学全般に関わる放射線技師の役割＞
----------	--

準備学習	<p>授業を受講するにあたって、1年次・2年次にて履修した「基礎化学」、「生化学」、「放射化学」、「放射線生物学」、「放射線物理学」、「放射性同位元素の基礎知識」、並びに「解剖学」や「生理学」などといった複数の科目を見直すことで授業内容が理解しやすくなる。また、SPECTやPETデータを画像化するための画像再構成理論やフィルタ理論などの画像工学で習った基礎知識を復習しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>臨床現場で実際に検査した臨床画像等をPCプロジェクトに映写しながら授業を行うので、教科書の内容と臨床画像とを関連づけること。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>本科目の習熟度を確認する目的で、1回から9回までの理解度調査 (筆記) を夏季休み前に、10回から30回までを定期試験 (筆記) として実施する。これら2つの結果を判定評価全体の80%、平常点 (受講態度や講義中の口頭試問等による評価) 20% として、成績判定評価を行うものとする。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>大西英雄 他編『核医学検査技術学 (改定2版)』日本放射線技術学会出版委員会 5,700円 (税別)</p>
----------	---

参考書	<p>金森勇雄 他編『診療画像検査法 実践 核医学検査』医療科学社 7,000円 (税別)</p>
-----	---

その他	<p>特になし</p>
-----	-------------

履修コード	160701
科目名	核医学検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	山本 裕右 原田 和正 奥山 康男 金子 順一 外山 真理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 主として核医学検査技術学、放射化学領域における実験を行う。本実験では、2年次に学んだ「放射化学」、「放射線計測学」、3年次に学ぶ「核医学」での知識を基に、SPECT、核医学領域における非密封放射性同位元素の取扱い、PECTにおける放射線計測の基礎についての実験を行う。 (到達目標) 核医学、放射化学における各種測定法を実際に行うことにより、その測定原理を理解するとともに、得られたデータを処理して結論まで導く過程を習得する。さらに、得られた結果についての考察をとおして、科学的、客観的評価が下せる力をつける。 また、非密封放射性同位元素の取り扱い、及び取り扱い上の注意を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	以下のテーマについて、各自定められた日程に従い実験を行う。 (1)ガンマカメラの性能評価：均一性、分解能、直線性などの基本性能試験、(2)ガンマカメラの各種撮像法：静止画像、全身画像、SPECT画像の撮像、(3～5)非密封放射性同位元素取扱法の基礎(ホットランは学外実習として行う)、(6)マイクロビペットの検定：重量法、吸光度法、(7,8)フリック線量計による吸収線量の測定：線量計の調製、線量測定、(9)ポジトロン同時計数測定：PECTの基本実験としてポジトロン放出核種を用いた同時計数測定、(10)マルチチャンネル計測法：マルチチャンネル波高分析器を使用しての未知核種のガンマ線スペクトル測定とその同定、(11～15)レポート指導・試問
----------	--

準備学習	・学期初めのガイダンスにおいて、実験に必要な事項の説明をします。実験までに下調べをしておいてください。 ・実験手順を頭に入れて実験に臨んでください。
------	---

履修上の留意点	非密封放射性同位元素は医学、化学、生物などの研究においてきわめて有用な情報を我々に与えてくれるものであると同時に、放射能汚染や被曝の問題など、危険な側面ももっている。従って、実験に対する準備を十分におこない、事前に実験操作、手順を理解しておくと同時に取り扱い放射性同位元素の性質を熟知しておくことが必要である。
---------	---

成績評価の方法	平常点 30%、実験レポート 40%、試問・試験 (2回) 30% により評価する。
教科書/テキスト	実験プリント
参考書	日本アイソトープ協会編 『アイソトープ手帳 11版』 (日本アイソトープ協会) 2,100円
その他	本実験の一部は学外実習施設を利用して行う。

履修コード	160801
科目名	核医学検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	山本 裕右 原田 和正 奥山 康男 金子 順一 外山 真理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 主として核医学検査技術学、放射化学領域における実験を行う。本実験では、2年次に学んだ「放射化学」、「放射線計測学」、3年次に学ぶ「核医学」での知識を基に、SPECT、核医学領域における非密封放射性同位元素の取扱い、PECTにおける放射線計測の基礎についての実験を行う。 (到達目標) 核医学、放射化学における各種測定法を実際に行うことにより、その測定原理を理解するとともに、得られたデータを処理して結論まで導く過程を習得する。さらに、得られた結果についての考察をとおして、科学的、客観的評価が下せる力をつける。 また、非密封放射性同位元素の取り扱い、及び取り扱い上の注意を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	以下のテーマについて、各自定められた日程に従い実験を行う。 (1)ガンマカメラの性能評価：均一性、分解能、直線性などの基本性能試験、(2)ガンマカメラの各種撮像法：静止画像、全身画像、SPECT画像の撮像、(3～5)非密封放射性同位元素取扱法の基礎(ホットランは学外実習として行う)、(6)マイクロビペットの検定：重量法、吸光度法、(7,8)フリック線量計による吸収線量の測定：線量計の調製、線量測定、(9)ポジトロン同時計数測定：PECTの基本実験としてポジトロン放出核種を用いた同時計数測定、(10)マルチチャンネル計測法：マルチチャンネル波高分析器を使用しての未知核種のガンマ線スペクトル測定とその同定、(11～15)レポート指導・試問
----------	--

準備学習	・学期初めのガイダンスにおいて、実験に必要な事項の説明をします。実験までに下調べをしておいてください。 ・実験手順を頭に入れて実験に臨んでください。
------	---

履修上の留意点	非密封放射性同位元素は医学、化学、生物などの研究においてきわめて有用な情報を我々に与えてくれるものであると同時に、放射能汚染や被曝の問題など、危険な側面ももっている。従って、実験に対する準備を十分におこない、事前に実験操作、手順を理解しておくと同時に取り扱い放射性同位元素の性質を熟知しておくことが必要である。
---------	---

成績評価の方法	平常点 30%、実験レポート 40%、試問・試験 (2回) 30% により評価する。
教科書/テキスト	実験プリント
参考書	日本アイソトープ協会編 『アイソトープ手帳 11版』 (日本アイソトープ協会) 2,100円
その他	本実験の一部は学外施設を利用して行う。

履修コード	163001
科目名	核医学検査技術学実習〔病院実習〕
担当者名	吉川 宏起 原田 和正 奥山 康男

授業概要/ 到達目標（ねらい）	これまでの講義および実験で習得した莫大な放射線および一般臨床医学知識をもとに、実際の医療の現場で放射線診療の流れを学習し、診療放射線技師の役割を実地で詳細に入念に理解すると共に今後の学習に参考とすべき点を学ぶ。実習に先立って担当教員と臨床実習病院指導者等から必要事項のガイダンスを受ける。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 病院実習の目的、実習手続に必要な書類と記入方法 (2) 実習病院の組織、機能、施設についての説明 (3) 患者接遇など病院内で実習する上の心得 (4) 分野別の実習 <ol style="list-style-type: none"> a. 核医学検査の安全管理 b. 核医学検査装置の性能評価と品質管理、保守点検 c. 放射線医薬品に関する知識 d. 測定機器に関する知識 シンチカメラ関係、SPECT関係、PET関係、その他 e. 核医学技術学に関する知識 f. 核医学検査学に関する知識 脳神経系、内分泌系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器・生殖器系、など g. 核医学治療、インビトロ検査など
----------	---

準備学習	これまで放射線物理学、放射線計測学、放射化学、放射線関連法規、核医学検査技術学および核医学検査技術学実習に関する基礎的知識を復習する。また核医学治療やPET検査の原理や臨床適応についても予習しておく。
------	--

履修上の留意点	病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格を取得するための必須科目となっている。本実習を通して、将来必要となる医療行為における接遇法や様々な倫理的課題についても学ぶ。
---------	--

成績評価の方法	実習病院からの実習成績評価報告書と学生の提出する実習報告書および基礎的事項の習熟度を確認する試験による。
---------	--

教科書／テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	核医学検査技術学（南山堂）、病院実習要項
-----	----------------------

履修コード	158301
科目名	画像解剖学
担当者名	嶋田 守男

授業概要/ 到達目標（ねらい）	単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど各種の医用画像診断の根底にあるのは正常画像解剖学の知識であり、適切な検査を行うためにはこの点に関する正確な理解が要求される。既に習得した人体解剖学の基礎の上に臨床的に特に重要な領域の画像解剖学についての講義を行う。重要な領域のCT像、MR像、DR画像などを理解すること。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>基礎となる解剖学を新たに画像診断（単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど）の角度からながめて要点を再確認しつつ、スライドで供覧する画像所見との対比を行う。対象領域は下記の領域である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1-3) 頭部 (4-6) 胸部 (7-9) 腹部 (10-12) 骨盤腔 (13-15) 四肢に分けて系統的に学習する。
----------	---

準備学習	既習の解剖学の復習をしておくこと。
------	-------------------

履修上の留意点	必要に応じて解剖学の講義で使用したプリントをよく復習すること。
---------	---------------------------------

成績評価の方法	講義の出席率と定期試験の成績により評価する。
---------	------------------------

教科書／テキスト	使用しない。必要なプリントを配布する。
----------	---------------------

参考書	
-----	--

履修コード	156801
科目名	画像検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	西尾 誠示 谷口 貴久 五十嵐 太郎 吉川 達生 名古 安伸 田仲 隆

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要 実験項目に応じて小グループの班を構成し実際にX線装置等を用いて実習を行う。検査目的ごとに人体模擬ファントムを用いて、適正な撮影条件、撮影のポジショニング、撮影基準点などを学ぶとともに、得られた画像を評価する。</p> <p>到達目標 履修者は実際の検査手順と体表解剖学を踏まえた撮影手技を学び、項目ごとに撮影法と得られた画像の関係について考察する。検査部位における撮影原理、技術、画像評価について臨床実習を受けられる能力を身につける。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 頭部X線撮影法 頭部ファントムを用い、頭部正面・側面撮影、タウン法などの撮影法を学ぶと共に、得られた画像を評価し頭部の画像解剖を理解する。</p> <p>(2) 耳鼻科領域の撮影法 頭部ファントムを用いてウォーターズ法、コルドウエル法などの副鼻腔撮影及びシュラー法、ステンパース法などの聴器の撮影法を学び、それらの画像解剖を理解する。</p> <p>(3) 椎骨、骨盤のX線撮影法 頸椎、腰椎・骨盤ファントムを用い、正面撮影、側面撮影、斜位撮影などの脊椎の撮影法を学ぶとともに、得られた画像を評価し画像解剖を理解する。</p> <p>(4) 四肢骨の撮影法 手関節、肘関節、膝関節、足関節のファントムを用い、それぞれの部位について撮影技術を習得するとともに、得られた画像を評価し画像解剖を理解する。</p> <p>(5) 胸部の撮影技術と感光材料 胸部ファントムを用い、胸部の撮影手技を学ぶとともに撮影管電圧と受光系について検討し、最適な撮影条件を理解する。</p> <p>(6) 乳腺のX線撮影（Mammography） 乳房用X線装置、乳房ファントムを用いて照射条件毎の画像の変化を評価する。撮影に用いる機器類、受光系から軟線撮影の特殊性を理解する。</p> <p>(7) 胃造影検査法 X線TV装置の操作法を習得するとともに、造影剤とファントムを用い透視・撮影法を学ぶ。特に体位と画像の関係について検討する。</p> <p>(8) X線CTの基礎と応用 X線CT装置の原理と構造を理解し、画像評価用ファントムを用いて基礎実験を行う。さらに、人体模擬ファントムを用いて臨床と同様な方式で撮影方法を学ぶ。</p> <p>(9) MRIの検査 MR装置の原理と構造を学び、基礎的な実験を行う。さらに臨床に応じた実習を行い、撮像原理と画像について学ぶ。</p>
----------	---

準備学習	診療画像技術学で用いる教科書で予習すること。
履修上の留意点	授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。 授業前にマニュアルを読み、実習内容を把握しておくこと。
成績評価の方法	定期試験、レポート・試問について総合的に判定する。評価の割合は試験50%、レポート40%、試問10%とする。さらに1日病院実習のレポートも必要条件となる。但し、定期試験の受験資格は全レポートの提出者のみである。
教科書／テキスト	実験・実習プリントを配布する。
参考書	参考：稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）

履修コード	156901
科目名	画像検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	西尾 誠示 谷口 貴久 五十嵐 太郎 吉川 達生 名古 安伸 田仲 隆

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要</p> <p>実験項目に応じて小グループの班を構成し実際にX線装置等を用いて実習を行う。検査目的ごとに人体模擬ファントムを用いて、適正な撮影条件、撮影のポジショニング、撮影基準点などを学ぶとともに、得られた画像を評価する。</p> <p>到達目標</p> <p>履修者は実際の検査手順と体表解剖学を踏まえた撮影手技を学び、項目ごとに撮影法と得られた画像の関係について考察する。検査部位における撮影原理、技術、画像評価について臨床実習を受けられる能力を身につける。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 頭部X線撮影法 頭部ファントムを用い、頭部正面・側面撮影、タウン法などの撮影法を学ぶと共に、得られた画像を評価し頭部の画像解剖を理解する。</p> <p>(2) 耳鼻科領域の撮影法 頭部ファントムを用いてウォータース法、コルドウエル法などの副鼻腔撮影及びシュラー法、ステンバース法などの聴器の撮影法を学び、それらの画像解剖を理解する。</p> <p>(3) 椎骨、骨盤のX線撮影法 頸椎、腰椎・骨盤ファントムを用い、正面撮影、側面撮影、斜位撮影などの脊椎の撮影法を学ぶとともに、得られた画像を評価し画像解剖を理解する。</p> <p>(4) 四肢骨の撮影法 手関節、肘関節、膝関節、足関節のファントムを用い、それぞれの部位について撮影技術を習得するとともに、得られた画像を評価し画像解剖を理解する。</p> <p>(5) 胸部の撮影技術と感光材料 胸部ファントムを用い、胸部の撮影手技を学ぶとともに撮影管電圧と受光系について検討し、最適な撮影条件を理解する。</p> <p>(6) 乳腺のX線撮影 (Mammography) 乳房用X線装置、乳房ファントムを用いて照射条件毎の画像の変化を評価する。撮影に用いる機器類、受光系から軟線撮影の特殊性を理解する。</p> <p>(7) 胃造影検査法 X線TV装置の操作法を習得するとともに、造影剤とファントムを用い透視・撮影法を学ぶ。特に体位と画像の関係について検討する。</p> <p>(8) X線CTの基礎と応用 X線CT装置の原理と構造を理解し、画像評価用ファントムを用いて基礎実験を行う。さらに、人体模擬ファントムを用いて臨床と同様な方式で撮影方法を学ぶ。</p> <p>(9) MRIの検査 MR装置の原理と構造を学び、基礎的な実験を行う。さらに臨床に応じた実習を行い、撮像原理と画像について学ぶ。</p>
----------	---

準備学習	診療画像技術学の教科書で予習すること。
履修上の留意点	授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。 授業前にマニュアルを読み、実習内容を把握しておくこと。
成績評価の方法	定期試験、レポート・試問について総合的に判定する。評価の割合は試験50%、レポート40%、試問10%とする。さらに1日病院実習のレポートも必要条件となる。但し、定期試験の受験資格は全レポートの提出者のみである。
教科書/テキスト	実験・実習プリントを配布する。
参考書	参考：稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）

履修コード	160901
科目名	画像検査技術学実習〔病院実習〕
担当者名	嶋田 守男 西尾 誠示 飯田 幸雄 名古 安伸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これまでの講義および実験で習得した莫大な放射線および一般臨床医学知識をもとに、実際の医療の現場で放射線診療の流れを学習し、診療放射線技師の役割を実地で詳細に入念に理解すると共に今後の学習に参考とすべき点を学ぶ。実習に先立って担当教員と臨床実習病院指導者等から必要事項のガイダンスを受ける。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 病院実習の目的、実習手続上必要な書類と記入方法 (2) 実習病院の組織、機能、施設についての説明 (3) 患者接遇など病院内で実習する上の心得 (4) 分野別の実習 a. 一般撮影 b. 消化管撮影 c. 血管造影 d. X線CT e. MRI f. 救急医療での撮影 g. 超音波検査など
----------	---

準備学習	これまで講義および画像検査技術学基礎実験、画像工学実験学習で修得した画像検査技術学に関する基礎的知識を復習し、最近の画像検査法についてその原理や撮影法、臨床応用についても復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格を取得するための必須科目となっている。本実習を通して、将来必要となる医療行為における接遇法や様々な倫理的課題について学ぶ。
---------	---

成績評価の方法	実習病院からの実習成績評価報告書と学生の提出する実習報告書および基礎的事項の習熟度を確認する試験による。
---------	--

教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	159801
科目名	画像工学I
担当者名	瀬尾 育弉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医用画像形成システムに使用されている画像データ処理に関する基礎理論の学習と演習をおこなう。
---------------------	---

授業スケジュール	1. ~3. Fourier級数、Fourier変換の演習 (2年生の復習) 4. ~6. Fourier解析による画質の解析と評価 (2年生の復習) 7. 理解度の確認 8. ~9. デルタ関数とFourier変換 10. ~12. アナログ信号の離散化と標本化定理 13. ~15. 離散化された信号のFourier変換
----------	---

準備学習	予習、復習をよくして下さい。
------	----------------

履修上の留意点	理解を深めるための補足資料を配布します。授業内に理解度チェックをします。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	学期末試験40%、授業内での理解度確認 (小テスト) 40%、及び、平常点 (出席数など) 20%の総合点。
---------	--

教科書/テキスト	高野正雄著 『診療放射線技師を目指す学生のための「画像工学I」』 1,000円 (最初の授業で、配布します。)
----------	--

参考書	・岡部哲夫、藤田広志編集『医用画像工学 (第2版)』 (医薬出版) 4,900円 ・谷口慶治編『画像処理工学』 (共立出版) 3,800円
-----	--

その他	演習を多くおこないます。欠席しないように。
-----	-----------------------

履修コード	159901
科目名	画像工学II
担当者名	瀬尾 育弉
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「画像工学I」で学習した基礎理論をもとに、実際に医療現場で実用されている画像圧縮、ウェーブレット変換、Z変換、パターン認識などについて、理論的にその内容を学習する。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1.～2. 画像の直交変換 3.～4. 高速Fourier変換 (FFT) 5. 散信号のコサイン変換 (DCT) 6.～7. 画像圧縮 8. 理解度確認 9. 符号化 10. 画像ファイル形式とカラー表示の基礎 11. Fourier変換からWavelet変換へ 12. 多重解像度解析 13. Z変換 14. パターン認識 15. 視覚について、及び、CT・MRIの画像再構成
準備学習	予習、復習をよくして下さい。
履修上の留意点	理解を深めるための補足資料を配布します。授業内に理解度チェックをします。
成績評価の方法	学期末試験40%、授業内の理解度確認 (小テスト) 40%、及び、平常点 (出席数など) 20%の総合点
教科書/テキスト	高野正雄著 『診療放射線技師を目指す学生のための「画像工学II」』1,000円 (最初の授業で、配布します。)
参考書	・岡部哲夫、藤田広志編『医用画像工学 (第2版)』(医薬出版)3,800円

履修コード	153001 153002
科目名	画像工学概論I 放射線写真学
担当者名	飯田 幸雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療に用いられる画像の重要性がさらに増している。また、画像の形成はアナログからデジタルへと大きく変化し、医用画像も画像処理が容易になった。それに伴い、携わる診療放射線技師の業務も少しずつ変わり、画像形成の重視から形成後の処理の重要性が増している。しかし、「正しく診断のできる画像を提供する」という本質は変わっておらず、診療放射線技師として、基本的な画像の形成・評価等の理解は重要である。 そこで、本講義においては、診療放射線技師として理解しておくべき、基本的な画像の形成から画像評価に関し、診療放射線技師国家試験の内容も含め講義する。
---------------------	--

到達目標およびテーマ

- (1) 診療放射線技師として知っておきべき、基本的な画像の形成から画像評価に関し理解する。
- (2) 画像工学以外のX線画像に関連する内容についても理解する。
- (3) 診療放射線技師として医師に提供すべき画像とは何かを理解する。

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 1～3回 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・診療放射線技師と画像 ・X線の発生から画像の形成の概略 ● 4～5回 <ul style="list-style-type: none"> ・写真の濃度 ・センチメートル ● 6～7回 <ul style="list-style-type: none"> ・X線スペクトルと写真効果 ・写真コントラスト ・画像の歪み、接線効果等 ● 8～10回 <ul style="list-style-type: none"> ・写真のプロセス ・感光、現像の機構 ・感光乳剤、増感紙 ・現像、定着、水洗、乾燥 ・自動現像機 等 ● 11～13回 <ul style="list-style-type: none"> ・画像評価の基礎 (画質、鮮鋭性、粒状性、ROC評価の基本) ● 14～15回 <ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認と解説 ・授業内容総まとめ
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業に関する内容をノートに整理する。 ・当日の授業の内容について教科書等を一読しておく。この時、理解できた内容、理解できなかった内容等を整理しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはパワーポイントを使用した授業を行うが、口頭でのみ説明するもしくは教科書からノートに転書させる場合もある。 ・授業の資料は、教科書の内容以外のものについては、一部抜粋し配布する。 ・授業内で行う小テストは、自筆ノートのみ閲覧可とする場合と閲覧不可とする場合がある。
---------	---

成績評価の方法	試験成績 6割 (±5分)、平常点 (授業内小テスト、課題等を含む) 4割 (±5分)
---------	---

教科書/テキスト	『放射写真学』 富士フィルムメディカル㈱ 編&発行
----------	---------------------------

参考書	『診療放射線技術〈上巻〉』 立入 弘等 編 南山堂発行
-----	-----------------------------

『医用画像情報学』 桂川 茂彦 編 南山堂発行

医用放射線科学講座14 『医用画像工学』 岡部 哲夫編 医歯薬出版株式会社

その他	自己学習、特に復習を重視 (予習も重要) すること。特に国家試験勉強対策として、自分の学習法を確立する、もしくは確立を試みることに。
-----	--

履修コード	156001 156002
科目名	画像工学概論II 画像工学概論
担当者名	飯田 幸雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>医用画像の形成はアナログからデジタルへと大きく変化し、画像処理が容易になった。それに伴い、診療放射線技師の業務も少しずつ変わり、画像形成の重視から形成後の処理の重要性が増している。しかし、診療放射線技師として、画像の形成・評価等の理解は重要であり、その基本的な内容の講義はアナログ画像を中心として画像工学概論Iでおこなった。そこで、ここではデジタル画像を中心とした画像の形成、評価、処理等に関する基本知識やその応用、さらにはCT、MRI等のモダリティに関する画像再構成等の基礎的内容について講義する。</p>
---------------------	---

到達目標およびテーマ

- (1) 診療放射線技師として知っておきべき、デジタル画像の基本的な画像の形成から画像評価に関し理解する。
- (2) 国家試験に関する内容を理解する。
- (3) 各モダリティの基本的な原理や画像再構成等について学ぶ。

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 1～3回 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・画像工学概論Iの復習と画像工学概論IIの概略 ・進数 ・フーリエ級数展開 ・フーリエ変換 ・畳み込み積分 ● 4～5回 <ul style="list-style-type: none"> ・画像のデジタル化 (標本化、量子化) ・画像のデータ量 ● 6～9回 <ul style="list-style-type: none"> ・入出力特性 ・解像特性 ・ノイズ特性 ・ROC解析等々 ・理解度確認、解説等 ● 10～13回 <ul style="list-style-type: none"> ・CRシステム ・DR画像 ・CT画像 ・MR画像等々 ● 14～15回 <ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認と解説 ・授業内容総まとめ
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業に関する内容をノートに整理する。 ・当日の授業の内容について教科書等を一読しておく。この時、理解できた内容、理解できなかった内容等を整理しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはパワーポイントを使用した授業を行うが、口頭でのみ説明するもしくは教科書からノートに転書させる場合もある。 ・授業の資料は、教科書の内容以外のものについては、一部抜粋し配布する。 ・授業内で行う小テストは、自筆ノートのみ閲覧可とする場合と閲覧不可とする場合がある。
---------	---

成績評価の方法	試験成績 (2回を予定) 7割 (±5分)、平常点 (授業内小テスト、課題等を含む) 3割 (±5分)
---------	---

教科書/テキスト	『医用画像情報学』 桂川 茂彦 編 南山堂発行
----------	-------------------------

参考書	『放射写真学』富士フィルムメディカル㈱ 編&発行 『診療放射線技術(上巻)』 立入 弘等 編 南山堂発行 医用放射線科学講座14 『医用画像工学』 岡部 哲夫編 医歯薬出版株式会社
-----	--

その他	自己学習、特に復習を重視 (予習も重要) すること。特に国家試験勉強対策として、自分の学習法を確立する、もしくは確立を試みることに。
-----	--

履修コード	160301
科目名	画像工学実験〔実験〕
担当者名	瀬尾 育弉 酒井 芳雄 近藤 啓介 俣野 公志 飯田 幸雄 熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	画像診断分野は急速にデジタル化が進み、画像処理の知識や技術が大変重要になってきている。本実験では、デジタル画像処理とはどのようなものか、また画像処理が読影に如何に有効であるかにつき、CR画像形成システムや画像解析装置、超音波画像形成システムを使用して体験学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期> テーマは大きく3つに分かれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アナログX線画像とデジタルX線画像の画質解析 <ol style="list-style-type: none"> (1) S/Fシステム及びFCRシステムの撮影技術とその画像の視覚特性 (2) S/Fシステム及びFCRシステムによる画像のRMS粒状度とその諸性質 2. CRデジタル画像の基礎 3. フーリエ変換の基本 <p><後期> 基本的な画像処理である4テーマの実験を行う。各テーマを1週の実験で終了し、レポートをまとめて提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボケマスクによる周波数処理の効果 2. 医用画像のフィルタ処理 3. NPS(WS)によるノイズ特性 4. 超音波診断システムの画像特性
----------	---

準備学習	2年次の「画像工学概論」で学習した理論を確実な知識とするための実験科目である。事前に教科書を復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	よりよい画質の医療画像を作り出すため、物理評価はそのための手段として、視覚評価は人間による判断として大変重要である。実験では撮影した画像と物理測定データをよく比較対照し、内容のあるレポートにまとめて欲しい。検討・考察が不十分なレポートは再提出を求める。
---------	--

成績評価の方法	レポート50%，定期試験50%で総合評価する。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	桂川茂彦編『医用画像情報学(改訂2版)』(南山堂)，3,300円+税，ISBN4-525-27932-X
-----	--

その他	単位取得には、所定の実験テーマを全て終了する必要がある。
-----	------------------------------

履修コード	160401
科目名	画像工学実験〔実験〕
担当者名	瀬尾 育弉 酒井 芳雄 近藤 啓介 俣野 公志 飯田 幸雄 熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	画像診断分野は急速にデジタル化が進み、画像処理の知識や技術が大変重要になってきている。本実験では、デジタル画像処理とはどのようなものか、また画像処理が読影に如何に有効であるかにつき、CR画像形成システムや画像解析装置、超音波画像形成システムを使用して体験学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p><前期> テーマは大きく3つに分かれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アナログX線画像とデジタルX線画像の画質解析 <ol style="list-style-type: none"> (1) S/Fシステム及びFCRシステムの撮影技術とその画像の視覚特性 (2) S/Fシステム及びFCRシステムによる画像のRMS粒状度とその諸性質 2. CRデジタル画像の基礎 3. フーリエ変換の基本 <p><後期> 基本的な画像処理である4テーマの実験を行う。各テーマを1週の実験で終了し、レポートをまとめて提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボケマスクによる周波数処理の効果 2. 医用画像のフィルタ処理 3. NPS(WS)によるノイズ特性 4. 超音波診断システムの画像特性
----------	---

準備学習	2年次の「画像工学概論」で学習した理論を確実な知識とするための実験科目である。事前に教科書を復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	よりよい画質の医療画像を作り出すため、物理評価はそのための手段として、視覚評価は人間による判断として大変重要である。実験では撮影した画像と物理測定データをよく比較対照し、内容のあるレポートにまとめて欲しい。検討・考察が不十分なレポートは再提出を求める。
---------	--

成績評価の方法	レポート50%，定期試験50%で総合評価する。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	桂川茂彦編『医用画像情報学(改訂2版)』(南山堂)，3,300円+税，ISBN4-525-27932-X
-----	--

その他	単位取得には、所定の実験テーマを全て終了する必要がある。
-----	------------------------------

履修コード	163501 163502
科目名	画像構築論I 画像処理工学
担当者名	志村 一男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	各種医療画像を取り扱う上で、「その画像がどのように構築されたか？」を理解することは極めて重要である。画像検査や画質評価を行う上で、把握しておきたい構築の原理・プロセスや画質に影響する要素等について学ぶことを目的とする。具体的には投影画像の生成から、投影画像から断面像の再構築方法、さらには3次元画像の生成法について学ぶ。
授業スケジュール	1) デジタルX線システムにおける投影像の生成 2) CTにおける投影像からの断面像の生成 3) 断面像からの3次元画像の生成
準備学習	画像工学、画像処理等の基礎を復習しておくこと。
履修上の留意点	参加型の授業である。わからないことも受身ではなく、自分で考える姿勢で臨むこと。
成績評価の方法	取り組み姿勢と試験により評価する。
教科書/テキスト	授業はプロジェクターを利用して実施する。プロジェクターの資料を適宜プリントとして配布する。
参考書	ローゼンフェルド、カク「デジタル画像処理」(近代科学社) 近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1

履修コード	164251
科目名	画像処理概論
担当者名	近藤 啓介
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。また、画像の解析やデータの分析にはコンピュータを使う必要があり、コンピュータを使ってどのように処理するのか習得する必要がある。 そこで、将来の医療現場に必要な情報処理技術・画像の処理解析技術・セキュリティの技術を演習を中心として体験しながら学ぶ。画像の解析においては統合表計算ソフトの利用方法を中心に演習を行う。医療用の画像処理技術であるフィルタ処理、データ変換、三次元処理などは画像処理ソフトを中心に演習を行う。
授業スケジュール	第1・2回 画像の処理・解析 第3・4回 画像処理・解析ソフト「ImageJ」の使い方 第5・6回 特性曲線 第7・8回 鮮鋭度 第9・10回 粒状度 第11・12回 周波数処理 第13・14回 3次元処理 第15回 演習
準備学習	情報処理技術を履修していることが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)で評価する。
教科書/テキスト	適宜、プリントと資料を配布する。
参考書	

履修コード	164261
科目名	画像処理概論
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。また、画像の解析やデータの分析にはコンピュータを使う必要があり、コンピュータを使ってどのように処理するのか習得する必要がある。 そこで、将来の医療現場に必要な情報処理技術・画像の処理解析技術・セキュリティの技術を演習を中心として体験しながら学ぶ。画像の解析においては統合表計算ソフトの利用方法を中心に演習を行う。医療用の画像処理技術であるフィルタ処理、データ変換、三次元処理などは画像処理ソフトを中心に演習を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	第1・2回 画像の処理・解析 第3・4回 画像処理・解析ソフト「Image J」の使い方 第5・6回 特性曲線 第7・8回 鮮鋭度 第9・10回 粒状度 第11・12回 周波数処理 第13・14回 3次元処理 第15回 演習
----------	---

準備学習	情報処理技術を履修していることが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート（3割）と試験（7割）で評価する。
教科書／テキスト	適宜、プリントと資料を配布する。
参考書	

履修コード	159301 159302
科目名	画像処理言語論 画像処理言語論I
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。現在、画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われており、ここでは、基本的な画像処理を中心に学習する。 この授業では「計算機言語論」で習得したC言語を利用して、実際の医用画像に対して基本的な画像処理プログラムを作成する。そして、画像処理がコンピュータの中でどのように処理されているのかを自らプログラミングすることにより理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス・プログラミングの考え方 (2) 画像のデジタル化 (3) 医用画像の構成・DICOMとは (4) 平滑化フィルタ (5) ラプラシアンフィルタ・メディアンフィルタ (6) 医療画像の表示 (7) Big EndianとLittle Endian・白黒反転 (8~15) 画像処理プログラムの実習
----------	--

準備学習	この授業では、C言語を利用して画像処理のプログラミングを作成します。前期の計算機言語論を履修して、C言語の基礎知識を習得する必要があります。
履修上の留意点	演習形式で行うので、積極的に受講すること。
成績評価の方法	レポート（3割）と試験（7割）で評価する。
教科書／テキスト	授業中に配布する。
参考書	近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1

履修コード	162101
科目名	画像処理論
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要があり、そのためにはコンピュータの中でのどのように処理されているかを理解する必要がある。 「画像処理言語論」学んだ基本的画像処理を土台にして、実際の医用画像に対して行われている基本的な画像処理の手法から周波数解析の手法やデータ圧縮の方法などを解説する。そして、自らプログラミングすることにより画像処理の仕組みを理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 画像処理とは (2) 画像の拡大・縮小 (3) 画像の鏡影・せん断 (4) 画像の線形変換・合成 (5) ソーベルフィルタ (6) ハイパスフィルタ・ローパスフィルタ (7) 画像圧縮 (8~15) 画像処理の実習
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	演習形式で行うので、積極的に受講すること。
成績評価の方法	レポート (3割) と試験 (7割) で評価する。
教科書/テキスト	適宜、プリントと資料を配布する。
参考書	近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1

履修コード	158501
科目名	画像診断機器工学
担当者名	瀬尾 育武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	MRI (磁気共鳴イメージング装置) と超音波診断装置について講義する。 その他、X線CT装置についてもその概要を講義する。
---------------------	---

授業スケジュール	1~3. 核磁気共鳴 (MRI) の物理的原理 4. MR画像形成法とパルスシーケンス 5. MRアンギオ 6. MR装置の機器構成とMRIの諸特性 7. 理解度の確認 8. 超音波診断装置概説 9. 超音波の物理的基礎 10. 超音波診断装置 機器 11. 分解能とS/N 12. アーチファクト 13. 超音波検査の概要 (循環器、腹部、体表、産科) 14. 超音波の最新動向 15. X線CTの原理
----------	---

準備学習	予習、復習を良くしておくこと。
履修上の留意点	授業内で理解度チェックをします。
成績評価の方法	学期末試験40%、授業内での理解度の確認 (小テスト) 40%、平常点 (出席数など) 20%により評価する。
教科書/テキスト	・佐々木博 著 『医用超音波論』 国際医療福祉大 1000円 (本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売) ・佐々木博 著 『医用磁気共鳴論』 国際医療福祉大 1000円 (本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売) ・必要に応じて教材用プリントを使用する。

参考書	・日本放射線技術学会監修 放射線技術シリーズ『MR撮像技術学』 (株) オーム社 5460円 ・木村雄治著 『画像診断装置入門』 コロナ社 3000円 ・森一生著 『CTとMRI』 コロナ社 4935円 ・伊藤・望月著 『超音波診断装置』 コロナ社 2800円 ・千原著 『日本エム・イー学会編/ME教科書シリーズ 超音波』 コロナ社 2700円 ・佐久間・桑島著 『よくわかる超音波検査入門講座』 永井書店 9240円
-----	---

履修コード	159401
科目名	画像診断技術学I
担当者名	嶋田 守男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放射線診療で利用されている画像診断法（主としてX線コンピュータ断層撮影（CT）や磁気共鳴画像法（MRI）、超音波検査など）の原理について習熟し、各モダリティの代表的な画像情報処理法を理解する。各種画像から得られる情報を総合的に診断する方法について学ぶ。
授業スケジュール	(1、2) 放射線科が扱う検査（X線撮影、X線CT、PET-CT、超音波検査） (3、4) 画像診断に必要な解剖知識 (5、6) 磁気共鳴画像法（MRI）の撮像原理と画像診断法 (7、8) 磁気共鳴画像法（MRI）によるアーチファクト (9、10) 磁気共鳴血管撮像法（MRA）の撮像原理と診断法 (11) 磁気共鳴画像法（MRI）に使用する造影剤と有効性と安全性 (12、13) 超音波検査（US）のアーチファクトと診断法 (14) 超音波検査（US）に使用する造影剤の有効性と安全性 (15) 総合画像診断の実際に分けて系統的に学習する。
準備学習	画像解剖の基礎知識を復習しておくこと。
履修上の留意点	画像解剖の基礎知識を復習しておく。そして各種画像診断法の画像を学修しながら実践に用いることができるようにする。
成績評価の方法	授業の出席率と定期試験により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	

履修コード	163701
科目名	画像診断技術学II
担当者名	吉川 宏起
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	診療放射線医学で扱う種々の画像診断モダリティにおける正常像と代表的疾患の異常像ならびに装置特有のアーチファクトについて学び、各疾患ごとの効率的な検査の進め方を修得していく。
授業スケジュール	(1) 脳・脊髄の正常解剖画像 (2) 脳・脊髄疾患における画像診断 (3) 頭頸部の正常解剖画像 (4) 頭頸部疾患における画像診断 (5) 呼吸器系の正常解剖画像 (6) 呼吸器系疾患における画像診断 (7) 肝臓・胆道系・膵臓の正常解剖画像 (8) 肝臓・胆道系・膵臓疾患における画像診断 (9) 消化管の正常解剖画像 (10) 消化管疾患の画像診断 (11) 泌尿・生殖器系の正常解剖画像 (12) 泌尿生殖器系疾患の画像診断 (13) 骨系の正常解剖画像 (14) 関節系の正常解剖画像 (15) 骨・関節系疾患の画像診断
準備学習	1年次の解剖学、2年次の医学概論、病理学、臨床医学概論、3年次の画像解剖学、画像診断技術学Iの基礎的事項を復習しておくこと。
履修上の留意点	画像診断モダリティーの種類と特徴、それぞれの画像法の原理について復習しておく。各臓器別、疾患別の各種画像診断法の効率的かつ有効な応用法の学修を目指す。
成績評価の方法	授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
教科書／テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	笠井俊文・小川敬壽共編『診療画像機器学』（オーム社）5,400円

履修コード	163601
科目名	画像伝送論
担当者名	大楠 清央

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>近年ではPACS (Picture Archiving & Communication System) が普及し、放射線科部門のみならず院内での検査運用が広くデジタル化されてきている。医用画像情報システムを構築し、運用を管理するとともに蓄積された診療データを活用することで、医療の質と効率を上げることが重要な課題になってきている。本講座では画像通信の基本となるネットワーク技術、DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) 及びストレージ技術について概要を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>医療施設でのデータ伝送技術やPACSについての基本知識、および画像情報伝送技術の中心であるDICOMについての基本知識を習得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに (画像伝送論の概要説明) 2. ストレージ (RAID、DAS/NAS/SAN) 3. ネットワーク (Ethernet、TCP/IP) 4. セキュリティ (個人情報、セキュリティの脅威/対策) 5. DICOM/IHE-J 6. フィルムレス運用 <p>7回以降は実習形式 DICOM実習、システム設計演習、発表</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	第7回から実習形式となり、深沢キャンパスで行います。
成績評価の方法	実習・演習レポート50%、平常点50%とする。
教科書/テキスト	講義内容に関するプリントを随時配布します。
参考書	

履修コード	164001
科目名	画像と放射線治療
担当者名	吉川 宏起

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>放射線治療は、放射線診断とともに医学における電離放射線利用の柱であり、現在も大きく進歩している領域である。本講義では各臓器における悪性腫瘍の病期決定に必要な画像情報とその検査法、放射線治療法について修得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線治療法の進歩 (2) 脳腫瘍の画像病期診断 (3) 脳腫瘍の放射線治療 (4) 頭頸部腫瘍の画像病期診断 (5) 副鼻腔・鼻腔腫瘍の放射線治療 (6) 咽頭・喉頭腫瘍の放射線治療 (7) 肺腫瘍の画像病期診断 (8) 肺腫瘍の放射線治療 (9) 消化管腫瘍の画像病期診断 (10) 消化管腫瘍の放射線治療 (11) 肝・胆・膵腫瘍の画像病期診断と放射線治療 (12) 婦人科腫瘍の画像病期診断 (13) 婦人科腫瘍の放射線治療 (14) 泌尿器科腫瘍の放射線治療と画像病期診断 (15) 悪性リンパ腫の放射線治療と画像病期診断
----------	--

準備学習	<p>2年次に学修した放射線生物学、3年次に学修した放射線治療技術学、放射線治療技術学実験、放射線腫瘍学の基礎的事項を復習しておくこと。また2年次に学修した医学概論、病理学、臨床医学概論、3年次に学修した画像解剖学、画像診断技術学Ⅰの基礎的事項についても復習しておくこと知識の体系的・網羅的理解が容易となる。</p>
------	--

履修上の留意点	放射線治療計画を行う上で必要な画像情報とそれを得るための撮影技術を理解する。
成績評価の方法	授業時間内的小テスト、定期の筆記試験による。
教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
参考書	特に指定しない。

履修コード	153201
科目名	環境保健医学
担当者名	黒子 幸一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間を取り巻く環境が健康に及ぼす影響と疾患との関係、疾病予防についての基礎的知識の習得を目的とする
---------------------	---

授業スケジュール	健康を阻害する疾病、社会要因、環境因子を理解するために年齢別疾病罹患（高齢化社会の疾病）、環境因子の地域差・推移を知り、予防医学的考察まで進める
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	小テスト、レポート提出を実施する
---------	------------------

成績評価の方法	定期試験、小テスト、レポートにより評価する
---------	-----------------------

教科書/テキスト	『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）2,400円
----------	--------------------------

参考書	『国民衛生の動向』厚生指針（厚生統計協会）
-----	-----------------------

その他	授業方法は講義形式を主にビデオ学習、グループディスカッション、ロールプレイを行うプリント配布、講義スライド資料配布予定
-----	---

履修コード	160001
科目名	技術英語
担当者名	高橋 優身

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 全米放射線技師協会のホームページをテキストとして使用し、放射線技師の職務領域についての知識を得、さらに何のために、そして誰のために職務を遂行するのかという、放射線技師としての根源的な問題に関して考えを見出す。そしてその作業の中から、人間として、そして職業人としての倫理を再確認する。
---------------------	---

到達目標	(到達目標) 放射線技師のための「専門英語」を習得することがこの科目の目標であるが、開講が半期のため、「信頼される」放射線技師であるための必須条件に絞って、関連の「専門英語」を習得する。それと同時に、人間としての、そして放射線技師という職業人としての倫理を再確認する。
------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. Want to Be an R.T.?: Opportunity 2. Want to Be an R.T.?: Options 3. Want to Be an R.T.?: Balance 4. Want to Be an R.T.?: Investigate 5. Want to Be an R.T.?: Resources 6. Want to Be an R.T.?: Outlook 7. ASRT Code of Ethics: Preamble 8. ASRT Code of Ethics: Code of Ethics 9. Practice Standards: Preamble 10. Practice Standards: Radiographer 11. Practice Standards: Education and Certification 12. Practice Standards: Practice Standards 13. Practice Standards: Format: Criteria 14. Practice Standards: Format: General Criteria 15. Practice Standards: Format: Specific Criteria
----------	---

準備学習	・3年次前期必修科目の「医学英語」の内容は基礎知識として重要です。よく復習しておくこと。
------	--

準備学習	・前回の授業内容を復習し、当日の授業内容について予習しておくこと。
------	-----------------------------------

準備学習	・授業内容に関連した新聞記事やホームページを授業内で取り扱うことがあります。関連したメディアに目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	規定の出席率を越えた学生のみ試験受験資格を有する。予習が必要であろう。授業時の活発な発言を期待する。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験を基本に評価します。 定期試験の成績80%、平常点（授業内での発表・発言等）20%とする。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	適宜プリントと資料を配付する。
-----	-----------------

その他	演習形式で行うので、学生主体の授業である。
-----	-----------------------

履修コード	159601
科目名	救急医療学
担当者名	奥山 康男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 救急医療は、病院到着前救護と医療機関が一体となってはじめて成立する。総合的かつ広範な救急医療において、迅速で精細な医療画像情報を提供する診療放射線技師の役割は大変重要である。本講義では臨床現場で備えておかなければならない救急時の検査手技等の基礎知識を学ぶ。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は将来、診療放射線技師として一次・二次・三次救急などに携わることを踏まえて、患者接遇から撮影技術までの基礎知識を習得することにある。すなわち、救急医療における放射線技師の役割と実践・責任を実行できるための技術や知識を得ることにある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療の概略と心構え：＜救急医療体制、救急患者に対する心構え、救急診療の原則＞ 2. チーム医療と患者接遇：＜チーム医療、救急時の放射線業務、救急医療時の安全管理＞ 3. 救急撮影ポイント①：＜外傷－頭部系＞ 4. 救急撮影ポイント②：＜外傷－胸部・腹部・骨盤部系＞ 5. 救急撮影ポイント③：＜外傷－脊椎系＞ 6. 救急撮影ポイント④：＜外傷－四肢系＞ 7. 血管障害系①：＜頭部血管＞ 8. 血管障害系②：＜心大血管＞ 9. 血管障害系③：＜腹部・四肢動脈＞ 10. 急性腹症：＜臨床情報と撮影法＞ 11. 小児救急：＜臨床情報と撮影法＞ 12. 気胸・熱傷・中毒・異物：＜臨床情報と撮影法＞ 13. 一次救命処置：＜意識状態、バイタルサイン、心肺蘇生法＞ 14. 二次救命処置：＜救命器材と用法、造影剤の副作用＞ 15. 医療被ばく線量：＜ガイダンスレベル＞ <p>※上述の講義以外に実技を兼ねた上級救命技能認定講習 (AED取扱) を世田谷消防署の協力にて開催予定。＜消防署に支払う受講料は別途発生 (平成23年7月現在2,600円)＞</p>
----------	--

準備学習	1年次、並びに2年次にて必須科目の「解剖学」、「診療画像技術学概論」、「診療画像技術学」、「放射線機器工学」、「生理学」、「病理学」、「生化学」などの複数科目を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。また、医療に関連したテレビ番組や新聞記事に関心を持ち、積極的に医療専門用語の理解ができるようにしておくことで授業内容が一層理解しやすくなる。
------	--

履修上の留意点	実際の救急医療現場で検査を行った臨床画像をプロジェクタに映しながら授業を行うので、配付資料と画像とを関連づけて覚えること。
---------	---

成績評価の方法	夏季休み前に実施する前期定期試験 (筆記) の成績90%、平常点 (受講態度など) 10%とする。
---------	---

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	特になし
-----	------

その他	特になし
-----	------

履修コード	164401
科目名	計算機言語論
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、病院で取り扱われている医用画像の多くは、デジタル信号化され画像処理されている。画像処理を行うためには、画像処理ソフトを利用する方法もあるが、新しい方法で処理する場合や、開発をするためには、自らプログラミングする必要がある。</p> <p>この授業では、プログラミングのための基本的な知識を習得することを目指します。ただし、半年間という短い期間ですので、画像処理でフィルタ処理をするために必要な基本的な命令文に絞って学習します。プログラミング言語はC言語を利用します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 プログラミング 第2回 変数とは 第3回～第4回 変数による計算 第5回～第6回 繰り返し文 第7回～第8回 繰り返し文の実習 第9回～第10回 分岐文 第11回～第13回 分岐文の実習 第14回～第15回 ソートプログラミングの実習
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	画像処理言語論の受講にあたっては、この授業にてC言語の知識を習得している必要があるの で、画像処理言語論の受講予定者は必ず受講すること。 授業の半分は演習を行います。積極的に受講すること。
---------	--

成績評価の方法	レポート (3割) と試験 (7割) で評価する。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	
-----	--

履修コード	164451 164452
科目名	計算機言語論Ⅰ 計算機言語論
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日、病院で取り扱われている医用画像の多くは、デジタル信号化され画像処理されている。画像処理を行うためには、画像処理ソフトを利用する方法もあるが、新しい方法で処理する場合や、開発をするためには、自らプログラミングする必要がある。 この授業では、プログラミングのための基本的な知識を習得することを目指します。ただし、半年間という短い期間ですので、画像処理でフィルタ処理をするために必要な基本的な命令文に絞って学習します。プログラミング言語はC言語を利用します。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 プログラミング 第2回 変数とは 第3回～第4回 変数による計算 第5回～第6回 繰り返し文 第7回～第8回 繰り返し文の実習 第9回～第10回 分岐文 第11回～第13回 分岐文の実習 第14回～第15回 ソートプログラミングの実習
----------	--

準備学習	2年次の実験・実習の履修条件を満たしていることが望ましい。
------	-------------------------------

履修上の留意点	人数制限を行います。以下の条件を満たす人を優先します。 (1) 2年次の実験・実習が受講可能な人 (2) 「画像処理概論」の単位取得者 (3) 「画像処理概論」の成績優秀者
---------	---

成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)で評価する。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	授業中に配布する。
----------	-----------

参考書	
-----	--

履修コード	164461
科目名	計算機言語論Ⅱ
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要があり、そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。現在、画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われており、ここでは、基本的な画像処理を中心に学習する。 この授業では「計算機言語論」で習得したC言語を利用して、実際の医用画像に対して基本的な画像処理プログラムを作成する。そして、画像処理がコンピュータの中でどのように処理されているのかを自らプログラミングすることにより理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス・プログラミングの考え方 (2) 画像のデジタル化 (3) 医用画像の構成・DICOMとは (4) 平滑化フィルタ (5) ラプラシアンフィルタ・メディアンフィルタ (6) 医療画像の表示 (7) Big EndianとLittle Endian・白黒反転 (8～15) 画像処理プログラムの実習
----------	--

準備学習	この授業では、C言語を利用して画像処理のプログラミングを作成します。前期の計算機言語論Ⅰを履修して、C言語の基礎知識を習得する必要があります。
------	---

履修上の留意点	人数制限を行います。以下の条件を満たす人を優先します。 (1) 2年次の実験・実習が受講可能な人 (2) 「画像処理概論」の単位取得者 (3) 「画像処理概論」の成績優秀者
---------	---

成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)で評価する。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	授業中に配布する。
----------	-----------

参考書	
-----	--

履修コード	155601
科目名	原子核物理学
担当者名	永井 喜則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放射線物理学で学習した内容を基礎とし、原子核と放射線に関する講義を行う。特に α ・ β 壊変と γ 線放射は、今後、放射性同位元素の応用を考える上での基礎となるものである。正確な理解をすると共に、他の科目との関連を意識しながら受講すること。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子核の性質 (構成粒子、質量、結合エネルギー、核力、核模型、磁気モーメント) 2. 放射性壊変 (放射能、α・β・γ線、壊変図) 3. α壊変 (α線のエネルギー、ガイガーヌッターの法則、トンネル効果) 4. β壊変 (β^-壊変、β^+壊変、β線のエネルギー、電子捕獲、カリープロット) 5. γ線放射 (γ線の角運動量、核異性体、内部転換、メスバウアー効果) 6. 核反応 (核反応の種類、Q値、しきい値、核反応断面積、複合核、光核反応) 7. 中性子 (中性子の性質、中性子発生源、エネルギーによる分類) 8. 原子炉 (核分裂と放出エネルギー、中性子の減速、原子炉の構造、中性子捕捉療法)
----------	--

準備学習	数学と物理学の基本的な事柄を勉強しておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするように心がけてほしい。講義の後には、短時間でも必ず復習を行うこと。
---------	---

成績評価の方法	定期試験以外に中間試験を2回行い、その結果から成績を評価する。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	教科書は使用しない。
----------	------------

参考書	上原周三著『放射線物理学』(南山堂) 田島英三著『原子核物理概論』(地人書館) 鷲見義雄著『原子核物理入門』(裳華房)
-----	--

その他	授業の中では演習問題を解くこともする。電卓を用意しておくこと。
-----	---------------------------------

履修コード	165301 165302
科目名	最新医療技術 最新医療科学
担当者名	吉川 宏起

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療における技術開発は目覚ましい。本講義では最新画像診断技術学を中心に新しい診断技術および治療技術について修得する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1~3) 放射線診断学における最新医療技術 (4) 核医学診断学における最新医療技術 (5) 放射線治療学における最新医療技術 (6~7) MR撮像技術の最新情報 (8~9) 新しいMR撮像技術の臨床応用 (10) X線CT撮影技術の最新情報 (11) 新しいX線CT撮影技術の臨床応用 (12) 超音波撮影技術の最新情報 (13) 新しい超音波撮影技術の臨床応用 (14) IVR技術の最新情報 (15) 新しいIVR技術の臨床応用
----------	--

準備学習	1年次に学修した解剖学、2年次に学修した医学概論、臨床医学概論、病理学、3年次に学修した画像解剖学、画像診断技術学Ⅰ、4年次前期に学修した画像診断技術学Ⅱ、画像と放射線治療の基礎的事項を復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	放射線医学領域における検査技術の進歩とその臨床応用について修得する。とくにそれぞれの技術の臨床適応を理解していくことが重要である。
---------	---

成績評価の方法	授業中の小テスト、定期期末テストによる評価。
---------	------------------------

教科書/テキスト	特になし。プリントを配布。
----------	---------------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

履修コード	156101
科目名	診療画像技術学
担当者名	西尾 誠示

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 診療画像技術学はX線解剖学や基礎的な画像工学等を元にした幅広い分野から構成される。体表解剖、解剖・生理を裏付けとした整位、及び理論的な撮影条件を始めとして臨床画像の評価まで含めて講義を行う。</p> <p>到達目標 履修者は撮影部位や検査項目ごとに最適な臨床画像を得るための撮影条件を把握するだけでなく、各部位について解剖と画像の関係を評価し、各々の検査の目的や意義をしっかりと理解しなければならない。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) X線の発生原理、被ばく線量、生体への影響など、放射線の取扱いについて (2) X線撮影装置や周辺機器、受光系などの過去と現状について (3) X線の発生から画像化に至る過程で生じる事象と基礎的な画像理論について (4) 医療人のコミュニケーション、受診者の心理、ペイシエンツケアについて (5) X線撮影に必要な生体の名称、基準線、体位、中心入射点、入射角度などについて (6) 頭部正面像、側面像の撮影技術と画像解剖、画像評価について (7) 頭部の軸位像、タウン像の撮影技術と画像解剖、画像評価について (8) ステンバース法、シュラー法などの聴器の撮影技術と画像評価について (9) ウォータース法、コルドウエル法など副鼻腔の撮影技術と画像評価について (10) 視神経管および眼窩・顔面、歯科領域の撮影技術と画像評価について (11) 頸椎正面像、側面像、斜位像、開口位の撮影技術と画像評価について (12) 胸椎正面像、側面像の撮影技術と画像評価について (13) 腰椎正面像、側面像、斜位像の撮影技術と画像評価について (14) 肋骨および胸骨など胸郭の撮影技術と画像評価について (15) 肩関節、鎖骨、肩甲骨など肩周辺骨の撮影技術と画像評価について (16) 上腕、肘関節、前腕、手関節など上肢骨の撮影技術と画像評価について (17) 骨盤正面像、斜位像の撮影技術と画像評価および骨盤計測について (18) 股関節正面像、ラウエンスタイン法の撮影技術と画像評価について (19) 大腿、膝関節、下腿、足関節など下肢骨の撮影技術と画像評価について (20) 胸部の被写体特性と出力系、受光系など胸部撮影の理論について (21) 胸部正面像、側面像、斜位像など撮影技術と画像解剖、画像評価について (22) 腹部正面像、救急撮影の撮影技術と画像解剖、画像評価について (23) 乳腺の被写体特性と出力系、受光系など乳腺撮影の理論について (24) 乳腺のML0方向、CC方向、ML方向の撮影技術と画像評価について (25) 小児の頭部正面像、側面像、耳鼻科領域の撮影技術と画像評価について (26) 乳幼児の胸部正面像・側面像、腹部立位・臥位の撮影技術と画像評価について (27) 乳幼児の股関節撮影、思春期児童の突発性脊椎側湾症の撮影技術について (28) 画質評価の種類と実際の方法について (29) 研究への取り組み方と卒業論文の構成、書き方について (30) 重要部分のまとめ
----------	---

準備学習	講義内容はYeStudyにまとめてあるので事前に読んで授業に出席することが望ましい。
履修上の留意点	講義はスライドと教科書を併用して行われる。YeStudyに掲載された原稿は部分的に空白があるのでスライドを注視して重要部分をノートすることが望ましい。
成績評価の方法	原則として90%は試験の結果で評価するが、10%については授業中の質疑応答の結果や学習意欲を評価に反映させる。
教科書/テキスト	『放射線画像技術学』（医歯薬出版）4,800円
参考書	講義用スライド、プリント

履修コード	153301
科目名	診療画像技術学概論
担当者名	西尾 誠示
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 最初に医療における診療放射線技師の果たすべき役割と使命、医療人の心構えなどを含め、実際の放射線技術学の概論を述べる。さらに主体として診療画像技術学を学ぶ上で基礎となる放射線の発生から画像化されるまでの過程および現象、および診断に必要な画像を得るための課題と条件について項目ごとに解説する。</p> <p>到達目標 履修者はX線発生から画像になるまでの過程における事象・原理、生体の持つ特性・課題および良い画像を得るための理論・条件について理解しなければならない。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 医療社会の仕組み、医療・病院の構成組織について (2) 放射線学の歴史、診療放射線技師の役割、将来の展望等について (3) 診療放射線学と医療施設におけるチーム医療について (4) X線の発生、線質、減弱、物質との相互作用、写真効果などについて (5) X線照射によって生じる写真効果と画像の拡大、歪み、重畳効果など (6) X線像で表わされる写真濃度の理解とフィルムの特性曲線について (7) 画像を決定づける被写体コントラストと写真コントラストについて (8) 画像を評価するための尺度としての鮮鋭度と粒状度(性)について (9) 画質を左右する管電圧、散乱線とグリッド、増感紙などの受光系について (10) 最適な画像を得るための撮影条件と理論的な考え方、課題と改善策について (11) 医療画像検査を行う上で重要な体表の名称や基準線、撮影角度などについて (12) 実際の医療現場で行われる画像検査の種類と特殊撮影の原理・応用について (13) 頭部や椎骨などの骨部、胸部や腹部の撮影などの単純X線撮影について (14) 造影剤を用いた胃や腸の検査、血管造影検査などの造影検査について (15) 講義全体の重要ポイントのまとめと学生の理解度の確認を行う
準備学習	<p>YeStudyに講義内容全体をまとめて掲載するので、事前に目を通しておくこと。関連項目については必ず教科書に載っているので調べておくことが望ましい。</p>
履修上の留意点	<p>YeStudyに掲載された原稿は部分的に空白になっているので、講義スライドを注視して、重要な空白部分を見逃さないこと。</p>
成績評価の方法	<p>評価に占める割合は原則として定期試験を90%とするが、あとは授業中の質疑応答や勉学意欲について評価を加える。</p>
教科書/テキスト	<p>立入弘著『診療放射線技術』（南江堂）6,800円</p>
参考書	<p>講義用スライド及びプリント</p>
その他	<p>YeStudyに授業内容を掲載</p>

履修コード	153901
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	西尾 誠示 酒井 芳雄 飯田 幸雄 熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要</p> <p>X線検査の基礎となる基礎的な実験、実習を行う。X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得するとともに、X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について班ごとに実験を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>学生は画像評価に用いられる写真濃度、コントラスト、鮮鋭度などを理解するとともに、それらを左右する撮影条件、受光系の感度、X線グリッド、散乱線などについて理解しなければならない。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) X線量と写真濃度 被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。</p> <p>(2) 撮影条件表の作成 アクリル板を用い、その厚さの変化に対応する線量と電圧を求め、最適な濃度を得るための撮影条件を理解する。</p> <p>(3) 照射野の線量分布と撮影距離 X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、その濃度を相対露光量に変換することによって照射野内のX線分布を把握する。</p> <p>(4) フィルムの特性曲線の作成 距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と露光量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。</p> <p>(5) 撮影電圧とコントラスト 管電圧とファントムの厚さを変化させ、線質や被写体の違いが画質に及ぼす影響を調べる。X線吸収差の少ない被写体のコントラストを評価する。</p> <p>(6) 増感紙の感度 フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。</p> <p>(7) フィルム・増感紙の鮮鋭度／解像力 X線テストチャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。それらを測定するためのマイクロデンシトメータの取扱いを習得する。</p> <p>(8) 散乱線の評価 上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。</p> <p>(9) グリッドの性能評価 鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。</p>
----------	--

準備学習	ガイダンスで配布するプリントを授業前に読んでおくこと。
履修上の留意点	授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。 実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。
成績評価の方法	定期試験、レポートについて総合的に判定する。評価の割合を定期試験60%、レポートを40%とするが、受験資格は全レポートを提出したものに限られる。
教科書／テキスト	実験マニュアルを配布する。
参考書	立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂) 6,800円
その他	他人のレポートをコピーして提出するなどの不正行為は本科目の受験資格を失います。

履修コード	154001
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	西尾 誠示 酒井 芳雄 飯田 幸雄 熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概説</p> <p>X線検査の基礎となる基礎的な実験、実習を行う。X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得するとともに、X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について各班ごとに実験を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>学生は画質評価に用いられる写真濃度、コントラスト、鮮鋭度などを理解するとともに、それらを左右する撮影条件、受光系の感度、散乱線、X線グリッドなどについて理解しなければならない。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) X線量と写真濃度</p> <p>被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。</p> <p>(2) 撮影条件表の作成</p> <p>アクリル板を用い、その厚さの変化に対応する線量と電圧を求め、最適な濃度を得るための撮影条件を理解する。</p> <p>(3) 照射野の線量分布と撮影距離</p> <p>X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、その濃度を相対露光量に変換することによって照射野内のX線分布を把握する。</p> <p>(4) フィルムの特性曲線の作成</p> <p>距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と露光量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。</p> <p>(5) 撮影電圧とコントラスト</p> <p>管電圧とファントムの厚さを変化させ、線質や被写体の違いが画質に及ぼす影響を調べる。X線吸収差の少ない被写体のコントラストを評価する。</p> <p>(6) 増感紙の感度</p> <p>フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。</p> <p>(7) フィルム・増感紙の鮮鋭度/解像力</p> <p>X線テストチャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。それらを測定するためのマイクロデンシトメータの取扱いを習得する。</p> <p>(8) 散乱線の評価</p> <p>上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。</p> <p>(9) グリッドの性能評価</p> <p>鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。</p>
----------	---

準備学習	ガイダンスで配布したプリントを授業前に読んでおくこと。
履修上の留意点	授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。 実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。
成績評価の方法	定期試験、レポートについて総合的に判定する。評価の割合を定期試験60%、レポートを40%とするが、受験資格は全レポートを提出したものに限られる。
教科書/テキスト	実験マニュアルを配布する。
参考書	立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂) 6,800円
その他	レポートの不正行為は本科目の受験資格を失うので注意すること。

履修コード	158801
科目名	診療画像情報学I
担当者名	西尾 誠示
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 胃や腸などの消化管造影や腎臓などの腹部実質臓器の造影、あるいは頭部血管や腹部血管の造影検査の手技と画像評価が主体である。さらに透視画像を仲介して行われる治療(IVR)についても述べる。</p> <p>到達目標 この講義内容は3年次後期に行われる臨床実習の基礎となるので、学生は実際の検査手技とその臨床的な意義を理解すること、および臨床画像の評価方法を習得すること、更に最低限正常像について解説できることが求められる。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 画像情報学概論、造影剤を用いた検査の意義と留意すべき点について (2) 胸部単純像の画像解剖と臨床的な評価方法について (3) 乳腺検査の現状と撮影技術、乳がん検診の有効性と品質管理等について (4) 下咽頭・食道の画像検査技術と画像解剖、画像評価、造影剤等について (5) 胃・十二指腸など上部消化管造影の技術、体位と描出部位、画像評価について (6) 肝臓、胆のう、膵臓など腹部実質臓器の検査技術と画像解剖、画像評価について (7) 腎臓、膀胱など泌尿器の画像検査技術と画像解剖・画像評価について (8) 大腸造影技術について、前処置、実際の手技、画像解剖・画像評価について (9) 心臓・大血管の造影検査技術と関連機器および画像解剖・画像評価について (10) 冠状動脈の検査技術と画像評価・画像評価および心筋梗塞のIVRについて (11) 腹部血管の検査技術と画像解剖・画像評価および肝がんのIVRなどについて (12) 頭部血管の造影検査と画像解剖・画像評価および血管障害の治療について (13) CT検査技術・基礎：装置、周辺機器、品質管理などについて (14) CT検査技術・応用：頭部、胸部、腹部における検査技術について (15) とくに重要なポイントについてまとめ
準備学習	事前に教科書「診療画像技術学」を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	教科書とスライドを併用し、主に撮像技術と臨床画像について解説する。履修者は生体解剖と対比しながら画像を評価することが望まれる。YeStudyに掲載された原稿は部分的に空白があるのでスライドを注視して重要部分をノートすることが望ましい。
成績評価の方法	原則として90%は試験結果で評価するが、授業中の質疑応答の結果および学習意欲を評価して10%加える。
教科書/テキスト	稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）4,800円
参考書	講義用スライドおよびプリント
その他	授業は講義形式であるが、内容により質問あるいは意見を求める。

履修コード	163801
科目名	診療画像情報学II
担当者名	西尾 誠示

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 ここでは生体と画像の因果関係をはじめとして、撮像技術および画像の品質管理も含めて臨床写真を主体に講義する。近年の国家試験で求められる臨床画像の知識を身につけるために実際の臨床画像を多く用いる。</p> <p>到達目標 少なくとも診療技術科学コースの学生は生体の正常例についてしっかり理解し、頭部から足先に至るまでそれらの画像について自ら解説できる能力を身につけなければならない。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 診療画像情報学の概説と国家試験対策について (2) X線画像を左右する要因と画質を評価する尺度について (3) 胸部単純像の画像評価と画像解剖について (4) 胸部CT像の画像評価・単純象との対比について (5) 腹部領域における画像評価と画像解剖について (6) 腹部CT象と画像評価、画像解剖について (7) 乳腺X線画像の評価、乳腺画像の品質管理について (8) 頭部・耳鼻科領域の単純像の画像評価と画像解剖について (9) 胃や大腸などの消化管造影像の画像評価と画像解剖について (10) 頸椎・胸椎・腰椎など、椎骨X線像の画像評価と画像解剖について (11) 上肢の関節や下肢の関節を主体にした四肢骨X線像の画像評価について (12) 心臓・大血管や冠状動脈の検査と画像解剖、画像評価について (13) 頭部血管像の画像解剖・画像評価について (14) 頭部CT像の画像解剖・画像評価について (15) 全体について重要ポイントの確認とまとめ
----------	--

準備学習	事前に教科書を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	一枚の医療画像におけるコントラスト、鮮鋭度、粒状性について画質の評価が出来るようになること。 頭部から足部に至るX線画像の正常像について解説できるようになること。 典型的な症例について理解できるようになること。
成績評価の方法	試験結果と学習意欲を基に評価する。評価の割合は試験結果を90%、授業時における質疑応答の結果および学習意欲の評価を10%とする。
教科書/テキスト	放射線画像医学 (医歯薬出版) 3,800円
参考書	講義用スライドおよびプリント

履修コード	165601
科目名	診療機器システム学
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>診療機器は病院情報システム、放射線部情報システムやPACSなどのサブシステムであると同時に、それ自体システムとみなすことができる。そこで、まず、システムの信頼性をどう捉えるかが重要である。</p> <p>また、医療機器以外にも診療放射線技師は医療画像を評価・解析するシステムの操作方法の習得は将来、研究をするときに必要になってくる。授業では、実際のシステムを操作を行いながら、利用方法を学ぶ。また、最新の画像解析装置や特殊な測定装置や評価装置も体験しながら、その仕組みを理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) システムの信頼性 (2) システムとシステムズ・アプローチ (3~6) システムの操作方法の実習 (7~12) 解析装置の実習 (13~15) 実際の装置を使った解析・評価
----------	--

準備学習	ウィナースペクトルやMTFなど画像の解析や評価の基礎知識が必要不可欠であるため、画像工学の授業内容を十分に理解していることが望ましい。
履修上の留意点	実際にシステムを利用しながら学ぶため、演習時には授業時間以外に週2回程度の時間が必要になるので、履修前に担当教員に確認をとること。
成績評価の方法	実習の取り組み報告レポートの内容から評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	講義の中で随時紹介します。

履修コード	155401
科目名	生化学
担当者名	原田 和正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 生体分子の基礎化学、核酸とタンパク質の生合成、エネルギー代謝、酵素の働きと反応速度、生体の機能と分子など、生化学の基礎的事項について学習する。 (到達目標) 診療放射線技師にとって最低限必要と思われる生化学分野の知識、ならびに、放射線生物学などの関連分野において放射線が人体に与える影響を分子レベルで理解するための基礎を身に付ける。
授業スケジュール	(1)序 (2~4)生体分子の基礎化学 (5~7)核酸とタンパク (8~10)代謝の化学 (11~13)酵素の働きと反応速度 (14~15)生体の機能と分子
準備学習	・1年次の「基礎化学」で良く理解できていない箇所は見直しておくこと。
履修上の留意点	・指名して問題を解かせることもある。 ・授業中に理解できなかったことはその日のうちにノートを見直したり、早めに質問に来ること。 ・授業には配布したプリント、関数電卓を持ってくること。
成績評価の方法	定期試験70%と平常点30%(理解度の確認も含む)で評価する。
教科書/テキスト	猪飼篤著『化学入門コース8生化学』(岩波書店)2,913円
参考書	林典夫・廣野治子編『シンプル生化学』(南江堂)2,800円

履修コード	155301
科目名	生理学
担当者名	樋口 雄三

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生理学は、専門的知識を構築する基礎となるものであり、十分に習得して欲しい。講義では、いろいろな生命現象が関連し、恒常性が維持されていることをわかりやすく解説する。
授業スケジュール	1. 恒常性維持と生体防御機構 2. 血液・体液 3. 心臓血管系・循環系 4. 呼吸 5. 消化・吸収・代謝 6. 排泄 7. 内分泌 8. 脳・神経系 9. 筋・行動系 10. 感覚系
準備学習	テキスト『人体の構造と機能』を読んでおくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験、平常点などから総合的に評価する。
教科書/テキスト	下 正宗『人体の構造と機能』(医学書院)3,000円
参考書	

履修コード	162201																																				
科目名	線量計測工学																																				
担当者名	小川 雅生																																				
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放射線治療にとって重要な吸収線量に関する物理および装置について講義する。																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>1</td><td>回</td><td>フルエンス、エネルギーフルエンス、放射エネルギー</td></tr> <tr><td>2</td><td>回</td><td>医療用電子線リニアック</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>回</td><td>カーマ、空気カーマ、照射線量、吸収線量</td></tr> <tr><td>5</td><td>回</td><td>荷電粒子平衡</td></tr> <tr><td>6-7</td><td>回</td><td>フラッグ・グレイの空洞理論</td></tr> <tr><td>8</td><td>回</td><td>光子減弱係数</td></tr> <tr><td>9</td><td>回</td><td>電子阻止能</td></tr> <tr><td>10</td><td>回</td><td>電離箱</td></tr> <tr><td>11-12</td><td>回</td><td>電離箱による吸収線量測定</td></tr> <tr><td>13</td><td>回</td><td>実効線量、線質係数、放射線荷重係数</td></tr> <tr><td>14</td><td>回</td><td>化学線量計</td></tr> <tr><td>15</td><td>回</td><td>医療用重粒子線加速器</td></tr> </table>	1	回	フルエンス、エネルギーフルエンス、放射エネルギー	2	回	医療用電子線リニアック	3-4	回	カーマ、空気カーマ、照射線量、吸収線量	5	回	荷電粒子平衡	6-7	回	フラッグ・グレイの空洞理論	8	回	光子減弱係数	9	回	電子阻止能	10	回	電離箱	11-12	回	電離箱による吸収線量測定	13	回	実効線量、線質係数、放射線荷重係数	14	回	化学線量計	15	回	医療用重粒子線加速器
1	回	フルエンス、エネルギーフルエンス、放射エネルギー																																			
2	回	医療用電子線リニアック																																			
3-4	回	カーマ、空気カーマ、照射線量、吸収線量																																			
5	回	荷電粒子平衡																																			
6-7	回	フラッグ・グレイの空洞理論																																			
8	回	光子減弱係数																																			
9	回	電子阻止能																																			
10	回	電離箱																																			
11-12	回	電離箱による吸収線量測定																																			
13	回	実効線量、線質係数、放射線荷重係数																																			
14	回	化学線量計																																			
15	回	医療用重粒子線加速器																																			
準備学習	特になし																																				
履修上の留意点	線量計測の背景にある放射線物理を把握すること。																																				
成績評価の方法	定期試験の他、講義中に行う演習問題および出席状況により評価する。																																				
教科書／テキスト	YeStudyに参考資料を掲載する。																																				
参考書	外部放射線治療における吸収線量の標準測定法（日本医学物理学会編、通商産業研究者発行）																																				

履修コード	152801
科目名	電気工学
担当者名	佐藤 昌憲
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	交流回路理論の基礎知識を得ることを目的としているこの科目は、診療放射線技師国家試験科目であるので、十分な演習と理解度の確認も合わせて講義をする。
授業スケジュール	<p>次の内容で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 交流回路の基礎 2) 交流の平均値・実効値 3) 正弦波交流の基本回路 4) 交流の直列回路 5) 交流の並列回路 6) 交流の電力・理解度の確認 7) 複素数とベクトル 8) 交流回路の計算 9) 相互インダクタンスを含む回路の計算 10) 三相交流の基礎 11) 三相の結線方法と電圧・電流の関係 12) 三相交流の電力と力率 13) 平衡三相交流回路の計算 14) 電気計測（電圧・電流・電力の測定） 15) 理解度の確認・演習
準備学習	「物理学序論Ⅱ」の内容は基礎知識として重要です。よく復習をしておくこと。
履修上の留意点	各章ごとに、理解度の確認を行います。
成績評価の方法	理解度の確認20%、平常点20%、定期テストの成績60%より評価する。
教科書／テキスト	『電気基礎下』（東京電機大学）
参考書	

履修コード	156401
科目名	電気電子工学実験〔実験〕
担当者名	青木 清 片岳 格 吉田 正廣 金子 順一

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 各種医療機器の動作を理解しようとするとき、電気工学や電子工学の知識は不可欠のものである。この実験では電気工学・電子工学分野における基礎的内容について、実際に自分達で回路を組み立て、その特性を測定する。さらに実験結果と理論との比較を行う。</p> <p>(到達目標) X線発生装置や各種診断装置を取り扱うときは、単にマニュアル通りに操作するだけでなく、その装置の動作原理や具体的な回路動作を理解しておくことが、状況に応じて最適に動作させるために重要である。本実験の第一の到達目標は、このような理解を、実際に素子や回路を動作させることにより、しっかりと定着させることである。また、実際の回路の動作は必ずしも理論と一致していないし、測定値には常に誤差が伴う。このことを体得することが、本実験の第二の到達目標である。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の実施方法に関する説明（班分け、実験順序、注意事項）、レポート作成上の注意 2. 実験内容の解説 ー 下記テーマの4~8 3. 実験内容の解説 ー 下記テーマの9~13 4. 電磁誘導回路（自己誘導、相互誘導、変圧器） 5. コンデンサの充放電（過渡特性、時定数） 6. RC直列回路（交流の位相、微分回路、積分回路） 7. 直列共振（RLC回路、Q） 8. 並列共振（RLC回路、Q） 9. 半導体素子（ダイオード、サイリスタ、トランジスタ） 10. 集積回路（演算増幅器、論理回路） 11. 整流回路（半波整流、全波整流、平滑回路） 12. ツェナーダイオードによる定電圧回路（ツェナー電圧、定電圧特性） 13. 三相12ピーク整流回路（三角結線、星形結線、リップル百分率） 14. レポート指導 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本実験を実施する上での基礎知識として、「電気工学」と「電子工学」で学ぶ内容は非常に重要である。しっかりと学習しておくこと。 ・実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての実験を実施し、レポートを必ず期限内に提出すること。 ・実験中は、感電や怪我をしないよう、十分に注意すること。 ・装置を破損したときは、必ず担当教員に連絡すること。放置すると次の実験班に非常な迷惑をかけてしまう。 ・「電気工学」と「電子工学」ばかりでなく、「放射線機器工学」や「放射線計測学」等での学修内容と関連づけながら実験を進めること。
---------	---

成績評価の方法	実験実施状況とレポート成績 80%、授業中の理解度確認 20%とする。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	駒澤大学診療放射線技術科学科『電気電子工学実験』（最初の時間に配布する。）
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	156501
科目名	電気電子工学実験〔実験〕
担当者名	青木 清 片岳 格 吉田 正廣 金子 順一

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 各種医療機器の動作を理解しようとするとき、電気工学や電子工学の知識は不可欠のものである。この実験では電気工学・電子工学分野における基礎的内容について、実際に自分達で回路を組み立て、その特性を測定する。さらに実験結果と理論との比較を行う。</p> <p>(到達目標) X線発生装置や各種診断装置を取り扱うときは、単にマニュアル通りに操作するだけでなく、その装置の動作原理や具体的な回路動作を理解しておくことが、状況に応じて最適に動作させるために重要である。本実験の第一の到達目標は、このような理解を、実際に素子や回路を動作させることにより、しっかりと定着させることである。また、実際の回路の動作は必ずしも理論と一致していないし、測定値には常に誤差が伴う。このことを体得することが、本実験の第二の到達目標である。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の実施方法に関する説明（班分け、実験順序、注意事項）、レポート作成上の注意 2. 実験内容の解説 ー 下記テーマの4～8 3. 実験内容の解説 ー 下記テーマの9～13 4. 電磁誘導回路（自己誘導、相互誘導、変圧器） 5. コンデンサの充放電（過渡特性、時定数） 6. RC直列回路（交流の位相、微分回路、積分回路） 7. 直列共振（RLC回路、Q） 8. 並列共振（RLC回路、Q） 9. 半導体素子（ダイオード、サイリスタ、トランジスタ） 10. 集積回路（演算増幅器、論理回路） 11. 整流回路（半波整流、全波整流、平滑回路） 12. ツェナーダイオードによる定電圧回路（ツェナー電圧、定電圧特性） 13. 三相12ピーク整流回路（三角結線、星形結線、リップル百分率） 14. レポート指導 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本実験を実施する上での基礎知識として、「電気工学」と「電子工学」で学ぶ内容は非常に重要である。しっかりと学習しておくこと。 ・実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての実験を実施し、レポートを必ず期限内に提出すること。 ・実験中は、感電や怪我をしないよう、十分に注意すること。 ・装置を破損したときは、必ず担当教員に連絡すること。放置すると次の実験班に非常な迷惑をかけてしまう。 ・「電気工学」と「電子工学」ばかりでなく、「放射線機器工学」や「放射線計測学」等での学修内容と関連づけながら実験を進めること。
---------	---

成績評価の方法	実験実施状況とレポート成績 80%、授業中の理解度確認 20%とする。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	駒澤大学診療放射線技術科学科『電気電子工学実験』（最初の時間に配布する。）
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	155801
科目名	電子工学
担当者名	金子 順一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 電子工学は、電子の挙動の制御を通してエネルギーや情報などを制御する技術である。この技術は、医療分野の測定器から日常生活まで極めて広い範囲の基盤となっている。本講義では、電子工学の基礎的事項について学ぶ。 (到達目標) 本講義の到達目標は、電子工学の基礎的事項について理解することである。電子工学を理解するうえで必要となる基礎的事項としては、電子の基本的性質、相互作用、半導体の性質、それをもとにした基本的な素子(トランジスタやダイオード等)および、それらの素子を使用した電子回路(増幅回路や論理回路等)の動作などが重要である。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 電子の基本的性質 第2回～第3回 電子に対する相互作用 第4回～第6回 電子管技術 第7回～第10回 半導体の性質・特徴 第11回～第13回 基本的な半導体素子 第14回～第15回 その他の半導体素子 第16回 理解度の確認 第17回～第18回 電子回路技術・増幅回路 第19回 電子回路技術・発振回路 第20回 電子回路技術・変調回路 第21回 電子回路技術・電源回路 第22回～第23回 パルス回路 第24回～第25回 デジタル回路技術 第26回～第27回 論理回路 第28回～第29回 コンピュータ 第30回 測定回路・測定器、電子機器への応用
----------	--

準備学習	電子工学の学習においては、1年次に学習する電気工学、電磁気学についての理解が重要である。よく復習しておくこと。また、講義中に説明する次週の予定範囲については、教科書に目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	試験の成績、講義中に行う理解度の確認(20%)及び平常点(20%)で評価を行う。
---------	--

教科書/テキスト	宇佐美晶・曾根福保共著『テキストブック 電子工学概論』(日本理工出版会)2,500円+税 ISBN4-89019-115-4
----------	--

参考書	
-----	--

その他	この科目は、診療放射線技師国家試験の試験科目に含まれている。
-----	--------------------------------

履修コード	155201
科目名	病理学
担当者名	吉川 宏起

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	病理学は医学の根幹をなす重要な科目であり、さまざまな臓器・器官における疾患の成り立ちを追求する学問である。臨床医学を理解するための基礎的知識として特に重要な項目をとりあげて解説する。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 病理学の歴史と細胞内小器官 (2) 病理学総論：先天性疾患、退行性疾患、進行性疾患、物質代謝障害 (3) 循環障害と血液凝固 (4) 炎症と感染症 (5) 進行性病変と腫瘍、腫瘍マーカー (6) 腫瘍の転移と進行度分類 (7) 免疫機構とアレルギー分類 (8) 自己免疫疾患と膠原病 (9) 循環器疾患 (10) 呼吸器疾患 (11) 消化器疾患 (12) 内分泌疾患 (13) 泌尿器・生殖器疾患 (14) 代謝性疾患 (15) 神経系疾患
----------	---

準備学習	1年次に学修した解剖学、2年次前期の医学概論の基礎的事項を復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	これまで学修してきた解剖学や医学概論、生理学、生化学の知識を基礎にさまざまな病態のメカニズムを理解する。さらにはこれらの病態がどのような画像所見を示すのかの基礎を修得することが重要となる。
---------	--

成績評価の方法	授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
---------	---------------------

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

履修コード	155701
科目名	放射化学
担当者名	山本 裕右

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では、すでに1年次に学んだ「基礎化学」および「放射線物理学」、さらに2年次で並行して学ぶ「原子核物理学」で得た、化学的、物理的知識を基に、放射性同位元素の化学について解説する。またここで学ぶ事柄は、3年次の「核医学検査技術学基礎実習」を履修するための必要不可欠な学問的基礎となるものであると同時に、「核医学」、「放射線管理学」に必要な放射化学的知識の基礎となるものである。</p> <p>なお、診療放射線技師国家試験の科目として「放射化学」がある。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、診療放射線技師として必要な放射性同位元素の化学を習得することである。具体的には、放射能の減衰、放射平衡、放射性核種の製造、同位体希釈分析法についての定量的取り扱いができること、および、放射性核種の分離法、放射能を利用した分析法、標識化合物の製造法とその特性について、化学的に理解することにある。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1~3) 放射能・放射性核種, (4~6) 天然に存在する放射性同位体, (7~9) 放射線変および壊変則, (10~13) 放射平衡, (14~16) 放射性核種の製造, (17~21) 放射性同位体の分離・精製, (22~26) 放射能を利用する分析法, (27~30) 放射性標識化合物の合成法
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次必修科目の「基礎化学」の内容は基礎知識として重要です。よく復習しておいてください。 ・授業中に行う演習問題(計算問題)で残ったものがあつた場合は必ず完成させ、また、授業中よく理解できなかった点を解決しておいてください。これらのことが次週への準備学習となります。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	2回の中間試験(各30%)、学年末試験(30%)および平常点(10%)により評価する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	データブックとして 日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳 11版』(日本アイソトープ協会 2,100円)を使用する。講義には必ず持参すること。
その他	並行して演習問題を行うので、関数電卓を持参すること。

履修コード	165401
科目名	放射化学特論
担当者名	原田 和正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 核医学で用いられる放射性同位元素および標識化合物についての各論を学ぶ。現在、放射性医薬品として使われている放射性核種は99m-テクネチウムをはじめとして、133-キセノン、67、68-ガリウム、123、125、131-ヨウ素など多種にわたる。これらの核種を利用しての核医学検査技術学的な面については3年次の「核医学」で既に学んでいる。本講義においては in-vivo 放射性医薬品の体内での挙動を理解するうえで基礎となる事項を中心に解説するとともに、放射平衡や半減期計算など放射化学における基本事項の再確認を行う。</p> <p>(到達目標) 放射化学の基本事項をさらに深く理解すると共に、放射性医薬品の体内での挙動などについても科学的に考える姿勢を身につける。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>99m-テクネチウムを中心に以下の内容について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクネチウム 発見の歴史(1)、核的性質(2~3)、化学的性質(4~5)、製造法(6~7)、ジェネレータ(8~9)、標識化合物の性質と標識法(10~11) ・その他の核種:キセノン、クリプトン、ガリウム、インジウム、タリウム、ヨウ素(発見の歴史とその存在、化学的性質、核的性質、製造法、81-Rb-81m-Kr ジェネレータ、標識化合物の性質と標識法)(12~15)
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・とくに放射化学において、理解が不十分であったところがどこかを整理した上で授業を受けること。 ・毎回、授業の中で理解度の確認を行う予定なので、授業内容はその日のうちに理解するように努めること。
------	---

履修上の留意点	配布したプリント、アイソトープ手帳、関数電卓を毎回持参すること。
成績評価の方法	理解度の確認70%と平常点30%により評価する。
教科書/テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会)1,680円

履修コード	158401
科目名	放射線医学概論
担当者名	嶋田 守男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	既に学んだ人体解剖学および人体病理学の基礎の上に、放射線診断が臨床医学の中で占める役割について時代をおって現在にいたるまで理解することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	放射線医学のはじまりと発展の歴史、放射線診断学の現況を解説すると共に、主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界について講義をすすめる。 (1) 放射線医学のはじまりと発展の歴史 (2-6) 放射線診断学の現況 (7-15) 主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界に分けて系統的に学習する。
----------	--

準備学習	既習の解剖学および病理学を復習しておくこと。
履修上の留意点	既習の科目と関連する部分は各自必要に応じて復習しておくこと。
成績評価の方法	講義の出席率と定期試験の成績により評価する。
教科書/テキスト	使用しない。必要なプリントを配布する。
参考書	

履修コード	165101
科目名	放射線化学特論
担当者名	原田 和正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義においては、固体の放射線化学のうち、特に、放射線と固体との相互作用を利用した放射線線量測定に関係する領域について解説する。まず、イオン結晶、共有結晶、ガラスについて放射線の固体への効果を概観し、固体に残される放射線効果と格子欠陥の関係、空孔と捕獲中心などに触れながら、放射線のエネルギーがいかにして固体中に蓄積されるか、また、蓄積されたエネルギーをいかにして解放するかを解説する。さらに、以上の事を基礎として、熱ルミネセンス、エキソ電子放出現象について言及する。 (到達目標) 結晶学の基礎、格子欠陥、バンド理論の基礎などを学んだ上で、放射線と固体物質との相互作用ならびに熱ルミネセンス現象を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1~3) 固体の化学、結晶、(4,5) 結晶の不完全さ、格子欠陥、(6~8) 放射線と固体の相互作用、(9) 放射線による発光現象、(10) 熱ルミネセンスとは、(11,12) グロー曲線の解析、(13) 熱ルミネセンスの放射線計測への応用、(14,15) 各種TLDの特性
----------	--

準備学習	・毎回、授業の中で理解度の確認を行う予定なので、授業内容はその日のうちに理解するように努めること。
履修上の留意点	配布したプリント、関数電卓を毎回持参すること。
成績評価の方法	平常点 (30%)、理解度の確認 (70%) により評価する。
教科書/テキスト	使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	Handbook of Thermoluminescence, C. Furetta, World Scientific(2003). Phosphor Handbook 2nd ed., W. M. Yen, S. Shionoya and H. Yamamoto ed., CRC Press (2006). 入門固体化学, L. Smart and E. Moore著、河本、平尾 訳、化学同人(1996). 希土類の科学、足立吟也 編、化学同人(1999).

履修コード	162001
科目名	放射線学総合演習
担当者名	金子 順一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) これまでに講義・実験・演習及び臨床実習等を通して診療放射線技術科学の広い分野にわたって学習して来た。本演習ではそれらを総合し、知識および技術力をさらに深める。</p> <p>(到達目標) 本演習は、診療放射線技師国家試験の合格に必要な知識および技術力を身につけることが目標である。</p>
授業スケジュール	<p>学生が主体となってグループを編成し、演習テーマを決めて自主的に学習を進めて行くことを基本とする。それぞれの専門科目の演習は必要に応じて担当教員が支援する。また、放射線技師国家試験の受験対策のための理解度の確認（模擬試験）を数回実施する。</p> <p>本講義の内容は、診療放射線技師試験で出題される下記14科目のすべてを対象とする。 「放射化学」、「診療画像機器学」、「診療画像検査学」、「核医学検査技術学」、 「放射線治療技術学」、「医用画像情報学」、「基礎医学大要」、「放射線生物学」、 「放射線物理学」、「医用工学」、「放射線計測学」、「エックス線撮影技術学」、 「画像工学」、「放射線管理学」。</p> <p>第1～15回 診療放射線技師国家試験出題科目演習（模擬試験を含む）</p>
準備学習	<p>自主的に取り組む姿勢が不可欠である。</p> <p>1年次～3年次に履修した科目は前期のうちに一度復習を終え、基礎的な知識を早期に充実させること。また、前期のうちに全科目の過去問演習を行っておくよう努力して欲しい。また過去問等の演習で重要なことは、答が合った、間違ったの数を問題にするのではなく、内容を理解できているかどうかをチェックすることである。</p>
履修上の留意点	履修予定者はガイダンスに必ず出席すること。
成績評価の方法	1月と2月に実施する。本番の診療放射線技師国家試験と同形式の試験の結果に加え、臨機に実施する同様の試験の結果によって理解度の確認を行い、診療放射線技師国家試験の合格基準に達しているかを総合的に評価する。なお、原則として出席回数が全体の2/3に満たないものは単位の対象としない。
教科書／テキスト	特に定めない。必要に応じて教材用のプリントを使用する。
参考書	

履修コード	165501
科目名	放射線学特論
担当者名	熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 診療放射線技師として放射線計測学、放射線安全管理学、放射線の物理学的特性、医用画像の特徴、特にデジタル化された画像の特徴や画像処理の仕組み、安全管理、核の取り扱いと知識、放射線が生物に与える影響を十分に理解しておく必要がある。 この授業では、この様な分野について放射線技師国家試験に十分合格出来るような知識を学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、放射線物理学、画像工学、画像情報学、放射線生物学の国家試験合格に必要な知識を習得することである。よって放射線学演習と同時に履修することが望ましい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>各専門の複数の教員で授業を行う（青木教授、小川教授、新任教授、熊坂教授、近藤准教授、飯田助教）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 放射線計測学における重要事項 2 放射線計測学と国家試験との関連事項 3 放射線安全管理学における重点項目 4 放射線物理学における重要事項 5 放射線物理学と国家試験との関連事項 6 放射線物理学における重点項目 7 画像工学における重要事項 8 画像工学と国家試験との関連事項 9 画像工学における重点項目 10 総合研究への考え方のまとめ 11 医用画像情報学における重要事項 12 医用画像情報学と国家試験との関連事項 13 放射線生物学 14 放射線生物学 15 理解度の確認
----------	---

準備学習	放射線技師国家試験用の問題を何度も繰り返し学習しておくこと
履修上の留意点	<p>各専門の複数の教員で授業を行う（青木教授、小川教授、新任教授、熊坂教授、近藤准教授、飯田助教）。</p> <p>基本的には毎週演習をおこなう。予習、複習をしっかりとすること。 放射線学演習と同時に履修することが望ましい</p>
成績評価の方法	理解度の確認において評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	放射線技師国家試験用の問題集や参考書（出版社は問いませんができれば最新の問題集で勉強しましょう）
その他	放射線学演習と同時に履修することが望ましい

履修コード	158101
科目名	放射線関係法規
担当者名	青木 清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 放射線の利用は医療に不可欠のものとなっているが、危険性も有している。そのため、放射線の取り扱いに関しては、法律で詳細に定められている。この授業では放射線関連業務を行うに当たって必要となる各種法令の内容と関連性を学ぶ。</p> <p>(到達目標) 診療放射線技師の業務を行うに当たって知っておくべき法律としては、診療放射線技師の業務を定めた診療放射線技師法、医療用の装置や放射性同位元素に関する医療法、医薬品を除く放射性同位元素や加速器に関する放射線障害防止法、放射線関連業務従事者の安全に関する電離放射線障害防止規則がある。これらの法令の内容と関連性を理解し、診療放射線技師の業務を円滑に行えるようになることが本講義の到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法令に使われる放射線の量と単位 2. 放射線防護の考え方、法体系 3. 医療用放射線に関連する法令 4. 診療放射線技師法－放射線の定義、診療放射線技師の免許 5. 診療放射線技師法－診療放射線技師の業務 6. 医療法施行規則－装置または使用の届出 7. 医療法施行規則－X線装置等の防護 8. 医療法施行規則－診療室の構造設備 9. 医療法施行規則－使用場所の制限、管理区域 10. 医療法施行規則－放射線診療従事者の被ばく防止 11. 医療法施行規則－装置の測定、場所の測定 12. 放射線障害防止法－用語定義、許可と届出 13. 放射線障害防止法－表示付認証機器、使用の基準、測定 14. 放射線障害防止法－教育訓練、健康診断 15. 電離放射線障害防止規則
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の基礎を理解するために有益な科目として「放射線生物学」や「放射線計測学」がある。これらの科目内容との関連を考えながら学習すること。 ・前回の授業内容を復習すると共に、教科書の当日の授業に関する部分を読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・法令の条文だけでなく、その基礎となる考え方を理解するよう努めること。 ・講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。 ・疑問点があるときは、講義中でもかまわないので、必ず質問すること。1人が疑問に思うことは、他の人も疑問に思うことが多く、講義中の質問はとても役に立つ。 ・講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。 ・講義内容に関連する問題を配付するので、各自で解答し、疑問点があれば質問すること。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績 90%、平常点 10%とする。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	西谷・鈴木編『放射線技術学シリーズ 放射線安全管理学 (改訂2版)』オーム社、5,250円、ISBN 978-4-274-21133-1
----------	--

参考書	『アイソトープ法令集Ⅱ－医療放射線防護関係法令－』日本アイソトープ協会、3,360円、ISBN 978-4-89073-215-9
-----	---

履修コード	158151
科目名	放射線関係法規
担当者名	青木 清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 放射線の利用は医療に不可欠のものとなっているが、危険性も有している。そのため、放射線の取り扱いに関しては、法律で詳細に定められている。この授業では放射線関連業務を行うに当たって必要となる各種法令の内容と関連性を学ぶ。 (到達目標) 診療放射線技師の業務を行うに当たって知っておくべき法律としては、診療放射線技師の業務を定めた診療放射線技師法、医療用の装置や放射性同位元素に関する医療法、医薬品を除く放射性同位元素や加速器に関する放射線障害防止法、放射線関連業務従事者の安全に関する電離放射線障害防止規則がある。これらの法令の内容と関連性を理解し、診療放射線技師の業務を円滑に行えるようになることが本講義の到達目標である。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法令に使われる放射線の量と単位 2. 放射線防護の考え方、法体系 3. 医療用放射線に関連する法令 4. 診療放射線技師法—放射線の定義、診療放射線技師の免許 5. 診療放射線技師法—診療放射線技師の業務 6. 医療法施行規則—装置または使用の届出 7. 医療法施行規則—X線装置等の防護 8. 医療法施行規則—診療室の構造設備 9. 医療法施行規則—使用場所の制限、管理区域 10. 医療法施行規則—放射線診療従事者の被ばく防止 11. 医療法施行規則—装置の測定、場所の測定 12. 放射線障害防止法—用語定義、許可と届出 13. 放射線障害防止法—表示付認証機器、使用の基準、測定 14. 放射線障害防止法—教育訓練、健康診断 15. 電離放射線障害防止規則
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の基礎を理解するために有益な科目として「放射線生物学」や「放射線計測学」がある。これらの科目内容との関連を考えたがら学習すること。 ・前回の授業内容を復習すると共に、教科書の当日の授業に関する部分を読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・法令の条文だけでなく、その基礎となる考え方を理解するよう努めること。 ・講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートする心がけてほしい。 ・疑問点があるときは、講義中でもかまわないので、必ず質問すること。1人が疑問に思うことは、他の人も疑問に思うことが多く、講義中の質問はとても役に立つ。 ・講義の内容は短時間でも必ず復習を行うこと。 ・講義内容に関連する問題を配付するので、各自で解答し、疑問点があれば質問すること。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績 90%、平常点 10%とする。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	西谷・鈴木編『放射線技術学シリーズ 放射線安全管理学 (改訂2版)』オーム社、5,250円、ISBN 978-4-274-21133-1
----------	--

参考書	『アイソトープ法令集Ⅱ—医療放射線防護関係法令—』日本アイソトープ協会、3,360円、ISBN 978-4-89073-215-9
-----	---

履修コード	165001
科目名	放射線感光化学
担当者名	山本 裕右

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 放射線の感光材料としてはフィルムが最も一般的であり広く使用されているが、本講義においては、医療分野でフィルムと組み合わせて使用される増感紙、および放射線に対する新しい感光材料として近年使用されている輝尽発光体について、放射線と物質の相互作用に注目して解説する。増感紙については、まずラジオルミネセンスについて触れ、発光機構を説明すると共に、種々の増感紙材料の化学および発光特性について解説する。また、輝尽発光体については、輝尽発光の発光機構について説明し、種々の輝尽発光体材料の化学および発光特性について解説する。 (到達目標) 放射線による発光現象であるラジオルミネセンス、ラジオフォトルミネセンス、輝尽発光について学ぶことにより、医療領域での放射線画像取得、放射線計測についてのより深い理解を習得
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 放射線による発光現象の医療への応用、(2,3) 増感紙に用いられる発光体とその特性、(4,5) 輝尽発光とは、(6) 輝尽発光体の歴史、(7~11) BaFX:Eu発光体の特性と発光機構、(12,13) その他の輝尽発光体の特性、(14) ISPの自然科学への応用、(15) 輝尽発光現象の線量測定への応用
----------	---

準備学習	「放射線化学特論」を履修しておくことが望ましい。
------	--------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点 (30%)、レポート (70%)。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	W. M. Yen, S. Shionoya and H. Yamamoto ed., Phosphor Handbook 2nd ed., CRC Press (2006). 入門固体化学, L. Smart and E. Moore著、河本、平尾 訳、化学同人 (1996).
-----	---

履修コード	159101
科目名	放射線管理学
担当者名	青木 清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 放射線の利用においては、不必要な被ばくが生じないように、適切で安全な状況を作り上げ維持することが重要である。この授業では、放射線安全管理の考え方と、適切な管理を行うために必要となる技術的知識を学ぶ。</p> <p>(到達目標) 放射線安全管理のための基本的な理念と指針を与えているのが「国際放射線防護委員会 (ICRP) の勧告」である。本講義での第一の到達目標は、この勧告の概要と考え方について理解することである。第二の到達目標は、この勧告に沿った管理を実践するために必要となる計測技術や放射性物質の取り扱い方を理解し、医療の場において患者および術者の被ばく防護を実践できるようにすることである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線防護体系 2. 放射線被ばくの現状 3. 放射線の防護 — 外部被ばく防護 4. 放射線の防護 — 内部被ばく防護 5. 施設の管理 — X線診療室 5. 施設の管理 — 密封RI使用施設 7. 施設の管理 — 非密封RI使用施設 8. 環境の管理 — 周辺線量当量、方向性線量当量 9. 環境の管理 — 空間放射線の量 10. 環境の管理 — 空気中および水中のRI濃度、表面汚染密度 11. 個人の管理 — 外部被ばく 12. 個人の管理 — 内部被ばく 13. 放射性廃棄物 14. 医療被ばく — ガイダンスレベル、医療被ばくの現状 15. 医療被ばく — 医療被ばく低減への対策
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義を受講する上での基礎知識として「放射線関係法規」で学ぶ内容は非常に重要である。よく復習しておくこと。 ・前回の授業内容を復習すると共に、教科書の当日の授業に関する部分を読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の基礎を理解するために、「放射線計測学」や「放射線生物学」の内容が有益である。これらの科目を必要に応じて復習すること。 ・講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。 ・疑問点があるときは、講義中でもかまわないので、必ず質問すること。1人が疑問に思うことは、他の人も疑問に思うことが多く、講義中の質問はとても役に立つ。 ・講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。 ・講義内容に関連する問題を配付するので、各自で解答し、疑問点があれば質問すること。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績 90%、平常点 10%とする。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	西谷・鈴木編『放射線技術学シリーズ 放射線安全管理学 (改訂2版)』オーム社、5,250円、ISBN 978-4-274-21133-1
----------	--

参考書	『ICRP Publication 103 国際放射線防護委員会の2007年勧告』日本アイソトープ協会、3,675円、ISBN 978-4-89073-202-9
-----	---

履修コード	160501
科目名	放射線管理学実験〔実験〕
担当者名	青木 清 永井 喜則 金子 順一 大西 孝明 高橋 忍

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) X線検査において患者被曝線量を把握しておくことは大切なことである。また、検査の状況によっては術者または患者周辺の人が被曝する場合もあり、このような場合の被曝線量も知っておかなくてはならない。本実験では、直接X線ならびに散乱線による被曝線量の測定法を体得するとともに、被曝線量低減のための方策について考える。</p> <p>(到達目標) 医療におけるX線検査では法的な線量限度が定められていない。これは、患者にとって最適な検査の実施を妨げないためである。しかし、正確な診断が可能なら、被曝線量は少ない方がよい。このための指針として、IAEAは各種X線撮影における被曝線量のガイダンスレベルを定めている。このガイダンスレベルの意味を理解し、被曝線量測定技術を身につけることが本実験の到達目標である。さらに、患者ばかりでなく術者の被曝線量測定法を理解し、併せて、被曝低減を考える上で重要となるX線の線質管理法と、モンテカルロ法を用いた線量計算法を体得することが本実験のもう一つの到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の実施方法に関する説明 (班分け、実験順序、注意事項)、レポート作成上の注意 2. 実験内容の解説 - 下記テーマの4~9 3. 実験内容の解説 - 下記テーマの10~14 4. 腹部・胸部撮影における被曝管理 (入射表面線量の測定と評価) 5. 腹部・胸部撮影における被曝管理 (面積線量の測定と評価) 6. 乳房撮影における被曝管理 (半価層と表面線量の測定) 7. 乳房撮影における被曝管理 (平均乳腺線量の算定と評価) 8. CT検査における被曝管理 (CTDI)の測定と評価) 9. CT検査における被曝管理 (MSADの測定と評価) 10. 病室撮影における被曝管理 (移動型X線撮影装置による腹部撮影時の患者と術者の被曝線量) 11. 病室撮影における被曝管理 (移動型X線撮影装置による胸部撮影時の患者と術者の被曝線量) 12. 診断用X線の線質管理 (半導体検出器によるX線スペクトルの測定) 13. モンテカルロ法Ⅰ (モンテカルロ法の基礎:円周率の算出、物質中でのX線の相互作用と減弱のシミュレーション) 14. モンテカルロ法Ⅱ (EGS5を用いたファントム内線量分布の算出) 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本実験を実施する上での基礎知識として、「放射線管理学」、「放射線計測学」、「放射線物理学」で学ぶ内容は非常に重要である。しっかりと学習しておくこと。 ・実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての実験を実施し、レポートを必ず期限内に提出すること。 ・実験中は、個人線量計を着用すると共に、不要な被曝をしないよう、十分に注意すること。 ・装置を破損したときは、必ず担当教員に連絡すること。放置すると次の実験班に非常な迷惑をかけてしまう。 ・レポートを書くとき、「放射線管理学」、「放射線計測学」、「放射線物理学」等での学修内容と関連づけて考察すること。
---------	---

成績評価の方法	実験実施状況とレポート成績 80%、授業中の理解度確認 20%とする。
教科書/テキスト	駒澤大学診療放射線技術科学科『放射線管理学実験』(最初の時間に配布する。)
参考書	

履修コード	160601
科目名	放射線管理理学実験〔実験〕
担当者名	青木 清 永井 喜則 金子 順一 大西 孝明 高橋 忍

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>X線検査において患者被曝線量を把握しておくことは大切なことである。また、検査の状況によっては術者または患者周辺の人が被曝する場合もあり、このような場合の被曝線量も知っておかなくてはならない。本実験では、直接X線ならびに散乱線による被曝線量の測定法を体得するとともに、被曝線量低減のための方策について考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>医療におけるX線検査では法的な線量限度が定められていない。これは、患者にとって最適な検査の実施を妨げないためである。しかし、正確な診断が可能なら、被曝線量は少ない方がよい。このための指針として、IAEAは各種X線撮影における被曝線量のガイダンスレベルを定めている。このガイダンスレベルの意味を理解し、被曝線量測定技術を身につけることが本実験の到達目標である。さらに、患者ばかりでなく術者の被曝線量測定法を理解し、併せて、被曝低減を考える上で重要となるX線の線質管理法と、モンテカルロ法を用いた線量計算法を体得することが本実験のもう一つの到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の実施方法に関する説明 (班分け、実験順序、注意事項)、レポート作成上の注意 2. 実験内容の解説 - 下記テーマの4~9 3. 実験内容の解説 - 下記テーマの10~14 4. 腹部・胸部撮影における被曝管理 (入射表面線量の測定と評価) 5. 腹部・胸部撮影における被曝管理 (面積線量の測定と評価) 6. 乳房撮影における被曝管理 (半価層と表面線量の測定) 7. 乳房撮影における被曝管理 (平均乳腺線量の算定と評価) 8. CT検査における被曝管理 (CTDIの測定と評価) 9. CT検査における被曝管理 (MSADの測定と評価) 10. 病室撮影における被曝管理 (移動型X線撮影装置による腹部撮影時の患者と術者の被曝線量) 11. 病室撮影における被曝管理 (移動型X線撮影装置による胸部撮影時の患者と術者の被曝線量) 12. 診断用X線の線質管理 (半導体検出器によるX線スペクトルの測定) 13. モンテカルロ法Ⅰ (モンテカルロ法の基礎: 円周率の算出、物質中でのX線の相互作用と減弱のシミュレーション) 14. モンテカルロ法Ⅱ (EGS5を用いたファントム内線量分布の算出) 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本実験を実施する上での基礎知識として、「放射線管理学」、「放射線計測学」、「放射線物理学」で学ぶ内容は非常に重要である。しっかりと学習しておくこと。 ・実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての実験を実施し、レポートを必ず期限内に提出すること。 ・実験中は、個人線量計を着用すると共に、不要な被曝をしないよう、十分に注意すること。 ・装置を破損したときは、必ず担当教員に連絡すること。放置すると次の実験班に非常な迷惑をかけてしまう。 ・レポートを書くとき、「放射線管理学」、「放射線計測学」、「放射線物理学」等での学修内容と関連づけて考察すること。
---------	---

成績評価の方法	実験実施状況とレポート成績 80%、授業中の理解度確認 20%とする。
教科書/テキスト	駒澤大学診療放射線技術科学科『放射線管理学実験』(最初の時間に配布する。)
参考書	

履修コード	152901
科目名	放射線機器概論
担当者名	名古 安伸

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 放射線診断機器は進歩が早く、従来からの機器はますます高性能化、そして多様化している。この授業では、一般的に使用される診療用の各種X線機器・装置・用具の基本的事項について学習する。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、診療用の各種X線機器・装置・用具の基本原理と、その構造・特性を理解し、安全管理に必要な知識の習得を目的とする。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. X線画像機器の概要 2. X線発生装置：X線管装置 3. X線発生装置：X線管容器、絞り装置 4. X線発生装置：X線用高電圧ケーブル、X線高電圧発生装置 5. X線発生装置：X線制御装置、電源設備 6. X線機械装置：X線透視撮影装置 7. X線機械装置：保持装置、X線撮影台 8. X線機械装置：乳房用X線装置、その他の特殊装置 9. 映像装置・画像関連用品：散乱X線除去用グリッド、フィルムカセット 10. 画像検出装置：コンピューテッドラジオグラフィ、X線平面検出器 11. 診断用X線システム：一般X線検査システム 12. 診断用X線システム：特殊X線検査システム 13. 診断用X線システム：血管撮影装置と関連機器 14. X線機器の保守管理 15. X線画像機器の理解度の確認
----------	--

準備学習	予習・復習が大事です。前日には教科書をよく読んでおくよう心掛けて下さい。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	教科書・ノートの持参は必須です。 診療放射線技師として必要なX線装置の基本的講義です。講義内容を理解することに努めて下さい。そして、他の講義と関連づけて授業に取り組んで下さい。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績（100%）により評価します。
---------	------------------------

教科書／テキスト	小塚隆弘，稲色清也 監修：『診療放射線技術 <上巻>』南江堂，6800円，ISBN. 978-4-524-25026-4 *必要によりプリントを配布します。
----------	---

参考書	青柳康司 他：『新版 放射線機器学（I）』コロナ社，4700円，ISBN. 978-4-339-07080-4
-----	---

履修コード	155901
科目名	放射線機器工学
担当者名	奥山 康男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 医療現場で用いられている医用放射線機器のなかで、X線撮影やX線CTなどの診断用X線発生装置を主とする各画像診断装置の基本原則、電気工学的な基礎知識、構造、特性、及び装置を取り扱うための基礎知識、安全管理などについて学習する。</p> <p>(到達目標) コンピュータの演算速度高速化にともない、多くの画像がデジタル化された最新画像診断機器の理解を助ける目的で、その基礎となる診断用X線発生装置をはじめとする各画像診断装置、非放射線画像診断装置の性能と特性を把握し、放射線診断機器の理解を深めることを本講義の到達目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線機器工学総論：＜診断用X線装置の概要と構成・規格＞ 2. X線発生装置①：＜X線管とX線源装置＞ 3. X線発生装置②：＜X線管とX線源装置＞ 4. X線発生装置③：＜X線高電圧装置－単相2ピーク装置と三相装置＞ 5. X線発生装置④：＜X線高電圧装置－インバータ装置と自己整流、コンデンサ装置＞ 6. X線発生装置⑤：＜自動露出制御装置、ホトタイマ＞ 7. X線機械装置：＜機械装置のJIS規格、透視撮影台＞ 8. X線映像装置：＜装置の要素、X線TV装置の構成、X線I.I.装置＞ 9. 診断用X線画像処理装置：＜CR・IP・DF・DSA・FPD＞ 10. 関連機器①：＜放射線用フィルムカセット、自動現像機＞ 11. 関連機器②：＜散乱X線除去用グリッド、画像記録装置＞ 12. X線増感紙・蛍光板：＜蛍光体とX線増感紙＞ 13. 診断用X線装置システム①：＜一般撮影装置＞ 14. 診断用X線装置システム②：＜X線透視撮影装置、X線断層撮影装置＞ 15. 診断用X線装置システム③：＜循環器用X線装置、乳房用X線撮影装置＞ 16. 診断用X線装置システム④：＜骨密度測定装置、歯科用X線撮影装置＞ 17. 診断用X線装置の管理：＜安全管理、装置の品質保証、受入試験と不変性試験＞ 18. 医用X線CT装置①：＜基本原則＞ 19. 医用X線CT装置②：＜装置の変遷と走査方式＞ 20. 医用X線CT装置③：＜装置の構成と画像再生のアルゴリズム＞ 21. 医用X線CT装置④：＜CT値と画像表示＞ 22. 医用X線CT装置⑤：＜ヘリカルスキャン、マルチスライスCT＞ 23. 医用X線CT装置⑥：＜性能評価、機器管理＞ 24. 磁気共鳴画像診断装置①：＜原理と構成＞ 25. 磁気共鳴画像診断装置②：＜画像の生成、送信受信コイル＞ 26. 磁気共鳴画像診断装置③：＜パルスシーケンス、MRI装置の安全管理＞ 27. 超音波診断装置①：＜超音波の特性と原理＞ 28. 超音波診断装置②：＜構成と性能、探触子の構造と種類＞ 29. 超音波診断装置③：＜US装置の安全管理＞ 30. 眼底カメラ装置：＜眼球構造、原理と構成＞
----------	--

準備学習	<p>中学・高校生の理科で習ったクルックス管の実験を見直すことがX線管の理解の早道。薄暗い実験室で高電圧を発生する装置を使って電子を飛ばし、十字板付きクルックス管から緑色蛍光の中に十字形の影が映り、電気はマイナスの粒であることを検証したはずである。そして、本学の1年次必修科目で学習した電気工学、放射線機器概論の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。</p>
履修上の留意点	<p>教科書に沿った内容や要点を教室内のPCプロジェクタに映写しながら授業を行うのでポイント点をしっかりと関連付けて学習すること。</p>
成績評価の方法	<p>本科目の習熟度を確認する目的で、1回から9回までの理解度調査(筆記)を夏季休み前に、10回から30回までを定期試験(筆記)として実施する。これら2つの結果を判定評価全体の80%、平常点(受講態度や授業中に行う小テストによる評価)20%として、成績判定評価を行うものとする。</p>
教科書/テキスト	<p>青柳泰司 共編：『新版-放射線機器学 (1)』 コロナ社 4,935円 IBN4-339-07080-7</p>
参考書	<p>特に指定しない</p>
その他	<p>特になし。</p>

履修コード	156601
科目名	放射線機器工学実験〔実験〕
担当者名	奥山 康男 羽生 毅 瀬尾 育武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)放射線機器工学の講義で得られた基礎知識を実際に実験・検証させることで、講義内容を理解させる。実験は、学生6~7名を1つの班組にて構成し実験を行う。なお、学生の安全を担保するため班ごとに教員1名が必ず指導にあたる少人数制で実験を行う。</p> <p>(到達目標)広義には放射線機器工学で得た知識を基にして、X線管焦点の形成・特性、超音波診断装置の画像特性、X線管電圧・管電流の特性、単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性、X線CT装置の性能評価、MRI装置の画像特性、インバータ式X線装置の特性、眼底カメラ装置の特性など、各装置の性能評価や精度管理に関する基礎知識の確認と応用力を向上させることを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス①：＜実験の概要と実験中の注意事項説明＞ 2. ガイダンス②：＜レポート作成の説明＞ 3. X線管焦点の形成・特性①：＜ピンホールカメラ法＞ 4. X線管焦点の形成・特性②：＜熱電子の発生と管電流＞ 5. X線管焦点の形成・特性③：＜診断用X線管焦点の形成＞ 6. 超音波診断装置の画像特性①：＜Bモード像とMモード像＞ 7. 超音波診断装置の画像特性②：＜多重反射の解析＞ 8. 超音波診断装置の画像特性③：＜グレイティングローブの解析＞ 9. 超音波診断装置の画像特性④：＜パルス繰り返し間隔の測定＞ 10. X線管電圧・管電流の特性①：＜管電圧図表の作成＞ 11. X線管電圧・管電流の特性②：＜概略巻数計算、主回路の概略インピーダンス算出＞ 12. X線管電圧・管電流の特性③：＜空間電荷補償特性＞ 13. X線管電圧・管電流の特性④：＜管電圧前示機構＞ 14. 単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性①：＜高電圧回路接触型測定＞ 15. 単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性②：＜高電圧回路非接触型測定＞ 16. X線CT装置の性能評価①：＜受入試験＞ 17. X線CT装置の性能評価②：＜MSCT装置の日常点検＞ 18. MRI装置の画像特性①：＜MRI装置の基本操作・原理＞ 19. MRI装置の画像特性②：＜MRI装置の安全管理＞ 20. MRI装置の画像特性③：＜T1WI、T2WI、STIR＞ 21. MRI装置の画像特性④：＜超電導と永久磁石の静磁場による違い＞ 22. インバータ式X線装置の特性①：＜共振形と非共振形＞ 23. インバータ式X線装置の特性②：＜短時間特性＞ 24. インバータ式X線装置の特性③：＜X線出力再現性(変動係数の算出)＞ 25. インバータ式X線装置の特性④：＜X線の許容負荷増減＞ 26. 眼底カメラ装置の特性①：＜散瞳形と無散瞳形＞ 27. 眼底カメラ装置の特性②：＜デジタル眼底カメラの構成＞ 28. 眼底カメラ装置の特性③：＜班メンバーの眼底写真撮影＞ 29. 眼底カメラ装置の特性④：＜撮影後の眼底写真評価＞ 30. 総括：＜実験報告レポートの返却と寸評＞
----------	--

準備学習	2年次に講義している放射線機器工学の内容を実際に検証する授業なので、基本的な知識は常に予め復習しておくこと。また、高電圧制御機器に結線を施し計測機器に接続する作業があるので、1年次に学習している電気工学についても復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	ガイダンス時に配布する放射線機器工学実験要項に予め目を通し、当日の実験は何を行うのかを必ず確認しておくこと。また、実験中の感電等から安全を確保する目的で実験中の容姿(底高靴やサンダル、アクセサリ等の禁止)、マナーは必ず守ること。
---------	--

成績評価の方法	実験での検証内容がどの程度理解されたかを確認する目的で、理解度調査(筆記)を夏季休み前と冬季定期試験(筆記)として実施する。これら2つの結果を判定評価全体の80%、実験レポート点20%として、総合的に成績判定の評価を行うものとする。
---------	--

教科書/テキスト	実験要項の小冊子を実験ガイダンス時に無料配布する。
----------	---------------------------

参考書	放射線機器工学の授業で用いている『新版—放射線機器学(Ⅰ)』 コロナ社
-----	-------------------------------------

その他	実験科目の単位取得には所定のテーマを全て終了することが必要である。何らかの理由で欠席する場合は事前に担当教員に連絡・許可された後、指定された期日に(他班へ合流)実験することとなる。
-----	--

履修コード	156701
科目名	放射線機器工学実験〔実験〕
担当者名	奥山 康男 羽生 毅 瀬尾 育武

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要）放射線機器工学の講義で得られた基礎知識を実際に実験・検証させることで、講義内容を理解させる。実験は、学生6～7名を1つの班組にて構成し実験を行う。なお、学生の安全を担保するため班ごとに教員1名が必ず指導にあたる少人数制で実験を行う。</p> <p>（到達目標）広義には放射線機器工学で得た知識を基にして、X線管焦点の形成・特性、超音波診断装置の画像特性、X線管電圧・管電流の特性、単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性、X線CT装置の性能評価、MRI装置の画像特性、インバータ式X線装置の特性、眼底カメラ装置の特性など、各装置の性能評価や精度管理に関する基礎知識の確認と応用力を向上させることを目標とする。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス①：＜実験の概要と実験中の注意事項説明＞ 2. ガイダンス②：＜レポート作成の説明＞ 3. X線管焦点の形成・特性①：＜ピンホールカメラ法＞ 4. X線管焦点の形成・特性②：＜熱電子の発生と管電流＞ 5. X線管焦点の形成・特性③：＜診断用X線管焦点の形成＞ 6. 超音波診断装置の画像特性①：＜Bモード像とMモード像＞ 7. 超音波診断装置の画像特性②：＜多重反射の解析＞ 8. 超音波診断装置の画像特性③：＜グレイティングローブの解析＞ 9. 超音波診断装置の画像特性④：＜パルス繰り返し間隔の測定＞ 10. X線管電圧・管電流の特性①：＜管電圧図表の作成＞ 11. X線管電圧・管電流の特性②：＜概略巻数比算出、主回路の概略インピーダンス算出＞ 12. X線管電圧・管電流の特性③：＜空間電荷補償特性＞ 13. X線管電圧・管電流の特性④：＜管電圧前示機構＞ 14. 単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性①：＜高電圧回路接触型測定＞ 15. 単相2ピーク形X線高電圧装置の整流波形特性②：＜高電圧回路非接触型測定＞ 16. X線CT装置の性能評価①：＜受入試験＞ 17. X線CT装置の性能評価②：＜MSGT装置の日常点検＞ 18. MRI装置の画像特性①：＜MRI装置の基本操作・原理＞ 19. MRI装置の画像特性②：＜MRI装置の安全管理＞ 20. MRI装置の画像特性③：＜TIWI, T2WI, STIR＞ 21. MRI装置の画像特性④：＜超電導と永久磁石の静磁場による違い＞ 22. インバータ式X線装置の特性①：＜共振形と非共振形＞ 23. インバータ式X線装置の特性②：＜短時間特性＞ 24. インバータ式X線装置の特性③：＜X線出力再現性（変動係数の算出）＞ 25. インバータ式X線装置の特性④：＜X線の許容負荷増減＞ 26. 眼底カメラ装置の特性①：＜散瞳形と無散瞳形＞ 27. 眼底カメラ装置の特性②：＜デジタル眼底カメラの構成＞ 28. 眼底カメラ装置の特性③：＜班メンバーの眼底写真撮影＞ 29. 眼底カメラ装置の特性④：＜撮影後の眼底写真評価＞ 30. 総括：＜実験報告レポートの返却と寸評＞
----------	---

準備学習	2年次に講義している放射線機器工学の内容を実際に検証する授業なので、基本的な知識は常に予め復習しておくこと。また、高電圧制御機器に結線を実施し計測機器に接続する作業があるので、1年次に学習している電気工学についても復習しておくこと。
履修上の留意点	ガイダンス時に配布する放射線機器工学実験要項に予め目を通し、当日の実験は何を行うのかを必ず確認しておくこと。また、実験中の感電等から安全を確保する目的で実験中の容姿（底高靴やサンダル、アクセサリ等の禁止）、マナーは必ず守ること。
成績評価の方法	実験での検証内容がどの程度理解されたかを確認する目的で、理解度調査（筆記）を夏季休み前と冬季定期試験（筆記）として実施する。これら2つの結果を判定評価全体の80%、実験レポート点20%として、総合的に成績判定の評価を行うものとする。
教科書／テキスト	実験要項の小冊子を実験ガイダンス時に無料配布する。
参考書	放射線機器工学の授業で用いている『新版－放射線機器学（I）』 コロナ社
その他	実験科目の単位取得には所定のテーマを全て終了することが必要である。何らかの理由で欠席する場合は事前に担当教員に連絡・許可された後、指定された期日に（他班へ合流）実験することとなる。

履修コード	156201
科目名	放射線計測学
担当者名	青木 清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 放射線にはいろいろな種類があり、物質との相互作用もそれぞれ異なっている。また、同じ種類の放射線であっても、エネルギーにより性質が異なる。この授業では、このような多様な放射線を測定するための考え方と、測定器の実際について学ぶ。</p> <p>(到達目標) 放射線測定器としては、電離箱、比例計数管、GM計数管、半導体検出器、シンチレーション検出器等が代表的である。第一の到達目標は、これらの測定器の検出原理と長所・短所を理解し、測定したい放射線に応じた適切な検出器を選択し、正しく使えることである。</p> <p>第二の到達目標は、測定結果を正しく評価・応用できることである。測定値の統計的意味、測定エネルギースペクトルと真のスペクトルとの関係、測定結果から照射線量や吸収線量を算出するための方法を理解することが大切である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線検出の概要 2. 電離箱の原理 3. イオン再結合 4. 電離箱の構造 5. 電離箱出力の測定 6. パルス電離箱 7. ガス増幅、比例計数管 8. GM計数管 9. 半導体検出器の原理 10. 半導体検出器の種類 11. 理解度の確認 12. シンチレーション検出器 13. 光電子増倍管 14. パルス計数装置 15. 計数値の確率分布 16. 計数値の誤差 17. α線、β線のエネルギー測定 18. γ線のエネルギー測定 19. 診断用X線の実効エネルギー測定 20. GM計数管による放射能の測定 21. シンチレーションカウンタによる放射能測定 22. 理解度の確認 23. 照射線量 24. 自由空気電離箱 25. 空洞電離箱 26. 吸収線量 27. カーマ 28. ブラッグ・グレイの空洞理論 29. 空洞電離箱による吸収線量測定 30. 吸収線量の標準測定法
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次必修科目の「放射線物理学」で学ぶ「放射線と物質の相互作用」に関する内容は基礎知識として重要である。よく復習しておくこと。 ・前回の授業内容を復習すると共に、教科書の当日の授業に関する部分を読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。 ・疑問点があるときは、講義中でもかまわないので、必ず質問すること。1人が疑問に思うことは、他の人も疑問に思うことが多く、講義中の質問はとても役に立つ。 ・講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。 ・講義内容に関連する問題を配付するので、各自で解答し、疑問点があれば質問すること。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績 50%、授業中の理解度確認 50%とする。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	長哲二著『放射線計測学』南山堂、2,940円、ISBN 4-525-27874-9
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・三枝他著『改訂版 放射線基礎計測学』医療科学社、4,200円、ISBN 978-4-86003-383-5 ・西谷他編『放射線計測学』オーム社、4,935円、ISBN 4-274-13283-8 ・プライス著『放射線計測』コロナ社、5,460円、ISBN 978-4-339-06574-9
-----	--

履修コード	164901
科目名	放射線検出器工学
担当者名	鳥山 保
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 放射線と物質との相互作用に伴う検出器内での物理現象、その後の電気的パルス生成過程、波高分析システム、並びに計数の精度等の基礎的な知識を学んだ上で、各種放射線検出器の放射線への適用性、測定エネルギー範囲、エネルギー分解能、効率、時間分解能について学習する。さらに、2次元放射線検出器等についても学ぶ。 (到達目標) 上記の学習内容をもとに診療機器で使用されている放射線検出器の性能について説明できるようになることを授業目標とする。
授業スケジュール	1回/放射線検出の基礎(1):放射線の種類と発生源(線源・加速器)、2回/同(2):物質の構造(量子力学/原子・分子・固体)、3回~4回/同(3):光子と物質との相互作用(光電効果・コンプトン散乱・電子対生成)、5回/同(4):荷電粒子線と物質との相互作用(阻止能・飛程)、中性子線と物質との相互作用、6回/放射線検出器の一般的性質と計測システム(パルス波高分析器)、7回/計数の統計と誤差の評価、8回/電離箱の構造と検出手法(直流測定・パルス測定)、照射線量・吸収線量計測、9~10回/比例計数管の構造と性能、位置敏感型比例計数管、中性子検出、GM計数管、11回/シンチレーション検出器(無機・有機シンチレータ)、12回/光電子増倍管とX線・ γ 線の測定スペクトルの測定、13~14回/半導体検出器の構造とSi検出器による荷電粒子・X線の測定、Ge検出器によるX・ γ 線の測定、15回/他の半導体検出器(CdTe、HgI ₂ 等)、CCD検出器を用いた2次元検出器、イメージング・プレート(IP)
準備学習	3年次までに放射線検出器について行なった実験:医用物理学実験(GM計数装置による統計処理・各種サーベイメータの使用法・電離箱による照射線量の測定・オシロスコープによる波形観測)、放射線管理理学実験(診断用X線の線質管理(半導体検出器によるX線スペクトルの測定)、核医学検査技術学基礎実習(マルチチャンネル波高分析器を使用している未知核種のガンマ線スペクトル測定とその同定)のレポートを見返しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業の中で出題するレポート(20%)、出席・授業対応(20%)を標準得点比率とし評価する。
教科書/テキスト	使用しない。プリント配布。
参考書	グレン F. ノル著、放射線計測ハンドブック(第3版) 訳/木村逸郎・坂井英次(日刊工業新聞社)、ニコラス ツルファミデス著:放射線計測の理論と演習、上・下巻、坂井英次訳(現代工学社)
その他	メールアドレス: ttoriyam@komazawa-u.ac.jp

履修コード	159001
科目名	放射線腫瘍学
担当者名	高山 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	癌治療における放射線治療の役割や意義を中心とした放射線治療概論について講ずる。放射線の人体に対する影響などの放射線治療の基礎となる放射線生物学や実際の臨床に用いられる放射線治療機器の特性、使用方法について解説を行う。放射線治療を行う際の放射線治療計画、線量分布や照射方法(外部照射、密封小線源治療等)の総論的項目について考える。また、医療技術の進展の中で、特に放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。新しい治療方法である定位放射線治療や強度変調照射(IMRT)の現況、応用に関する技術的問題点など、その方向と展開に注目する。
授業スケジュール	(1)放射線治療概要、(2~3)放射線障害、(4~5)放射線生物学、(6~7)放射線治療機器、(8~10)密封小線源治療、(11~13)3次元照射、(14)全身照射、(15)血液照射
準備学習	放射線物理学、放射線生物学の復習をしておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業出席、受講態度などと定期試験による。
教科書/テキスト	増田 康治 編 「放射線治療技術」改訂第4版 立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第12版
参考書	

履修コード	155101
科目名	放射線生物学
担当者名	熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 20世紀後半からの分子遺伝学の進歩によって、生物への放射線影響の解析は著しく進歩した。この授業では、高線量及び低線量の放射線の生物影響研究の最新の知識を学ぶ。さらに、放射線技師の国家試験に出題される内容や問題を中心に授業を行い、国家試験合格の実力を養成する。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、放射線が生物に及ぼす影響を、分子や細胞のレベルから個体や集団のレベルに至るまで総合的に理解し、国家試験合格に必要な知識を習得することである。さらに、これから学んでいく治療技術学や安全管理学の基礎となる被ばくの影響を正しく評価するための知識を習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2 放射線生物学の基礎：細胞、遺伝 3～4 生物作用の初期過程：物理・化学・生化学的作用 5 放射線による細胞死、細胞の生存率曲線とその解析：標的理論、LQモデル 6 放射線影響の修飾：LET、線量率、分割照射、酸素、温度、細胞周期など 7 DNA損傷とその修復、遺伝子突然変異と染色体異常 8～9 細胞への影響：分裂遅延、アポトーシスとネクローシス、適応応答、バイスタンダー効果 10 組織・臓器への影響：早期障害と後期障害、確定的影響と確率的影響 11 放射線による発がんと遺伝的影響、胚と胎児への影響 12 腫瘍の放射線生物学 13 放射線被ばくのリスクと防護、放射線被ばくのリスクと防護 14 理解度の確認 15 国家試験等を用いた演習</p>
----------	---

準備学習	<p>高校の生物学の学習書を用いて、DNAや細胞の構造や人体の仕組み各組織、臓器の働きと構造について再確認しておくこと。 毎回の授業に前回の授業の内容を質問するので、前回の授業内容について復習し、当日授業内容について理解しておくこと。 授業でやったところと国家試験の問題をリンクさせて予習、復習しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	月曜の1時間目なので授業開始に間に合うように気をつけて登校して下さい。
成績評価の方法	筆記形式の理解度の確認より成績を評価する。
教科書/テキスト	江島洋介、木村博編、「放射線技術学シリーズ 放射線生物学」(オーム社)4700円 4-274-13243-9 プリントを必要に応じて配布する。

参考書	福土正広「診療放射線技師 スリムベーシック1 放射線生物学」 MEDICAL VIEW 4500円 978-4-7583-1100-7 放射線技師国家試験問題集(出版社は問いませんができれば最新の問題集で勉強しましょう)
-----	--

その他	国家試験を初めて意識する様な授業にしようという心がけています。2年後の国家試験目指して頑張りましょう。
-----	---

履修コード	163401
科目名	放射線治療技術学
担当者名	高山 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>各領域の疾患別について放射線治療の各論的項目を講ずる。 診療放射線技師として認識していなければならない各領域の放射線治療の対象となる代表的疾患について講義を行い、放射線治療を行う際の治療計画や照射方法について実際の症例を提示して解説を行う。 また、各領域における最新の放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1～2) 脳腫瘍の放射線治療、(3～6) 頭頸部領域の放射線治療、(7～8) 胸部の放射線治療、(9～10) 食道、消化器領域の放射線治療、(11～13) 婦人科領域の放射線治療、(14) 泌尿器科領域の放射線治療、(15) 総括
----------	--

準備学習	放射線腫瘍学の復習をしておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業出席、受講態度などと定期試験による。
教科書/テキスト	増田 康治 編 「放射線治療技術」 改訂第4版 立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第12版
参考書	

履修コード	160101
科目名	放射線治療技術学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲 森口 央基 羽生 毅 高城 保 小川 雅生

授業概要/ 到達目標（ねらい）	放射能の測定手順・放射能測定計測系の機能・放射線治療を念頭に置いた吸収線量測定の概念と実測技術の基礎を把握する。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>主として行なわれる実験題目とその概要は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸収線量の測定。 高エネルギー放射線による治療では人体組織に対する吸収線量の附与レベル決定がきわめて重要な因子である。ここではCo60線源を用いて、指頭型電離箱と樹脂ファントムの組合せによる吸収線量測定の基礎的手順を学ぶ。Co60線源に対する照射線量率定数・指頭型電離箱の特性と使用法・線源-ファントム-電離箱の幾何学的位置関係の効果・吸収線量率値とファントム厚さとの関係などに注意する必要がある。 2) フィルムによる放射線場の測定。 計測器としてのフィルムは実時間（リアルタイム）応答の計測器では容易に得ることのできない特性を持っている。ここではCo60線源を使用して、照射線量分布・肺近以不均等物質での深部線量百分率補正などの実測手順を学ぶ。 3) 半導体検出器によるα線の測定。 表面障壁型半導体検出器を使用してα線による波高分布を測定する。逆方向電圧による電荷集収率・エネルギー分解能などへ与える効果、空乏層との関係を中心として学ぶ。 4) GM計数管による線源のβ壊変率測定。 GM計数管を検出器とする比較的簡単な測定装置を用いて線源の壊変率を求める手順と、その補正の考え方を学ぶ。 5) 放射線治療計画法について 6) 放射線治療計画装置（ピナクル3）の使い方 7) MRI装置の操作法の習得
----------	--

実験で取上げる項目は少ないものであるが、各々の知識が実際にはどの様に係わり、結果に影響してくるかを実感して欲しい。

準備学習	放射線治療技術学の授業内容は、基礎知識として重要である。復習しておくこと。
履修上の留意点	積極的に取り組むことを望む。
成績評価の方法	実験レポート、実験実施状況、随時おこなう中間テストなどにより評価する。
教科書／テキスト	日本医学物理学会編『外部放射線治療における吸収線量の標準測定法』（発行通商産業研究社）
参考書	

履修コード	160201
科目名	放射線治療技術学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲 森口 央基 羽生 毅 高城 保 小川 雅生

授業概要/ 到達目標（ねらい）	放射能の測定手順・放射能測定計測系の機能・放射線治療を念頭に置いた吸収線量測定 の概念と実測技術の基礎を把握する。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>主として行なわれる実験題目とその概要は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸収線量の測定。 高エネルギー放射線による治療では人体組織に対する吸収線量の附与レベル決定がきわめて重要な因子である。ここではCo60線源を用いて、指頭型電離箱と樹脂ファントムの組合わせによる吸収線量測定の基礎的手順を学ぶ。Co60線源に対する照射線量率定数・指頭型電離箱の特性と使用法・線源-ファントム-電離箱の幾何学的位置関係の効果・吸収線量率値とファントム厚さとの関係などに注意する必要がある。 2) フィルムによる放射線場の測定。 計測器としてのフィルムは実時間（リアルタイム）応答の計測器では容易に得ることのできない特性を持っている。ここではCo60線源を使用して、照射線量分布・肺近以不均等物質での深部線量百分率補正などの実測手順を学ぶ。 3) 半導体検出器によるα線の測定。 表面障壁型半導体検出器を使用してα線による波高分布を測定する。逆方向電圧による電荷集積率・エネルギー分解能などへ与える効果、空乏層との関係を中心として学ぶ。 4) GM計数管による線源のβ壊変率測定。 GM計数管を検出器とする比較的簡単な測定装置を用いて線源の壊変率を求める手順と、その補正の考え方を学ぶ。 5) 放射線治療計画法について 6) 放射線治療装置（ビナクル3）の操作法 7) MRI装置の操作法
----------	---

実験で取上げる項目は少ないものであるが、各々の知識が実際にはどの様に係わり、結果に影響してくるかを実感して欲しい。

準備学習	放射線治療技術学の内容は基礎知識として重要です。よく復習をしておくこと。
履修上の留意点	積極的に取り組むことを望む。
成績評価の方法	実験レポート、実験実施状況、随時おこなう中間テストなどにより評価する。
教科書／テキスト	日本医学物理学会編『外部放射線治療における吸収線量の標準測定法』（発行通商産業研究社）
参考書	

履修コード	163101
科目名	放射線治療技術学実習〔病院実習〕
担当者名	森口 央基 佐藤 昌憲 飯田 幸雄

授業概要/ 到達目標（ねらい）	これまでの講義および実験で習得した莫大な放射線および一般臨床医学知識をもとに、実際の医療の現場で放射線診療の流れを学習し、診療放射線技師の役割を実地で詳細に入念に理解すると共に今後の学習に参考とすべき点を学ぶ。実習に先立って担当教員と臨床実習病院指導者等から必要事項のガイダンスを受ける。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 病院実習の目的、実習手続上必要な書類と記入方法 (2) 実習病院の組織、機能、施設についての説明 (3) 患者接遇など病院内で実習する上の心得 (4) 分野別の実習 <ol style="list-style-type: none"> a. 放射線治療の適応 b. 放射線治療法の種類 c. 放射線治療計画 d. 照射野の設定と照射法、線量分割法 e. 腔内照射法、組織内照射法、内部照射法による小線源治療 f. 標的体積（ターゲット）とリスク臓器（OAR：organ at risk） g. 二次元および三次元治療計画 i. 線量分布計算と線量分割法
----------	--

準備学習	これまで放射線生物学や放射線腫瘍学、放射線治療技術学などの講義および放射線治療技術学実験で修得した放射線治療技術学に関する基礎的知識を復習し、最近の強度変調放射線治療法（IMRT）や重粒子線治療などについてもその原理や照射法、臨床応用についても予習しておくこと。
履修上の留意点	病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格を取得するための必須科目となっている。本実習を通して、将来必要となる医療行為における接遇法や様々な倫理的課題についても学ぶ。
成績評価の方法	実習病院からの実習成績評価報告書と学生の提出する実習報告書および基礎的事項の習熟度を確認する試験による。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	165901
科目名	放射線被曝管理論
担当者名	羽生 毅
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放射線被曝管理体系は、原子放射線の影響に関する国連科学委員会UNSCEAR調査報告書を基に、国際放射線防護委員会ICRPが正当化・最適化・線量限度を勧告、具体的基準を国際原子力機関IAEAが作成し、各国の被曝管理法規に反映される。 診療放射線技師の職務は、医療放射線データ提供と患者に対する被曝行為である。医療を担う将来の一員として、必須な被曝管理体系と最適化患者被曝の知識を整理する。
授業スケジュール	第1回：被曝管理の歴史、第2～6回：UNSCEAR2008年報告書(主文・医療被曝・公衆と職業被曝)、第7～10回：ICRP(2007年勧告・Pub. 84妊娠と医療放射線・Pub. 105医療における放射線防護)、第11～12回：医療被曝ガイドライン(IAEA-Pub. SS115・他)、第13回：患者被曝線量のコンピュータシミュレーション、第14回：メディカルリスクマネジメント
準備学習	UNSCEAR・ICRP・IAEAの各Webサイトを閲覧する。
履修上の留意点	放射線管理学・病院実習の知見を整理しておくことが望ましい。
成績評価の方法	平常点50%・試験50%とする。
教科書/テキスト	プリントを配付する。
参考書	UNSCEAR・ICRP・IAEA等の刊行物
その他	なし。

履修コード	152701
科目名	放射線物理学
担当者名	小川 雅生
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	診療放射線技師が医療健康科学部現場で取り扱う「放射線」に関する基礎的な物理を学ぶ。
授業スケジュール	1 回 電子、光子、陽子、中性子、物理定数 2 回 光の粒子性、粒子の波動性、プランク定数 3-4 回 ボーアの原子模型 5-6 回 特性X線、オージェ電子、蛍光収率、モズレーの法則 7-8 回 制動X線の発生とスペクトル 9 回 原子核の世界、核子、同位体、結合エネルギー 10 回 原子核の壊変、放射能、半減期、逐次壊変 11-12回 ベータ壊変、ニュートリノ、レプトン 13-14回 β +壊変、電子捕獲 15-16回 光子と物質の相互作用、光電効果 17-18回 コンプトン散乱、対生成 19 回 光子の減弱、減弱係数、作用断面積 20 回 コンプトン端、後方散乱、陽電子消滅 21 回 ガンマ壊変、ガンマ線スペクトル 22 回 吸収端、原子模型との関係 23 回 荷電粒子の阻止能 24-25回 飛程、ストラグリング、ブラッグピーク、LET 26-27回 電子の阻止能、臨界エネルギー 28 回 アルファ壊変、ガイガー・ヌッターの法則 29 回 核磁気モーメント、核磁気共鳴、MRI 30 回 原子核アイソマー、内部転換電子
準備学習	特になし
履修上の留意点	講義において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。
成績評価の方法	定期試験に加えて、講義中に行う演習問題および出席状況の評価する。
教科書/テキスト	教科書は使用しない。YeStudyに掲載された説明資料を各自プリントすること。
参考書	放射線物理学(多田順一郎著、オーム社)、アイソトープ手帳(日本アイソトープ協会編、丸善)を推薦する。

履修コード	164501
科目名	量子論
担当者名	金子 順一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 量子論はミクロの世界を記述する理論であり、原子の振る舞いや、放射線に関連した現象の理解には欠かせないものである。本講義では、量子論が必要とされた経緯から始め、古典論では説明することのできない諸現象を、量子論の手法で解説を行う。量子力学における基本方程式である波動方程式の導出を行い、基本的な系での解法の説明を行う。</p> <p>(到達目標) 本講座は、量子論の基本的な事項について理解することを目的としている。古典論と量子論との違いを理解し、基礎的な系について、方程式の導出を行い解を得る事を目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 古典論の問題点 第2回～第4回 前期量子論：物質と波動 第5回～第6回 波動関数と波動方程式 第7回～第12回 基本的な系における波動方程式の解 第13回～第15回 波動関数と物理量</p>
----------	--

準備学習	量子論の学習においては、1年次、2年次の物理学の講義の内容が重要である。よく復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	試験成績及び講義中の理解度の確認結果(4割)によって評価を行う。
教科書/テキスト	特に指定しない。講義中に必要な資料については、プリントを配布する。
参考書	

履修コード	155001
科目名	臨床医学概論
担当者名	嶋田 守男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：医学概論で学んだ基礎知識を基に、更に一步進めて最近注目をあびている生活習慣病などに焦点をあててその主要疾患について放射線画像診断と放射線治療学との関連性を中心に解説する。</p> <p>到達目標：主要疾患の概念について理解する。主な典型CT、MRI画像やレントゲン画像について覚える。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1-3) 生活習慣病、画像診断、放射線治療の概要について理解する。 (4-6) 生活習慣病：色々な種類の上皮性腫瘍および非上皮性腫瘍について学習する。 (7-9) 生活習慣病：虚血性心疾患の狭心症、心筋梗塞および心電図の基礎などを理解する。 (10-12) 生活習慣病：脳卒中(脳出血、脳血栓症、脳塞栓症、くも膜下出血)の概念を理解する。 (13) メタボリック症候群：診断基準について理解する。 (14) 放射線診療における造影剤の有用性と副作用について学習する。 (15) 救急医療における放射線診療の役割に分けて系統的に学習する。</p>
----------	--

準備学習	医学概論で学習した内容をもう一度復習しておくこと。 また、1年で学んだ解剖学ももう一度復習しておくこと。
履修上の留意点	診療放射線技師として必須の種々の疾患概念を理解し、実際の臨床医学に結びつく放射線医学(放射線診断学、核医学、放射線治療学)への基礎的知識を獲得することが重要である。
成績評価の方法	授業の出席率と定期試験にて成績を評価する。
教科書/テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考書	

履修コード	159701
科目名	臨床医療人間学I
担当者名	名古 安伸
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 医療現場で発生する倫理的諸問題すなわち生命倫理について学び、生命倫理を広く人間科学や人間工学の立場から考察する。また、臨床実習を実施するにあたり、必要書類の作成を行う。 (到達目標) 病氣に対して鋭敏な不安を抱く患者様や家族への対応(言語、仕草、思いやり)を習得する。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人間学概要 2. 医療従事者の心得 3. 患者心理と家族心理 4. 思いやりとことばと身だしなみ 5. 現代医療とチーム医療 6. 院内感染とその対応 7. 疼痛、ターミナルケア、尊厳死と安楽死 8. 生命と医療の原点を考える 9. 臨床実習の心構え 10. 一般撮影検査&特殊検査部門と実習上の注意点 11. CT & MR & 救命部門と実習上の注意点 12. 核医学部門と実習上の注意点 13. 放射線治療部門実習上の注意点 14. 管理区域立入り前の教育訓練 15. 医療人間学の理解度の確認
準備学習	生命倫理学とは、「患者との人間関係において、私はいかに振る舞うべきか」を考える哲学の学問です。生命が脅かされた時や恐怖感から脱出したい時などに発生する「神様・仏様」、病院にいとこの言葉がたくさん聞こえて来ます。駒澤大学で学習する「宗教学や禅の心」と「医療」との結びつきを考えておいて下さい。
履修上の留意点	3年次後期に行う臨床実習の諸手続き、注意事項を含み講義します。 *出席は必須です。
成績評価の方法	定期試験の成績 50%、平常点(レポート含む) 50%、とする。
教科書/テキスト	必要によりプリントを配布します。
参考書	使用しない。
その他	学外講師による実践講演を数回予定。

履修コード	163901
科目名	臨床医療人間学II
担当者名	奥山 康男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 医療人への未来教育として近年重要視されて来た医療安全教育を人間工学的視点より、「知識教育」・「技能教育」・「態度教育」・「健康教育」・「患者教育」の5項目をコア(core)とし、認知心理学や信頼性工学なども踏まえた基礎内容を教授する。 (到達目標) 近年、医療安全の教育は各医療関連団体より、医療職に就く以前から大学教育として強化されるべきとの答申が出されている。医療現場に立つ前から医療安全に関する知識を蓄積することは、医療人としての質の向上が担保され医療安全の推進に大きく寄与することが可能となる。本科目は、そうした背景のもと医療安全に関する基礎知識を習得することにある。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人間学の概論：＜医療人間学と医療安全＞ 2. 医療安全の行程①：＜安全教育の重要性＞ 3. 医療安全の行程②：＜人間工学と医療安全＞ 4. 医療安全の行程③：＜認知心理と医療学安全＞ 5. 医療安全の行程④：＜人間の行動レベルと医療安全＞ 6. 医療安全の行程⑤：＜意思決定のプロセスと医療安全＞ 7. ヒューマンエラー①：＜ヒューマンエラー定義と分類＞ 8. ヒューマンエラー②：＜ヒューマンエラー発生要因と防止策＞ 9. 人間工学と医療安全①：＜医療人の心理特性、医療人のメンタルヘルスケア＞ 10. 人間工学と医療安全②：＜作業と人間工学＞ 11. リスクマネジメント①：＜医療におけるリスクマネジメントの定義＞ 12. リスクマネジメント②：＜リスクマネジメントの基本プロセス＞ 13. リスクマネジメント③：＜インシデントレポート、ヒヤリハットなど＞ 14. 医療事故と対策①：＜医療事故発生のメカニズム、医療事故の考え方＞ 15. 医療事故と対策②：＜医療事故分析法、事故被害者と事故当事者の対応＞
----------	--

準備学習	人間工学とは、「人と物（装置や器具）」や「人と空間」の好ましい対応関係を取り扱う学問である。診療現場や事務・会計現場で働く者がその職場で快適に、効率よく作業するために役立ち、人間の特性に合った機器や器材をデザインする学問でもある。患者にとって優しい技術、使いやすい機器を構築するために生まれた学問を医療に結びつけ、医療の安全を実現していくことを目標にしている。ゆえに、常にホットなマスコミ情報を注意深く見聞きしておくことが準備学習となる。
------	---

履修上の留意点	プロジェクト映写での授業を行うのでポイント点をしっかりと関連付けて学習すること。
成績評価の方法	夏季休み前に実施する前期定期試験（筆記）の成績90%、平常点（受講態度）10%とする。
教科書／テキスト	必要時にプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
その他	特になし

専 門 教 育 科 目

2. グローバル・メディア・スタディーズ学部

履修コード	410101
科目名	Academic Writing
担当者名	アシュウェル, T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者, Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repoontonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	411061
科目名	Academic Writing
担当者名	アシュエル. T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者, Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repoontonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	410401
科目名	Academic Writing
担当者名	金子 カムシン

授業概要/
到達目標 (ねらい)

The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.

授業スケジュール

Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習

Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.

履修上の留意点

Pre-requisite for this course from 2011:
 ・ Successful completion of Written Communication 2
 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト

None

参考書

上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。
 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	411001
科目名	Academic Writing
担当者名	金子 カムシン

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京: 研究者. Kamimura, T. and Qi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repothonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	410201
科目名	Academic Writing
担当者名	クオック. R. Y. F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者, Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.kumazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	410801
科目名	Academic Writing
担当者名	クオック, R. Y. F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, I. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	410001
科目名	Academic Writing
担当者名	ゴールド, F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year "Written Communication" courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者. Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	410501
科目名	Academic Writing
担当者名	ゴールド, F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oji, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmcweb.komazawa-u.ac.jp/moodlc/>

履修コード	410701
科目名	Academic Writing
担当者名	ゴールド, F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者. Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repoontonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	411011
科目名	Academic Writing
担当者名	ゴールド F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者, Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gm3web.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	410301
科目名	Academic Writing
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 『英語論文・レポートの書き方』東京：研究者。Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repothonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	410901
科目名	Academic Writing
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	411021
科目名	Academic Writing
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repothonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmswcb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	411031
科目名	Academic Writing
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	409901
科目名	Academic Writing
担当者名	モハメツド, G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year "Written Communication" courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者. Kamimura, T. and Oji, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	---

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	410601
科目名	Academic Writing
担当者名	モハメツド. G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
 Final research paper grading:
 Quality of final research paper = 70%
 Adherence to drafting schedule:
 Five Source Report Forms handed in on time = 5%
 Outline handed in on time = 5%
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Draft 1 handed in on time = 5%
 Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	411041
科目名	Academic Writing
担当者名	モハメツド. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
授業スケジュール	<p>Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.</p> <p>In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.</p>
準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
履修上の留意点	<p>Pre-requisite for this course from 2011:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Successful completion of Written Communication 2 <p>[N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p> <p>Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.</p>
成績評価の方法	<p>Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.</p> <p>Grading Scheme Final research paper grading: Quality of final research paper = 70% Adherence to drafting schedule: Five Source Report Forms handed in on time = 5% Outline handed in on time = 5% Section 1 handed in on time = 5% Section 2 handed in on time = 5% Draft 1 handed in on time = 5% Participation in the feedback process: Quality of feedback given to others = 5%</p> <p>After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.</p>
教科書/テキスト	None
参考書	<p>上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」 東京: 研究者. Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.</p>

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

None

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	411051
科目名	Academic Writing
担当者名	モハメッド. G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
---------------------	--

授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
----------	--

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習	Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisite for this course from 2011: - Successful completion of Written Communication 2 [N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.
---------	--

Grading Scheme
Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%
Adherence to drafting schedule:
Five Source Report Forms handed in on time = 5%
Outline handed in on time = 5%
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Draft 1 handed in on time = 5%
Participation in the feedback process:
Quality of feedback given to others = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers. (Eigoronbun/repothonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.
-----	--

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他	None
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
履修コード	434401
科目名	E-コマース論
担当者名	今村 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	eコマースとは、インターネットなどのネットワークを利用して、製品やサービスの広告、販売、決済、アフターサービスなどのビジネスを行う形態である。本講義では、ネットビジネスの現状、インターネットを利用したマーケティング、および、Webサイト構築に必要な情報システム技術を理解することにより、「消費者の立場からネットショッピングの使い方を工夫できる」、また、「サービス提供者の立場からネットビジネスのアイデアを考えることができる」ようになることを目的とする。また、毎回の講義中に、Q&A形式で講義のポイントを記載することにより、自分の考えを自分の言葉で表現する力が身につくようにする。
授業スケジュール	<p>インターネットの普及に伴い、企業間、企業・消費者間のビジネスの形態が大きく変化した。本講義では、以下の内容を実際の講義の授業日数に配分して講義する。</p> <p>(1) eコマース入門：eコマースの現状、Webサイト上の消費者の行動パターン、eコマースのビジネスモデル、企業間ビジネス、企業・消費者間ビジネスなど</p> <p>(2) eコマースマーケティング：インターネットを用いたマーケティング、インターネット普及に伴う製品・サービスの変化、価格はどうやって決まるか、流通チャネル、ネット広告など</p> <p>(3) Webサイト構築のための情報システム技術：顧客関係管理とデータマイニング、Webコンテンツ管理と情報アーキテクチャ、セキュリティと情報倫理、検索エンジンと検索テクニックなど</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	インターネットの利用経験があることを前提条件とする。授業中の私語は厳禁とする。
成績評価の方法	最終課題レポート(授業期間中に1回)と、小レポート(毎回の講義中に、講義を聴講しながら、Q&A形式で講義のポイントを記載する。A4 1枚)による総合評価。出席率は、70%以上を基準とする。
教科書/テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	(1) 幡鎌 博：eビジネスの教科書[第三版]、創成社 (ISBN: 978-4794423313) (2) 丸山 清貴、海老根 智仁：eコマースプランニング、翔泳社 (ISBN: 4-274-20309-3)
その他	講義形式。

履修コード	434711
科目名	イスラムと文化
担当者名	奥田 敦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イスラムについて、その教えの基本を念頭におきながら、さまざまな角度から紹介を行い、先入観や偏見にとらわれない、イスラムに対する包括的な理解を深めると同時に、グローバル化時代に生きる人間およびその社会にとって、あるいは現代の日本人および日本にとって、人類全体に向けられた教えとしてのイスラムの意義を探究していく。アラビア語の用語の紹介なども積極的に行ないたい。
---------------------	---

授業スケジュール	講義では、次のトピックを扱う予定である。 ①宗教と文化 ②アラビア語のススメ ③オリエンタリズムを越えて ④神はどこにいるのか ⑤イスラムとは ⑥報われるということ ⑦見えないものから発想する ⑧人はなぜラマダーンをするのか(宗教と法) ⑨アレppo石鹸は語る(宗教と労働) ⑩人間らしさについて ⑪イスラムにおける人と人権 ⑫ジハードはテロリズムか? ⑬大きなわれわれについて ⑭イスラム文明の栄光と挫折 ⑮イスラム圏との文化交流 ⑯グローバル化時代のイスラム
----------	---

準備学習	この授業で学びたいことは何なのかを自分なりに整理しておくこと。イスラムとは何か、文化とは何かについても自分の知識、考えを確認しておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義には毎回必ず出席すること(毎回その日の授業内容に関するコメントペーパーを書いてもらいます)。授業中の私語と飲食は厳禁とします。
---------	---

成績評価の方法	学期末に提出の講義内容に関するレポート(テーマは学期末の講義時間中に発表する)と、毎回のコメントペーパーを中心に評価を行なう。(レポート50点、コメントペーパー50点)
---------	--

教科書/テキスト	毎回レジュメを配布する。
----------	--------------

参考書	奥田敦『イスラムの人権』慶應義塾大学出版会、2400円、4-7664-1194-3/奥田敦『フサイニ―師「イスラム神学50の教理」』慶應義塾大学出版会、2600円、7-7644-0820-9/奥田敦・中田考編『イスラムの豊かさを考える』丸善プラネット、1500円、978-4-86345-084-4/水谷周『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会、1800円、978-4-336-05442-5。その他については講義中に案内する。
-----	---

履修コード	430911
科目名	イノベーション普及論
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本期はイノベーション (新しいアイデア) の普及のメカニズムを講ずる。流行現象の解明、日本産のアイデアの海外への普及などがテーマである。 (到達目標) 現代はグローバル化の進展にとまない、モノや行為、観念などから構成されるイノベーションが国内のみならず国境や地域を越えて普及し、当該社会の文化に大きな影響をおよぼしている。講義全体としての目標は、第1に、イノベーションの生成のプロセスを理解する。第2に、個人の採用過程 (採用の意思決定過程) のメカニズムを理解する。第3に、イノベーションが社会に広がる「普及過程」のメカニズムを理解する。第4にイノベーションが当該社会の人びとに導入されることによって生ずる社会の文化の変化のメカニズムを普及促進者、とくに変容エージェントの活動を通して理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーション普及の社会学的研究概説 2. 文化変容研究概説 3. イノベーションの生成過程 4. 採用過程 (1) 知識段階 5. 採用過程 (2) 態度 (説得) 段階 6. 採用過程 (3) 決定・実践・確認段階 7. 普及過程 (1) 先駆的採用者と初期採用者 8. 普及過程 (2) 多数派と採用遅滞者 9. 普及過程 (3) オピニオンリーダー 10. 普及促進者 (1) 社会的機能 11. 普及促進者 (2) 国内のケーススタディ 12. 普及促進者 (3) 海外のケーススタディ 13. 変容エージェント (1) 文化変容との関係 14. 変容エージェント (2) ケーススタディ 15. まとめ
----------	--

準備学習	<p>まず教科書の当該の章を必ず読んでおくこと。したがって、教科書は必ず前もって入手しておくこと。授業時間中に提示するスライドは、前もってGMSの授業支援システムのイノベーション普及論にアップしてあるので、授業の前に閲覧すること。地球環境に配慮して授業中の印刷物の配布は最少限にします。ご理解ください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>教科書を取得しないと授業についていけないし、課題が書けない。このことを銘記すること。参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業時間中にしばしばエッセイを課す (5回程度の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイの提出が3回以下の場合成績がつかないことがあるので、そのつもりで。授業中にしばしば質問をするので、それに率先して挙手して答えること。 エッセイの評価: 80% 授業への参加度 (質問への回答の量と質): 20%</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>白水繁彦『イノベーション社会学』御茶の水書房、2011年 および、パワーポイントによる説明。適宜配布されるプリント。</p>
----------	--

参考書	<p>ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年 青池慎一『イノベーション普及過程論』慶応義塾大学出版会、2007年</p>
-----	---

その他	<p>授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。</p>
-----	---

履修コード	432901
科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では、日本と海外のさまざまな異文化現象を取り上げ、文化の「境界線」がいかに社会的に作られてきたか、文化間の「翻訳」はいかに可能かを実践的に検討し、異文化に向ける私たち自身のまなざしを再考する。</p> <p>(到達目標) 多言語・多ジャンルの映像資料を通じて、グローバル時代における異文化間コミュニケーションの技法を習得することが、本講義の基本的な目標である。具体的には、(1)グローバルな視点からメディアと異文化の関係について読み解く基礎体力を養うこと。(2)文化の「境界線」はどう捉えるべきか、また、文化間の「翻訳」の仕組みはいかなるものかといった諸課題について考察を深めること。(3)日常生活におけるさまざまな現在進行形の異文化現象について、受講者自身に自分の考え方を問うこと。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 異文化間コミュニケーションの基本理論</p> <p>第2回 言語コミュニケーション (1) 概説</p> <p>第3回 言語コミュニケーション (2) 文化の翻訳</p> <p>第4回 非言語コミュニケーション (1) ジェスチャー</p> <p>第5回 非言語コミュニケーション (2) 表情</p> <p>第6回 非言語コミュニケーション (3) 声</p> <p>第7回 グローカリゼーション (1) 食文化</p> <p>第8回 グローカリゼーション (2) エンターテインメント</p> <p>第9回 グローバル企業と異文化戦略 (1) 成功例</p> <p>第10回 グローバル企業と異文化戦略 (2) 失敗例</p> <p>第11回 ニューメディアと異文化 (1) ウェブ</p> <p>第12回 ニューメディアと異文化 (2) ネットスラング</p> <p>第13回 グループワーク (1) 草案の作成</p> <p>第14回 グループワーク (2) グループ発表</p> <p>第15回 総括</p>
----------	--

準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず充分に予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	---

成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価：30% レスポンスカードの内容の評価：30% 期末レポート：40%
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	<p>・岩淵功一『トランスナショナル・ジャパン—アジアをつなぐポピュラー文化』（岩波書店、2001年）2,800円、ISBN: 4000241184</p> <p>・ロバート・G.リー著、貴堂嘉之訳『オリエンタルズ—大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』（岩波書店、1999=2007年）、4,400円、ISBN: 4000223909</p>
-----	---

履修コード	431301
科目名	異文化経営論
担当者名	リンスキー、M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course on comparative business culture provides students with a basic understanding of issues in international business and cross-cultural management. Students will be introduced to issues related to management in an inter-cultural context, ethics and values in cross-cultural management, and the impact of cultural diversity in multinational companies. The course draws in ideas from social anthropology, cross-cultural psychology, and organizational theory.
---------------------	--

授業スケジュール	The content of the course is introduced in a series of lectures. Certain themes may be explored further through short readings given by the teacher in class.
----------	---

準備学習	It is useful to be aware of current economic affairs by reading newspaper articles.
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	Students will be evaluated based on three short essays and final exam.
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	Materials will be provided by the teacher.
-----	--

履修コード 417001

科目名 インターネットとメディア

担当者名 吉田 尚史

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
インターネットはデジタルコンテンツの配布、共有、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

(到達目標)
インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について、実習を通じて理解することを目標とする。

授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

－インターネットの原理

第1回：導入，OSI7階層モデル，静的と動的
第2回：プロトコル
第3回：Wiki

－インターネットのアーキテクチャ・通信方式

第4回：MIME: Multipurpose Internet Mail Extension
第5回：DNS: Domain Name System
第6回：インターネット上の経路，ルーティング

－インターネット上のメディアの基礎

第7回：マルチメディア検索
第8回：メタデータ，MPEG-7

－インターネット上のメディア応用サービス

第9回：アクティブ情報システム
第10回：ストリーミング

－インターネット上のメディア応用サービスの実現

第11回：WWWブラウザ実習
第12回：WWWサーバ実習(1) HTTPDとApache
第13回：WWWサーバ実習(2) プログラミング言語環境
第14回：WWWサーバ実習(3) データベース連携
第15回：まとめ・レポート出題・解説

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

準備学習

必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。

履修上の留意点

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習を履修済みであること。
留学など履修計画に困難な場合を除き、なるべく2年次以降に履修すること。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点（およそ25%）、課題（およそ25%）、および、期末レポート（およそ50%）により評価する。

教科書／テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。
各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	441001
科目名	Integrated English I
担当者名	ダーリン. M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> • Develop a greater awareness and understanding of issues affecting these regions as presented by various forms of English media • Learn to critically analyze issues, form opinions, and present solutions to conflicts <p>Students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> • develop English language proficiency in the four basic skills • learn the skills required to lead and fully participate in group discussions • gain experience making effective presentations • be encouraged to become autonomous learners by having input into class content and taking responsibility for their own learning
授業スケジュール	<p>geography/religion/human rights: (1-3) conflict & security (4-10) American bases in Japan Japan & South Korea - Takeshima Japan & China - textbook issue North Korea - nuclear missiles Pakistan & India - Kashmir issue</p> <p>poverty & wealth gap (11-16) child labor - Philippines sweat shops - India human trafficking</p> <p>human rights (17-23) indigenous populations - Australia & New Zealand Aung San Suu Kyi (Myanmar) Dalai Lama - Tibet media censorship (China) honor killings - Pakistan</p> <p>Presentations (24-28) Working with a partner or in a small group, students will research a conflict or problem they have studied in class. Grading will be based on the depth of research, understanding of the issues and their recommended solutions.</p>
準備学習	Students are expected to come to class with a basic knowledge of the countries and issues in these regions
履修上の留意点	The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. Students committed to developing their English language skills and possessing an interest in Asia and Oceania are encouraged to join the class. Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.
成績評価の方法	Evaluation will consist of: Individual reports prepared for class discussions (40%) Group project & presentation (20%) Vocabulary notebook (20%) Participation, effort and attitude in class (20%)
教科書/テキスト	Textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and posted on a dedicated website.
参考書	An up-to-date English-English learner's dictionary is highly recommended.
その他	Students are required to have a notebook.

履修コード	441151
科目名	Integrated English II
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> - Develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary North American, Central American and South American affairs. - Grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video and print) and discussing the findings. - Build knowledge of and interest in the Americas. - In addition, students will: <ul style="list-style-type: none"> learn the skills required to fully participate in and run discussions gain experience making effective presentations
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> - An Introduction to the Americas: geography/history/ politics (1-3) - Issues in North America: (4-10) <ul style="list-style-type: none"> The USA/Mexico border and Illegal Immigrants Wall Street protests 2012 American presidential election Canada's French population Canada's seal hunt (Other topics to be decided) - Issues in Central America and the Caribbean: (11-16) <ul style="list-style-type: none"> The Panama Canal The Cuba Embargo Cuba's 'Ladies in White' (Other topics to be decided) - Issues in South America: (17-22) <ul style="list-style-type: none"> Columbia's FARC Brazil's 'Shanty Towns' (Other topics to be decided) - Final Presentations (23-28) <ul style="list-style-type: none"> Students will be assigned final pair presentations on an important issue in a North/South/Central American country assigned by the teacher. These final presentations will be graded on research, English usage and presentation skills. <p>Topics are subject to change as current events unfold in the Americas. Students may also have a say in regional topics focused on in class.</p> <p>Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.</p>
----------	---

準備学習	Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.
------	--

履修上の留意点	<p>Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.</p> <p>More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>Evaluations will be based on:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Serving as Discussion Leader and news summary writing (40%) - Vocabulary notebook (20%) - Participation (20%) - Final presentation (20%)
---------	--

教科書/テキスト	Textbook not required. Material provided by instructor and posted on a dedicated website.
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	441201
科目名	Integrated English III
担当者名	ギャリソン, E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>Regional Studies III: Europe and Russia The general aims of this course are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) build knowledge of and interest in Europe and Russia through an analysis of the way the nations are represented in the media, both domestic—insofar as English-language media are available—and foreign 2) develop the ability to engage in research into the countries and media of Europe and Russia using English sources and materials 3) develop communicative competence: the ability to communicate with clarity, relevance, accuracy and variety in both written and oral form. To this end an online discussion board format will be utilized weekly for students and instructor alike to post material or questions—in either written or audio format, complete, submit, comment upon and discuss assignments.
---------------------	---

Students will:

- 1) develop English language proficiency in the four macro skills: listening, speaking, reading and writing
- 2) develop the ability to use language and experience acquired in the class to respond to new material and new situations
- 3) develop critical skills: to be able to scan, filter and analyze different forms of information in English
- 4) develop cross-cultural awareness
- 5) gain experience making effective presentations
- 6) learn the skills required to fully participate in and run discussions

授業スケジュール	<p>Students will watch, listen to and read English-language media related to Europe and Russia in order to analyze and discuss the content. Subjects of inquiry shall include but are not limited to: 1) Economy & Immigrant Labor, 2) Regional Politics, 3) International Relations, 4) Freedom of the Press, and 5) Culture & Society with special attention to the global ramifications of events in the region. Emphasis will be given to topic-specific vocabulary acquisition and its use in progressively more demanding conversational situations. Students are expected to produce brief but regular written and/or oral reports that will serve as the basis for classroom discussion. Students will also be required to work on a special group project examining in greater depth a country or issue of interest.</p>
----------	---

Module 1: Introduction to Europe: Countries of the region (Classes 1 & 2)
Country geography and profiles: Students select country/countries they want to concentrate on for individual/group presentations.

Module 2: EU and non-EU European countries (Classes 3-10)
European economic issues
the UK and the EU
Spain and North African immigration
France: cultural integration: Muslims in France
Italy: corruption
New EU members (former republics of the Soviet Union)
Various current event topics

Module 3: Russia (Classes 11 & 12)
Russia and the EU: Gas and oil dependence

Module 4: Russia continued. (Classes 13-20)
Leaders, politics, and people
The Russian state vs. the media
Foreign affairs: Russia and the former Soviet Republics

Module 5: Europe, Russia, and Japan. (Classes 21-28)
Russia and Japan: The Kuril Islands Dispute
Europe and Japan: Students choose topics and deliver 5-10 min presentations

Module 6: Final presentations. (Classes 29 & 30)

準備学習	Students are expected to come to class with knowledge of basic country facts: population, territory, neighboring countries, and political leaders.
------	--

履修上の留意点	<p>The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. As this is an elective course for sophomores and above, students committed to developing their English language skills are encouraged to join the class. Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>Evaluation is principally based on: Class and discussion board participation and short reports 40% Midterm: Europe 20%</p>
---------	---

Final exam: Russia 20%
Final multimedia presentation: 20%

教科書/テキスト	Purchase of a textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and by the students themselves.
参考書	An up-to-date electronic English learner's dictionary is recommended.
その他	Students need a notebook to keep vocabulary and country facts.

履修コード	441351
科目名	Integrated English IV
担当者名	ギャリソン, J. G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>The course is designed to offer an introduction to the issues that face contemporary Africa and the Middle East and in so doing build knowledge of and interest in the both regions. Background information on the colonial period will be introduced. Students are expected to develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary African and Middle Eastern affairs. They will grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video, audio, & print) and discussing the findings.</p> <p>Additionally, students will learn skills required to fully participate in and run discussions as well as gain experience making effective presentations.</p>
---------------------	---

Students are expected to produce brief written reports and presentations that will serve as the basis for discussion. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ Introductory background: geography/ethnography/colonization/independence: (1回-4回) ・ business & economics: (5回-10回) <ul style="list-style-type: none"> The Trans-Saharan Pipeline (AFRICA) The Tunnels of Gaza (MIDDLE EAST) The Saharan Salt Trade (AFRICA) Ugandans in Iraq (AFRICA & MIDDLE EAST) ・ domestic politics & international issues: (11回-16回) <ul style="list-style-type: none"> Piracy, Somalia & Nigeria (AFRICA & MIDDLE EAST) The Arab Spring (MIDDLE EAST & AFRICA) ・ media & technology: (17回-22回) <ul style="list-style-type: none"> Islamist TV-Al-Aqsa's Mickey Mouse Look Alike (MIDDLE EAST) Neda Soltan & the Iranian election of 2009 (MIDDLE EAST) Al-Alam Goes Off the Air (MIDDLE EAST) ・ culture & social trends: (23回-28回) <ul style="list-style-type: none"> Nigeria's Film Industry: Nollywood (AFRICA) Video: Islam on the March (REGIONAL)/The 99 Heroes of Islam The Diaspora: Bob Marley: "Africa Unite" (AFRICA) ・ Group project presentations: (29回-30回)
----------	---

Students are expected to produce brief written reports and presentations that will serve as the basis for discussion. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.

準備学習	Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.
履修上の留意点	<p>Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join. Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.</p> <p>More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.</p>
成績評価の方法	<p>Evaluations will be based on:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Africa and the Middle East map familiarity (10%) ・ Preparation for and participation in class (40%) ・ Individual presentation(s) prepared for discussion (25%) ・ Group project(s) (25%)
教科書/テキスト	Textbook not required. Material provided by instructor and posted on a dedicated website on the GMS server.
参考書	An up-to-date English-English learner's dictionary is highly recommended.

履修コード	441401
科目名	Integrated English V
担当者名	ボシュエ E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この英語習得の講義では、2段階の目標の達成をねらう。</p> <p>①オンラインでITを介した仮想のインタラクションに比べ、実際に顔と顔を見て、直接コラボレーションする学習がいかに異なるかを体験すること。</p> <p>②教師や指導者が出席している場合と出席していない場合の両方について、グループの場合に比べ、個々の相手とのコラボレーションとインタラクションによる学習がいかに異なるかを体験すること。</p>
---------------------	---

受講生の習得目標

- ▶効果的な文章の書き方、プレゼンテーションの話し方の体験を積む。
- ▶ディスカッションにしっかりと参加するスキルと、ディスカッションを進めるスキルを学ぶ。
- ▶英語の4つの基本スキルであるリーディング（読み）、ライティング（書き）、リスニング（聞き取り）、スピーキング（会話）を上達させる。

授業スケジュール	<p>いま私たちは、人類の歴史上極めて重要な時代を生きています。私たちはすでに自己変革しています。ITその他の技術を媒体とし、それによって繋がる現代社会で、世界をどのように見るか、個人として、グループとしてどんなふうに見えるのか。それぞれの文化やサブカルチャーをどのように見るのか。講義では、こうしたことをみなで一緒に考えます。また、個々の人間の他人との関わり方 学生として、専門家として、同僚として、教師として、そしてグローバルな情報社会の一員として-それぞれの相互関係、コミュニケーションの方法についても考えます。</p> <p>授業は、現実の経験とバーチャルな経験を交互に織り交ぜながら進めます。特に、フェイスブックの歴史と経過、経済面を調べます。</p>
----------	---

受講者は、

- フェイスブックについて、だれが、いつ、何を始めたのか、その歴史と経過を理解する。
- フェイスブックの経済的基盤を調べ、親会社にとっての特別な利益を考察する。
- フェイスブック上の広告に焦点をあて、その調和性や吸引力、カスタマイズ化を分析する。
- ターゲット オーディエンス (target audience) やデータ マイニング (data mining) など、フェイスブックに特有の用語を調べる。

- 第1週: Introduction & Internet in the Home
- 第2週: Understand the history of Facebook
- 第3週: Digital Media in Schools
- 第4週: Explore the economic foundations of Facebook
- 第5週: Social Networking
- 第6週: Analyze how advertising is used on Facebook
- 第7週: Identity Play
- 第8週: Conduct Social Network Survey
- 第9週: Parenting, Privacy and Control
- 第10週: Me, Myself and Avatar
- 第11週: Online relationships
- 第12週: The Disconnection Experiment
- 第13週: Post-viewing
- 第14週: Presentations
- 第15週: Presentations

準備学習	フェイスブックを体験しておくに役立ちます。
------	-----------------------

履修上の留意点	<p>講義は英語で行うため、受講者には常に英語で話すことが求められます。英会話を上達させたい学生には、たいへん有意義な授業となるでしょう。</p> <p>出席日数は不可欠で、遅刻をしないことが求められます。欠席した場合には、その理由を講師に説明すること。同様に欠席予定についても、講師に丁寧に説明して下さい。理由が認められない欠席が3回以上の場合には、成績評価にペナルティ（マイナス点）として加算されます。10分以上の遅刻2回で、欠席1回とします。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>成績評価は、出席日数とディスカッションとプレゼンテーションに関するレポートの内容を基本とします。グループプロジェクトも成績評価で重要な部分を占めます。</p> <p>出席日数: 20%</p> <p>ミニテスト: 20%</p> <p>宿題提出: 20%</p> <p>オーラル（口頭）プレゼンテーション: 20%</p> <p>文章によるプレゼンテーション: 20%</p>
---------	---

教科書/テキスト	教科書の購入はありません。下記の教材を使用しますが、コピーを講師が配布します。
----------	---

- Growing Up Online, documentary, PBS (2008)
- The Social Network, drama, Columbia Pictures (2010)
- 各課題別分析シート: フェイスブックの歴史、ビジネスとしてのフェイスブック、フェイスブックの広告、フェイスブックのゲーム。

参考書	<p>最新の英英辞書の購入を勧めます。あるいは、次のサイトの無料オンライン辞書のOxford Advanced Learners Dictionary を活用してください</p> <p>{http://www.oxfordadvancedlearnersdictionary.com/}</p> <p>この辞書では、各語の米語と英語（イギリス語）の発音が表記されています。会話とオーラルプレゼンテーションの上達には、正しい発音の習得が不可欠です。</p>
-----	--

その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notebook computer 2. USB memory stick
-----	---

履修コード	441501
科目名	Integrated English VI
担当者名	モハメツド. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>This course will focus on representation and meaning of global media texts and images. By looking at recent events, the students will be expected to reflect on how they are framed by news organizations, what meaning the audience takes from them and, how they are formed into the current global narrative.</p> <p>Later in the course, media producers will come under the spotlight, and students will be able to debate the relevancy and legitimacy of these organizations in the modern age. Issues of representation and media bias will form the central themes of this course.</p>
授業スケジュール	<p>Students will be able to understand how objectivity (or lack thereof) defines our reality in a world dominated by the global news media empires. It is how this global narrative is shaped by these organizations that should interest the students. In addition, students will also be exposed to alternative media, mostly featured online, and they will have the opportunity to contrast and compare with mainstream texts and praxis.</p> <p>The majority of class materials will be sent to students by email. The materials will be designed to develop critical thinking skills and will enhance students' ability to interpret the information allowing them a wider understanding of the issues raised.</p> <p>The class schedule will be as follows:</p> <p>Week 1: Introduction and Guidance Week 2: Interpreting the News: Framing and Context Week 3: Social & Political Protest Week 4: Current Global Crises Week 5: Perpetuating Fear Week 6: Religious Fundamentalism Week 7: Election Campaigns Week 8: Sport as Business Week 9: Food Scares Week 10: Hollywood Week 11: Disaster News Week 12: Financial Meltdown Week 13: Project Work Week 14: PRESENTATIONS</p>
準備学習	None. All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be exposed to mainstream media texts as well as alternative materials mostly featured online. In addition to classroom exercises, discussions and group work students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher
履修上の留意点	Participation is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence". Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.
成績評価の方法	Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade. Participation 40% Research & Preparation 10% Quizzes & Discussions 20% Final Project 30%
教科書/テキスト	None. All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be exposed to mainstream media texts as well as alternative materials mostly featured online. In addition to classroom exercises, discussions and group work students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.
その他	Students may contact the teacher by e-mail: komazawapresentation@yahoo.com

履修コード	441601
科目名	Integrated English VII
担当者名	ギャリソン, E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>Media and Fashion</p> <p>The aim of this course is twofold: 1) build knowledge of and interest in fashion through an analysis of the relationship between the fashion industry and the media. 2) develop the ability to engage in research in fashion and media using English sources and materials</p> <p>In addition, students will: 1) gain experience making effective presentations 2) learn the skills required to fully participate in and run discussions 3) develop English language proficiency in the four basic skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>Students will watch, listen to and read English-language media related to fashion and discuss the content and the ways in which it is presented. Subjects of inquiry may include: fashion & various media (TV, movies, magazines, popular literature, social media, etc.); Eco fashion; fashion & economics (including fair trade issues); fashion & international relations; and fashion, media & culture. Students will produce brief but regular written reports and oral presentations that will serve as the basis for discussion and will be required to work on various group projects. Students will be introduced to fashion and media terminology, including media marketing and merchandising concepts in fashion retail and learn to identify the social, economic, and political influences on fashion. The course will also cover market research, consumer behavior, direct marketing, social media, blogs, press releases, and fashion advertising in magazines, books and movies.</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>Weeks 1-2: Introduction: Fashion, Media, & Fashion Journalism</p> <p>Weeks 3-4: How social media is transforming fashion</p> <p>Weeks 5-6: Designers and their works; Media coverage. Group project 1: students will pick the designer, a video of the designer's collection will be provided. The assignment will be to narrate the collection.</p> <p>Weeks 7-8: Fashion in books and movies. Group project 2: Fashion marketing in movies. Presentations and short paper.</p> <p>Weeks 9-10: Street style & Komazawa style. Individual presentations.</p> <p>Weeks 11-12: Fashion and politics: public protests, fair trade, & media coverage. Counterfeit. World cultures and their influences.</p> <p>Weeks 13-14: Waste couture. Fashion and its environmental impact: eco-fashion and animal rights.</p> <p>Week 15: Final presentations: How has media coverage impacted fashion fair trade practices?</p>
----------	---

準備学習	Students should prepare for the class by familiarizing themselves with fashion and media culture.
------	---

履修上の留意点	<p>The course will be taught in English. Students are expected to participate in English at all times. Students committed to developing their English language skills are encouraged to join the class.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>Evaluation of students will principally be based on participation in class and on the quality of reports prepared for discussions and presentations. The group project will also be a major part of the evaluation.</p> <p>Class participation 20% Mini tests 20% HW assignments 20% Group presentation 1: 10% Group presentation 2: 10% Final individual presentation: 20%</p>
---------	---

教科書/テキスト	Purchase of a textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and by the students.
----------	---

参考書	<p>An up-to-date English learner's dictionary is highly recommended. Alternatively, students are encouraged to use the free online Oxford Advanced Learners Dictionary at: http://www.oxfordadvancedlearnersdictionary.com/</p> <p>In addition to definitions, the dictionary provides both British and American</p>
-----	---

pronunciations of entries. Proper pronunciation is essential for effective oral presentation.

関連リンク	http://www.oxfordadvancedlearnersdictionary.com/
履修コード	441701
科目名	Integrated English VIII
担当者名	モハメツド. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>This course will look at the impact advertising has on our lives. Students will be expected to analyze images and texts in order to understand how messages are conveyed through advertising and for what purpose. The students will analyze advertisements in a variety of media settings including: magazines, the Internet, television and newspapers.</p> <p>During the second part of the course, we will look at how some real campaigns allowed companies to define (or in a few cases redefine) themselves in the global or local markets.</p>
授業スケジュール	<p>Students will be able to develop their language ability and broaden their vocabulary repertoire through their exposure to English language advertising. Furthermore, it is expected that students develop their critical thinking ability through the analysis of the advertising business.</p> <p>Students should learn to be culturally aware when viewing materials and be willing to conduct independent research in order to maximize their understanding.</p> <p>Topics will include:</p> <p>Week 1: Introduction and guidance Week 2: What is advertising? (Background and examples) Week 3: Advertising is everywhere (Relationships between the Media and advertising) Week 4: Images and slogans (Meaning and purpose) Week 5: Coca-Cola (Americana goes global) Week 6: Benetton (Social awareness campaigns) Week 7: Nike (Celebrity sponsorship and impact) Week 8: MacDonald's (Strategies for surviving a backlash) Week 9: Apple (structure and style in commercials) Week 10: Controversy and shock value (breaking taboos) Week 11: Spoof campaigns Week 12: Audience and demographics Week 13: Project Work Week 14: PRESENTATIONS</p>
準備学習	Students will be expected to create their own advertising project to be presented to their peers at the end of the course. The topic for this will be decided between the teacher and students during the second half of the course.
履修上の留意点	Participation is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence". Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.
成績評価の方法	<p>Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade.</p> <p>Participation 20% Research & Preparation 10% Quizzes & Discussions 30% Final Project 40%</p>
教科書/テキスト	None. All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be expected to carry out independent research in addition to some pre-class reading assignments. Finally, students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.
その他	Students may contact the teacher by e-mail: komazawapresentation@yahoo.com

履修コード	434701
科目名	Webコンテンツ
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>World Wide Web (以下、Web) は、ハイパーテキストとして必要十分な機能を持つ文書を記述するHTML (Hyper Text Markup Language)、HTMLで記述されたコンテンツを転送するためのHTTP (Hyper Text Transfer Protocol)、そして文書をこの世で重複なく識別するためのURI (Uniform Resource Identifier) の3つの技術によって成立している。これらの技術は時代の変遷と共に、社会のニーズに応じて、発展し続けている。今日、インターネットアプリケーションの多くがWebをベースにして構築されている。たとえば、コミュニケーションスペース、知識の共有空間、オンラインビジネスやオンラインコミュニティのインフラ、共同作業の実践空間など、様々な方向へと発展的に進化し続けている。</p>
---------------------	--

	<p>(到達目標)</p> <p>第一にWebの構造と機能を深く理解し、有効なグローバルメディア空間として活用していく方法について習得する。具体的には、Webシステムの基本アーキテクチャ、Webコンテンツを記述するHTML、画面構成を記述するスタイルシートとそれを記述するCSS、HTMLとCSSによって構成された画面をオブジェクトとして捉えるモデルDOM、アプリケーションを記述する言語JavaScriptとそのインターフェースを用いたプログラミングを取り上げる。第二に、サーバサイドで様々な処理を行うプログラミング言語PHPについて学ぶ。最終的に、これらを組み合わせたWebサイトを構築する</p>
--	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ガイダンス 2) Web技術の概要、制作準備 (サーバ構築パッケージのインストール) 3) HTMLとCSSによるWebページの制作 (1) 4) HTMLとCSSによるWebページの制作 (2) 5) HTMLとCSSによるWebページの制作 (3) 6) Webサーバとサーバサイドプログラミング (1) 7) Webサーバとサーバサイドプログラミング (2) 8) Webサーバとサーバサイドプログラミング (3) 9) Webサーバとクライアントの連携 (1) Cookieの利用 10) Webサーバとクライアントの連携 (2) Sessionの利用 11) JavaScriptによるDOMプログラミング (1) 12) JavaScriptによるDOMプログラミング (2) 13) 総合実習 (1) ~これまで学んだことを使ったWebサイト構築~ 14) 総合実習 (2) ~これまで学んだことを使ったWebサイト構築~ 15) Webコンテンツ まとめ
----------	--

準備学習	<p>情報リテラシー、情報リテラシー実習を履修していること。 また、コンピュータ・ワークショップやWebコンテンツデザイン各論、Webコンテンツデザイン演習、マルチメディアコンテンツデザイン各論、マルチメディアコンテンツデザイン演習などを履修することで、さらに高度なWebコンテンツの作成が可能になる。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>毎回、授業支援システム上の「講義日誌」に、受講した講義の要約とコメントを記述する。なお、講義中に時間は設けないので、授業時間外に記述すること。 就職活動や部活動などやむを得ない事情で欠席した場合は、「講義日誌」にその旨を記述して提出すること。なお、証明書類や依頼状などの提出は不要である。 講義で利用する資料は、授業支援システムに電子的に掲載するため、講義中にインターネットに接続し資料を閲覧できるようにしておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>レポート提出や定期試験は行わず、平常点のみで評価を行う。 平常点は毎回記述する「講義日誌」と、出題される課題、そして最終的に作成したWebサイトの出来を総合的な評価によって判定する。なお、履修者の理解度に応じて、予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>授業支援システムに公開する。</p>
----------	-----------------------

参考書	<p>HTML5とCSS3の記述方法を段階的に学ぶ副読本として、以下を参考書とする。 ・スタジオイ・スペース「HTML5+CSS標準テキスト」技術評論社 2,180円 ISBN978-4-7741-4478-8</p>
-----	---

	<p>HTML5に新たに加わった機能を網羅的に学ぶ副読本として、以下を参考書とする。 ・小山田晃浩他「Webデザイナー/コーダーのためのHTML5コーディング入門」株式会社エクスナレッジ 3,200円 ISBN978-4-7678-1107-9</p>
--	--

	<p>ページデザイン、サイトデザインを含む「デザイン」の考え方や基礎知識を学ぶ不工藤本として、以下を参考書とする。 ・矢野りん「ウェブデザインのつくり方、インターフェイスデザインの考え方。」McN 2,300円 ISBN978-4-8443-6222-7</p>
--	---

その他	<p>各自のノートPCにWebサーバを構築するため、WAMPあるいはMAMPと呼ばれるサーバ構築パッケージをインストールする。 質問などがある場合はオフィスアワー (水曜日 13:00~14:30 第一研究館6階1615) を利用すること。</p>
-----	--

関連リンク	<p>http://minamilab.jp/gms/</p>
-------	--

履修コード	436781
科目名	Webコンテンツデザイン演習
担当者名	吉田 尚史
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツの制作を実践し、デザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法など各論1で得た知識を確実なものとする。XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理を用いて、Webページの作成実践を行う。また、動画像の制作実践、携帯電話その他の機器用のWebコンテンツの制作実践も行う。</p> <p>(到達目標) HTMLとCSSを中心としたWebコンテンツを自らデザインする技法を実習を通じて習得することを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>下記のスケジュールに沿って、オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを用いて、主として実習により、コンテンツデザインの実際を学ぶ。</p> <p>第1週～第4週：導入と基礎 - World Wide Web 概要、WWWページアップロード実習 - WWW批判的閲覧実習 - XHTMLとCSS、HTMLからXHTMLへの変換実習、文法チェック - ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクスSMILとSVG実習</p> <p>第5週～第8週：Webコンテンツ処理 - Inkscape によるベクター・グラフィクス実習(1) - Inkscape によるベクター・グラフィクス実習(2) - GIMP によるビットマップ・グラフィクス実習(1) - GIMP によるビットマップ・グラフィクス実習(2)</p> <p>第9週～第13週：Webコンテンツ応用 - JavaScriptによる動的Web Page実習(1) - JavaScriptによる動的Web Page実習(2) - Flash コンテンツ作成実習(1) Suzuka - Flash コンテンツ作成実習(2) トウイーン - Flash コンテンツ作成実習(3) Action Script</p> <p>第14～15週：まとめとレポート - Webコンテンツデザインまとめ - レポート出題・解説</p>
準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。
履修上の留意点	<p>「Webコンテンツデザイン各論」と同時に履修すること(2時限連続した授業である)。「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆるWindows環境のみで動作するソフトウェアを用いる。</p>
成績評価の方法	講義における平常点(課題など、50%)、最終レポート(作品・コンテンツ、50%)により評価する。
教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	436761
科目名	Webコンテンツデザイン各論
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法などについて学ぶ。実際には、XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリーンによるユーザーエージェント側での高度な処理について学ぶ。また、動画画像や、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。</p> <p>(到達目標) HTMLとCSSを中心としたWebコンテンツを自らデザインする技法の原理を習得することを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記のスケジュールに沿って、主として理論を習得する。 オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを用いたコンテンツ作成も行う。</p> <p>第1週～第4週：導入と基礎となる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> - World Wide Web 概要, 要素技術・原理 - XHTMLとCSS - SMILとSVGの基礎 - ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクス <p>第5週～第8週：Webコンテンツ処理</p> <ul style="list-style-type: none"> - Inkscape によるベクター・グラフィクス作成(1) - Inkscape によるベクター・グラフィクス作成(2) - GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成(1) - GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成(2) <p>第9週～第13週：Webコンテンツ応用</p> <ul style="list-style-type: none"> - JavaScriptによる動的Web Page(1) - JavaScriptによる動的Web Page(2) - Flash コンテンツ作成(1) Suzuka - Flash コンテンツ作成(2) トウイーン - Flash コンテンツ作成(3) Action Script <p>第14～15週：まとめとレポート</p> <ul style="list-style-type: none"> - Webコンテンツデザインまとめ - レポート出題・解説
----------	---

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。
------	---

履修上の留意点	<p>「Webコンテンツデザイン演習」と同時に履修すること(2時限連続した授業である)。「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆるWindows環境のみで動作するソフトウェアを用いる。</p>
---------	--

成績評価の方法	講義における平常点(50%)、最終レポート(50%)により評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	433201
科目名	英語圏文学概論
担当者名	佐藤 アヤ子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>「世界文学」という言葉さえ使われる昨今、文学の世界の境界はますます低くなっています。英語はイギリス、アメリカのみならず、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、カリブ諸国、およびアフリカ、アジア等の一部の国々で公用語として用いられています。本授業では、「英語圏文学」という文学地図で英語圏の文学を講義します。</p> <p>また、今日世界で生活する人々の四分の三以上の生活は、過去の植民地主義体験によって形作られたものであるとされています。世界の英語圏の国々も、かつてはイギリスの植民地でした。そして、このことがさまざまな民族の知覚や認識の枠組みに与えた影響は計り知れません。本授業では、こういった時代背景を学びながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、カリブ諸国およびアフリカで今日活躍する英語圏作家が提示するさまざまな問題を考えていきます。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語圏文学概観 2. イギリス文学概論 1 3. イギリス文学概論 2 4. イギリス文学作品鑑賞 5. イギリス文学作品鑑賞 6. アメリカ文学概論 1 6. アメリカ文学概論 2 7. アメリカ文学作品鑑賞 8. アメリカ文学作品鑑賞 9. カナダ文学概論 1 10. カナダ文学概論 2 11. カナダ文学作品鑑賞 12. カナダ文学作品鑑賞 13. 英語圏アフリカ文学概論 14. オーストラリア文学概論 15. 英語圏文学総括
----------	--

準備学習	授業で指定された作品を精読しておくこと。
履修上の留意点	授業で取りあげる作品は事前に読んでおくこと。
成績評価の方法	連続して授業に出席することを受講の条件とし、授業への参加、提出レポート等を総合的に評価します。
教科書／テキスト	<p>ミシェル・マルク・ブシャール作・佐藤アヤ子訳『孤児のミュージズたち』、彩流社、1500円、ISBN978-4-88202-891-8-C0097</p> <p>アンル・フガード作・福田逸訳『谷間の歌』、而立書房、1500円 ISBN4-88059-258-7-C0074</p>
参考書	ビル・アッシュクロフト他著『ポストコロニアルの文学』（青土社）

履修コード	435011
科目名	映像産業論
担当者名	高橋 直治

授業概要/
到達目標 (ねらい) (授業概要)
映画が誕生して100余年、今やスマートフォンで誰もが何処でも映画が作れる時代になった。そして、「映像」は、いまや世界のあらゆるところに遍在し、社会の隅々にまで入り込み、我々の「精神／身体」のみならず、「生」そのものを形成／統治しているとさえいえる。

それは「映像」自身が、「産業化」してきたからに他ならない。
「映像」が、「産業」として、「産業」とともに、拡張・変容を続けてきたことによる。

いまやグローバル経済の一翼を担う、複雑にグローバル化する「映像産業」と、より巧妙に浸透拡散を続ける「産業化された映像」。その具体的な事例を取り上げ、「社会」「文化」「生」に及ぼしている影響を批判的に検証する。

(到達目標)
そのうえで、あり得るかもしれない、もう一つ別な、オルタナティブな「映像と文化」のあり方を各自が提案するところまで行きたい。

尚、80年代～00年代にかけての、日本のテレビ局での講師自身の映像制作体験も織り交ぜながら、実践的な話も交えつつ、ワークショップ形式の授業になる予定。

授業スケジュール	第一週 オリエンテーション (授業の進め方 講師紹介) 第二週 YouTube時代の「映像とは何か？」① 或いは、複製技術時代の芸術 第三週 YouTube時代の「映像とは何か？」② 或いは、私的と公的のパラドクス 第四週 YouTube時代の「映像産業とは何か？」① 或いは、文化産業-大衆欺瞞としての啓蒙 第五週 YouTube時代の「映像産業とは何か？」② 或いは、自由と貧困のパラドクス 第六週 歴史的視座で「映像」を考える① 或いは、文化的差異のグローバルな共有システム 第七週 歴史的視座で「映像」を考える② 或いは、文化帝国主義批判 第八週 歴史的視座で「映像産業」を考える① 或いは、文化のグローバル化-近代の拡散 第九週 歴史的視座で「映像産業」を考える② 或いは、文化産業のグローバル化 第一〇週 日本という場における「映像産業」① 或いは、米占領政策と日本映画産業 第十一週 日本という場における「映像産業」② 或いは、米占領政策と日本のテレビ産業 第十二週 日本という場における「映像産業」③ 或いは、日本映画の国際化とその矛盾 第一三週 「もう一つ別な映像／生の在り方」を求めて① 或いは、いま「パブリックな映像」とは？ 第一四週 「もう一つ別な映像／生の在り方」を求めて② 発表 第一五週 まとめ
----------	--

適宜、具体的な映像を参考上映していきながら、ワークショップ形式で進めていきます。

準備学習	前期に「表象メディア論」を履修していることが望ましい。
履修上の留意点	現代思想や文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度学んでいることが望ましい。グループでの話し合いなど、「他者との対話」を積極的に楽しめることが望ましい。
成績評価の方法	授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末レポートの結果で総合的に評価する。
教科書／テキスト	テヅカヨシハル著 映像のコスモポリティクス：グローバル化と日本、そして映画産業、せりか書房
参考書	講義進行にあわせて適宜指定・配布します。 アドルフ・ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』、ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術』、アンソニー・ギデンス『暴走する世界—グローバル化—は何をどう変えるのか』等

履修コード	435611
科目名	エスニシティの文化心理学
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 異文化の入りととのスムーズなコミュニケーションのありかたを心理学的、メディア社会学的な観点から考察します。 (到達目標) ①異文化間コミュニケーションの理論を理解する。 ②在日外国人の実態を概括する。 ③エスニック集団のためのメディアの実態を把握する。 ④エスニック集団のためのメディアの機能を把握する。 ⑤マジョリティ、マイノリティの見解の違いを理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	1: 異文化間コミュニケーション概説 2: 在日外国人の増加 3: 在日外国人の実態① 4: 在日外国人の実態② 5: 在日外国人の実態③ 6: 日本人の国際移住: ブラジルの事例 7: ブラジルの日本人 8: ブラジルの日系人 9: アメリカにおける文化摩擦 10: 在日エスニック・メディアの実態① 11: 在日エスニック・メディアの実態② 12: 文化変容の理論① 13: 文化変容の理論② 14: マジョリティ学 15: まとめ
----------	--

準備学習	GMSの授業支援システムの当該授業のページに英文の資料をはじめパワーポイントのスライドをアップしておくので、前もって読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	授業中にしばしば課題エッセイを書かせる。その対応として、授業支援システム上の英文の資料を読了しておくこと。 なお、授業中にしばしば質問を發します。率先して挙手して答えること。
---------	--

成績評価の方法	授業時間中にしばしばエッセイを課す (5回程度の予定)。授業中にしばしば質問する。 エッセイの評価: 80% 授業への参加度 (質問への回答の量と質): 20%
---------	--

教科書/テキスト	授業支援システムに英文などの資料を掲示し、さらにパワーポイントのスライドやビデオを用いる。
----------	---

参考書	白水繁彦『エスニック・メディア研究』明石書店、2004年 白水繁彦編『エスニック・メディア』明石書店、1998年 Rogers, E.M. et al, INTERCULTURAL COMMUNICATION, Waveland Press, 1999.
-----	---

その他	英文資料を何度も読了しなければならないので、その覚悟がないと修得はむずかしい。さらに、課題が頻繁に課される。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。
-----	--

履修コード	419321
科目名	演習1a
担当者名	アシュウェル, T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This seminar class will provide learners with a general introduction to the study of language in use. Some aspects of linguistics will be touched upon, but the main focus is the use of language in society, particularly the use of language in the media and on the Internet. By taking this course, it is intended that students will gain a greater sensitivity to the use of language in society and how it maintains and reinforces social roles and power relationships.
授業スケジュール	In Enshu 1a, general topics of interest in language use such as child language acquisition, language variety and multilingualism will be discussed. Basic linguistic concepts in areas such as phonology, syntax/grammar and lexis will be introduced. These topics will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.
準備学習	None
履修上の留意点	Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.
成績評価の方法	Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.
教科書/テキスト	フロムキン, V., ロッドマン, R. & ヒアムズ, N. (2006) フロムキンの言語学 (第7版) トムソン ラーニング (ISBN 4-86100-422-5 C3087)
参考書	As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
その他	See the 演習1a (Ashwell) page on the GMS Course Management System for information and materials.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	418101
科目名	演習1a
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、グーグルの 안드로이드などのスマートフォンが登場し、大きな注目を集めている。 高速モバイル通信機能 (LTEなど)、各種センサー機能 (位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能 (Bluetooth、無線LAN) などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術 (ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など) についても学習する。また、携帯電話事業者、メーカ、サービス事業者 (ソーシャルメディア等) などのビジネス戦略についても学ぶ。 (到達目標) 上記の幅広いケータイを中心とした授業内容から、自ら、レポートのテーマを設定して調査を行い、調査結果を発表するとともに、前期レポートを作成する。
授業スケジュール	第1~4回: ケータイ中心とした最新IT動向に関する調査。特に、新しいケータイの動向 (アップル、グーグル等のスマートフォン等)、新しいサービスの動向 (拡張現実、ソーシャルメディア等) について詳しく調査。 第5~8回: ケータイ向けWebコンテンツ作成技術 (XHTML等) の調査と、作成環境の構築。 第9~12回: ケータイ向けWebコンテンツの作成実習。各自 (又はグループ) で自らテーマを設定し、レポートを作成。 第13~15回: 作成したケータイ向けWebコンテンツ及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。
準備学習	インターネット上のWebページ等を利用して、ケータイを中心としたIT業界の最新の動向をよく調べておくこと。
履修上の留意点	情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年での履修を前提とする。
成績評価の方法	レポート (前期レポート) 70%、平常点 (授業での積極的な発言、研究発表など) 30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。
その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。

履修コード	418801
科目名	演習Ia
担当者名	石橋 直樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。 本演習では、情報技術の立場から、時勢に先じた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。 (到達目標) World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行い、各自の興味に応じたシステム企画・設計を行なう。</p>
授業スケジュール	<p>Iaは特に、文献調査・輪講を通じて社会情勢を読む視野を広げ、同時に、演習を通じてシステム構築の基礎を学ぶことを目標とする。 1週～4週：文献調査 (brainstorming) 5週～8週：プログラミング実習 (skill acquisition) 9週～：システム設計実習 (governance design)</p>
準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、Ibと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。
成績評価の方法	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
教科書／テキスト	<p>Scott Guelich(著), Gunther Birznieks(著), Shishir Gundavaram(著), 田辺 茂也(訳), 大川 佳織(訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001) Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), Brian D. Foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009) Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003) D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011) D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011) Mark Pilgrim(著), 矢倉 眞隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011) 高塚 遙(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社(監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)</p>
参考書	<p>Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012) Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一(訳): 「サバティスタの夢」, 現代企画室, (2005) E. H. Carr(著), 清水 幾太郎(訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962) Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008) J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006) Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998) 滝沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985) William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, 七つ森書館, (2006)</p> <p>(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007) (株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)</p>

履修コード	418301
科目名	演習Ⅰa
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問追求の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、現実の企業研修に利用されているビジネス・シミュレーション・ゲーム(企業経営模擬実験)をチームに分かれて行う。会社の創立から株主総会の開催(ゲームの最終段階)、経営幹部反省会(コンパ)まで、企業経営の一連の流れを体感し、意思決定の難しさ、チームワークの重要性を実感してもらう。</p>
----------	---

準備学習	<p>グループワークが主体で進めますので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。課題図書、参考文献の発表準備、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。</p>
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	<p>ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>年に数冊。 適宜指示する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。</p>
----------	---

参考書	<p>あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。</p>
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。
-----	--

履修コード	417801
科目名	演習Ⅰa
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この演習では、社会学、特に文化社会学に関する知識と方法を習得することを目標とする。具体的には、社会学の概念的知識と基本的な理論などを事前に学んだうえで、実際に、履修者の関心に合わせて、実際に調べてデータを集め、分析してみることである。そのためには、自分自身でしっかりと研究関心を持ち、社会学のテキストブックを数冊マスターする必要がある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習は、大きく分けて、事前の社会学に関する講義とゼミ生による発表とに分けられる。</p>
----------	---

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学とは何か? 2. 社会学的方法について。 3-14. 社会学テキストに関する発表。(なお、何を購読するかは、いくつかの候補の中から、ゼミ生と相談して決める予定である。) 15. まとめ
------	---

準備学習	<p>配布された資料については、事前にしっかりと読んで、質問や自分の意見・コメントを考えておくこと。また、発表する際には、事前にファイルを教員やゼミの他のメンバーに送付しておくこと。また、配布資料は早めにコピーを取ること、当日のプレゼン発表の準備は早めにしておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>個の授業は演習であるので、出席は前提で、なおかつ、事前の準備をきちんとすることが求められる。また、授業では積極的なコミットメントが求められていることはもちろんである。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>数回にわたる発表、平常点、プラス期末のレポートにより評価する。なお、配転は、発表の回数などにより多少変わることもある。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に指定しない。</p>
----------	-----------------

参考書	<p>授業内で適宜指示する。</p>
-----	--------------------

履修コード	418901
科目名	演習Ⅰa
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本演習では、プレゼンテーションの基礎技術を習得する。プレゼンテーションの内容は、知的財産に関する幅広いトピックの中から各自で選択する。効果的なプレゼンテーションの技術を講義で学び、実際にプレゼンテーションを行ってその技術を習得していく。</p> <p>(到達目標) プレゼンテーション技術の習得を主目標としながら、情報収集など初歩的な調査技術についても習得を目指す。とくに、英語での情報収集に慣れる目的から、英文経済雑誌Businessweekから記事の一つを選んでその内容をまとめて発表する、というのが一つのプレゼンテーション・トピック。コンテンツ(映画、アニメ、マンガ、音楽など)、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権・商標権侵害など、知的財産に関するものの中から、自分の関心のある記事を教員と相談しながら探す。二つ目のプレゼンテーションについては、自分が選択した記事と関連する事項を独自に調べ、その調査報告を行うことで、調査技術も合わせて習得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 「イントロダクション」全体説明 第2回 「練習プレゼンテーション準備」 第3回 「練習プレゼンテーション」 第4回 「講義」プレゼンテーションの技術について 第5回 「記事選択」 第6回 「記事の読み込み」 第7回 「発表準備」 第8回 「発表準備」 第9回 「記事内容の報告(1)」 第10回 「記事内容の報告(2)」 第11回 「図書館データベースの使い方講習」 第12回 「発表準備」 第13回 「発表準備」 第14回 「独自調査内容の報告(1)」 第15回 「独自調査内容の報告(2)」</p>
----------	--

準備学習	MS PowerPointの基本操作に関する知識を前提とする。
履修上の留意点	発表の回については、各自の発表後に全員でディスカッションを行う。
成績評価の方法	発表×2: 50% ディスカッションへの参加度合い: 50%
教科書/テキスト	藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』、講談社ブルーバックス、800円+税、ISBN4-06-257387-3
参考書	

履修コード	417701
科目名	演習Ⅰa
担当者名	クボタ L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.
授業スケジュール	This seminar will meet during three periods. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.
準備学習	Read articles on producing new media.
履修上の留意点	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
成績評価の方法	Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.
教科書/テキスト	There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.
参考書	Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	419001
科目名	演習I a
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「Softbank携帯のCMになぜ白い犬と黒人が出ているか?」、「宮崎アニメが海外でも人気の秘密とは?」。本演習では、上記のような素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く手法を習得するとともに、グループワークでの映像制作を通じて、情報を発信する能力を養う。また、後期の演習I bに向けて各自研究テーマを選定することが求められる。</p> <p>(到達目標) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、グループワークやプレゼンテーションを通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行います。具体的には、(1)二つ以上の新聞記事を読み比べる「News Watching」を通じて、メディア分析力を養うこと (2) 先行研究の概要を整理する「自由発表」を通じて、緻密な調査力と論理的思考力を磨くこと。 (3) グループワークによる映像制作を通して、企画力、組織力及びメディア構成力を高めること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「News Watching」「自由発表」「グループワークでの映像制作」を概説する 第2～4回 News Watching: 同じ日付けの二つ以上の新聞記事の紙面を読み比べ、発表を行う 第5～8回 関心を持つテーマの先行研究について各自調査、発表する 第9～13回 グループワークでの映像制作 第14回 グループワークの映像発表 第15回 総括</p>
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	--

成績評価の方法	<p>授業時の発言と討論への参加状況の評価: 30%</p> <p>レスポンスカードの内容の評価: 30%</p> <p>研究発表: 40%</p>
---------	--

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。
-----	--------------------------

履修コード	419101
科目名	演習I a
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	・国際関係論、国際関係史の基礎を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義の内容 前期は日本を中心とした国際関係史の文献輪読、発表を中心とし、関連する映像・メディア作品や、毎週課される課題に基づくディスカッションを行う。</p> <p>授業の形式： (1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。</p> <p>授業スケジュール</p> <p>1回目 ガイダンス 2回目 国際関係史 1 幕末から明治維新 3回目 国際関係史 2 文明開化から日清戦争 4回目 国際関係史 3 日露戦争から第1次世界大戦 5回目 映像分析 1 6回目 国際関係史 4 戦間期 7回目 国際関係史 5 太平洋戦争期 8回目 国際関係史 6 占領期 9回目 映像分析 2 10回目 国際関係史 7 55年体制形成期 11回目 国際関係史 8 高度成長期 12回目 国際関係史 9 1980年代 13回目 映像分析 3 14回目 国際関係史 10 1990年代 15回目 まとめ 21世紀の世界と日本、そして我々 ※とりあげる内容や順番は、若干変更することがあります。</p>
----------	--

準備学習	ゼミ論研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。国際関係史については、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの上、課された課題をグループで準備する。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	--

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・アンドリュー・ゴードン、森谷文昭訳『日本の200年』上・下、みすず書房、2006年、4622072467&4622072475 ・授業中に随時指示。
----------	--

参考書	・授業中に随時指示。
-----	------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・多種多様なゲストを迎える「囲心会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミなどを随時開講予定。参加可能な場合には参加すること。 ・夏季合宿(7月末から8月初旬)は原則として全員参加。
-----	--

履修コード	418001
科目名	演習I a
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の方法を学ぶ 社会学の考え方、社会調査の方法などの基礎を学ぶ
---------------------	--------------------------------------

授業スケジュール	<p>1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②テキスト輪読グループ分け</p> <p>2～3回目 図書館の利用法など</p> <p>4回目～14回目 テキストの輪読、プレゼンテーション</p>
----------	--

準備学習	テキストの事前学習は必須
------	--------------

履修上の留意点	絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。
---------	--

成績評価の方法	演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。
---------	--

教科書/テキスト	配付する
----------	------

参考書	授業中に指定する
-----	----------

その他	能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。
-----	-----------------------

履修コード	419351
科目名	演習Ⅰa
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 このゼミでは、異文化コミュニケーションを扱う。3年間を通じたゼミの目標を一言で言うと、「異文化」に対する寛容性を養い、異文化コミュニケーション能力を上達させる」である。2年次においては、まずは異文化コミュニケーションの基本概念を学ぶとともに、自分達の興味に応じて調査を行う予定の3年次に備え、調査方法やプレゼンの方法等を学んでいく。そして3年次以降は、実際に興味に応じた調査・発表・レポート作成を行っていく。</p> <p>2、到達目標 ゼミ全体を通じ、ステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、「異文化」に対する寛容性を養いコミュニケーション能力を上達させていくことを目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	1-5回： 大学生としてのマナー、言葉遣い、勉強方法について 6-15回： 異文化コミュニケーションの基本概念について
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>(1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は必ず事前に担当教員に連絡すること。</p> <p>(2) ゼミ該当曜日(水曜日)は、授業後に他の予定(バイト、サークル等)を入れないこと。</p> <p>(3) 夏の合宿(場所、時期等については、可能な限りゼミ生全員の予定に不都合が出ないよう、クラスで相談)に参加すること。</p> <p>(4) 受け身で教わるだけではなく、好奇心をもって積極的に自分で体験したり調べたりする姿勢をもつこと。</p> <p>(5) 諦めないで忍耐強くコツコツ頑張る姿勢をもつこと。</p> <p>(6) 一方的に教えてもらうだけでなく、ゼミのために積極的に汗を流し貢献するよう努力すること。</p> <p>(7) 担当教員の指示を守り、困ったことがあれば相談すること。</p> <p>(8) 演習I abセットで履修すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点100% (課題発表、授業への貢献、努力)
---------	--------------------------

教科書/テキスト	八代京子他、『異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる(改訂版)』、三修社、2,900円+税、ISBN978-4-384-01243-9
----------	---

参考書	適宜資料を配布する。
-----	------------

その他	文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。
-----	-------------------------

履修コード	418601
科目名	演習Ⅰa
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。</p> <p>メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。</p> <p>また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。</p> <p>後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。</p>
----------	---

準備学習	メディア産業における新たなサービスなどについて、事業者の立場で理解するように心がけること
------	--

履修上の留意点	テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	平常点70% レポート30%
---------	----------------

教科書/テキスト	随時指示する。
----------	---------

参考書	随時指示する。
-----	---------

履修コード	418201
科目名	演習Ⅰa
担当者名	福家 秀紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) インターネットや携帯電話などの仕組みと、これらが情報メディア産業に与える影響などについての基礎的な文献学習を進めます。なおこれらの学習を通して、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などについて学習します。</p> <p>(到達目標) インターネットと携帯電話の基本的な仕組みと、情報メディア産業に与えるインパクトについて、基本的に理解することを目標とします。同時に、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>前半はインターネットと携帯電話に関する基礎的な文献の輪読を中心に進め、後半は、各自の個人研究のテーマと問題意識の発表を中心にします。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。</p> <p>① ガイダンス ②～⑥ 文献輪読 ⑦～⑭ 個人研究のテーマと問題意識の発表 ⑮ まとめ</p>
準備学習	<p>各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。 また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。</p>
履修上の留意点	<p>原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、情報メディア産業論Ⅰを履修することが望ましい。 夏休みに期末レポートの発表会を兼ねた合宿を行います。</p>
成績評価の方法	<p>発表、議論への参加状況の評価：50% 期末レポート：50%</p>
教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4 ・新聞・雑誌記事なども適宜使用します。
参考書	<p>講義の中で個人研究のテーマに応じて、適宜紹介します。</p>

履修コード	417901
科目名	演習Ia
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) インターネットの技術と社会 (I) 今日の情報社会はインターネットを基盤とした階層的な構造として捉えることができる。その最上位は我々が存在する実社会であり、そこに提供される様々なサービスである。その最下位は物理的なデータ伝送を行う媒体である。 このようにインターネットを階層的な構造としてみることで、各層の役割とその上下のそうとの関わり合いを局所的に捉える。そこから、インターネットを通じたコミュニケーションにおける問題点や課題を探る。</p> <p>(到達目標) 第一にインターネットとそのサービスを実現する要素を技術的側面から理解する。第二に社会におけるコミュニケーションやサービスを意味的に理解する。最終的には、インターネット技術と社会の有り様を議論し、それを考える力を身に付ける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ガイダンス 2) 学習・研究目標設定 3) インターネットの技術的理解 (1) 4) インターネットの技術的理解 (2) 5) インターネットの技術的理解 (3) 6) 学習・研究進捗確認 (1) 7) プログラミング実習 (1) 8) プログラミング実習 (2) 9) プログラミング実習 (3) 10) 学習・研究進捗確認 (2) 11) インターネットサービス (1) 12) インターネットサービス (2) 13) インターネットサービス (3) 14) 学習・研究評価 15) まとめ
----------	--

準備学習	情報リテラシー、情報リテラシー実習を履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
------	--

履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
---------	--

成績評価の方法	成績は、平常点として日常の活動およびプロジェクトの実績による評価 (50%) とレポートとして学期末に発表した成果報告による評価 (50%) を合わせて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	<p>インターネットの技術を体系的に学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長橋賢吾「これならわかるネットワーク — インターネットはなぜつながるのか? (ブルーバックス)」 講談社 ISBN-13: 978-4062575997 <p>インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村井純「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277 <p>インターネットの構造や運用の実際を理解した後、より実践的な知識を学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきみち、空閑洋平「インターネットのカタチ—もろさが織り成す粘り強い世界」 オーム社、2011年6月、ISBN-13: 978-4274068249
-----	--

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	418701
科目名	演習Ⅰa
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、小さなプロジェクト、企業との連携によるプロジェクトなどを通じて実践することで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。</p>
---------------------	--

	<p>【到達目標】 企業の一員として小さくてもプロジェクトを分担して遂行できる力を身につけるため、資料を読んで理解すること、議論して合意形成すること、分担して結果を出すことを目標とします。</p>
--	---

授業スケジュール	<p>共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。</p> <p>1 共通プログラム</p> <p>第1回～第10回 企業経営・ファイナンスについての学習 課題図書輪読、講義、実習</p> <p>第5回～第15回 グループ討論、プレゼン練習</p> <p>2 個別プログラム</p> <p>複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、企業との連携等の関係があるため、時期及び内容は変わる場合があります。昨年の活動内容については、ゼミ公式ブログ「こち駒」を参照してください。 [http://www.kochikoma.nete/blog/]</p> <p>①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営 ②出版関連 書籍制作及び販売 ③ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツイベント運営他 ④動画関連 動画番組の制作 ⑤イベント関連 各種イベントの企画・運営</p>
----------	---

準備学習	<p>事前に指示した資料等は必ず読んできてください。各プロジェクトにあたっては、指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>通年、3年間継続履修を原則とします。「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。その他、次の点に留意してください。</p> <p>①このゼミは、人によってやるべきことが違うことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。</p> <p>②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていけばいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。</p> <p>③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。</p> <p>④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならないケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。</p>
---------	--

成績評価の方法	以下の通り。
---------	--------

	<p>課題やプロジェクトなどにおけるパフォーマンス及び貢献 50%</p> <p>ゼミ活動全般への参加状況 50%</p>
--	---

教科書/テキスト	<p>國貞克則著「図解決算書がスラスラわかる財務3表一体理解法 超入門編」(朝日新聞出版、2010年) 1,000円 ISBN: 978-4022723970</p>
----------	---

	<p>この他使用する資料については、活動内容を臨機応変に変えていくため、あらかじめ指定はしません。活動内で使用する資料等は配布する他、書籍の購入を指示することがあります。</p>
--	---

参考書	
-----	--

履修コード	419301
科目名	演習I a
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習Iaでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1週～第4週：導入と基礎となる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> - IT系の学会の資料についての学習 - プログラミング実習 - 教科書に沿った学習 - 研究プロジェクト紹介 - PowerPoint作成実習 - 日本語Academic Reading - 日本語Academic Writing - 日本語Academic Presentation - デイベート <p>第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> - 計画発表会 - ディスカッション - デイベート - PowerPoint作成実習(継続) - 日本語Academic Reading(継続) - 日本語Academic Writing(継続) - 日本語Academic Presentation(継続) <p>第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備</p> <ul style="list-style-type: none"> - プログラミングによるシステム試作 - 発表会 - ディスカッション <p>第14～15週：最終発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> - 発表会
----------	---

おおよそそのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。
その他最新情報は、次のWebページに掲載している。

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」、の授業と関連して授業を行う。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	積極的な参加および発表会やデイベートにおける発表により評価する。
教科書／テキスト	授業において指示する。
参考書	
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/

履修コード	419201
科目名	演習Ⅰa
担当者名	リンスキー. M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
---------------------	---

授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
----------	---

準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for essays and presentations, which we will discuss in the seminar.
------	--

履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.
---------	--

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
---------	--

教科書/テキスト

参考書

履修コード	421121
科目名	演習Ⅰb
担当者名	アッシュウェル. T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aims of this seminar class are the same as for the Enshu 1a class.
---------------------	--

授業スケジュール	In Enshu 1b, the focus will be on how language in use can be analyzed. We will learn about pragmatics (語用論) and discourse analysis (談話分析). We will also do some practical analysis of texts. Towards the end of the semester, students will engage in a group project in which they will analyze a text using the linguistic tools they have learned about. Individuals will write up the group project and submit a final report. These topics will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.
----------	--

準備学習	None
------	------

履修上の留意点	Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.
---------	--

教科書/テキスト	ジェニー・トマス (1998) 語用論入門: 話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味。研究者出版
----------	--

参考書	As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
-----	---

その他	See the 演習Ⅰb (Ashwell) page on the GMS Course Management System for information and materials.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	419901
科目名	演習I b
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、グーグルのAndroidなどのスマートフォンが登場し、大きな注目を集めている。</p> <p>高速モバイル通信機能 (LTEなど)、各種センサー機能 (位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能 (Bluetooth、無線LAN) などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術 (ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など) についても学習する。また、携帯電話事業者、メーカ、サービス事業者 (ソーシャルメディア等) などのビジネス戦略についても学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>上記の幅広いケータイを中心として授業内容から、演習Iaの成果に基づいて、後期レポートのテーマを設定して調査、研究を行い、調査、研究の成果を発表するとともに、後期レポートを作成する</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1~4回：高速モバイル通信機能 (LTEなど)、各種センサー機能 (位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能 (Bluetooth、無線LAN) などのケータイ向け新技術に関する調査、研究。携帯電話事業者、メーカ、サービス事業者のビジネス戦略の調査。近未来ケータイ、近未来サービスに関する自由な議論。</p> <p>第5~8回：ケータイ向けアプリケーション作成技術 (Flash, Android, JavaScript等) の調査と作成環境の構築。</p> <p>第9~12回：ケータイ向けアプリケーションの作成実習。各自 (又はグループ) で自らテーマを設定し、レポートを作成。</p> <p>第13~15回：作成したケータイ向けアプリケーション及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。</p>
----------	---

準備学習	演習Iaで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年での履修を前提とする。
成績評価の方法	レポート (後期レポート) 70%、平常点 (授業での積極的な発言、研究発表など) 30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。
その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。

履修コード	420601
科目名	演習I b
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。</p> <p>本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行い、実システムのプロトタイプ完成を目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>Ibでは、特に、モバイル端末を対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。</p> <p>1週～3週：文献調査 (brainstorming)</p> <p>4週～7週：Web Design (skill acquisition)</p> <p>8週～：システム構築実習 (service prototyping)</p>
----------	--

準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、Iaと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。
---------	---

成績評価の方法	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	<p>Scott Guelich(著), Gunther Birznieks (著), Shishir Gundavaram (著), 田辺 茂也 (訳), 大川 佳織 (訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001)</p> <p>Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), Brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)</p> <p>Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>Mark Pilgrim(著), 矢倉 眞隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011)</p> <p>高塚 遙(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社 (監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)</p>
----------	--

参考書	<p>Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012)</p> <p>Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一(訳): 「サバティスタの夢」, 現代企画室, (2005)</p> <p>E. H. Carr(著), 清水 幾太郎(訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962)</p> <p>Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008)</p> <p>J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006)</p> <p>Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998)</p> <p>澁沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985)</p> <p>William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, 七つ森書館, (2006)</p> <p>(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007)</p> <p>(株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)</p>
-----	--

履修コード	420101
科目名	演習Ⅰb
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>理論研究では、経営環境、経営戦略、経営者の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、後期は業界構造を研究する。チームに分れて、インターネットや図書館ばかりでなく、現実の業界を扱う団体、国会図書館、東京証券取引所、企業の運営する資料室など、各所を訪問して、できる限り質の高い情報を集める方法を学ぶ。集めたデータの分析方法、グループでの効果的なプレゼンテーションなどを通して、一冊の業界構造分析を製本する。最後に関係する企業にインタビューに伺い、企業人の生の声を伺う。情報収集力、データ分析力、プレゼンテーション力を養い、チームワークの重要性を身をもって体験してもらう。</p>
----------	---

準備学習	<p>グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。</p>
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	<p>ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>テキストは適宜使用する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。</p>
----------	--

参考書	<p>あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。</p>
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。
-----	--

履修コード	419601
科目名	演習Ⅰb
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>前期で身に着けた社会学の知識と方法を、実際に発表を通して、実践をしてみる。具体的には、共通のテーマを決めて、それについて初歩的なレベルから調べて、何度かの発表を通じて、テーマを絞る仕方を覚え、内容を深めるやり方を身につける。<社会学実践>をある程度のレベルまで引き上げるのを目標としている。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>発表を中心にして、どのように社会的な方法を身につけるかを実践してみる。入口としては、旅行で使うガイドブックを考えている。</p>
----------	---

準備学習	<p>1. インストラクション・スケジュールリング 2-14. 発表</p> <p>なお、発表については、人数にもよるが、最低3回は行われる。第1回は、ガイドブックをもとに発表する。2回目は、1回目の中から対象を絞り、別の文献や資料を探し、より実質的な分析を試みる。そして、最後に、2回目の発表をもとに、さらに分析を高め、また、比較の観点などを取り入れ発表をする。(もし可能であれば、現地にも行って体験しておくことが望ましい。)</p> <p>15. まとめの最終発表会。</p>
------	--

準備学習	<p>配布された資料については、事前にはっきりと読んで、質問や自分の意見・コメントを考えておくこと。また、発表する際には、事前にファイルを教員やゼミの他のメンバーに送付しておくこと。また、配布資料は早めにコピーを取ること、当日のプレゼン発表の準備は早めしておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>できるだけ、積極的に自分で調べ、インタビューに出かけ、また、現地に出かけて、自分の目や耳で稼いだ情報を発表に生かすようにしてもらいたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>発表内容、平常点、それから、年度末の最終レポートにより評価される。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に指定しない。</p>
----------	-----------------

参考書	<p>授業の中で、適宜指示する。</p>
-----	----------------------

履修コード	420701
科目名	演習Ib
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本演習では、レポート作成の基礎技術を習得する。レポート内容は、知的財産に関する幅広いトピックの中から各自で選択する。トピック選択、レポートの構成、文献の引用方法、そして日本語の文章の書き方など、レポート作成の基本となる技術を習得していく。</p> <p>(到達目標)</p> <p>演習1aに引き続き、まずは文献調査の方法から始まり、トピック・主題の設定、レポートアウトラインの作成、レポートの作成という一連のレポート作成作業を講義と演習によって習得する。レポートのトピックについては、コンテンツ(映画、アニメ、マンガ、音楽など)、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権・商標権侵害など、知的財産に関するものの中から、自分の関心のあるテーマから各自で設定する。そして、本演習では、レポートの添削指導を個別に行い、一人ひとりがレポート作成の基礎を確実に身につけることを目標とする。また、本演習においても、演習1aで習得したプレゼンテーションの基礎技術を用い、レポート内容の発表を通じてプレゼンテーション・スキルを向上させていく。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 「イントロダクション」全体説明</p> <p>第2回 「講義(1)」レポートの性質と構成について</p> <p>第3回 「図書館データベースの使い方講習」</p> <p>第4回 「レポートアウトライン作成」</p> <p>第5回 「テーマとアウトラインの発表」</p> <p>第6回 「講義(2)」文章の書き方について</p> <p>第7回 「レポート作成」</p> <p>第8回 「レポート作成」</p> <p>第9回 「レポート初校提出」</p> <p>第10回 「レポート修正指導(1)」</p> <p>第11回 「レポート修正指導(2)」</p> <p>第12回 「発表準備」</p> <p>第13回 「レポート内容発表(1)」</p> <p>第14回 「レポート内容発表(2)」</p> <p>第15回 「レポート最終校提出」</p>
----------	---

準備学習	MS PowerPoint, MS Wordの基本操作に関する知識を前提とする。
履修上の留意点	発表の回については、各自の発表後に全員でディスカッションを行う。
成績評価の方法	レポート:50% 発表:25% ディスカッションへの参加度合い:25%
教科書/テキスト	木下是雄『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円+税、ISBN4-480-08121-6
参考書	

履修コード	419501
科目名	演習I b
担当者名	クボタ. L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This class deals with the emerging realm of media for cell phones and other mobile computers. Its focus is in creating and producing a media platform and associated program applications that will showcase Japan's youth culture.
---------------------	---

授業スケジュール	Seminar 1ab will meet during three periods once a week. Introduction to producing media and the conceptual foundations of this course will be provided. Students will divide into teams to create and produce a media program that will be part of the Shibuya media platform. Students in teams will develop a presentation package for a final course presentation. Student's work will be added to their portfolio which will provide the basis for their senior thesis.
----------	---

準備学習	Read articles on producing new media.
------	---------------------------------------

履修上の留意点	This seminar is for students truly interested in producing media. The purpose of this course is not to teach English, but rather on how to take an idea and turn it into a media project proposal. Students who will benefit most from this seminar are those who are self motivated and seek to take control of their own learning.
---------	--

成績評価の方法	Students will be graded based on participation, the results of their final project presentation and their portfolio. Attendance will be required.
---------	---

教科書／テキスト	There are no required textbooks.
----------	----------------------------------

参考書	Professor will provide materials from the following:
-----	--

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	420301
科目名	演習I b
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 「Softbank携帯のCMになぜ白い犬と黒人が出ているか?」、「宮崎アニメが海外でも人気の秘密とは?」。本演習では、上記のような素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く手法を習得するとともに、グループワークでの映像制作を通じて、情報を発信する能力を養う。また、前期の演習I aで学んだことをふまえて、各自研究テーマについて発表することが求められる。</p> <p>(到達目標) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、グループワークやプレゼンテーションを通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行います。具体的には、(1)二つ以上の新聞記事を読み比べる「News Watching」を通じて、メディア分析力を養うこと(2)卒論研究を視野に入れた「個人研究」の発表を通じて、緻密な調査力と論理的思考力を磨くこと。(3)グループワークによる映像制作を通して、企画力、組織力及びメディア構成力を高めること。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 「News Watching」「個人研究」「グループワークでの映像制作」を概説する 第2~4回 News Watching: 同じ日付けの二つ以上の新聞記事の紙面を読み比べ、発表を行う 第5~8回 卒業研究を視野に入れた「個人研究」について発表 第9~13回 グループワークでの映像制作 第14回 グループワークの映像発表 第15回 総括</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	--

成績評価の方法	<p>授業時の発言と討論への参加状況の評価: 30% レスポンスカードの内容の評価: 30% 研究発表: 40%</p>
---------	--

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。
-----	--------------------------

履修コード	420901
科目名	演習Ib
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	・国際関係の理論と実践の初歩を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。 ※後期は特に、レジュメの作成、文献調査の方法など、研究の進め方、発表の仕方などについて力点を置き、ゼミ論を作成することで、3年次以降の研究の基礎体力を養成する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容 後期は国際関係論・国際政治学の基礎的な理論と世界の実情に関する基礎文献の輪読と発表を第1の柱とする。第2の柱として、グループ単位での研究を行い、ゼミ論を作成する。</p> <p>授業の形式： (1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。さらに、グループ研究に関する各自の研究発表がこれに加わる。</p> <p>授業スケジュール</p> <p>1回目 ガイダンス 2回目 国際関係理論1 (全体像と歴史的背景)・グループ研究1 3回目 国際関係理論2 (リアリズム)・グループ研究2 4回目 国際関係の実践1 (外交と対外政策)・グループ研究3 5回目 メディア分析1 6回目 国際関係理論3 (リベラリズム)・グループ研究4 7回目 国際関係理論4 (マルクス主義・世界システム論)・グループ研究5 8回目 国際関係の実践2 (国際政治経済)・グループ研究6 9回目 メディア分析2 10回目 国際関係の理論5 (相互依存)・グループ研究7 11回目 国際関係の理論6 (グローバリゼーション)・グループ研究8 12回目 国際関係の実践3 (国際紛争)・グループ研究9 13回目 メディア分析3 14回目 国際関係の実践4 (情報革命)・グループ研究発表1 15回目 国際関係の実践5 (多国籍企業・NGO)・グループ研究発表2 ※学生と相談の上で、順番、内容は変更することがあります。</p>
----------	---

準備学習	ゼミ論研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。国際関係の理論と実践については、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの上、課された課題をグループで準備する。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	--

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョセフ・ナイ・Jr、田中明彦、村田晃嗣訳『国際紛争 理論と歴史 (第8版)』有斐閣、2011年、4641049912 ・授業中に随時指示。
----------	--

参考書	・授業中に随時指示。
-----	------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・多種多様なゲストを招いた「困む会」、ゲストの勤務先に赴くフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを別途開講予定。参加可能な場合には参加すること。
-----	--

履修コード	419801
科目名	演習Ib
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の研究法を用いて把握の実習 グループに分かれてテーマを設定しフィールドワークなどを実施
---------------------	---

授業スケジュール	社会の方法を試してみる。 グループ別にテーマを決めて、方法を試す。とくにインタビューの方法に慣れる。
----------	---

準備学習	授業支援システム上の資料を読了すること。
------	----------------------

履修上の留意点	自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。
---------	---

成績評価の方法	演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。
---------	--

教科書/テキスト	各自
----------	----

参考書	適宜指定する
-----	--------

その他	能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。
-----	-----------------------

履修コード	421151
科目名	演習I b
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 このゼミでは、異文化コミュニケーションを扱う。3年間を通じたゼミの目標を一言で言うと、「異文化」に対する寛容性を養い、異文化コミュニケーション能力を上達させる」である。2年次においては、まずは異文化コミュニケーションの基本概念を学ぶとともに、自分達の興味に応じて調査を行う予定の3年次に備え、調査方法やプレゼンの方法等を学んでいく。そして3年次以降は、実際に興味に応じた調査・発表・レポート作成を行っていく。</p> <p>2、到達目標 ゼミ全体を通じ、ステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、「異文化」に対する寛容性を養いコミュニケーション能力を上達させていくことを目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1-5回：プレゼンの方法について 6-10回：エスノグラフィー調査について 11-15回：インタビュー調査の方法について</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>(1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は必ず事前に担当教員に連絡すること。 (2) ゼミ該当曜日(水曜日)は、授業後に他の予定(バイト、サークル等)を入れないこと。 (3) 夏の合宿(場所、時期等については、可能な限りゼミ生全員の予定に不都合が出ないよう、クラスで相談)に参加すること。 (4) 受け身で教わるだけでなく、好奇心をもって積極的に自分で体験したり調べたりする姿勢をもつこと。 (5) 諦めないで忍耐強くコツコツ頑張る姿勢をもつこと。 (6) 一方的に教えてもらうだけでなく、ゼミのために積極的に汗を流し貢献するよう努力すること。 (7) 担当教員の指示を守り、困ったことがあれば相談すること。 (8) 演習I abセットで履修すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	平常点100% (課題発表、授業への貢献、努力)
---------	--------------------------

教科書/テキスト	八代京子他、『異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる(改訂版)』、三修社、2,900円+税、ISBN978-4-384-01243-9
----------	---

参考書	適宜資料を配布する。
-----	------------

その他	文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。
-----	-------------------------

履修コード	420401
科目名	演習I b
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。 メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。 また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。 後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。 合宿は、lab, llab合同で前期終了時を目安に行う。</p>
----------	---

準備学習	メディア産業における新たなサービスなどについて、事業者の立場で理解するように心がけること
------	--

履修上の留意点	テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	平常点70% レポート30%
---------	----------------

教科書/テキスト	随時指示する。
----------	---------

参考書	随時指示する。
-----	---------

履修コード	420001
科目名	演習I b
担当者名	福家 秀紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) グーグル、アップルなどのプラットフォームビジネスの特徴と、これらが既存の情報メディア産業に与える影響について、文献輪読を中心として考察します。同時に、前期に引き続き文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関するノウハウを深めることを目指した構成とします。 また、研究テーマの設定と考察に関する理解を深めるために、情報メディア産業に関する新聞記事に基づく個人発表も、每回行います。 なお、発表時の司会・討論は学生が主体となって進めます。</p>
---------------------	--

(到達目標)
 グーグル、アップルなどの展開するプラットフォームビジネスの特徴と意義、および既存の情報メディア産業に与える影響について、基本的に理解することを目指します。同時に、卒業研究を進めるために必要な、先行研究の学習、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、及び討論の進め方などについて、卒業研究を進めるために必要なレベルを習得することを目指します。

授業スケジュール	<p>グーグルとアップルに関する基本的な文献の輪読、個人研究の発表、新聞記事を元にした研究内容の発表を同時並行的に進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。</p>
----------	--

- ① ガイダンス
- ②～⑭ 文献輪読・個人研究発表・新聞記事発表
- ⑮ まとめ

準備学習	<p>各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、情報メディア産業論IIを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>発表、議論への参加状況の評価：50% 期末レポート：50%</p>
---------	---

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Auletta, Ken[2009], 'Googled', Virgin Books, 土方奈美訳[2010], 『グーグル秘録』、文藝春秋、1,995円、978-4-16-372500-0 ・その他演習Iaの進捗状況を見て別途指示します。
----------	---

参考書	<p>ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて適宜指示します。</p>
-----	----------------------------------

履修コード	419701
科目名	演習Ⅰb
担当者名	南 政樹

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)

インターネットの技術と社会(Ⅱ)
今日の情報社会はインターネットを基盤とした階層的な構造として捉えることができる。その最上位は我々が存在する実社会であり、そこに提供される様々なサービスである。その最下位は物理的なデータ伝送を行う媒体である。
このようにインターネットを階層的な構造としてみることで、各層の役割とその上下のそうとの関わり合いを局所的に捉える。そこから、インターネットを通じたコミュニケーションにおける問題点や課題を探る。

(到達目標)

第一にインターネットとそのサービスを実現する要素を技術的に理解し応用する力を身に付ける。第二に人々が求めているコミュニケーションやサービスを抽象化しモデルにし、その意味を理解する力を養う。最終的には、インターネット技術と社会の有り様を議論し、それを考え実現する力を身に付ける。

授業スケジュール

- 1) 講義ガイダンス
- 2) 学習・研究目標設定
- 3) インターネット技術の応用 (1)
- 4) インターネット技術の応用 (2)
- 5) インターネット技術の応用 (3)
- 6) 学習・研究進捗確認 (1)
- 7) プログラミング実践 (1)
- 8) プログラミング実践 (2)
- 9) プログラミング実践 (3)
- 10) 学習・研究進捗確認 (2)
- 11) インターネットサービス構築 (1)
- 12) インターネットサービス構築 (2)
- 13) インターネットサービス構築 (3)
- 14) 学習・研究評価
- 15) まとめ

準備学習

演習Ⅰaを履修していることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。

履修上の留意点

演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。
本講義は時間割で割り当てられた時間だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。

成績評価の方法

日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。

教科書/テキスト

指定しない。

参考書

インターネットの技術を体系的に学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。
・長橋賢吾「これならわかるネットワーク — インターネットはなぜつながるのか? (ブルーバックス)」 講談社 ISBN-13: 978-4062575997

インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。
・村井純「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277

インターネットの構造や運用の実際を理解した後、より実践的な知識を学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。
・あきみち、空閑洋平「インターネットのカタチ—もろさが織り成す粘り強い世界」オーム社、2011年6月、ISBN-13: 978-4274068249

関連リンク

<http://minamilab.jp/gms/>

履修コード	420501
科目名	演習Ⅰb
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>【授業概要】 「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、小さなプロジェクト、企業との連携によるプロジェクトなどを通じて実践してみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。</p>
--------------------	---

到達目標	<p>【到達目標】 企業の一員として小さくてもプロジェクトを分担して遂行できる力を身につけるため、資料を読んで理解すること、議論して合意形成すること、分担して結果を出すことを目標とします。</p>
------	--

授業スケジュール	<p>共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。</p> <p>1 共通プログラム</p> <p>第1回～第10回 企業経営・ファイナンスについての学習 事業運営実習1 オータムフェスティバル模擬店運営 事業運営実習2 書籍制作販売</p> <p>第5回～第15回 グループ討論、プレゼン練習</p>
----------	--

到達目標	<p>2 個別プログラム</p> <p>複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、企業との連携等の関係があるため、時期及び内容は変わる場合があります。昨年の活動内容については、ゼミ公式ブログ「こち駒」を参照してください。 http://www.kochikoma.nete/blog/</p> <p>①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営 ②出版関連 書籍制作及び販売 ③ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツイベント運営他 ④動画関連 動画番組の制作 ⑤イベント関連 各種イベントの企画・運営</p>
------	---

準備学習	<p>事前に指示した資料等は必ず読んできてください。各プロジェクトにあたっては、指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>通年、3年間継続履修を原則とします。「グローバル経営論」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。その他、次の点に留意してください。</p> <p>①このゼミは、人によってやるべきことが違うことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。</p> <p>②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていればいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。</p> <p>③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。</p> <p>④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならないケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>以下の通り。</p> <p>課題やプロジェクトなどにおけるパフォーマンス及び貢献 50% ゼミ活動全般への参加状況 50%</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>あらかじめ指定するものではありません。 個別プロジェクトの進行状況に応じ、書籍購入を指示することがあります。</p>
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	421101
科目名	演習I b
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習Ibでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> - IT系の学会の資料についての学習 - プログラミング実習 - 教科書に沿った学習 - 研究プロジェクト紹介 - PowerPoint作成実習 - 日本語Academic Reading - 日本語Academic Writing - 日本語Academic Presentation, Q&A - 計画発表会 - ディスカッション - Webサイト作成 - プログラミングによるシステム試作 - ディスカッション - ディベート - 発表会
----------	--

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」の授業と関連して授業を行う。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	積極的な参加および発表会やディベートにおける発表により評価する。
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	授業において指示する。
----------	-------------

参考書	授業において指示する。
-----	-------------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/
-------	---

履修コード	421001
科目名	演習I b
担当者名	リンスキー M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
---------------------	---

授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
----------	---

準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for essays and presentations, which we will discuss in the seminar.
------	--

履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.
---------	--

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
---------	--

教科書/テキスト

参考書

履修コード	422851
科目名	演習II a
担当者名	アシュウェル T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This seminar class will provide learners with a general introduction to the study of language in use. Some aspects of linguistics will be touched upon, but the main focus is the use of language in society, particularly the use of language in the media and on the Internet. By taking this course, it is intended that students will gain a greater sensitivity to the use of language in society and how it maintains and reinforces social roles and power relationships.
---------------------	--

授業スケジュール	In Enshu 2a, students will begin to work on group or individual projects in which a piece of collected data is analyzed from a linguistically-informed perspective. Tools of analysis not covered in the Enshu 1b course will be introduced as appropriate.
----------	---

準備学習	None
------	------

履修上の留意点	Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.
---------	--

教科書/テキスト	None
----------	------

参考書	As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
-----	---

その他	See the 演習2a (Ashwell) page on the GMS Course Management System for information and materials.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	421601
科目名	演習II a
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ケータイを中心とした次世代ITサービス創出とその実現技術、携帯電話事業者・メーカー（スマートフォンなど）・サービス事業者（ソーシャルメディアなど）のビジネス戦略、ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、そのテーマについて、文献、インターネット等を利用した調査、研究活動を行い、研究成果に基づいて、前期レポートを作成する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、情報収集及び分析能力、課題設定及び解決能力、文章力などの基礎能力の向上を図る。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1～4回：演習I a bの成果に基づき、ケータイを中心とした次世代ITサービス創出とその実現技術、携帯電話事業者・メーカー（スマートフォンなど）・サービス事業者（ソーシャルメディアなど）のビジネス戦略、ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマに関して、文献、インターネット等を利用して、各自（又はグループ）で自らテーマを設定する。</p> <p>第5～8回：設定したテーマについて、調査、研究活動を行い、解決すべき研究課題の明確化を図る。</p> <p>第9～12回：メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。</p> <p>第13～15回：調査、研究した内容に基づいて前期レポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行う。</p>
----------	---

準備学習	演習I a bで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	通年での履修を前提とする
成績評価の方法	レポート（前期レポート）70%、平常点（授業での積極的な発言、研究発表など）30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	共通の参考書はない。授業の中で研究テーマ毎に参考書、ホームページ等を紹介する。
その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。

履修コード	422301
科目名	演習IIa
担当者名	石橋 直樹

授業概要/到達目標 (ねらい)
 (授業概要)
 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。
 本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルをグループワークとして構築する。

(到達目標)
 World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。演習IIaでは、特に、グループワークとしてシステムの企画・設計を行う。

授業スケジュール
 演習IIaにおいては、特に、グループワークとして既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。
 1週～4週：文献調査 (brainstorming)
 5週～8週：プログラミング実習 (skill acquisition)
 9週～：システム設計実習 (governance design)

準備学習
 HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、コンピュータワークショップで学んだPerlを用いたCGIプログラミング、ならびに、メディアとデータベースで学んだWebデータベースプログラミングも併せて復習しておくこと。

履修上の留意点
 コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。また、IIbと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。

成績評価の方法
 課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書/テキスト
 Scott Guelich(著), Gunther Birzniaks (著), Shishir Gundavaram (著), 田辺 茂也 (訳), 大川 佳織 (訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001)
 Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), Brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)
 Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003)
 D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011)
 D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011)
 Mark Pilgrim(著), 矢倉 眞隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011)
 高塚 遙(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社 (監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)

参考書
 Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012)
 Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一 (訳): 「サバティスタの夢」, 現代企画室, (2005)
 E. H. Carr(著), 清水 幾太郎 (訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962)
 Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008)
 J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006)
 Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998)
 濫沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985)
 William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, セツ森書館, (2006)

(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007)
 (株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)

履修コード	421801
科目名	演習II a
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習II&演習IIIのツールとして利用している。</p>
----------	---

準備学習	<p>グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。</p>
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	<p>ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>年に数冊。 適宜指示する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。</p>
----------	---

参考書	<p>あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。</p>
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。
-----	--

履修コード	421901
科目名	演習II a
担当者名	金山 智子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>IIabでは卒論の土台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニティ・メディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分が関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>IIabでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。I ab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。</p>
----------	--

第1回～第3回 テーマ発表

第4回～第7回 文献調査

第8回～第10回 中間報告

第11回～第12回 仮説課題設定

第13回～第15回 研究計画発表・計画書提出

春秋2回ほど研究合宿を予定しています。

準備学習	<p>春休み中に研究テーマを考えておくこと。</p>
------	----------------------------

履修上の留意点	<p>欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。</p>
---------	------------------------------------

成績評価の方法	<p>出席、参加度、研究発表&報告</p>
---------	---------------------------

教科書/テキスト	<p>特になし。</p>
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	421301
科目名	演習IIa
担当者名	川崎 賢一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学的な発想と方法を、2年次に身につけた上で、この学期では、共通のテーマをきめ、それについてグループワークを実施する。共通テーマや方法については、ゼミの中でゼミ生の意見を交換しながら決める。また、アウトプットについては、セミ論集のような形でまとめる予定である。
授業スケジュール	この学期では、今まで養ってきた基礎力を踏まえて、共通テーマ内での文献の輪読を行う。基本的には、現代文化に関するものとする。 (スケジュール) 1. テーマの設定 2. 役割分担やスケジュールの確定 3. -14. グループ発表 15. まとめ：最終発表会
準備学習	配布された資料については、事前にしっかりと読んで、質問や自分の意見・コメントを考えておくこと。また、発表する際には、事前にファイルを教員やゼミの他のメンバーに送付しておくこと。また、配布資料は早めにコピーを取ること、当日のプレゼン発表の準備は早めしておくこと。
履修上の留意点	これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。
成績評価の方法	平常点と最後のレポートにより採点する。
教科書／テキスト	授業内で指示する。
参考書	授業内で指示する。

履修コード	422401
科目名	演習II a
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本演習は、コンテンツ・技術知識などの知的財産の生産や流通を担う企業の行動やビジネス戦略、商標なども含む知的財産の企業活動における利用などについて、個々の企業の視点から学び、知的財産と経済・産業との関係について理解を深める。</p> <p>(到達目標)</p> <p>コンテンツの生産と流通、新技術・新製品の開発と利用、ブランドの確立、そしてそれら知的財産のビジネスモデルやマーケティングへの応用など、知的財産はあらゆる業種の企業活動において重要な役割を担う。本演習では、国内外のビジネス大学院で作成された「ケース教材」から個別企業の活動について学び、知的財産の経済・産業における機能を理解していく。また、企業のブランド戦略や商標法、財務諸表の見方など、ケース教材を読むために必要な知識を講義で習得する。履修者は、自分の関心のある企業のケース教材を選択し、内容をまとめて発表することで企業研究の方法を学ぶ。そして、ケース教材を参考にしながら独自の企業研究も行うことで、企業研究についての理解を深める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「イントロダクション」全体説明</p> <p>第2回 「ケース教材の選択」</p> <p>第3回 「講義 (1)」財務諸表</p> <p>第4回 「講義 (2)」ブランド・マネジメント</p> <p>第5回 「講義 (3)」商標法</p> <p>第6回 「発表準備」</p> <p>第7回 「発表準備」</p> <p>第8回 「ケース教材内容発表 (1)」</p> <p>第9回 「ケース教材内容発表 (2)」</p> <p>第10回 「ケース教材内容発表 (3)」</p> <p>第11回 「発表準備」</p> <p>第12回 「発表準備」</p> <p>第13回 「自主研究発表 (1)」</p> <p>第14回 「自主研究発表 (2)」</p> <p>第15回 「自主研究発表 (3)」</p>
----------	---

準備学習	MS PowerPointに習熟していることが望ましい。
履修上の留意点	<p>(1) 講義の回については、講義終了後に小テストを行う。</p> <p>(2) 発表の回については、各自の発表後に全員でディスカッションを行う。</p>
成績評価の方法	<p>小テスト×3 : 10%</p> <p>発表×2 : 50%</p> <p>ディスカッションへの参加度合い : 40%</p>

教科書/テキスト	
参考書	<p>石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3200円＋税、ISBN978-4-532-13272-9</p> <p>佐々木秀一『日経ベーシック 財務諸表入門』、日本経済新聞社、1000円＋税、ISBN978-4-532-11811-2</p> <p>角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版』、有斐閣、2700円＋税、ISBN978-4-641-12402-8</p>

履修コード	421201
科目名	演習II a
担当者名	クボタ L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.
---------------------	---

授業スケジュール	This seminar will occur once a week over three periods. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.
----------	--

準備学習	Read articles on producing new media.
------	---------------------------------------

履修上の留意点	Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.
---------	---

	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
--	---

成績評価の方法	Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbooks as readings will be provided on the class website
----------	---

参考書	Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002
-----	---

履修コード	422501
科目名	演習II a
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「Softbank携帯のCMになぜ白い犬と黒人が出ているか?」、「宮崎アニメが海外でも人気の秘密とは?」。本演習では、上記のような素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く手法を習得するとともに、グループワークでの映像制作を通じて、情報を発信する能力を養う。また、後期の演習IIbに向けて、各自「個人研究」を深めることが求められる。
---------------------	--

	(到達目標) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、グループワークやプレゼンテーションを通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行います。具体的には、(1)二つ以上の新聞記事を読み比べる「News Watching」を通じて、メディア分析力を養うこと (2)卒業研究を視野に入れた「個人研究」を通じて、緻密な調査力と論理的思考力を磨くこと。 (3)グループワークによる映像制作を通して、企画力、組織力及びメディア構成力を高め
--	---

授業スケジュール	第1回 「News Watching」「個人研究」「グループワークでの映像制作」を概説する 第2~4回 News Watching: 同じ日付けの二つ以上の新聞記事の紙面を読み比べ、発表を行う 第5~8回 卒業研究を視野に入れた「個人研究」の発表 第9~13回 グループワークでの映像制作 第14回 グループワークの映像発表 第15回 総括
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	--

成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価: 30% レスポンスカードの内容の評価: 30% 研究発表: 40%
---------	---

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。
-----	--------------------------

履修コード	422601
科目名	演習IIa
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の 輪読・発表 (2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導 (3) 文献調査、レジュメ作 成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業 論文作成の下準備を完成させる。
---------------------	---

授業スケジュール	講義の内容 (1) 英語文献の輪読・発表 (2) 各自の研究テーマの発表と指導 (3) ささまざまな題材をも とにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールド ワークも行う。 演習の形式 (1) 課題の提出 (2) 文献発表 (3) 研究発表 (4) ディスカッションへの参加。 授業スケジュール 1回目 ガイダンス 2回目 文献購読1・グループ研究 1 3回目 文献購読2・グループ研究 2 4回目 文献購読3・グループ研究 3 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション 6回目 文献購読4・グループ研究 4 7回目 文献購読5・グループ研究 5 8回目 文献購読6・グループ研究 6 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション 10回目 文献購読7・グループ研究 7 11回目 文献購読8・グループ研究 8 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション 13回目 文献購読9・グループ研究 9 14回目 ゼミ論発表・討論会 1 15回目 ゼミ論発表・討論会 2 ※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。
----------	--

準備学習	ゼミ論研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。文献購読について は、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレ ジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの 上、課された課題をグループで準備する。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・課される発表 (プレゼンテーション) を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	--

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Michael T. Snarr and D. Neil Snarr eds., <i>Introducing Global Issues</i>, Fourth Edition, Rinner Publishers, 2008, 1588265595. ・授業中に随時指示。
----------	--

参考書	・授業中に随時指示。
-----	------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・ゲストを招いた「困む会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。 ・7月末から8月初旬に行われる夏季合宿は原則として全員参加。
-----	---

履修コード	421501
科目名	演習IIa
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の 研究 チェンジエージェント、チェンジメーカーの事例研究
---------------------	--

授業スケジュール	1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②研究グループ分け、2回目以降各グルー プによる発表
----------	--

準備学習	授業支援システム上の資料を読了すること。
------	----------------------

履修上の留意点	絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。 とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。
---------	--

成績評価の方法	演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。
---------	--

教科書/テキスト	未定
----------	----

参考書	ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333
-----	---

その他	能動的で積極的で欠席しない人の履修を望む。
-----	-----------------------

履修コード	422821
科目名	演習II a
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 このゼミでは、異文化コミュニケーションを扱う。3年間を通じたゼミの目標を一言で言う と、「異文化」に対する寛容性を養い、異文化コミュニケーション能力を上達させる」である。 3年次においては、2年次において学んだ異文化コミュニケーションの基礎知識、プレゼンテ ーションの方法や調査方法等の知識をベースとして、自分達の興味に応じて調査を行っていく。 また同時に、調査方法やレポート作成方法等についてもさらに詳しく学んでいく。</p>
---------------------	--

到達目標	<p>2、到達目標 ゼミ全体を通じ、ステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、「異文化」に対する 寛容性を養いコミュニケーション能力を上達させていくことを目指す。</p>
------	---

授業スケジュール	<p>1-5回：エスノグラフィーについて 6-10回：グループで研究対象を決め、リサーチ・分析・発表 11-13回：レポートの書き方 14-15回：量的研究の初歩について</p>
----------	---

準備学習	2年次で学んだことを、よく理解しておくこと。
------	------------------------

履修上の留意点	<p>(1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は必ず事前に担当教員に連絡す ること。 (2) ゼミ該当曜日(水曜日)は、授業後に他の予定(バイト、サークル等)を入れない こと。 (3) 受け身で教わるだけではなく、好奇心をもって積極的に自分で体験したり調べたり する姿勢をもつこと。 (4) 諦めないで忍耐強くコツコツ頑張る姿勢をもつこと。 (5) 一方的に教えてもらうだけでなく、ゼミのために積極的に汗を流し貢献するよう努 力すること。 (6) 担当教員の指示を守り、困ったことがあれば相談すること。 (7) 演習II abセットで履修すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点100% (課題発表、授業への貢献、努力)
---------	--------------------------

教科書/テキスト	佐藤郁哉、『フィールドワークの技法』、新曜社、2,900円+税、ISBN978-4-7885-0788-3
----------	---

参考書	佐藤郁哉、『フィールドワーク』、新曜社、2,200円+税、ISBN978-4-7885-1030-2
-----	--

その他	文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。
-----	-------------------------

履修コード	422101
科目名	演習II a
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのよ うに形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進 化の方向性を考える。 メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲー ム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。 また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通 して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目標 とする。敬語などのマナーなどの修得も求める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>主にグループ研究を行う。前期は研究手法を学び研究計画を完成させ、10月の発表会に向けて 準備を進める。11月、12月は、卒業研究計画を作成する。また、これらと平行して、適宜、文献 の輪読を行なう。 合宿は、前期終了時を目安に2,3年生合同で行う。</p>
----------	--

準備学習	興味を持ったメディア産業に関するニュースについて、その背景を理解し、今後の影響につい て常に整理しておくこと
------	---

履修上の留意点	原則として通年履修。演習I, II, IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia(前期)の聴講 および課題を課す。
---------	--

成績評価の方法	平常点70%、レポート30%
---------	----------------

教科書/テキスト	適宜指定する。
----------	---------

参考書	適宜指定する。
-----	---------

履修コード	421701
科目名	演習IIa
担当者名	福家 秀紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) インターネットのブロードバンド化とスマートフォンの普及が、コンテンツ流通に与える影響についての、基本文献の輪読を中心とします。同時に、文献学習は、演習Iを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する高めるように構成します。同時に、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。
---------------------	---

	(到達目標) 演習Iに引き続き、インターネットのブロードバンド化とスマートフォンの普及が、コンテンツ流通と既存の情報メディア産業に与える影響について理解することを目標とします。また、卒業論文執筆の基礎段階として、テーマの確定と、設定したテーマに関する予備的な調査を完了することを、目標とします。
--	--

授業スケジュール	発表については、演習Iと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。
----------	---

- ① ガイダンス
- ②～⑭ 文献輪読と個人研究発表
- ⑮ まとめ

準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
------	---

履修上の留意点	原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、ネットワーク経済論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。夏休みに期末レポートの発表会を兼ねた合宿を行います。
---------	---

成績評価の方法	発表、議論への参加状況の評価：50% 期末レポート：50%
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	・Anderson, Chris [2009], 'Freee', Hyperion, 小林則明監修[2009]、『フリー』、NHK出版、1,800円、978-4-14-081404-8 ・その他ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。
----------	---

参考書	・福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、NTT出版、3,600円、978-4-7571-0203-3 ・その他、講義の中で適宜紹介します。
-----	---

履修コード	421401
科目名	演習II a
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>インターネット・サービス (I) 様々なサービスがインターネットを通じて提供されている。楽天市場によって、我々は店舗を持たなくても小売業を始めることができるようになったが、これは新たな機会の創出であると考えられる。</p> <p>インターネット以前には実現が難しかったことが、今日では容易に行うことができているという点に注目し、誰でも容易に何かを始めるプレイグラウンドとして立ち上がったサービスを事例として取り上げる。</p> <p>(到達目標)</p> <p>第一にインターネットの特徴を理解し、新たなサービス創造のための原理原則を身に付ける。第二に新たなサービスの立案とそのプロトタイピングを行う発想法と技術を身に付ける。最終的には、インターネット上で「新たなサービス」を提供する体験を通じ、それに必要な素養を身につけると共に実践していく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義 ガイダンス 2) 学習・研究目標設定 3) サービス設計 (1) 4) サービス設計 (2) 5) サービス設計 (3) 6) 学習・研究進捗確認 (1) 7) サービス実装 (1) 8) サービス実装 (2) 9) サービス実装 (3) 10) 学習・研究進捗確認 (2) 11) サービス評価 (1) 12) サービス評価 (2) 13) サービス評価 (3) 14) 学習・研究評価 15) まとめ
----------	--

準備学習	演習Ia/Ibを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
------	--

履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時間だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
---------	--

成績評価の方法	成績は、平常点として日常の活動およびプロジェクトの実績による評価 (50%) とレポートとして学期末に発表した成果報告による評価 (50%) を合わせて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	<p>インターネットの技術を体系的に学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長橋賢吾「これならわかるネットワーク ― インターネットはなぜつながるのか? (ブルーボックス)」 講談社 ISBN-13: 978-4062575997 <p>インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村井純「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277 <p>インターネットの構造や運用の実際を理解した後、より実践的な知識を学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきみち、空閑洋平「インターネットのカタチ―もろさが織り成す粘り強い世界」 オーム社、2011年6月、ISBN-13: 978-4274068249
-----	--

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	422201
科目名	演習II a
担当者名	山口 浩

授業概要/
到達目標 (ねらい)

【授業概要】

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、小さなプロジェクト、企業との連携によるプロジェクトなどを通じて実践してみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。

【到達目標】

就職活動への準備を意識し、個別プログラムの中で分担して小さなプロジェクトを遂行し、具体的な成果を挙げることを目標とします。

授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。

1 共通プログラム

第1回～第10回 企業経営・ファイナンスについての学習
課題図書輪読、講義、実習

第5回～第15回 グループ討論、プレゼン練習

2 個別プログラム

複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、企業との連携等の関係があるため、時期及び内容は変わる場合があります。

- 昨年の活動内容については、ゼミ公式ブログ「こち駒」を参照してください。
<http://www.kochikoma.net/blog/>
- ① ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
 - ② 出版関連 書籍制作及び販売
 - ③ ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツイベント運営他
 - ④ 動画関連 動画番組の制作
 - ⑤ イベント関連 各種イベントの企画・運営

準備学習

事前に指示した資料等は必ず読んできてください。各プロジェクトにあたっては、指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。

履修上の留意点

通年、3年間継続履修を原則とします。従って、原則として演習Ia及び演習Ibを履修し単位を取得していることを前提としますが、状況により柔軟に対応します。「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。

- その他、次の点に留意してください。
- ① このゼミは、人によってやるべきことが違うことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。
 - ② このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていればいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。
 - ③ このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。
 - ④ このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本来転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならぬケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。

成績評価の方法

以下の通り。

課題やプロジェクトなどにおけるパフォーマンス及び貢献 50%
ゼミ活動全般への参加状況 50%

教科書/テキスト

使用する資料については、活動内容を臨機応変に変えていくため、あらかじめ指定はしません。

活動内で使用する資料等は配布する他、書籍の購入を指示することがあります。

参考書

履修コード	422801
科目名	演習IIa
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2aでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1週～第4週：導入と基礎となる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> - IT系の学会の資料についての学習 - プログラミング実習 - 教科書に沿った学習 - 研究プロジェクト紹介 - PowerPoint作成実習 - 日本語Academic Reading - 日本語Academic Writing - 日本語Academic Presentation <p>第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> - 計画発表会 - ディスカッション - PowerPoint作成実習(継続) - 日本語Academic Reading(継続) - 日本語Academic Writing(継続) - 日本語Academic Presentation(継続) <p>第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備</p> <ul style="list-style-type: none"> - プログラミングによるシステム試作 - 卒業研究計画 - 発表会 - ディスカッション <p>第14～15週：最終発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> - 発表会
----------	---

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」、の授業と関連して授業を行う。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	積極的な参加、および、発表会やディベートにおける発表により評価する。
教科書／テキスト	授業において指示する。
参考書	
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/

履修コード	422701
科目名	演習II a
担当者名	リンスキー, M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for essays and presentations, which we will discuss in the seminar.
履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English. Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.
成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
教科書/テキスト 参考書	
履修コード	424551
科目名	演習II b
担当者名	アッシュウェル, T.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aims of this seminar class are the same as for the Enshu 2a class.
授業スケジュール	In Enshu 2b, individual students will analyze a piece of media discourse, present their analyses and receive feedback from peers. They will begin to focus on the type of analysis they want to carry out for their graduation thesis. These topics will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.
準備学習	None
履修上の留意点	Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.
成績評価の方法	Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.
教科書/テキスト 参考書	None As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
その他	See the 演習2b (Ashwell) page on the GMS Course Management System for information and materials.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	423301
科目名	演習IIb
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ケータイを中心とした次世代ITサービス創出とその実現技術、携帯電話事業者・メーカー（スマートフォンなど）・サービス事業者（ソーシャルメディアなど）のビジネス戦略、ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、そのテーマについて、文献、インターネット等を利用した調査、研究活動を行い、研究成果に基づいて、後期レポートを作成する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、情報収集及び分析能力、課題設定及び解決能力、文章力などの基礎能力の向上、及び卒業研究に向けたテーマの具体化を図る。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1～4回：演習IIaで設定したテーマについて、継続して調査、研究活動を行い、研究活動を行うために必要なスキルの向上を図る。</p> <p>第5～8回：メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。その中で必要に応じて、テーマ、研究課題、研究の進め方等の見直しを行い、卒業研究のテーマの具体化を図る。</p> <p>第9～12回：可能であれば、卒業論文テーマの具体化を図り、卒業論文の作成に向けた研究活動を開始する。</p> <p>第13～15回：演習IIa、演習IIbを通して調査、研究した内容に基づいてレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行い、卒業研究に向けた準備を進める。</p>
----------	---

準備学習	演習IIaで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	通年での履修を前提とする
成績評価の方法	レポート（後期レポート）70%、平常点（授業での積極的な発言、研究発表など）30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	共通の参考書はない。授業の中で研究テーマ毎に参考書、ホームページ等を紹介する。
その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。

履修コード	424001
科目名	演習IIb
担当者名	石橋 直樹

授業概要/到達目標 (ねらい) (授業概要)
 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。
 本演習では、情報技術の立場から、時勢に先じた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

(到達目標)
 World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。演習IIbでは、特に、グループワークとして、サイトのデザイン、ならびに、システムの実現を行なう。

授業スケジュール 演習IIbにおいては、特に、World Wide Webを対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。
 1週～3週：文献調査 (brainstorming)
 4週～7週：プログラミング実習 (skill acquisition)
 8週～：システム設計実習 (governance design)

準備学習 HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、コンピュータワークショップで学んだPerlを用いたCGIプログラミング、ならびに、メディアとデータベースで学んだWebデータベースプログラミングも併せて復習しておくこと。

履修上の留意点 コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、IIaと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。

成績評価の方法 課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書/テキスト Scott Guelich(著), Gunther Birznieks(著), Shishir Gundavaram(著), 田辺 茂也(訳), 大川 佳織(訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001)
 Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), Brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)
 Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003)
 D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): “コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース”, 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011)
 D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): “コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース”, 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011)
 Mark Pilgrim(著), 矢倉 真隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011)
 高塚 遙(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社(監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)

参考書 Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012)
 Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一(訳): 「サバティスタの夢」, 現代企画室, (2005)
 E. H. Carr(著), 清水 幾太郎(訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962)
 Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008)
 J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006)
 Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998)
 遊沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985)
 William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, 七つ森書館, (2006)

(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007)
 (株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)

履修コード	423501
科目名	演習IIb
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問探究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習II&演習IIIのツールとして利用している。</p>
----------	---

準備学習	<p>グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。</p>
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	<p>ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>年に数冊。 適宜指示する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。</p>
----------	---

参考書	<p>あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。</p>
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。
-----	--

履修コード	423601
科目名	演習IIb
担当者名	金山 智子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>IIabでは卒論の土台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニティ・メディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分が関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>IIabでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。Iab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。</p>
----------	---

- 第1回 調査方法 (アンケート調査)
- 第2回 調査方法 (内容分析)
- 第3回 調査方法 (インタビュー・参与観察)
- 第4回～第6回 調査方法決定
- 第7回～第9回 調査実施
- 第10回～第11回 データ分析
- 第13回～第15回 研究成果発表・論文提出

準備学習	<p>夏休み中に研究計画の見直しを行うこと</p>
------	---------------------------

履修上の留意点	<p>欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。</p>
---------	------------------------------------

成績評価の方法	<p>出席、参加度、研究発表&報告</p>
---------	---------------------------

教科書/テキスト	<p>特になし。</p>
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	423001
科目名	演習IIb
担当者名	川崎 賢一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文のテーマを発見し、卒論論文をどう書くのかに関する基礎力を要請することをねらいとする。
授業スケジュール	前期までの研究蓄積を活かし、各個人の卒業論文テーマを模索し、どのような内容にするのかの概要を決めるところまで持っていく。発表と討論が中心となる。 (スケジュール) 1. 卒論のテーマをどう決めるか 2. 卒論の書き方 3. -14. 発表 15. まとめ
準備学習	配布された資料については、事前にしっかりと読んで、質問や自分の意見・コメントを考えておくこと。また、発表する際には、事前にファイルを教員やゼミの他のメンバーに送付しておくこと。また、配布資料は早めにコピーを取ることと、当日のプレゼン発表の準備は早めにしておくこと。
履修上の留意点	これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。
成績評価の方法	平常点と最後のレポートにより採点する。
教科書/テキスト	授業の中で指示する。
参考書	授業の中で指示する。

履修コード	424101
科目名	演習IIb
担当者名	絹川 真哉
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本演習は、コンテンツ・技術知識などの知的財産の生産や流通を担う企業間の競争、商標なども含む知的財産と産業組織とのかかわりについて、産業全体の視点から学び、知的財産と経済・産業との関係について理解を深める。 (到達目標) 産業の構造・動向分析を各自行い、産業組織や企業活動における知的財産(技術、著作物・コンテンツ、商標・ブランドなど)の役割に対する理解を深めることが目標。知的財産の生産または流通を担う産業の構造や課題、一般の産業・業界内の競争構造における知的財産の役割などがテーマである。なお、知的財産は、業種を問わずほとんどの企業の活動を支える根幹となっているので、産業選択、視点・切り口の選択の際、コンテンツや技術など知的財産そのものを直接テーマとして扱わなくともよい。演習前半に産業・業界分析の視点・切り口について講義で習得し、演習後半に各自が分析内容のプレゼンテーションを行い、最終的にレポートにまとめる。
授業スケジュール	第1回 「イントロダクション」全体説明 第2回 「講義(1)」産業の定義 第3回 「講義(2)」企業間の取引構造 第4回 「テーマ設定」 第5回 「テーマ発表」 第6回 「講義(3)」市場と事業のダイナミクス 第7回 「レポート執筆」 第8回 「レポート執筆」 第9回 「レポート初稿提出」 第10回 「レポート修正指導(1)」 第11回 「レポート修正指導(2)」 第12回 「発表(1)」 第13回 「発表(2)」 第14回 「発表(3)」 第15回 「レポート最終校提出」
準備学習	MS PowerPoint, MS Wordに習熟していることが望ましい。
履修上の留意点	(1) 講義の回については、講義終了後に小テストを行う。 (2) 発表の回については、各自の発表後に全員でディスカッションを行う。
成績評価の方法	レポート: 40% 小テスト×3: 10% 発表×2: 20% ディスカッションへの参加度合い: 30%
教科書/テキスト	
参考書	石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3200円+税、ISBN978-4-532-13272-9

履修コード	422901
科目名	演習Ⅱb
担当者名	クボタ L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.
授業スケジュール	This seminar meets over three periods once a week. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.
準備学習	Read articles on producing new media.
履修上の留意点	Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法	Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.
----------	--

参考書	Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002
-----	---

履修コード	424201
科目名	演習Ⅱb
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「Softbank携帯のCMになぜ白い犬と黒人が出ているか?」、「宮崎アニメが海外でも人気の秘密とは?」。本演習では、上記のような素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く手法を習得するとともに、グループワークでの映像制作を通じて、情報を発信する能力を養う。また、前期の演習Ⅱaで学んだことをふまえて、各自「個人研究」を更に深めることが求められる。 (到達目標) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、グループワークやプレゼンテーションを通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行います。具体的には、(1) 二つ以上の新聞記事を読み比べる「News Watching」を通じて、メディア分析力を養うこと (2) 卒論研究を視野に入れた「個人研究」の発表を通じて、緻密な調査力と論理的思考力を磨くこと。(3) グループワークによる映像制作を通して、企画力、組織力及びメディア構成力を高めること。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 「News Watching」「個人研究」「グループワークでの映像制作」を概説する 第2~4回 News Watching: 同じ日付けの二つ以上の新聞記事の紙面を読み比べ、発表を行う 第5~8回 卒論研究を視野に入れた「個人研究」について発表 第9~13回 グループワークでの映像制作 第14回 グループワークの映像発表 第15回 総括
準備学習	特になし
履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価: 30% レスポンスカードの内容の評価: 30% 研究発表: 40%

教科書/テキスト	特になし
参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	424301
科目名	演習IIb
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1)国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2)各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3)文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。 ※後期は特に、卒業論文作成へ向けた各自の研究テーマの発見と調査の方向性、議論の仕方などに重点を置いて指導を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	講義の内容 (1) 英語文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。
----------	--

演習の形式

(1) 課題の提出 (2) 文献発表 (3) 研究発表 (4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グループ研究1・文献購読1
- 3回目 グループ研究2・文献購読2
- 4回目 グループ研究3・文献購読3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 グループ研究4・文献購読4
- 7回目 グループ研究5・文献購読5
- 8回目 グループ研究6・文献購読6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 グループ研究7・文献購読7
- 11回目 グループ研究8・文献購読8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 グループ研究9・文献購読9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをとて若干変更することもあります。

準備学習	ゼミ論研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。文献購読については、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの上、課された課題をグループで準備する。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	--

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Michael T. Snarr and D. Neil Snarr eds., <i>Introducing Global Issues, Fourth Edition</i>, Rinner Publishers, 2008, 1588265595. ・授業中に随時指示。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に随時指示。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・ゲストを招いた「囲む会」やゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなど別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。
-----	---

履修コード	423201
科目名	演習IIb
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究：各班が独自のテーマで研究
---------------------	---

授業スケジュール	1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②発表グループ分け、2～3 G班発表、4～5 H班発表、6～7 I班発表、8～9 J班発表、10～11 K班発表、12～13 L班発表、14～15まとめ
----------	---

準備学習	授業支援システム上の資料を読了すること。
------	----------------------

履修上の留意点	自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。
---------	---

成績評価の方法	演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。
---------	--

教科書/テキスト	各自
----------	----

参考書	白水繁彦編著『移動する人びと、変容する文化』御茶ノ水書房、2008年、2500円
-----	--

その他	能動的で積極的に欠席しない人の履修を望む。
-----	-----------------------

履修コード	424521
科目名	演習Ⅱb
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 このゼミでは、異文化コミュニケーションを扱う。3年間を通じたゼミの目標を一言で言う と、「異文化」に対する寛容性を養い、異文化コミュニケーション能力を上達させる」である。</p> <p>3年次においては、2年次において学んだ異文化コミュニケーションの基礎知識、プレゼンテーションの方法や調査方法等の知識をベースとして、自分達の興味に応じて調査を行っていく。 また同時に、調査方法やレポート作成方法等についてもさらに詳しく学んでいく。</p>
---------------------	--

到達目標	<p>2、到達目標 ゼミ全体を通じ、ステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、「異文化」に対する</p>
------	--

授業スケジュール	<p>1-5回：量的研究と質的研究の違いについて 6-10回：量的研究のデータ分析 11-15回：ミックス・メソッド</p>
----------	--

準備学習	2年次及び3年時前期で学んだことを、よく理解しておくこと。
------	-------------------------------

履修上の留意点	<p>(1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は必ず事前に担当教員に連絡すること。 (2) ゼミ該当曜日(水曜日)は、授業後に他の予定(バイト、サークル等)を入れないこと。 (3) 受け身で教わるだけではなく、好奇心をもって積極的に自分で体験したり調べたりする姿勢をもつこと。 (4) 諦めないで忍耐強くコツコツ頑張る姿勢をもつこと。 (5) 一方的に教えてもらうだけでなく、ゼミのために積極的に汗を流し貢献するよう努力すること。 (6) 担当教員の指示を守り、困ったことがあれば相談すること。 (7) 演習Ⅱabセットで履修すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点100% (課題発表、授業への貢献、努力)
---------	--------------------------

教科書/テキスト	佐藤郁哉、『フィールドワークの技法』、新曜社、2,900円+税、ISBN978-4-7885-0788-3
----------	---

参考書	佐藤郁哉、『フィールドワーク』、新曜社、2,200円+税、ISBN978-4-7885-1030-2
-----	--

その他	文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。
-----	-------------------------

履修コード	423801
科目名	演習Ⅱb
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。 メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。 また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>主にグループ研究を行う。前期は研究手法を学び研究計画を完成させ、10月の発表会に向けて準備を進める。11月、12月は、卒業研究計画を作成する。また、これらと平行して、適宜、文献の輪読を行なう。 合宿は、前期終了時を目安に2,3年生合同で行う。</p>
----------	--

準備学習	興味を持ったメディア産業に関するニュースについて、その背景を理解し、今後の影響について常に整理しておくこと
------	---

履修上の留意点	原則として通年履修。演習I, II, IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia(前期)の聴講および課題を課す。
---------	--

成績評価の方法	平常点70%、レポート30%
---------	----------------

教科書/テキスト	適宜指定する。
----------	---------

参考書	適宜指定する。
-----	---------

履修コード	423401
科目名	演習Ⅱb
担当者名	福家 秀紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 演習Ⅰに引き続き、ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の課題についての理解をさらに深めることに重点を置きます。同時に、演習Ⅰを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。</p> <p>(到達目標) 卒業論文執筆の準備段階として、設定したテーマに基づく卒業論文の構成と研究方法の確定を目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>発表については、演習Ⅰと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。</p> <p>① ガイダンス ②～⑭ 文献輪読と卒論の下書き作成 ⑮ まとめ</p>
準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
履修上の留意点	原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、グローバルネットワーク論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。期末に、卒論の研究計画の発表会を行います。
成績評価の方法	発表、議論への参加状況の評価：50% 期末レポート：50%
教科書／テキスト	・ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。
参考書	講義の中で適宜紹介します。

履修コード	423101
科目名	演習IIb
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>インターネット・サービス (II)</p> <p>様々なサービスがインターネットを通じて提供されている。楽天市場によって、我々は店舗を持たなくても小売業を始めることができるようになった。その要因は、インターネット上で新たなサービスを立ち上げるために、その一部の機能を肩代わりしたり支援したりする別のサービスが数多く存在することである。つまり、インターネットでは、必要に応じて外部サービスを活用することで、本当に必要な機能だけを提供すれば新たなサービスを立ち上げることができるのである。インターネット以前には実現が難しかったことが、今日では容易に行うことができているという点に注目し、誰でも容易に何かを始めるプレイグラウンドとして立ち上がったサービスを事例として取り上げる。</p>
---------------------	---

到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>新たなサービスを提供することを目標とする。そのために第一にインターネットの特徴を理解し、新たなサービス創造のための原理原則を身に付ける。第二に新たなサービスの立案とそのプロトタイピングを行う発想法と技術を身に付ける。最終的には、インターネット上で「新たなサービス」を提供する体験を通じ、それに必要な素養を身につけると共に実践していく。構築するサービスのテーマについては、初回・2回講義においてブレインストーミングを行いながら決めていくこととする。</p>
------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ガイダンス (プレスト) 2) 学習・研究目標設定 (プレスト) 3) マッシュアップ演習 (1) 4) マッシュアップ演習 (2) 5) マッシュアップ演習 (3) 6) マッシュアップ演習 (4) 7) 学習・研究進捗確認 (1) 8) サービス設計 (1) 9) サービス設計 (2) 10) サービス実装 (1) 11) サービス実装 (2) 12) サービス実装 (3) 13) 学習・研究進捗確認 (2) 14) ピアレビュー 15) まとめ
----------	--

準備学習	演習IIaを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
------	--

履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
---------	--

成績評価の方法	成績は、平常点として日常の活動およびプロジェクトの実績による評価 (50%) とレポートとして学期末に発表した成果報告による評価 (50%) を合わせて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	<p>インターネットの技術を体系的に学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長橋賢吾「これならわかるネットワークー インターネットはなぜつながるのか? (ブルーボックス)」 講談社 ISBN-13: 978-4062575997 <p>インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村井純「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277 <p>インターネットの構造や運用の実際を理解した後、より実践的な知識を学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきみち、空閑洋平「インターネットのカタチーもろさが織り成す粘り強い世界」オーム社、2011年6月、ISBN-13: 978-4274068249
-----	--

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	423901
科目名	演習Ⅱb
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、小さなプロジェクト、企業との連携によるプロジェクトなどを通じて実践してみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。</p>
---------------------	--

【到達目標】
就職活動への準備を意識し、個別プログラムの中で分担して小さなプロジェクトを遂行し、具体的な成果を挙げることを目標とします。

授業スケジュール	共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。
----------	---------------------------

1 共通プログラム

第1回～第10回 企業経営・ファイナンスについての学習
 事業運営実習1 オータムフェスティバル模擬店運営
 事業運営実習2 書籍制作販売

第5回～第15回 グループ討論、プレゼン練習

2 個別プログラム

複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、企業との連携等の関係があるため、時期及び内容は変わる場合があります。昨年の活動内容については、ゼミ公式ブログ「こち駒」を参照してください。

<http://www.kochikoma.nete/blog/>

- ①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
- ②出版関連 書籍制作及び販売
- ③ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツイベント運営他
- ④動画関連 動画番組の制作
- ⑤イベント関連 各種イベントの企画・運営

準備学習	<p>事前に指示した資料等は必ず読んできてください。 各プロジェクトにあたっては、指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。 自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>通年、3年間継続履修を原則とします。従って、原則として演習Ⅰa及び演習Ⅱbを履修し単位を取得していることを前提としますが、状況により柔軟に対応します。 「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。 その他、次の点に留意してください。 ①このゼミは、人によってやるべきことが違うことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。 ②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていけばいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。 ③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。 ④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならぬケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>以下の通り。 課題やプロジェクトなどにおけるパフォーマンス及び貢献 50% ゼミ活動全般への参加状況 50%</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>使用する資料については、活動内容を臨機応変に変えていくため、あらかじめ指定はしません。 活動内で使用する資料等は配布する他、書籍の購入を指示することがあります。</p>
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード 424501

科目名 演習IIb

担当者名 吉田 尚史

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2bでは、演習2aに引き続き、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

授業スケジュール

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation, Q&A
- 計画発表会
- ディスカッション
- Webサイト作成
- プログラミングによるシステム試作
- ディスカッション
- ディベート
- 卒業研究計画
- 発表会

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

準備学習

必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」、の授業と関連して授業を行う。

履修上の留意点

成績評価の方法

積極的な参加、および、発表会やディベートにおける発表により評価する。

教科書/テキスト

授業において指示する。

参考書

授業において指示する。

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	424401
科目名	演習II b
担当者名	リンスキー M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
---------------------	---

授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
----------	---

準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for essays and presentations, which we will discuss in the seminar.
------	--

履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.
---------	--

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
---------	--

教科書/テキスト

参考書

履修コード	412601 412602
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) ケータイを中心とした次世代ITサービス創出とその実現技術、携帯電話事業者・メーカ（スマートフォンなど）・サービス事業者（ソーシャルメディアなど）のビジネス戦略、ケータイ向けコンテンツ作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自ら卒業論文のテーマを設定し、そのテーマについて、文献、インターネット等を利用した調査、研究活動を行うとともに、論文の書き方を学習し、その結果を卒業論文に向けたレポートとしてまとめる。 (到達目標) 卒業論文のテーマを設定し、そのために必要な調査、研究を行い、その成果をレポートとしてまとめ、卒業論文の執筆に向けた準備を完了する。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：演習II labでの研究成果の発表 第2～5回：卒業論文のテーマ設定と関連する調査 第6～7回：研究成果の中間発表 第8～11回：卒業研究のテーマに関する研究活動 第12～13回：卒業研究に向けたレポート作成 第14～15回：研究成果の前期発表
----------	---

準備学習	演習II labで学習した内容をよく復習しておくこと。
------	-----------------------------

履修上の留意点	演習II lab (石川担当)、選択科目「コンピュータワークショップ」、「情報保護と社会」、「メディアとセキュリティ」を履修していることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	レポート70%、平常点（授業での積極的な発言、研究発表など）30%とする。
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト

なし

参考書	共通の参考書はない。授業の中で研究テーマ毎に参考書、ホームページ等を紹介する。
-----	---

その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。
-----	---------------------------------

履修コード	412701 412702
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業目標)</p> <p>情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。IIIaでは、特に、各自のテーマに応じたシステムの完成を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習IIIaにおいては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。</p> <p>1週～3週：文献調査(brainstorming)</p> <p>4週～7週：プログラミング実習(skill acquisition)</p> <p>8週～：システム設計実習(governance design)</p>
----------	---

準備学習	<p>HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、コンピュータワークショップで学んだPerlを用いたCGIプログラミング、ならびに、メディアとデータベースで学んだWebデータベースプログラミングも併せて復習しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベース履修済であることが望ましい。また、IIIbと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>Scott Guelich(著), Gunther Birzniaks (著), Shishir Gundavaram (著), 田辺 茂也 (訳), 大川 佳織 (訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001)</p> <p>Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)</p> <p>Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): “コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース” 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): “コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース” 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>Mark Pilgrim(著), 矢倉 眞隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011)</p> <p>高塚 遙(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社 (監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)</p>
----------	--

参考書	<p>Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012)</p> <p>Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一 (訳): 「サパティスタの夢」, 現代企画室, (2005)</p> <p>E. H. Carr(著), 清水 幾太郎 (訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962)</p> <p>Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008)</p> <p>J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006)</p> <p>Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998)</p> <p>澁沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985)</p> <p>William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, 七つ森書館, (2006)</p> <p>(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007)</p> <p>(株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)</p>
-----	--

履修コード	412301 412302
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1) 高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2) 多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3) 生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	本講義では、演習Iab、IIabで学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させるための準備を整えます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えて下さい。
----------	--

準備学習	グループ学習主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。
------	--

履修上の留意点	出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。
---------	------------------------------

成績評価の方法	ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	年に数冊。適宜指示する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。
----------	--

参考書	あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿は9月の後期が始まる直前に、全学年合同2泊3日で実施する。 ・上記の合宿以外、学年毎にも適宜合宿や、勉強会を実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。
-----	---

履修コード	413901 413902
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	金山 智子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。</p> <p>IIlabでは卒論または卒業制作に取り組みます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期では卒論テーマの決定、文献調査（理論を含む）、仮説・課題の設定を行い、卒論計画書を作成します。</p> <p>映像など卒業制作を選択する人は、必要な調査を行ったうえで、卒業作品企画書を作成します。</p> <p>第1回～第3回 テーマ発表</p> <p>第4回～第7回 文献調査</p> <p>第8回～第10回 仮説課題設定</p> <p>第11回～第12回 調査方法</p> <p>第13回～第15回 卒論計画発表・計画書</p>
----------	---

準備学習	春休み中にテーマをある程度決めておくこと
------	----------------------

履修上の留意点	個人の自己管理をしっかりと行うこと。
---------	--------------------

成績評価の方法	総合評価
---------	------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	412401 412402
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究の準備を目標とする。演習では、卒業研究を作成するための基礎と大体の方向づけを行う。具体的には、最初に卒業研究のマニュアルを基に、どのように作成するかについて、テーマ・構成・書式・文献などについて細かく、そのモデルを説明する。その後、個人別に卒業計画を発表してもらい、その後それぞれに応じて、指導をしていく。最終的に、執筆までのめどをつけることを演習の目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	①卒業研究作成インストラクション ②卒業研究計画書報告Ⅰ ③卒業研究計画書報告Ⅰ ④卒業研究計画書報告Ⅰ ⑤卒業研究計画書報告Ⅰ ⑥卒業研究計画書報告Ⅱ ⑦卒業研究計画書報告Ⅱ ⑧卒業研究計画書報告Ⅱ ⑨卒業研究計画書報告Ⅱ ⑩卒業研究計画書報告Ⅱ ⑪卒業研究計画書報告Ⅲ ⑫卒業研究計画書報告Ⅲ ⑬卒業研究計画書報告Ⅲ ⑭卒業研究計画書報告Ⅲ ⑮まとめと後期に向けて
----------	--

準備学習	個人の研究テーマごとに、発表の前や指導教員との相談の前には、しっかりと文献リストを作成し、必要文献を読んだままとめておく。また、事前調査などをきちんとして、報告や相談に備えておくこと。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	413701 413702
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習IIab」で扱った内容を始め、知的財産や産業組織・企業戦略等に関連した幅広いテーマの中から、自ら研究テーマを選択、独自の調査研究を行い卒業研究論文としてまとめる。 (到達目標) 演習IIIaでは、論文テーマの設定に始まり、詳細なアウトラインの作成を到達目標とする。まずは入念な文献探索を行い、仮のアウトラインを作りながら、独自性があるかつ一般的な関心も期待できるようなテーマ・主題を設定していく。テーマ・主題が確定したら、論文の素材となる文献や情報をテーマにそって探索し、それらから新たに分かった事実等にももつぎ、論文のアウトラインを形作っていく。最終的には、「後はアウトラインにそって文章を書き入れるだけ」という段階にまで、アウトラインの完成度を高めることが目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 「イントロダクション」全体説明 第2回 「研究テーマについての個別面談」(1) 第3回 「研究テーマについての個別面談」(2) 第4回 「研究テーマ発表会」 第5回 「アウトライン作成」(1) 第6回 「アウトライン作成」(2) 第7回 「アウトライン初校報告」(1) 第8回 「アウトライン初校報告」(2) 第9回 「アウトライン初校報告」(3) 第10回 「アウトライン修正」(1) 第11回 「アウトライン修正」(2) 第12回 「アウトライン最終報告」(1) 第13回 「アウトライン最終報告」(2) 第14回 「アウトライン最終報告」(3) 第15回 「論文の書き方指導」
----------	---

準備学習	MS WORDの使い方を事前に学ぶことが望ましい。
履修上の留意点	「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習II」のいずれかを履修済みであることを前提とする。
成績評価の方法	学期末に報告・提出する最終アウトラインによって評価を行う。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	413001 413002
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	クボタ, L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Creating a Virtual World
授業スケジュール	Students will work in teams as producers in creating a virtual world program on Shibuya. This effort will be a joint project with other select members of GMS and with Harvard University's Graduate School of Design. Seminar meets once a week but students will put in many hours in separate meetings from the class and in field work.
準備学習	Read articles on producing new media.
履修上の留意点	Knowledge of and skills in digital media and business; Seminar IIIa requires either Seminar II and/or a course in one of the following: digital production, creative business, multimedia business, or content business. An understanding of and ability to converse in English would be very helpful. Presentations and reports must be written in English. Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
成績評価の方法	Students will be graded based on participation, portfolio of their work and the results of their final project.
教科書/テキスト	Readings will be provided by the professor.
参考書	

履修コード	412801 412802
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義概要) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、社会学の視点から現代社会におけるさまざまなメディア事象を考察する。前年度演習IIabで学んだことをふまえ、受講生各自がそれぞれ卒業研究のテーマを選定し、積極的に取り組むことが前提となっている。 (到達目標) 本演習はメディア社会学に関連する古典及び最新の文献の輪読・討論を行うとともに、受講生による研究テーマの発表などを通じて、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。具体的に(1)先行研究を入念に読み込み、整理・分析することを通じて、調査能力や論理的な思考能力を養うこと。(2)プレゼンテーションやディスカッションを通じて、物事を論理的に表現するトレーニングを行うこと。(3)自ら研究テーマに取り組むことで、日常生活におけるさまざまな現在進行形のメディア現象について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。
授業スケジュール	第1回 先行研究のリサーチや論文の書き方についての概説 第2~4回 メディア社会学についての文献を輪読、ディスカッション 第5~8回 受講生各自が研究テーマを選定、下準備 第9~14回 受講生各自が研究テーマについて発表 第15回 総括
準備学習	特になし
履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価：30% レスポンスカードの内容の評価：30% 研究発表：40%
教科書/テキスト	特になし
参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	413501 413502
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIIaは、(1)卒業論文指導と、(2)グローバル社会の現状分析と課題発見・解決の2つの柱を中心とするゼミである。卒業論文指導は、毎月ごとに進捗状況を報告し討論するとともに、調査方法などについても指導を行う。グローバル社会研究は、冷戦崩壊後から現在に至る20年ほどの世界の出来事を、市民の視点から振り返り、事実を調査し、問題点を発見し課題を見出すトレーニングを行う。具体的には、(1)英語を中心とした国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2)各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3)文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)文献の輪読・発表(2)各自の研究テーマの発表と指導(3)さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。 演習の形式 (1)課題の提出(2)文献発表(3)研究発表(4)ディスカッションへの参加。 授業スケジュール 1回目 ガイダンス 2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1 3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2 4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション 6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4 7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5 8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション 10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7 11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション 13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9 14回目 セミ論発表・討論会1 15回目 セミ論発表・討論会2 ※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。
----------	--

準備学習	卒業研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。グローバル市民社会分析については、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの上、課された課題をグループで準備する。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・前期終了時点で、卒論の中間報告レポートを必ず提出すること。 ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	--

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。
教科書/テキスト	・授業中に随時指示。
参考書	・授業中に随時指示。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	413801 413802
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	白水 繁彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIまでに学んできたことを基礎に卒業論文の作成を本格的に開始する。
---------------------	-------------------------------------

授業スケジュール	1回~3回 卒論テーマの確認と情報(調査)収集方法の確認 4回~6回 研究および調査の進捗状況の発表 7回~15回 調査の進捗状況の発表
----------	--

準備学習	授業支援システム上の資料を読了すること。
------	----------------------

履修上の留意点	毎回出席は当然として、演習中には必ず発言をすること。発表の順番のときは十分な準備をすること。
---------	--

成績評価の方法	出席ならびに発言など、演習への貢献度と研究報告の出来で評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。
----------	---------------------------

参考書	とくになし。各自のテーマにかんする文献等。
-----	-----------------------

履修コード	413201 413202
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	テヅカ ヨシハル

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、白らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。</p>
---------------------	--

なお、指導教官の研究専門分野はグローバルイゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

到達目標：演習3aでは、卒業論文のテーマ（設問）、調査対象、方法を明解にし、詳細な調査計画を作ります。

授業スケジュール	<p>3abは主に卒業論文指導です。</p> <p>第1週グループ分けと予定の確認。 第2-14週 グループ別論文指導 第15週 成果発表</p>
----------	---

準備学習	各自の進行具合に応じて指示をする。
履修上の留意点	テヅカゼミ2ab履修済みの学生のみ履修可能です。
成績評価の方法	卒業論文・制作準備の進行具合によって総合的に評価します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	413101 413102
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決までの一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。 また、効果的プレゼンテーションについても学ぶ。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	4～5月：テーマ絞込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9～10月：ドラフト執筆、11～12月：完成
----------	---

準備学習	テーマに関連する既存研究、関連文献、データの収集を前期中にほぼ、終えること
履修上の留意点	事前に教員の許可が必要
成績評価の方法	平常点50% レポート50%
教科書／テキスト	なし
参考書	講義中に指示

履修コード	413601 413602
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	福家 秀紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、その進捗状況について発表と討論を行います。卒業論文の執筆を目指した研究指導を行います。
---------------------	---

(到達目標)
卒業論文の素案の執筆を目標とします。

授業スケジュール	演習III aは、各自の卒業論文の進捗状況の発表と討論を中心とします。 ① ガイダンス ②～⑭ 発表と討論 ⑮ まとめ
----------	--

準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
------	---

履修上の留意点	原則として演習I、II、IIIを通して履修することが望ましい。また、卒業研究予定論題届の提出を単位認定の条件とします。 なお、夏休みに期末レポートの発表会を開催します。
---------	---

成績評価の方法	発表、議論への参加状況の評価：50% 期末レポート：50%
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。
----------	-------------------------

参考書	ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。
-----	-------------------------

履修コード	412501 412502
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) インターネットの実践研究 (I) インターネットは「誰でも容易に何かを始めるプレイグラウンド」である。利用方法によっては、様々な社会の課題を解決する可能性を秘めている。本講義では、履修者が考えたアイデアを具現化していく。
---------------------	---

(到達目標)
インターネットを利用して新たな可能性を創造したり、既存の課題を解決するなど、課題に取り組む実践的な力を養う。また、この活動を卒業論文に向けた準備段階と位置づけ、必要十分な資料収集、開発、実験、調査を進め、執筆可能な状況にする。

授業スケジュール	1) 講義ガイダンス 2) 研究目標設定 3) 問題発見と設定 4) サーベイランス (1) 5) サーベイランス (2) 6) サーベイランス (3) 7) 研究進捗確認 8) 問題解決の方針設定 (1) 9) 問題解決の方針設定 (2) 10) 問題解決のための手法 (1) 11) 問題解決のための手法 (2) 12) 問題解決のための手法 (3) 13) 問題解決のための手法 (4) 14) 研究評価 15) まとめ
----------	---

準備学習	演習IIを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
------	---

履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時間だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
---------	--

成績評価の方法	成績は、平常点として日常の活動およびプロジェクトの実績による評価 (50%) とレポートとして学期末に発表した成果報告による評価 (50%) を合わせて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	授業支援システム内に掲出する。
----------	-----------------

参考書	村井純、「インターネット新世代」、岩波書店、798円、978-4004312277
-----	---

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	413301 413302
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 教員指導の下、卒業研究へ向けた活動を行います。 卒業研究は、グループによる学習ゲーム制作プロジェクト、もしくはその他個別のテーマによるものとし、いずれの場合も必ず教員と相談の上進めてください。</p> <p>【到達目標】 卒業研究のテーマ、及びその概要を決定し、具体的な作業を開始すること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回～第5回 卒業研究テーマに関する調査、検討、協議</p> <p>第6回 卒業研究テーマ発表会(1)</p> <p>第7回～第11回 卒業研究に関する基礎調査</p> <p>第12回 卒業研究テーマ発表会(2)</p> <p>第13回～第15回 卒業研究に関する作業</p>
----------	--

準備学習	卒業研究は学生が主体的に行うものです。指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。
------	--

履修上の留意点	卒業研究は学生が主体的に進めていくものですが、だからといって勝手に進めていいというものではありません。教員に随時進行状況を報告し、指示を受けた場合には従ってください。
---------	---

成績評価の方法	卒業研究へ向けての活動の評価 70% ゼミ活動全般への参加状況 30%
---------	--

教科書/テキスト	特に指定するものではありません。
----------	------------------

参考書	
-----	--

履修コード	413401 413402
科目名	演習IIIa 卒業研究
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3aでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究成果を集約させる。
---------------------	---

授業スケジュール	具体的には、次のような項目を卒業論文を完成させることを目的として、適宜順序を変更しながら実施する。
----------	---

第1週～第4週：基礎学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語Academic Reading(継続)
- 日本語Academic Writing(継続)
- 日本語Academic Presentation(継続)
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 卒業研究計画
- 発表会
- ディスカッション
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第14～15週：まとめ

- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

このようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」、の授業と関連して授業を行う。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	積極的な参加、卒業研究の標題の提出、および、発表会やディベートにおける発表により評価する。
---------	---

教科書/テキスト	授業において指示する。
----------	-------------

参考書

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/
-------	---

履修コード	412901 412902
科目名	演習III a 卒業研究
担当者名	リンスキー M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for a dissertation, which we will discuss in the seminar.
履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English. Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.
成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	414301 414302
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	石川 憲洋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 演習III aで自ら設定した卒業論文の研究テーマの調査、研究活動を継続して行い、研究成果を発表するとともに、研究成果に基づいて卒業論文を執筆する。 (到達目標) 卒業研究の成果に基づいて卒業論文の執筆を開始し、卒業論文を完成させる。発表会で卒業論文の発表を行う。
授業スケジュール	第1~2回: 演習III aでの研究成果の発表 第3~6回: 卒業論文に向けた調査、研究 第7~8回: 卒業研究の中間発表 第9~10回: 卒業研究の完了、卒業論文の執筆開始 第11~13回: 卒業論文の執筆 第14~15回: 卒業研究の発表
準備学習	演習III a (石川担当) で決めた卒業論文の研究テーマに関する調査、研究活動について、復習しておくこと。
履修上の留意点	演習III a (石川担当) から継続して履修すること。
成績評価の方法	レポート (卒業論文) 80%、平常点 (授業での積極的な発言、研究発表など) 20%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	共通の参考書はない。授業の中で研究テーマ毎に参考書、ホームページ等を紹介する。
その他	GMS授業支援システムを利用して、必要な情報を連絡、周知する。

履修コード	414401 414402
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。</p> <p>(到達目標) World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。IIIbでは、これまで開発したシステムに関して、実験と論文執筆を行なう。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習IIIbにおいては、これまでの成果を基に、卒業論文の作成を行う。</p> <p>1週～3週：文献調査 (brainstorming) 4週～7週：卒業制作 8週～：論文作成</p>
----------	---

準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、コンピュータワークショップで学んだPerlを用いたCGIプログラミング、ならびに、メディアとデータベースで学んだWebデータベースプログラミングも併せて復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベース履修済であることが望ましい。また、IIIaと併せての履修を前提とする。講義へは必ずPCを持参すること。
---------	---

成績評価の方法	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	<p>Scott Guelich(著), Gunther Birznies(著), Shishir Gundavaram(著), 田辺 茂也(訳), 大川 佳織(訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001)</p> <p>Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)</p> <p>Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 上巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>D. A. Patterson(著), J. L. Hennessy(著), 成田光彰(訳): 「コンピュータの構成と設計 - ハードウェアとソフトウェアのインタフェース」, 第4版, 下巻, 日経BP社, (2011)</p> <p>Mark Pilgrim(著), 矢倉 眞隆(訳), 水原文(訳): 「入門 HTML5」, オライリージャパン, (2011)</p> <p>高塚 達(著), 松田 亮一(著), 田中 ナルミ(著), 吉岡 肇(著), SRA OSS 日本支社(監修): 「新標準PostgreSQL」, ソフトバンククリエイティブ, (2009)</p>
----------	--

参考書	<p>Banksy: 「EXIT THROUGH THE GIFT SHOP」, 角川書店, DVD, (2012)</p> <p>Marcos et Yvon Le Bot(著), 佐々木 真一(訳): 「サバティスタの夢」, 現代企画室, (2005)</p> <p>E. H. Carr(著), 清水 幾太郎(訳): 「歴史とは何か」, 岩波書店, (1962)</p> <p>Nelson Goodman(著), 菅野 盾樹(訳): 「世界制作の方法」, 筑摩書房, (2008)</p> <p>J. S. Mill(著), 山岡 洋一(訳): 「自由論」, 光文社, (2006)</p> <p>Edward W. Said(著), 大橋 洋一(訳): 「知識人とは何か」, 平凡社, (1998)</p> <p>澁沢 栄一: 「論語と算盤」, 国書刊行会, (1985)</p> <p>William Walker(著), 鈴木 真奈美(訳): 「核の軌」, 七つ森書館, (2006)</p> <p>(株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007)</p> <p>(株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)</p>
-----	--

履修コード	414001 414002
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	各務 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1) 高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2) 多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3) 生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。</p> <p>現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	本講義では、演習Iab、IIab、IIIaで学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えると下さい。
準備学習	卒業論文の作成が中心になりますので、自宅で論文を書くことが主な準備学習となります。
履修上の留意点	出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。
成績評価の方法	ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。
教科書/テキスト	年に数冊。 適宜指示する。 日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。
参考書	あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・ 企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・ 年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	415601 415602
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	金山 智子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。</p> <p>IIIabでは卒論または卒業制作に取り組みます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>後期は卒論計画書に基づき、調査の実施・分析そして卒論の執筆、または映像などの卒業制作を行います。</p> <p>第1回～第3回 調査方法発表</p> <p>第4回～第8回 調査実施・中間報告</p> <p>第9回～第12回 データ分析</p> <p>第13回～第15回 卒論発表・提出</p>
----------	---

準備学習	調査方法に関してはある程度前期で決定し、事前調査を夏休み中に行うこと。
履修上の留意点	個人の自己管理をしっかり行うこと。
成績評価の方法	総合評価
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	414101 414102
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究の完成を目標とする。演習では、先において作成した卒業研究計画に基づき、具体的に、執筆の仕方、途中でのチェック、最終的な仕上げなどを、それぞれに応じて、個人別に指導をしていく。特に、10月11月においては、きわめて重要な時期であるので、きめの細かい指導をしていく予定である。最終的に、一定のレベル以上の卒業研究作成を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ①卒業研究作成インストラクション ②卒業研究計画書報告 ③卒業研究計画書報告 ④卒業研究計画書報告 ⑤卒業研究相談 ⑥卒業研究相談 ⑦卒業研究相談 ⑧卒業研究相談 ⑨卒業研究相談 ⑩卒業研究相談 ⑪卒業研究相談 ⑫卒業研究相談 ⑬卒業研究相談 ⑭卒業研究相談 ⑮まとめと卒業研究の反省会
----------	---

準備学習	指導教員と相談する際には、事前にきちんと質問や相談の内容をメールなどで知らせておくこと。また、研究の振興がわかるような資料や作成途中の論文の内容を用意しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	卒業研究の内容ならびに平常点。
---------	-----------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	415401 415402
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習IIab」で扱った内容を始め、知的財産や産業組織・企業戦略等に関連した幅広いテーマの中から、自ら研究テーマを選択、独自の調査研究を行い卒業研究論文としてまとめる。</p> <p>(到達目標)</p>
---------------------	---

到達目標 (ねらい)	演習IIIbでは、演習IIIaで作成したアウトラインにしたがって論文を完成させる。研究テーマの重要性や新規性の説明、仮説を客観的に検証するための素材・データ等の選択と論理的配置、他文献や一般的主張と自分が導いた結論との比較など客観的な議論、といった重要な要素を盛り込みつつ論文を書き上げることが目標。そして、単に論文を書くだけでなく、口頭で自分の研究内容を説明し、質問に対して説明を行うことも目標とし、プレゼンテーションと教員からの質問に対する受け答えを口述試験として行う。
------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 「イントロダクション」論文フォーマットの確認 第2回 「卒論執筆」(1) 第3回 「卒論執筆」(2) 第4回 「執筆状況報告」 第5回 「卒論執筆」(3) 第6回 「卒論執筆」(4) 第7回 「初校提出」 第8回 「初校修正」(1) 第9回 「初校修正」(2) 第10回 「初校修正」(3) 第11回 「初校修正」(4) 第12回 「卒論提出」 第13回 「口述試験」(1) 第14回 「口述試験」(2) 第15回 「卒論電子版提出」
----------	---

準備学習	MS WORDの使い方を事前に学ぶことが望ましい。
------	---------------------------

履修上の留意点	演習IIIaの履修を前提とする。
---------	------------------

成績評価の方法	最終提出論文：50% 口述試験：50%
---------	------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	414701 414702
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	クボタ, L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This class deals with the emerging realm of media for cell phones and other mobile computers. Its focus is in creating and producing a media platform and associated program applications that will showcase Japan's youth culture.
---------------------	---

授業スケジュール	Semester seminar 3ab will meet once a week over three periods. Students will divide into teams to complete the media program that they have been working on from Seminar 2ab. Students in teams will develop a presentation package for a final presentation. Students will also concentrate on writing their thesis based on the portfolio of work accomplished during the prior Seminar classes.
----------	--

準備学習	Read articles on producing new media.
------	---------------------------------------

履修上の留意点	Students should have taken Professor Kubota's earlier Seminar classes. Students who are self motivated and who desire to direct their own learning will benefit most from this course.
---------	--

成績評価の方法	Students will be graded based on participation, results of their final project, portfolio and thesis.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbooks.
----------	----------------------------------

参考書	Professor will provide materials from the following:
-----	--

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	414501 414502
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義概要) 本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、社会学の視点から現代社会におけるさまざまなメディア事象を考察する。前期演習IIIaで学んだことをふまえ、受講生各自がそれぞれ卒業研究を完成することを目指す。
---------------------	---

	(到達目標) 本演習はメディア社会学に関連する古典及び最新の文献の輪読・討論を行うとともに、受講生による研究テーマの発表などを通じて、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。具体的に(1)先行研究を入念に読み込み、整理・分析することを通じて、調査能力や論理的な思考能力を養うこと。(2)プレゼンテーションやディスカッションを通じて、物事を論理的に表現するトレーニングを行うこと。(3)自ら研究テーマに取り組むことで、日常生活におけるさまざまな現在進行形のメディア現象について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。
--	---

授業スケジュール	第1回 先行研究のリサーチや論文の書き方についての概説 第2~4回 メディア社会学についての文献を輪読、ディスカッション 第5~8回 卒業研究の指導 第9~14回 各自が仕上げた卒業研究について発表 第15回 総括
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	講義に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	--

成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価: 30% レスポンスカードの内容の評価: 30% 研究発表: 40%
---------	---

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。
-----	--------------------------

履修コード	414901 414902
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	五野井 郁夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、文化のもつラディカルな政治の可能性に注目してみたい。まず日常性のなかから政治的に思考する力を養うべく近年の政治と文化の理論を概観し、その後ポップカルチャーや現代芸術、建築、フェス、ストリート、クラブ、おたく文化などの事例からラディカルな政治性を読み取り検討してゆく。
---------------------	---

「文化」について批判的視座をもって学ぶことは、現代の世界を理解することであると同時に、この世界に抗う武器ともなる。それはすなわち、生き苦しい日常を生き残るための力を受講者自身が養うことなのである。生き残りたい人は受講すること。

授業スケジュール	卒業論文指導を受講生と相談して行います。
----------	----------------------

準備学習	日々の生活のなかで文化的関心を持つこと。
------	----------------------

履修上の留意点	カルチュラルタイフーン2012広島大会（7月予定）にゼミ生有志は参加します。
---------	--

成績評価の方法	卒業論文・制作の進行具合、ゼミ共同作業への貢献度等から総合的に評価します。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	415201 415202
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	基本的に演習III aと同様に、卒業論文指導とグローバル市民社会分析を中心とし、ゲスト講師のセッションをも行い、4年間の大学生活の集大成とする。(1) 国際関係にかなするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかなする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。
----------	---

演習の形式

(1) 課題の提出 (2) 文献発表 (3) 研究発表 (4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1
- 3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2
- 4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4
- 7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5
- 8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7
- 11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9
- 14回目 卒業論文発表・討論会1
- 15回目 卒業論文発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをとて若干変更することもあります。

準備学習	卒業研究に関しては、各自毎週研究計画に沿って研究を進め、報告する。グローバル市民社会分析については、毎週与えられた文献課題を読み、内容を整理し、関連事項を調査したレポートないしレジュメを提出する。ゲスト講師の講演・ディスカッションの際は、ゲスト講師と打ち合わせの上、課された課題をグループで準備する。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。 ・卒業論文を期限内に必ず提出すること。 ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。 ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。 ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
---------	---

成績評価の方法	毎週の提出課題30%、平常点30%、試験40%とする。 卒業論文を期限内に必ず提出すること。
---------	---

教科書／テキスト	・授業中に随時指示。
----------	------------

参考書	・授業中に随時指示。
-----	------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題図書については、授業時に指示する。 ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。
-----	---

履修コード	415501 415502
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	白水 繁彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成
授業スケジュール	1回～5回 調査の進捗状況発表、データ処理 6回～10回 卒論内容草稿の発表 11回～15回 卒論原稿完成
準備学習	授業支援システム上の資料を読了すること。
履修上の留意点	調査や執筆の慎重な計画作成。その計画通りに進捗するよう努める。
成績評価の方法	演習への貢献度と卒業論文の出来の両方で評価する。その割合は50対50である。
教科書／テキスト	とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。
参考書	各自のテーマにかんする文献等。

履修コード	414801 414802
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	西岡 洋子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決までの一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。 また、効果的プレゼンテーションについても学ぶ。
授業スケジュール	4～5月：テーマ絞り込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9～10月：ドラフト執筆、11～12月：完成
準備学習	9月には、ドラフト執筆に取りかかれるように、夏休み中にデータ収集および分析を行なっておくこと
履修上の留意点	事前に教員の許可が必要
成績評価の方法	平常点50% レポート50%
教科書／テキスト	なし
参考書	講義中に指示

履修コード	415301 415302
科目名	演習III b 卒業研究
担当者名	福家 秀紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて卒業論文の完成を目指した研究を進めます。適宜個人指導を行います。 (到達目標) 卒業論文を書き上げることを目的とします。
授業スケジュール	各自の研究の進捗に応じて、発表・討論と個人指導を並行して進めます。 ① ガイダンス ②～⑩ 発表・討論 ⑪～⑮ 卒業論文の最終確認
準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
履修上の留意点	原則として演習I、II、IIIを通して履修することが望ましい。また、卒業研究の提出を単位認定の条件とします。 なお、期末に口頭試問を兼ねて、卒業論文の発表会を開催します。
成績評価の方法	発表、議論への参加状況の評価：20% 卒業論文：80%
教科書／テキスト	ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。
参考書	ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	414201 414202
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) インターネットの実践研究 (II) 演習IIIaに引き続き、インターネットに関する様々な実践研究を進める。</p> <p>(到達目標) これまでの学習・研究活動の集大成として卒業論文にまとめることを最大かつ唯一の目的とする。インターネットの技術、応用、社会へのインパクトなど、あらゆるテーマについて、履修者の関心と興味にしたがって学習・研究を行う。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ガイダンス 2) 論文作成の方法 (1) 3) 論文サーベイランス (1) 4) 論文サーベイランス (2) 5) 論文作成の方法 (2) 6) 中間報告会 (1) 7) 研究実践 (1) 8) 研究実践 (2) 9) 研究実践 (3) 10) 中間報告会 (2) 11) 研究実践 (4) 12) 研究実践 (5) 13) 研究実践 (6) 14) 成果発表会 15) まとめ
----------	--

準備学習	同一担当者による演習IIIaを履修済みであること。
------	---------------------------

履修上の留意点	<p>演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。</p> <p>本講義は時間割で割り当てられた時間だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。</p>
---------	---

成績評価の方法	日常の活動および卒業論文によって評価し、総合的に判定する。レポート・定期試験は実施しない。
---------	---

教科書/テキスト	授業支援システムに公開する。
----------	----------------

参考書	<p>インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。</p> <p>・村井純「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277</p>
-----	---

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	415001 415002
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 教員指導の下、卒業研究の完成へ向けた活動を行います。 卒業研究は、グループによる学習ゲーム制作プロジェクト、もしくはその他個別のテーマによるものとし、いずれの場合も必ず教員と相談の上進めてください。</p> <p>【到達目標】 卒業研究を完成させること。</p>
授業スケジュール	<p>第1回～第5回 卒業研究に関する作業</p> <p>第6回 卒業研究中間発表会(1)</p> <p>第7回～第11回 卒業研究に関する作業</p> <p>第12回 卒業研究中間発表会(2)</p> <p>第13回～第15回 卒業研究に関する作業</p>
準備学習	卒業研究は学生が主体的に行うものです。指示待ちではなく、自分で考えて動くことが求められます。自分が何に貢献できるか、何ができるか考え、実践してください。
履修上の留意点	卒業研究は学生が主体的に進めていくものですが、だからといって勝手に進めていいというものではありません。教員に随時進行状況を報告し、指示を受けた場合には従ってください。
成績評価の方法	卒業研究へ向けての活動の評価 70% ゼミ活動全般への参加状況 30%
教科書／テキスト	特に指定するものではありません。
参考書	

履修コード	415101 415102
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3bでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究を完成させる。
--------------------	---

授業スケジュール	具体的には、次のような項目を卒業論文を完成させることを目的として、適宜順序を変更しながら実施する。
----------	---

- 論文執筆指導
- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 研究プロジェクト紹介
- 計画発表会
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation
- 研究内容に関するディスカッション
- 最新技術に関するディスカッション
- ITの社会的影響に関するディスカッション
- プログラミングによるシステム試作
- 発表会

このようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。「インターネットとメディア」、「複合ドキュメント概論」、「Webコンテンツデザイン各論」、「Webコンテンツデザイン演習」、の授業と関連して授業を行う。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	積極的な参加、発表会やディベートにおける発表、および、卒業研究により評価する。
---------	---

教科書／テキスト	授業において指示する。
----------	-------------

参考書

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/
-------	---

履修コード	414601 414602
科目名	演習IIIb 卒業研究
担当者名	リンスキー M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
授業スケジュール	The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following: 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students. Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher. Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.
準備学習	Please consider some topics for discussion as potential themes for a dissertation, which we will discuss in the seminar.
履修上の留意点	The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English. Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.
成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	400701
科目名	Oral Communication I
担当者名	ヴァン ヴィーレン D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}))}{3} + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400101
科目名	Oral Communication I
担当者名	エセックス J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversational topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400401
科目名	Oral Communication I
担当者名	エセックス, J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}}{1} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401211
科目名	Oral Communication I
担当者名	オーラ B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401231
科目名	Oral Communication I
担当者名	オーラ. B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor: absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401241
科目名	Oral Communication I
担当者名	オーラ, B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400201
科目名	Oral Communication I
担当者名	スミス. G. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor: absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}))}{3} + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400601
科目名	Oral Communication I
担当者名	パイプ J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400301
科目名	Oral Communication I
担当者名	フアーロー, D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400801
科目名	Oral Communication I
担当者名	フアーロー. D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401201
科目名	Oral Communication I
担当者名	ファーロー, D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400501
科目名	Oral Communication I
担当者名	ブーバー, U. J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor: absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401221
科目名	Oral Communication I
担当者名	モエ. R. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}))}{3} + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	400901
科目名	Oral Communication I
担当者名	ローズ, S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL}}{1} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401001
科目名	Oral Communication I
担当者名	ローズ S.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
---------------------	---

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	---

履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	401101
科目名	Oral Communication I
担当者名	ローズ S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur. Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401901
科目名	Oral Communication II
担当者名	ヴァン ヴィーレン D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401301
科目名	Oral Communication II
担当者名	エセックス J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401601
科目名	Oral Communication II
担当者名	エセックス, J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402411
科目名	Oral Communication II
担当者名	オーラ. B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor: absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402431
科目名	Oral Communication II
担当者名	オーラ. B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402441
科目名	Oral Communication II
担当者名	オーラ. B.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401401
科目名	Oral Communication II
担当者名	スミス. G. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401801
科目名	Oral Communication II
担当者名	パイプ J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401501
科目名	Oral Communication II
担当者名	フアーロー, D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402001
科目名	Oral Communication II
担当者名	フアーロー, D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}}{1} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402401
科目名	Oral Communication II
担当者名	フアロー、 D.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	---

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
----------	---

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書／テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	401701
科目名	Oral Communication II
担当者名	ブーハー, U. J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}}{3} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students". http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402421
科目名	Oral Communication II
担当者名	モエ. R. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: (((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achievement from WL 21) = Final Grade
教科書/テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402101
科目名	Oral Communication II
担当者名	ローズ S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402201
科目名	Oral Communication II
担当者名	ローズ. S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OC1. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OC1. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ . ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402301
科目名	Oral Communication II
担当者名	ローズ S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI. Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic Lesson 03 - Selection and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	408701 408702
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	エラム. J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409301 409302
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	エラム J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31})}{2} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409601 409602
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	エラム. J. R.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	---

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31} = \text{Final Grade}$
---------	---

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	409841 409842
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	エラム. J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	408801 408802
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	金子 カムシン
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: (((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achievement from WL 31) = Final Grade
教科書／テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409811 409812
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	金子 カムシン

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	---

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	409401 409402
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	クオック, R. Y. F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409701 409702
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	クオック. R. Y. F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}))}{3} + \text{SS Achievement from WL 31} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409821 409822
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	ゴールド, F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: (((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achievement from WL 31) = Final Grade
教科書/テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409001 409002
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	スミス G. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ . ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409831 409832
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	スミス, G. A.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	--

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	409201 409202
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	スメザム, M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	“TPP for Students”, http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409501 409502
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	スメザム. M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409801 409802
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	ダーリン. M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31})}{100} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	408901 408902
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	パイプ J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: (((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achievement from WL 31) = Final Grade
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409101 409102
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	モハメツド. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411101 411102
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	エラム. J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411611 411612
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	エラム, J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCIII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411901 411902
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	エラム. J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	412231 412232
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	エラム. J. R.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411201 411202
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	金子 カムシン

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	--

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	412201 412202
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	金子 カムシン
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41})}{100} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411701 411702
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	クオック, R. Y. F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5))) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41} = \text{Final Grade}$
教科書／テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	412001 412002
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	クオック. R. Y. F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCIII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 + \text{SS Achievement from WL 41}}{3} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	412211 412212
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	ゴールド F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411401 411402
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	スミス. G. A.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	--

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCIII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	412221 412222
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	スミス. G. A.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	--

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5))) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41} = \text{Final Grade}$
---------	--

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	411601 411602
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	スメザム M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}}{3} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411801 411802
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	スメザム, M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students" . http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	412101 412102
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
---------------------	--

授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
----------	--

準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: (((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achievement from WL 41) = Final Grade
---------	---

教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
----------	--

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	411301 411302
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	パイプ J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5))) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411501 411502
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	モハメツド. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII. The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.
授業スケジュール	Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 03 - Assignment and practice of topic Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic
準備学習	Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.
履修上の留意点	Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important. Homework assignments must be submitted promptly. Failure to submit homework assignments will result in 1 point being deducted from the Final Grade for each homework assignment not submitted.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41})}{1} = \text{Final Grade}$
教科書/テキスト	"TPP for Students", http://www.study-suite.com/japanese/index/ , ¥2,100. [TPP = Timed Paired Practice]
参考書	None.
その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	442201
科目名	Honors English Seminar I
担当者名	ギャリソン, J. G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The objectives of this course are to nurture a critical awareness of the cultural symbols that populate our changing world and the role media play in propagating them. Students will develop the intellectual skills required to investigate, understand and effectively employ cultural symbols. Intellectual curiosity, critical thinking, analytic reasoning and problem solving, and effective English speaking, writing, reading and listening skills will be developed.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>Weeks 1-2 Introduction to the study of cultural icons and their transformation: What is a cultural icon? How does something become a cultural icon? How and why do they change over time?</p> <p>Weeks 3-4 Discussion of Hello Kitty and Barbie as cultural icons. What do they tell us about Japanese and American culture?</p> <p>Weeks 5-6 Discussion of Caribbean and Latin Revolutionaries Che Guevara and Bob Marley: Two paths to glory</p> <p>Week 7 First Group Presentations</p> <p>Weeks 8-9 Discussion of the politicization of cartoon characters and the commodification of works of literature: Mickey Mouse and the Lion King: Didacticism in Gaza and 1984: the book, the year, the ad, and the campaign of 2008. An iconic dystopia lives on to kickstart Apple's McIntosh and derail Hillary Clinton's presidential bid.</p> <p>Weeks 10-11 Discussion of fine arts cultural icons: beauty yesterday and today. Ownership; desecration of the sacred: Michaelangelo's David, The Anatomy Lesson of Dr. Nicolaes Tulp and the Nelson Mandela's Autopsy dustup, da Vinci's Mona Lisa from Duchamp to Banksy, and Hopper's Nighthawks: who were they and whatever happened to them?</p> <p>Weeks 12-13 Weapons and culture: longevity in the face of change. Discussion of the Yemeni Jambia and the AK-47.</p> <p>Weeks 14-15 Final Group Presentations</p>
----------	---

準備学習	Successful completion of the five required English classes for freshmen is required.
------	--

履修上の留意点	<p>1) Honors English I is the first in a three-year, six-course series of classes for advanced non-native speakers of the language who have been admitted by the instructor upon interview. Successful completion of Honors English I is a prerequisite for admission to Honors English II the fall semester.</p> <p>2) Attendance is essential and punctuality is expected. Students should inform the instructor in advance if they plan to be absent. More than three unexcused absences in a term will incur a one-letter-grade penalty in the final evaluation.</p>
---------	--

成績評価の方法	Evaluation of students will be based on timely completion of assignments & participation in class (40%), occasional quizzes (20%) and two group projects, one mid-term and one at the end of the course (20% and 20% respectively).
---------	---

教科書/テキスト	No designated textbook. All material for class use will be provided by the instructor or resourced by students.
----------	---

参考書	An up-to-date English learner's dictionary (not an English-Japanese dictionary) is highly recommended
-----	---

履修コード	442301
科目名	Honors English Seminar II
担当者名	ギャリソン, J. G.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The objectives of this course are, as were those of Honors English I, to nurture a critical awareness of the cultural symbols that populate our changing world and the role media play in propagating them. Students will develop the intellectual skills required to investigate, understand and effectively employ cultural symbols. Intellectual curiosity, critical thinking, analytic reasoning and problem solving, and effective English speaking, writing, reading and listening skills will be developed.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>Weeks 1-2 The changing image of personal vehicular transportation: Motorcycling [The Wild One ('53), the Honda Cub ('58) & Easy Rider ('69)], Muscle Cars, and Going Green [the Prius, Leaf, & Volt]</p> <p>Weeks 3-4 Symbols of state: Uncle Sam, John Bull, Marianne How do personifications of nations represent them and how do they become iconic?</p> <p>Weeks 5-6 Barak Obama as cultural icon: the Associated Press/Shepard Fairey Hope controversy and beyond</p> <p>Week 7 First Group Presentations</p> <p>Weeks 8-9 King Kong and racial discrimination: Annie Liebowitz steps in it with her Vogue spread on LeBron James</p> <p>Weeks 10-11 Architectural icons: The Great Wall of China: If you build it, they won't come. / The Statue of Liberty: Not so tall and not so free.</p> <p>Weeks 12-13 Neda Soltan: Iranian cultural icon takes on new meaning with the advent of the Arab Spring</p> <p>Weeks 14-15 Final Group Presentations</p>
----------	---

準備学習	Successful completion of Honors English I is required.
------	--

履修上の留意点	<p>1) Honors English II is the second in a three-year, six-course series of Honors English classes for advanced non-native speakers of the language. Successful completion of Honors English I in the spring is a prerequisite for admission to Honors English II in the fall. Successful completion of Honors English II is a prerequisite for entrance to Honors English III the following spring.</p> <p>2) Attendance is essential and punctuality is expected. Students should inform the instructor in advance if they plan to be absent. More than three unexcused absences in a term will incur a one-letter-grade penalty in the final evaluation.</p>
---------	---

成績評価の方法	Evaluation of students will be based on timely completion of assignments & participation in class (40%), occasional quizzes (20%) and two group projects, one mid-term and one at the end of the course (20% and 20% respectively).
---------	---

教科書/テキスト	No designated textbook. All material for class use will be provided by the instructor or resourced by students.
----------	---

参考書	An up-to-date English learner's dictionary (not an English-Japanese dictionary) is highly recommended.
-----	--

履修コード	442401
科目名	Honors English Seminar III
担当者名	モエ. R. A.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To improve the oral communication skills of students by selecting and analyzing media topics, such as news articles and videos, selected by the students for use in classroom discussions.
---------------------	--

授業スケジュール	Students will select topics of interest to them on which they will research and prepare background information for later class participation. The material selected will be presented in class where it will be analyzed and discussed. Everything will be done in English in order to improve speaking, listening, reading, and comprehension skills.
----------	--

準備学習	Students will need to select topics of interest to them and to do background research of them in order to later present them in class.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisites for this course: ●Successful completion of Honors English Seminar II
---------	--

Students are expected to use English in all their work, whether it be in the classroom discussions or in preparation of presentations as well as any written assignments.

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula: $\frac{(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Class Participation})) / 3) * 0.75 + (\text{Assignments} * 0.25) = \text{Final Grade}}$
---------	--

教科書/テキスト	None.
----------	-------

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	442501
科目名	Honors English Seminar IV
担当者名	モエ. R. A.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To improve the oral communication skills of students by selecting and analyzing media topics, such as news articles and videos, selected by the students for use in classroom discussions. Procedures and content developed in HESIII will be further developed and refined.
---------------------	--

授業スケジュール	The content of Honors English Seminar IV will be organized as for Honors English Seminar III.
----------	---

準備学習	Students will be required to keep abreast of global events and issues by observing them daily using media resources of their choice. Understanding the background or history of these events is essential in gaining a deeper understanding, so research outside of class will be necessary in order to be able to participate in classroom discussions.
------	--

履修上の留意点	Pre-requisites for this course: ●Successful completion of Honors English Seminar III
---------	---

Students are expected to use English in all their work, whether it be in the classroom discussions or in preparation of presentations as well as any written assignments.

成績評価の方法	The evaluation procedures will be the same as for Honors English Seminar III.
---------	---

教科書/テキスト	None.
----------	-------

参考書	None.
-----	-------

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
-----	--

履修コード	442601
科目名	Honors English Seminar V
担当者名	アシュウェル. T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language. In a class of peers with similarly high English language proficiency levels, the aim of the course is to encourage students to develop as effective users of English faster and further than they might otherwise do in regular classes. Students will be expected to take on the responsibility needed if they are to develop into life-long learners and users of the language. The expectation is that students who enter Honors English Seminar I will continue to take Honors English for the remainder of the three-year cycle.
---------------------	---

授業スケジュール	There are two main content components to the course. The first is a theme around which students can research, discuss and present issues of interest through English (HES Research). The second main content component is individualized, independent study aimed at improving students' basic English language skills. The latter component consists of vocabulary building and partner-taping. These components will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.
----------	--

準備学習	None
------	------

履修上の留意点	Pre-requisites for this course: ・ Successful completion of Honors English Seminar IV
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	Evaluation of students will be based on their performance on the activities outlined above. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.
---------	---

教科書/テキスト	Students have already bought a vocabulary textbook in Honors English Seminar II. They will continue to use this book in Honors English Seminar V.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
-----	--

その他	See the Honors English Seminar V page on the GMS Course Management System for more information and materials.
-----	---

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	442701
科目名	Honors English Seminar VI
担当者名	アシュウェル. T.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language.
---------------------	---

The aims of Honors English Seminar VI are the same as those for Honors English Seminar V.

授業スケジュール	The content of Honors English Seminar VI will be organized as for Honors English Seminar V.
----------	---

準備学習	None
------	------

履修上の留意点	Pre-requisites for this course: ・ Successful completion of Honors English Seminar V
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The evaluation procedures will be the same as for Honors English Seminar V.
---------	---

教科書/テキスト	As for Honors English Seminar V.
----------	----------------------------------

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
-----	--

その他	See the Honors English Seminar VI page on the GMS Course Management System for more information and materials.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	435201
科目名	音楽メディア論
担当者名	増淵 敏之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	音楽をメディアとして捉えていくためには音楽の持つ消費材としての側面と文化的財としての側面を見ていく必要があります。事例分析を通じて消費者受容の背景にある社会的変化や音楽そのものの変容について考察していきます。
授業スケジュール	メディアとしての音楽 (2~3)、音楽メディアの歴史 (4~6)、産業としての音楽メディア (7~8)、ヒットの事例分析 (9~11)、デジタル化による転換 (12)、地域とポピュラー音楽 (13~14)、まとめ (15)
準備学習	これまでに聴いてきたポピュラー音楽を自分なりに整理してみてください。とくに社会、経済的な変化との関係について考えてみてください。
履修上の留意点	ポピュラー音楽を中心に扱っていきます。自分の過去の音楽体験を整理しておいて下さい。
成績評価の方法	学期末レポートと出席状況により評価します。
教科書/テキスト	参考書『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』増淵敏之、法政大学出版局
参考書	授業内で適宜紹介します。

履修コード	437501
科目名	海外演習実践講座I
担当者名	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 この科目は、はじめて「海外演習実践講座」を履修する学生を対象としている。単位認定を目的としてはじめて海外研修を行う学生は、必ずこの講座の履修登録を行うこと。 この講座では、一定期間海外で研修を行い、所定の書類を提出し審査にパスすれば、2単位が認定される。これまでも、留学(語学・学部)、インターンシップ、ボランティア、ソフトウェア研修、世界青年の船事業、等様々な形態の海外研修を幅広く単位として認定してきている。</p>
---------------------	--

到達目標	<p>2、到達目標 到達目標は研修形態により異なるが、一般的には履修者はこの講座を通じ、語学力を向上させ</p>
------	--

授業スケジュール	<p>(1) 渡航年度の履修登録期間中に、授業への履修登録を行うこと。 (2) 春に行われる、「海外演習実践講座」履修者対象のオリエンテーションに参加すること(スケジュールについては、GMSサイトに掲示)。 (3) 渡航前に担当教員の事前指導を受け(十分余裕をもってアポイントメントをとること)、もれなく記入された渡航前書類を締切前に提出すること。 (4) 原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受けること。 (5) 帰国後所定の期限内に、所定の形式に沿った帰国関連書類及びレポートをすべて提出し、教員の指導を受けること(期限内に余裕をもって書類・レポートを提出すること)。 (6) 春休み、夏休みの短期以外の研修については、必ず前もって教員に相談し、条件や締切日等について指示を仰ぐこと。</p> <p>(なお、提出書類や締切等については、GMSサイト参照のこと。 「授業支援システム」→「留学関係の情報」→「海外演習実践講座の履修について」)</p>
----------	--

準備学習	<p>研修場所、研修形態や期間等を決定するにあたり、SAF、CIEE、国際センター等の海外研修説明会に積極的に参加することが望まれる。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>(1) 渡航前提出書類について 「海外研修許可申請書」及び「GMS学部」「海外演習実践講座」研修計画書は、授業支援システムからダウンロードし、A4用紙にプリントアウトの上、記入のこと。なお記入の際には、同じく授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。特にすぐに連絡がつく現地連絡先(携帯電話、研修先電話、ステイ先電話のすべて)や研修期間、時間数が記入されていない場合には、書類を受理しない。</p>
---------	---

(2) 研修	<p>原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受ける必要があるが、この原則に満たない場合、必ず渡航前に余裕を持って担当教員に相談すること。 また帰国関連書類の一部である、「研修機関発行の研修評価書類」、及び、「研修機関発行のプログラム修了証」については、自己責任で現地で入手してくること。またその際には、これらの書類に、研修内容、研修期間・時間数、評価等の情報が記載されていることを確認すること。これらの情報がないと、原則として単位を認定しない。</p>
--------	---

(3) 帰国関連書類について	<p>「GMS学部」「海外演習実践講座」研修帰国届、「研修機関発行の研修評価書類」、 「研修機関発行のプログラム修了証」、「パスポートのコピー」、「海外研修アンケート」(任意)「海外演習実践講座研修レポート」を所定の形式に沿って準備し、所定の期限内に提出すること。 なお記入の際には、授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。書類がそろっていないと、書類の提出を受理しない。</p>
----------------	--

(4) 年度をまたがって海外研修を行う場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。	
---	--

成績評価の方法	<p>成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座I報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定しない。</p>
----------	---------------

参考書	<p>適宜資料を紹介する。</p>
-----	-------------------

履修コード	437601
科目名	海外演習実践講座II
担当者名	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 この科目は、「海外演習実践講座」を2回目に履修する学生を対象としている。2度目の「海外演習実践講座」履修者は、必ずこの講座に履修登録を行うこと。 この講座では、一定期間海外で研修を行い、所定の書類を提出し審査にパスすれば、2単位が認定される。これまでも、留学(語学・学部)、インターンシップ、ボランティア、ソフトウェア研修、世界青年の船事業、等様々な形態の海外研修を幅広く単位として認定してきている。</p> <p>2、到達目標 到達目標は研修形態により異なるが、一般的には履修者はこの講座を通じ、語学力を向上させるとともに、異文化に対する理解を深め寛容性を養うことが期待される。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 渡航年度の履修登録期間中に、授業への履修登録を行うこと。 (2) 春に行われる、「海外演習実践講座」履修者対象のオリエンテーションに参加すること(スケジュールについては、GMSサイトに掲示)。 (3) 渡航前に担当教員の事前指導を受け(十分余裕をもってポイントメントをとること)もれなく記入された渡航前書類を締切前に提出すること。 (4) 原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受けること。 (5) 帰国後所定の期限内に、所定の形式に沿った帰国関連書類及びレポートをすべて提出し、教員の指導を受けること(期限内に余裕をもって書類・レポートを提出すること)。 (6) 春休み、夏休みの短期以外の研修については、必ず前もって教員に相談し、条件や締切日等について指示を仰ぐこと。</p> <p>(なお、提出書類や締切等については、GMSサイト参照のこと。 「授業支援システム」→「留学関係の情報」→「海外演習実践講座の履修について」)</p>
----------	--

準備学習	研修場所、研修形態や期間等を決定するにあたり、SAF、CIEE、国際センター等の海外研修説明会に積極的に参加することが望まれる。
------	--

履修上の留意点	<p>(1) 渡航前提出書類について 「海外研修許可申請書」及び「GMS学部「海外演習実践講座」研修計画書」は、授業支援システムからダウンロードし、A4用紙にプリントアウトの上、記入のこと。なお記入の際には、同じく授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。特にすぐに連絡がつく現地連絡先(携帯電話、研修先電話、ステイ先電話のすべて)や研修期間、時間数が記入されていない場合には、書類を受理しない。</p> <p>(2) 研修 原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受ける必要があるが、この原則に満たない場合、必ず渡航前に余裕を持って担当教員に相談すること。 また帰国関連書類の一部である、「研修機関発行の研修評価書類」、及び、「研修機関発行のプログラム修了証」については、自己責任で現地で入手してくること。またその際には、これらの書類に、研修内容、研修期間・時間数、評価等の情報が記載されていることを確認すること。これらの情報がないと、原則として単位を認定しない。</p> <p>(3) 帰国関連書類について 「GMS学部「海外演習実践講座」研修帰国届」、「研修機関発行の研修評価書類」、「研修機関発行のプログラム修了証」、「パスポートのコピー」、「海外研修アンケート」(任意)「海外演習実践講座研修レポート」を所定の形式に沿って準備し、所定の期限内に提出すること。 なお記入の際には、授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。書類がそろっていないと、書類の提出を受理しない。</p> <p>(4) 年度をまたがって海外研修を行う場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。</p>
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座II報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。
---------	--

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	適宜資料を紹介する。
-----	------------

履修コード	437701
科目名	海外演習実践講座III
担当者名	杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛

授業概要/
到達目標 (ねらい)

- 1、授業概要
この科目は、「海外演習実践講座」を3回目に履修する学生を対象としている。3度目の「海外演習実践講座」履修者は、必ずこの講座に履修登録を行うこと。
この講座では、一定期間海外で研修を行い、所定の書類を提出し審査にパスすれば、2単位が認定される。これまでも、留学(語学・学部)、インターンシップ、ボランティア、ソフトウェア研修、世界青年の船事業、等様々な形態の海外研修を幅広く単位として認定してきている。
- 2、到達目標
到達目標は研修形態により異なるが、一般的には履修者はこの講座を通じ、語学力を向上させるとともに、異文化に対する理解を深め寛容性を養うことが期待される。

授業スケジュール

- (1) 渡航年度の履修登録期間中に、授業への履修登録を行うこと。
(2) 春に行われる、「海外演習実践講座」履修者対象のオリエンテーションに参加すること(スケジュールについては、GMSサイトに掲示)。
(3) 渡航前に担当教員の事前指導を受け(十分余裕をもってアポイントメントをとること)、もれなく記入された渡航前書類を締切前に提出すること。
(4) 原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受けること。
(5) 帰国後所定の期限内に、所定の形式に沿った帰国関連書類及びレポートをすべて提出し、教員の指導を受けること(期限に余裕をもって書類・レポートを提出すること)。
(6) 春休み、夏休みの短期以外の研修については、必ず前もって教員に相談し、条件や締切日等について指示を仰ぐこと。
- (なお、提出書類や締切等については、GMSサイト参照のこと。
「授業支援システム」→「留学関係の情報」→「海外演習実践講座の履修について」)

準備学習

研修場所、研修形態や期間等を決定するにあたり、SAF、CIEE、国際センター等の海外研修説明会に積極的に参加することが望まれる。

履修上の留意点

- (1) 渡航前提出書類について
「海外研修許可申請書」及び「GMS学部」「海外演習実践講座」研修計画書は、授業支援システムからダウンロードし、A4用紙にプリントアウトの上、記入のこと。なお記入の際には、同じく授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。特にすぐに連絡がつく現地連絡先(携帯電話、研修先電話、ステイ先電話のすべて)や研修期間、時間数が記入されていない場合には、書類を受理しない。
- (2) 研修
原則3週間以上、時間数にして45時間以上現地で研修を受ける必要があるが、この原則に満たない場合、必ず渡航前に余裕を持って担当教員に相談すること。
また帰国関連書類の一部である、「研修機関発行の研修評価書類」、及び、「研修機関発行のプログラム修了証」については、自己責任で現地で入手していただくこと。またその際には、これらの書類に、研修内容、研修期間・時間数、評価等の情報が記載されていることを確認すること。これらの情報がないと、原則として単位を認定しない。
- (3) 帰国関連書類について
「GMS学部」「海外演習実践講座」研修帰国届、「研修機関発行の研修評価書類」、「研修機関発行のプログラム修了証」、「パスポートのコピー」、「海外研修アンケート」(任意)「海外演習実践講座研修レポート」を所定の形式に沿って準備し、所定の期限内に提出すること。
なお記入の際には、授業支援システムにアップされている「履修における重要注意事項」と「海外演習実践講座提出物チェックシート」を参照し、もれなく記入すること。書類がそろっていないと、書類の提出を受理しない。
- (4) 年度をまたがって海外研修を行う場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。

成績評価の方法

成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅲ報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。

教科書/テキスト

指定しない。

参考書

適直資料を紹介する。

履修コード	434731
科目名	韓国の文化と社会I
担当者名	渡辺 吉鎔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「遠くて近い国」韓国の文化と社会について基礎的な知識を習得するとともにみずから隣国間の文化の架け橋になるように、能動的な文化実践者としての視座を養うことが本講義のねらいです。
---------------------	---

授業スケジュール	講義内容は大きいつぎのようなラインアップを考えています。5部構成からなります。 ①紹介の部 現代文化事情、現代社会事情、名所めぐりと歴史、地域基本データ ②基底文化の部 ライフスタイルと冠婚葬祭、宗教、家族制度 ③マスメディアの歴史とネット社会 ④分断国家の文化・社会政策と価値変容 ⑤日韓文化交流 についていっしょに学んでいきたいと思っています。
----------	--

準備学習	広くニュースなどの韓国に関する知識を蓄えること
------	-------------------------

履修上の留意点	①出席・課題などに厳しい授業です。 ②授業内容について毎回課題が出るので私語禁止です。 ③中間レポート、期末試験両方により単位修得ができます。
---------	---

成績評価の方法	①授業中への参加、②出席チェックを兼ねた小課題、③中間レポート、④期末テストによる総合評価です。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	担当者下記の著書を読むことをおすすめします。 『朝鮮語のすすめ』（講談社現代新書） 『韓国言語風景』（岩波新書）
-----	--

その他	なるべく多くの映像資料を使用したいと思っています。また、ことばが分かれば社会や文化がぐっと近く感じられますので固有名詞などを中心に言語学習も手伝っていききたいと思っています。
-----	---

履修コード	434741
科目名	韓国の文化と社会II
担当者名	渡辺 吉鎔

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル社会の中での韓国や朝鮮半島の諸問題とどのように向き合えばよいのでしょうか。日本からの情報の受信・発信はどのように行えばよいのでしょうか。このような問題解決の一方は、韓国社会の成り立ちやその中で蓄積されてきた人々の考え方、価値観について学び、知識を獲得することによって自分の見解を多様化・多層化していくことだと思います。 本講義のねらいは韓国社会・文化の歴史的展開のうえに成りたっている「現在」を学びながら隣国人として多角的な視座を身につけることです。
---------------------	---

授業スケジュール	各授業では毎回最低10人の人物・5つの出来事をピックアップ、具体的に学んでいきます。時系列に時代のうねりとなるようなトピックについて講義しますが、その時代を生きたさまざまな人々の声を感じられ、今日的な意味合いについていっしょに考えることができると願っています。一学期を貫くテーマは次の6つにまとめられます。 ①道別基本知識と広域市の特色 ②朴チヨンヒ政権—高度経済成長と反体制運動 ③金大中政権—グローバル社会と南北関係 ④ノムヒョン政権—市民パワーと格差是正のうねり ⑤李明ニョン政権—多様な韓国ブランドの世界化 ⑥日本統治の現代的解釈—東アジア共同体と日韓交流
----------	--

準備学習	韓国に関する図書に関心を持ち、知識を蓄えて下さい。
------	---------------------------

履修上の留意点	①本講義は「韓国の文化と社会II」の単位をすでに修得している者のための講義です。「韓国の文化と社会I」を履修終了していないと履修できません。 ②授業中毎回意見を求められるので積極的な履修者向きです。 ③出席、課題提出にきびしい科目です。
---------	--

成績評価の方法	①中間レポート ②期末試験 ③毎回授業内容についてのミニ課題 ④出席による総合評価です。 単位修得は①と②両方により成り立ちます。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	初回に紹介します。
-----	-----------

その他	多くの映像資料を使用したいと思います。
-----	---------------------

履修コード	431701
科目名	企業会計の実務
担当者名	伊藤 克容
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会のなかで会計（経理あるいは簿記）関係の仕事は、ひじょうに重要な役割を担っています。会計についての知識を「英語」、「パソコン」とあわせて「ビジネスパーソンの3種の神器」と呼ぶ人もいるくらい、重視されている科目です。ビジネスの世界で活躍しようとするならば、会計・経理の知識をもっていた方が圧倒的に有利でしょう。この講義では、ビジネスで必須の会計・経理のセンスを身につけることを目標にします。</p>
授業スケジュール	<p>1 オリエンテーション 2-4 企業会計の基本構造 5-6 財務諸表作成のための手続き 7-10 財務諸表分析：財務諸表から企業行動を読み取る ・収益性分析 ・安全性分析 ・CF計算書の作成と利用 11-14 マネジメントのための会計情報：管理会計へのアプローチ 15 まとめ *いくつかの単元を終了後、区切りのよい時点で確認テストを実施する予定です。 *講義内容の確認のため、個別論点についての討論形式の講義（シンポジウム）を実施することがあります。</p>
準備学習	<p>会計情報を活用すれば、企業（会社）についてより深く、正確に知るための手段が得られます。その前提として、企業についての興味や最低限の知識があったほうが望ましいです。企業経営関連の書籍、報道番組、ビジネス誌、新聞経済面などを定期的に視聴する習慣をつけておくといでしょう。</p>
履修上の留意点	<p>授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみることを。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくということが、頻繁にあります。毎時間かならず自分用の電卓を持ってきてください。</p>
成績評価の方法	<p>各受講者の個人得点を基準に成績をつけます。個人得点は、以下のように計算し、必要に応じて開示します。自分の状況（順位など）が確認したい場合は、いつでも問い合わせてください。講義への積極的な参加は加点対象です。逆に、講義時間中の迷惑行為（理由のない遅刻、睡眠、携帯電話の使用、私語など）は、個人得点からそのつど差し引きます。 各受講者の個人得点＝テスト（必修課題）の得点合計＋任意提出課題（講義プリント、発言など）の得点合計±受講態度 *年度によっても若干の違いがありますが、概ね、講義中の任意提出課題の比率50%～60%、テストの比率50%～40%と考えてください。</p>
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	必要に応じて、講義時間内に指示致します。
その他	毎時間プリントを配付します。

履修コード	434601
科目名	教育環境とメディア
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教育の場では学習者の理解を促すために様々なメディアを用いている。たとえば、教科書、ノート、黒板… のような古くから用いられている情報伝達と保存を目的としたものの他、教育の質に貢献するような音声やビデオなどの視聴覚ツールなどが例として挙げられる。 今日の教育環境では、これらに加えてコンピュータを利用したデジタルメディアを活用するケースが少なくない。古くはコンピュータが教育を支援するCAI (Computer Aided Instruction) から、最近ではインターネットを利用したe-ラーニングまで様々な事例がある。教育、学習という人間の本質に関わる活動を踏まえて、デジタルメディアのあり方を、これまでの歴史、思想、事例と共に俯瞰する。
---------------------	--

(到達目標)
第一に、教育とメディアの歴史と思想を理解する。第二に、インターネットというデジタルメディアの流通基盤の存在が教育環境に与える影響、具体的な例示、現状と課題、標準化の課題、学習・教育への影響と効果、などについて学ぶ。第三に、教育環境のあり方を様々な方向から考察し、デジタルメディアの時代にふさわしい教育の環境と方法論についてその方向性を示す。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義ガイダンス 2) 教育現場におけるメディア ～教育メディアとは～ 3) 感覚による理解 ～言語中心の教育から感覚理解を取り入れた教育へ～ 4) CAI (Computer-aided/assisted Instruction) による教育環境の変化 5) e-ラーニングの歴史 (1) CBT (Computer-based Training) 6) e-ラーニングの歴史 (2) WBT (Web-based Training) 7) e-ラーニングシステム ～LMS (Learning Management System) とコンテンツ (教材) ～ 8) LMSの位置づけとその役割 ～moodleを例として～ 9) コンテンツ制作のためのオーサリングツール ～eXeを例として～ 10) コンテンツ制作の実際 11) コンテンツ共有のための標準化 ～SCORMを例として～ 12) e-ラーニングの先端事例 (1) ～iTunes Uを事例として～ 13) e-ラーニングの先端事例 (2) ～School on the Internet (SOI) を事例として～ 14) 未来のe-ラーニング (議論) 15) 教育環境とメディア まとめ
----------	---

準備学習	情報リテラシー・情報リテラシー実習で学んだことを前提に講義が進むので、一度復習しておくこと。 また、講義中に次の講義に必要な資料と範囲を指定する。熟読し講義に備えること。
------	--

履修上の留意点	毎回、授業支援システム上の「講義日誌」に、受講した講義の要約とコメントを記述する。なお、講義中に時間は設けないので、授業時間外に記述すること。 就職活動や部活動などやむを得ない事情で欠席した場合は、「講義日誌」にその旨を記述して提出すること。なお、証明書類や依頼状などの提出は不要である。 講義で利用する資料は、授業支援システムに電子的に掲出するため、講義中にインターネットに接続し資料を閲覧できるようにしておくこと。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (40%) とレポート (60%) で評価する。定期試験は行わない。 平常点には、単元ごとに理解度を問う小テストを行う。毎回記述する「講義日誌」が含まれる。
---------	---

レポートは合計3題提出する。すべて提出されていることが単位取得の最低条件である (レポートがすべて提出されていても必ず単位が取得できるわけではない)。

教科書/テキスト	授業支援システムに公開する。
----------	----------------

参考書	<p>コンピュータをメディアとして利用した教育について、過去から現代にいたる様々な事例やそれに関連する知識を身に付ける副読本として以下を参考書に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口祐平編「デジタル教材の教育学 歴史と思想 活用と展開 デザイン論」東京大学出版 3,200円 ISBN-13: 978-4-13-052079-9 ・e-ラーニング、インストラクショナルデザインや、関連して配慮しなければならない著作権などの実践的な知識を身に付ける副読本として以下を参考書に指定する。 ・玉木鉄也編著「これ一冊でわかる e-ラーニング専門家の基本」東京電機大学出版局 3,400円 ISBN-13: 978-4-501-54760-8
-----	--

その他	質問などがある場合はオフィスアワー (水曜日 13:00～14:30 第一研究館6階1615) を利用すること。
-----	--

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	434721
科目名	キリスト教文化
担当者名	豊川 慎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では文化を形成する力のひとつとしてのキリスト教を論じる。キリスト教は2000年以上の歴史の中で政治、経済、芸術、教育など多様な文化諸領域に関連し、自由、平等、人権、寛容などの思想や制度の発展に寄与してきた。本講義ではキリスト教の歴史と思想を概観しつつ、キリスト教と文化をめぐる諸課題を論じる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p><講義キーワード> 古代キリスト教文化思想 (アウグスティヌスのキリスト教思想)、中世キリスト教文化 (修道院制度、キリスト教芸術など)、宗教改革の文化思想、プロテスタンティズムと職業観、宗教改革と活版印刷術、日本におけるキリスト教文化、キリスト教思想から考える戦争と平和、赦しと和解、キリスト教思想と人権、キリスト教における「愛」の思想、クリスマスの起源など</p>
----------	--

準備学習	特に必要としないが、前回までの講義内容を十分に理解しておくことが望ましい。
履修上の留意点	授業参加を重視する。単位修得には三分の二以上の出席。
成績評価の方法	授業ごとに書くコメントシート (40点)、レポート試験 (60点)
教科書/テキスト	教科書は使用しない、授業ごとに配布するレジュメに沿ってすすめる。
参考書	『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 その他の参考書は授業で指示する。

履修コード	415901
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ L.

授業概要/
到達目標 (ねらい)

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant issues concerning the theory and practice of creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

授業スケジュール

This course will meet one period per week. The course will utilize multimedia and the Internet. Reading assignments will be made and the selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus.

準備学習

Read articles and case studies on creative businesses.

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based on quizzes and projects, final exam, and participation in class discussions.

教科書/テキスト

There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.

参考書

Professor will provide materials from the following:
 Richard Florida: Rise of the Creative Class, Basic Books, Cambridge, MA 2004
 Richard Florida: Cities and the Creative Class, Routledge, New York, NY, 2005
 John Howkins: The Creative Economy, Penguin Books, London, 2001
 John Hartley, Creative Industries, Malden, MA Blackwell Publishing, 2005
 Warren Bennis and Patricia Ward, Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.
 Chris Bilton, "Defining Creativity," Management and Creativity, Malden, MA, Blackwell Publishing, 2007
 Teresa M. Amabile, How to Kill Creativity, Harvard Business Review, September-October 1998
 Ricard Gil and Pablo T. Spiller, The Organizational Dimensions of Creativity: Motion Picture Production, California Management Review, November 1, 2007
 Michael E. Porter, What is Strategy? Harvard Business Review, November-December 1996
 Ed Catmull, How Pixar Fosters Collective Creativity, Harvard Business Review, September 2008
 Richard Florida, The World Is Spiky, The Atlantic Monthly, October 2005
 Peter Drucker, Managing for the Future, Truman Talley Books, 1992
 David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.
 Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, Hot Groups, New York, Oxford University Press, 1999.
 Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, Competing on the Edge, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998
 Geoffrey A. Moore, Crossing The Chasm, New York, HarperBusiness, 1995.
 Mihaly Csikszentmihalyi, Creativity, New York, HarperCollines Publishers, 1996
 Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, Cambridge, United Kingdom, 2011.
 Peter F. Drucker, Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals, New York, Harper & Row Publishers, 1985.
 Michael Sorkin, Variations On A Theme Park, New York, Hill and Wang, 1992.
 William J. Mitchell, City of Bits, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.
 Case Studies
 David B. Yoffie and Renee Kim, Apple Inc. in 2010, Boston, MA, Harvard Business School Press, April 1, 2010.
 Facebook, Stanford Graduate School of Business, May 3, 2006
 Mikolaj Jan Piskorski, Masaru Nomura and Kanako Miyoshi, mixi, Boston, MA, Harvard Business School Press, March 19, 2010
 Ed Catmull, How Pixar Fosters Collective Creativity, R0809D, Harvard Business Review, September 2008
 Chris Bangle, The Ultimate Creativity Machine: How BMW Turns Art into Profit, R0101B Harvard Business Review, January 2001
 Penelope Chan and Ali Farhoomand, Disney: Losing Magic in the Middle Kingdom, HKU835, Asia Research Centre, The University of Hong Kong, 2010
 Anita Elberse, Andrei Hagiu and Masako Egawa, Roppongi Hill: City Within a City, 9-707-431, Harvard Business School Press, August 26, 2008

履修コード	416001
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant issues concerning the theory and practice of creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.
---------------------	--

授業スケジュール	This Semester course will meet on one period a week. The course will utilize media and the Internet. Readings will be assigned and the selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus
----------	--

準備学習	Read articles and case studies on creative businesses.
------	--

履修上の留意点	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation will be based on quizzes, projects, final exam, and participation.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbooks, only readings provided on the class website.
----------	---

参考書	Professor will provide materials from the following:
-----	--

- Richard Florida, Rise of the Creative Class, Basic Books, Cambridge, MA, 2004
Richard Florida, Cities and the Creative Class, Routledge, New York, NY, 2005
John Howkins, The Creative Economy, Penguin Books, London, 2001
John Hartley, Creative Industries, Malden, MA Blackwell Publishing, 2005
Warren Bennis and Patricia Ward, Organizing Genius, The Secrets of Creative Collaboration, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.
Chris Bilton, "Defining Creativity," Management and Creativity, Malden, MA, Blackwell Publishing, 2007
Teresa M. Amabile, How to Kill Creativity, Harvard Business Review, September-October 1998
Ricard Gil and Pablo T. Spiller, The Organizational Dimensions of Creativity: Motion Picture Production, California Management Review, November 1, 2007
Michael E. Porter, What is Strategy? Harvard Business Review, November-December 1996
Ed Catmull, How Pixar Fosters Collective Creativity, Harvard Business Review, September 2008
Richard Florida, The World Is Spiky, The Atlantic Monthly, October 2005
Peter Drucker, Managing for the Future, Truman Talley Books, 1992
David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.
Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, Hot Groups, New York, Oxford University Press, 1999.
Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, Competing on the Edge, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998
Geoffrey A. Moore, Crossing The Chasm, New York, HarperBusiness, 1995.
Mihaly Csikszentmihalyi, Creativity, New York, HarperCollines Publishers, 1996
Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, Cambridge, United Kingdom, 2007.
Peter F. Drucker, Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals, New York, Harper & Row Publishers, 1985.
Michael Sorkin, Variations On A Theme Park, New York, Hill and Wang, 1992.
William J. Mitchell, City of Bits, Cambridge, MA, MIT Press, 1995

Case Studies

- David B. Yoffie and Renee Kim, Apple Inc. in 2010, Boston, MA, Harvard Business School Press, April 1, 2010.
Facebook, Stanford Graduate School of Business, May 3, 2006
Mikolaj Jan Piskorski, Masaru Nomura and Kanako Miyoshi, mixi, Boston, MA, Harvard Business School Press, March 19, 2010
Ed Catmull, How Pixar Fosters Collective Creativity, R0809D, Harvard Business Review, September 2008
Chris Bangle, The Ultimate Creativity Machine: How BMW Turns Art into Profit, R0101B Harvard Business Review, January 2001
Penelope Chan and Ali Farhoomand, Disney: Losing Magic in the Middle Kingdom, HKU885, Asia Research Centre, The University of Hong Kong, 2010
Anita Elberse, Andrei Hagiu and Masako Egawa, Roppongi Hill: City Within a City, 9-707-431, Harvard Business School Press, August 26, 2008

履修コード	432601
科目名	グローバルアート政策論
担当者名	川崎 賢一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文化システムの特徴・機能・可能性、について、文化政策、特に芸術文化政策をキーワードとして論じる。文化的グローバル化により、国家単位の文化システムが、越境的・グローバルな展開を遂げつつあると同時に、その中核的な機能を果たしている。その成立過程、展開・普及過程、そして将来の可能性をグローバルな観点から展望する。
授業スケジュール	文化政策のオリジナルを、西欧諸国等（特にフランス、ドイツ、イギリス、アメリカ）に求め、その歴史と展開を概観する。その後1980年代以降のグローバル化を念頭に置きつつ、日本を中心にアジア諸国の状況を、比較の観点から概説する。 (スケジュール) 1. イントロダクション 2. 文化政策とは何か？その起源と展開の概略 3. ファインアートカルチャーとポピュラーカルチャー 4. 文化階層と文化政策 5. 文化政策の諸類型：フランス型 6. 文化政策の諸類型：ドイツ型 7. 文化政策の諸類型：イギリス型 8. 文化政策の諸類型：アメリカ型 9. 文化政策の諸類型：シンガポールの文化政策 10. 文化政策の諸類型：東南アジア型 11. 文化政策の諸類型：中国の文化政策 12. 文化政策の諸類型：東アジア型 13. 日本における文化政策の歴史的問題 14. 日本における文化政策の近年の展開 15. まとめ：文化政策の限界と可能性
準備学習	配布された資料については、事前に読んで、質問を考えておくこと。また、授業で現況のあった単行本・論文などについても、事後に手に入れて読んでおくこと。
履修上の留意点	私語・遅刻・欠席については厳正に対処する。
成績評価の方法	平常点 30点 学期末の論述試験 70点 合計 100点満点
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	川崎賢一『トランスフォーマティブ・カルチャー』勁草書房、2006年 佐々木・川崎・河島（共編）『グローバル化する文化政策』勁草書房、2009年

履修コード	433101
科目名	グローバル英語概論
担当者名	町田 尚子

授業概要/
到達目標 (ねらい)

<授業概要>

さまざまな英語の紹介と「世界の共通語としての英語とは何か」がテーマです。母語としての英語、第二言語あるいは公用語としての英語、外国語としての英語が私たちの周りに存在します。さらに地域的・使用の場におけるバリエーションも無視できません。さらに現代英語の音声・音韻・形態・語彙・統語における特徴を、歴史的変化も視野に入れ、考察します。

<到達目標>

英語教員免許状取得を目指している学生の必修科目として、最低知っておくべき英語学・音声学・英語史の知識の修得を第一とし、さらにさまざまな英語を通して多様性への理解を深めることをねらいとします。

授業スケジュール

- Week 1
Introduction: What is English? (1)
English as a Global Language
- Week 2
Introduction: What is English? (2)
International Varieties of English
- Week 3
Introduction: What is English? (3)
The three circles of English and A family tree representation
- Week 4
Historical background: The history of the English language is the history of invasions
- Week 5
American English vs British English
- Week 6
Other varieties and Registers
1. Style of speech
2. Standard and non-standard English
3. Spoken and written English
- Week 7
English and the Internet
- Week 8
Features of English (1)
Vocabulary: Borrowing; Synonyms; Word formation
- Week 9
Features of English (2)
Pronunciation: Modern English sounds: vowels and consonants
- Week 10
Features of English (2)
Pronunciation: Old English and Middle English sounds: The Great Vowel Shift; Variations
- Week 11
Features of English (3)
Grammar
1. How were inflections simplified in English?
- Week 12
Features of English (3)
Grammar
2. New grammatical features: word order, prepositions and modal auxiliaries
- Week 13
Features of English (3)
Grammar
3. More about English Grammar
- Week 14
What should Japanese learners of English be careful about?
- Week 15
Future of English

準備学習

(1) 毎回の講義概要はGMS学部授業支援システム [https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/] の当該ページに掲載してありますので、事前に必ずダウンロードし問題点を把握しておくこと。(2) 中公新書、講談社新書等で英語の通史を一通り読んでおくこと。

履修上の留意点

英語教員免許の取得を考えている学生は2~3年次で履修しておく必要があります。

成績評価の方法

半期科目なので、講義が中心ですが、課題レポート提出が2回ないしは3回あります。特に、初回授業で第1回の提出課題を指示しますので、必ず出席してください。また、講義についての理解を確認する小テストをほぼ毎回行う予定です。課題レポート30%、小テスト15%、定期試験55%の目安で評価点を出します。

教科書/テキスト

GMS授業支援サイトのページに使用教材・資料等を毎回事前に指示します。

参考書

- ・Blake, N. F. (1996) A History of the English Language, London: Macmillan (ISBN 0333609840)
- ・Blommaert, Jan (2010) The Sociolinguistics of Globalization, Cambridge University Press. (ISBN 9780521710237)
- ・Bragg, Melvyn (2004) The Adventure of English: The Biography of a Language, Arcade Publishing. (ISBN 1559707100)

- Crystal, David (1997) English as a Global Language, Cambridge: Cambridge University Press. (ISBN 0521530326)
- Crystal, David (2001) Language and the Internet, Cambridge: Cambridge University Press.
- Crystal, David (2002) The English Language, 2nd edition. Penguin Books (ISBN 0141003960)
- Crystal, D. (2008) Txtng: The gr8 db8, paperback (2009). Oxford: Oxford University Press (ISBN 9780199571338)
- Crystal, David (2004) Rediscover Grammar, Pearson Longman (ISBN 0582848628)
- Trask, R.L. (1999/2001) Language: The Basics, 2nd edition. Routledge (ISBN 041520089-X)
- 寺澤 盾 (2008) 『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書1971.
- 本名信行 編 (1990) 『アジアの英語』くろしお出版 (ISBN 4874240488)

その他 欠席する場合はeメール等で連絡し、課題の指示を受けること。

関連リンク <https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	416501
科目名	グローバル企業行動論
担当者名	リンスキー M.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course provides students with an overview of the subject of international business and management. Students will be introduced to several themes, such as globalization, corporate strategy, and strategic alliances. The material draws on models and examples in management studies, organizational behaviour and industrial relations.
授業スケジュール	The content of the course is introduced in a series of lecture materials and selected readings given by the teacher. Where appropriate, certain themes may be explored further through the use of short case studies that are directly pertinent to the focal topic.
準備学習	It is useful to be aware of current economic affairs by reading newspaper articles.
履修上の留意点	
成績評価の方法	Students are evaluated by their class attendance, class participation and a final examination. Evaluation will be explained by the teacher at the start of the course.
教科書/テキスト	
参考書	Suggested readings will be given by the teacher in course material or in class.

履修コード	427911
科目名	グローバル経営論
担当者名	各務 洋子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル経営論Iの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。
授業スケジュール	<p>グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1)どのような論理で組織が構築され、(2)どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。</p> <p>I. グローバル経営の論理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業活動の国際展開の論理 2. グローバル経営の戦略論 3. グローバル経営の組織論 4. 海外子会社関係のマネジメント 5. グローバル統合とローカル適応の論理 6. トランスナショナル経営論 <p>II. グローバル経営の革新</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. グローバル企業のイノベーション 8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント 9. グローバルR&Dマネジメント 10. グローバル戦略提携のマネジメント <p>III. グローバル経営環境とマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. グローバルな人的資源戦略 12. リージョナル・マネジメント 13. グローバル経営における文化 14. まとめ
準備学習	新聞や雑誌、TV、インターネットなど、様々なメディアを通して、企業のグローバル活動についての情報に興味関心を抱いて下さい。講義終了後には、講義で使用したパワーポイントの画像を、授業支援システムに掲載しますので、復習を要します。
履修上の留意点	グローバルマネジメント（またはグローバル経営論I）をすでに履修した学生に限り、グローバルマネジメント（またはグローバル経営論I）と同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。
成績評価の方法	各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。
教科書／テキスト	開講時に指示。
参考書	必要に応じて随時紹介。

履修コード	432801
科目名	グローバル交流論
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	・国境を越えたトランスナショナル・グローバルな交流の諸相に関する基礎文献の検討をもとに、ヒト・モノ・カネ・情報など多種多様な分野における交流がもたらす問題を考える。 ・将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。</p> <p>講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。</p> <p>授業スケジュール</p> <p>1回目 ガイダンス&イントロダクション</p> <p>2回目 グローバル交流の枠組 1</p> <p>3回目 グローバル交流の枠組 2</p> <p>4回目 グローバルな交流の理論 1</p> <p>5回目 グローバルな交流の理論 2</p> <p>6回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 1</p> <p>7回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 2</p> <p>8回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 3</p> <p>9回目 文化・思想の交流 1</p> <p>10回目 文化・思想の交流 2</p> <p>11回目 ヒト・モノ・カネの交流 1</p> <p>12回目 ヒト・モノ・カネの交流 2</p> <p>13回目 グローバルな交流とメディア 1</p> <p>14回目 グローバルな交流とメディア 2</p> <p>15回目 まとめ</p> <p>※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。</p>
----------	--

準備学習	課題文献がある回は、文献を通読しておくこと。課題文献のない回は、予習は不要。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習を前提として授業が進むので、予習（文献をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。 ・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。 ・ダウンロード入手した文献は、自宅でプリントアウトすること。大学の情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の迷惑になるので禁止。
---------	---

成績評価の方法	<p>出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点（70%）とブック・レポート（30%）により評価。</p> <p>※必ず、事前に文献を読んでくること。文献を読んできていない答案はすぐに区別が付きまので、たとえ毎回出席していても文献を読んでいない学生は、不合格になります。</p>
---------	---

教科書／テキスト	開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。
----------	------------------------------------

参考書	授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。
-----	--------------------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。 ・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。 ・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。
-----	--

履修コード	433001
科目名	グローバルシティズンシップ
担当者名	関根 政美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代世界は国際移民の時代です。それは、移民・難民・外国人労働者・留学生等の移動・定住がグローバルなレベルで行われている時代です。そして、国境を越えて移住・定住する人々の人権・シティズンシップ(市民権)の保護(とくに移住者の文化・言語の権利)が、重要な課題となっていく時代です。かつては国民国家の成員のみに与えられていた市民権(シティズンシップ)を、越境して移動・定住する人々にも保障する必要がでてきたため、近年ではグローバルシティズンシップ(GC)という考え方が生まれてきました。本講義では、GCとは何か、GCが必要になるような社会状況は、どのような世界的な社会・文化変動を背景にして生まれてきたのか、などについて論じたいと思います。
授業スケジュール	授業では、GCとは何か、その必要性を生み出している現代世界の社会・文化変動について理解してほしい。とくに、日本においてグローバルシティズンシップが十分意識されているかどうか注目したい。そのための授業スケジュールは以下の通り。 <授業スケジュール> * 授業担当者の紹介と授業内容の紹介(第1回) * グローバリゼーション時代のシティズンシップ(第2回) * 人口移動のグローバリゼーション：過去・現在・未来(第3回～第6回) * グローバリゼーションが生み出す国民国家の多文化社会化(メディアのグローバリゼーションと文化、含む)(第7回～第10回) * 多文化シティズンシップとしてのグローバルシティズンシップ：超党派的支持から反発へ(第11回～第13回) * 多文化シティズンシップへの反発の原因：多文化共生から多文化競生へ(第14回～第15回)
準備学習	本授業を履修するものは、授業期間中の新聞・雑誌・電子メディアなどに現れる世界・日本の移民・難民外国人労働者に関する「記事」を収集・整理し、世界・日本の多文化社会化状況を自分なりに理解しつつ授業に参加すること。
履修上の留意点	グローバルな問題に関心がある学生、あるいは各種ニュースから見た世界各国・日本の多文化社会状況について関心を持つ学生であることを望む。適宜、VTRを参照するので見逃さないよう
成績評価の方法	レポートと期末試験による総合評価
教科書/テキスト	* S. カースルズ/M. J. ミラー(関根・関根監訳)『国際移民の時代(第4版)』名古屋大学出版会、2011年。
参考書	* 関根政美『多文化主義時代の到来』朝日新聞社、2000年 * D. ヒーター(田中敏郎・関根政美訳)『市民権とは何か』岩波書店、2003年。授業において参考文献を適宜提示するので注意。 * 竹田・森・他編『オーストラリア入門』東京大学出版会、2006年。

履修コード	433401
科目名	グローバル市民社会論
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆるGCS (グローバル市民社会)、TCS (トランスナショナル市民社会) と言われる、NGO、グローバル企業、国際機関、国家などの多様な主体による、近年の国境を超えた諸活動に関する基礎文献をもとに、GCS/TCSとは何か、それが国際関係や世界全体においてどのような役割を果たしているか、といった点について理解を深める。 ・グローバルな交流の中で主体的に活動する人々のさまざまな考え方や行動を知ることで、自分たち自身が世界の中でどう生きるか、どう行動するかを考え、実践していくためのヒントを得る。 ・「グローバル交流論」と同様、将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。</p> <p>講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。</p> <p>授業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 ガイダンス 2回目 グローバル経済1 映像分析 3回目 グローバル経済2 グローバリゼーションたち 4回目 グローバル経済3 ネオ・リベラリズム批判 5回目 地球環境・資源1 映像分析 6回目 地球環境・資源2 地球環境問題の国際的取り組み 7回目 地球環境・資源3 水・食糧・生命 8回目 貧困と開発1 映像分析 9回目 貧困と開発2 貧困とは何か 10回目 貧困と開発3 開発の理論と実践 11回目 紛争と正義1 映像分析 12回目 紛争と正義2 民族紛争と難民 13回目 紛争と正義3 紛争の原因 14回目 グローバル市民社会1 映像分析 15回目 グローバル市民社会2 メディアと監視 <p>※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。</p>
----------	---

準備学習	課題文献がある回は、文献を通読しておくこと。課題文献のない回は、予習は不要。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習を前提として授業が進むので、予習(文献をひととおり読んでおくこと)を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。 ・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。 ・ダウンロードした文献は、自宅でプリントアウトすること。情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の多大な迷惑になるので、禁止。
---------	--

成績評価の方法	出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点(70%)とブック・レポート(30%)により評価。 ※事前に必ず、課された文献を読んでくること。文献を読んできているかどうかは答案用紙によってすぐに区別が付きまますので、毎回出席していても文献を読んできていない場合には、不合格になります。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。
----------	------------------------------------

参考書	授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。
-----	--------------------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。 ・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。 ・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。
-----	--

履修コード	431111
科目名	グローバル戦略論
担当者名	各務 洋子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	モノづくりの企業に限らず、映画、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットといったあらゆる分野で企業は絶え間ない技術革新(知識の創造とイノベーション)を求められている。様々な特質をもつ業界において求められる知識創造を継続的に生み出す経営戦略に焦点をあてる。新規性の高いプロダクトやアイデアを創出するための経営資源セット、組織構造、システム、プロセスを解明し、企業価値を創造する経営戦略の論理を学ぶ。
授業スケジュール	<p>グローバル経営を追求するあらゆる組織のなかで、組織の成長を促進するための経営戦略を学ぶ。毎回、実際の企業の事例と、理論的フレームワークを提示し、理論と現実との両面から知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦略の本質と意義 2. 全社戦略①企業全体を方向づける方法 3. 全社戦略②企業全体のバランスと成長を図る方法 4. 事業戦略①戦略分析のための基本ツール 5. 事業戦略②競争のメカニズム 6. 事業戦略③戦略の基本パターン 7. 戦略的経営①戦略の策定と実行のプロセス 8. 戦略的経営②戦略と組織の変革 9. 戦略的経営③戦略と財務 10. 戦略的経営④企業価値のマネジメント 11. グローバル時代の戦略①日本企業の課題 12. グローバル時代の戦略②グローバル企業の課題 13. グローバル時代の戦略③産業構造の変化とビジネスモデル 14. グローバル時代の戦略④企業の社会的貢献と地球環境問題
準備学習	新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど、様々なメディアを通してグローバル企業の行動に興味関心を持ってください。授業終了後には、授業支援システムに授業内容のファイルを掲載しますので、復習を要します。
履修上の留意点	学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連の情報を集めるように心がけて下さい。
成績評価の方法	各期定期試験と、講義中に実施する理解度をはかるエッセーにより総合的に評価します。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	開講時に指示する。

履修コード	432701
科目名	グローバル創造都市論
担当者名	川崎 賢一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	文化的グローバリゼーションを推進する中核的なトレンドは、創造都市 (Creative Cities) ないし創造産業 (Creative Industries) である。本講義では、創造都市とは何か、どのように成立し、どのように発展しつつあるかを、具体的な例を挙げて紹介・説明する。
授業スケジュール	<p>授業は講義形式で、3つの内容からなる。まず、創造都市と創造産業の成立とその機能について、既存研究を紹介しながら解説を行う。つぎに文化的グローバリゼーションと関連付けて、創造都市がどのように発展したかを具体的な例を挙げて説明する。最後に、将来的な可能性と問題点について考察する。</p> <p>〈授業スケジュール〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：予備的考察とキー概念 2. 何のためのグローバル創造都市か？ なぜ、グローバル創造都市が生まれたのか？：グローバリゼーションとグローバルシティ、創造都市 3. 誰がグローバル創造都市を造るのか？：文化階層、エスニシティと文化資本 4. 欧州における創造都市 1 5. 欧州における創造都市 2 6. 米国における創造都市 7. アジアの創造都市の事例 8. 創造都市としての東京、京都 9. 日本のグローバル創造都市：金沢・横浜・大阪 10. 「創造都市」をめぐる日本の状況 11. ローカルとネイティブ：地方の戦略 12. トランスナショナルの重要性：超国家機関と創造都市 13. 新しいコスモポリタニズムと中間層 14. グローバル創造都市の限界と可能性 15. グローバル創造都市論：まとめ
準備学習	事前に配布した資料については、授業前にきちんと読み込んでおくこと。また、儒病中に言及した単行本や論文については、授業後にきちんとフォローしておくこと。
履修上の留意点	私語・遅刻・欠席については厳正に対処する。
成績評価の方法	<p>平常点 30点 学期末の論述試験 70点</p> <p>合計 100点満点</p>
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>川崎賢一「トランスフォーマティブ・カルチャー」勁草書房、2006年 佐々木雅幸「創造都市への挑戦」岩波書店、2001年 J. Florida, The Rise of Creative Class, Basic Books, 2002</p>

履修コード	435901
科目名	グローバルネットワーク論
担当者名	福家 秀紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ブロードバンドや携帯電話、地上デジタルテレビなどがわが国のネットワーク産業は高度に発展してきました。このわが国のネットワーク産業をグローバルな視点から国際比較を含めて分析するために、まずグローバルなネットワークとして発展してきたインターネットの役割を解説します。その上で、世界の主要国のネットワークの発展状況と特徴を、産業構造と規制政策の相互関係の視点を含めて明らかにします。最後に、ガラパゴスといわれるような携帯電話産業の特殊な進化とスマートフォンへの移行での立ち遅れなど、わが国のネットワーク産業の特徴と限界を学習し、企業活動がグローバル化する中で、ネットワーク事業者の役割を分析します。</p>
---------------------	---

到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>わが国のネットワーク産業をグローバルな視点から国際比較を含めて分析することにより、その特徴と限界を把握することを目的とします。具体的には、以下の4点の理解を目標とします。 ①グローバルなネットワークとして発展してきたインターネットの役割が重要になってきていること。 ②各国のネットワーク産業の構造と規制政策に相互関係があること。 ③スマートフォンの登場に伴い、垂直統合されたわが国の携帯電話産業が国際競争力を失ったこと。 ④企業活動のグローバル化に伴って、ネットワーク事業者もグローバル展開を迫られていること。</p>
------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 国際通信の仕組み ② グローバルネットワークとしてのインターネット ③ ITUからWTOへ ④ 米国の情報通信ネットワークの特徴 (1) ⑤ 米国の情報通信ネットワークの特徴 (2) ⑥ 米国の情報通信ネットワークの特徴 (3) ⑦ 米国の情報通信ネットワークの特徴 (4) ⑧ EUの情報通信ネットワークの特徴 ⑨ 韓国の情報通信ネットワークの特徴 ⑩ 中国の情報通信ネットワークの特徴 ⑪ グローバリゼーションとネットワーク (1) : 携帯電話とグローバル化 ⑫ グローバリゼーションとネットワーク (2) : 情報通信政策のグローバル化 ⑬ グローバリゼーションとネットワーク (3) : 企業活動のグローバル化とネットワーク ⑭ まとめ (1) ⑮ まとめ (2)
----------	---

準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
------	---

履修上の留意点	ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱ、およびネットワーク経済論の履修済みを前提として授業を行います。
---------	---

成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義のまとめ : 40% レポート・小テスト : 10% 定期試験 : 50%
---------	--

教科書/テキスト	基本的な教材は、授業支援システムに掲載します。
----------	-------------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・志村一隆 [2010]、『ネットテレビの衝撃』、東洋経済新報社、1,500円、978-4-492-76193-9 ・海部美知、『パラダイス鎖国』、アスキー、724円、978-4-7561-5133-9 ・その他講義の中で適宜紹介します。
-----	---

その他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。
-----	----------------------------

履修コード	431601
科目名	グローバルビジネス人材マネジメント
担当者名	リンスキー M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	These lectures introduce students to ideas and concepts in human resource management, particularly the challenges related to working abroad or in an international organization. The nature of work is changing, and this course provides an insight into some of these challenges and changes.
---------------------	---

授業スケジュール	This course is based on lecture material and suggested readings.
----------	--

準備学習	It is useful to be aware of current economic affairs by reading newspaper articles.
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination.
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	417501
科目名	グローバル文化論
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちは、否が応でも、グローバルな状況の中に投げ込まれています。いい悪い・好き嫌いは別に、その状況をきちんと把握し、その状況に適切に対処することが求められます。個の講義では、そのグローバルな状況を文化の観点から概説するものです。</p> <p>この講義の目標は、したがって、グローバルゼーションとは何か、グローバル文化の中身はどうなっているのか、グローバルな文化をどのように作っていったらいいのか、などについて考えていきたいと思えます。ただし、様々なアプローチがあることを紹介しつつ、中心は、社会学、特に文化社会学的観点から説明していきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	講義は、以下のような内容からなります。
----------	---------------------

- 第1回 インTRODクシヨン：グロバリゼーションとは何か？
- 第2回 グローバル文化とは何か？
- 第3回 近代文化と現代文化
- 第4回 ナショナリズムを巡って
- 第5回 ヨーロッパの文化：近代を用意したもの
- 第6回 アメリカの文化：20世紀を支配したもの
- 第7回 東アジアの文化：中国の文化
- 第8回 東南アジアの文化
- 第9回 南アジアの文化
- 第10回 中近東・アラブ社会の文化
- 第11回 再びグローバルな文化とは何か？
- 第12回 文化のハイブリッド化について
- 第13回 コスモポリタン文化について
- 第14回 まとめと補足
- 第15回 小論文試験

準備学習	配布された資料や指示された文献を毎回の講義前までに読んでおくことが求められます。そのほか、授業中に適宜指示します
------	--

履修上の留意点	授業については、蓄積的・継続的な内容になっているので注意してほしい。それから、内容について、積極的に自分でも調べて、質問をしてほしい。
---------	---

成績評価の方法	平常点 30点 小論文試験 70点
---------	----------------------

計 100点満点

教科書／テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	小川・川崎・佐野（編）、「＜グローバル化＞の社会学」、恒星社厚生閣、2010年、2850円、ISBN978-4-7699-1211-8。 これ以外は、適宜授業内で指示する。
-----	---

履修コード	406901 406902
科目名	グローバルマネジメント グローバル経営論I
担当者名	各務 洋子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバルマネジメントは、グローバルに展開する様々な組織に必須の概念です。多様な組織体 が世界規模で付加価値活動を展開し、持続的競争優位を築いていくための論理と、現実の企業 などの行動を提示し、毎回事例研究(ケーススタディ)を用いて理解しやすい講義を目指しま す。
授業スケジュール	グローバル社会における組織の役割やマネジメントの基礎知識を体系的に理解できるように、 1~3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。 I. イントロダクション 1. グローバル社会における組織とメディアの役割 2. マネジメントの意義と目的 3. グローバル経営の論理 II. グローバルマネジメント 4. グローバルマネジメント 5. グローバル組織のマネジメント 6. グローバルマネジメントの戦略 7. グローバル・マーケティング III. グローバルマネジメントの革新 8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント 9. グローバル組織の組織間関係 10. グローバルな人的資源戦略 11. グローバル組織における文化 12. グローバル組織のコーポレートガバナンス IV. 13~15 まとめ
準備学習	毎週、一週間の日本経済新聞の内容で本講義に関連するテーマを解説します。 この授業をきっかけに、就職活動で必須の日本経済新聞の読み方をマスターしましょう。 毎日、目を通してから出席して下さい。
履修上の留意点	学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、様々な企 業関連のニュースを理解するように心がけて下さい。
成績評価の方法	各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。
教科書/テキスト	開講時に指示。
参考書	必要に応じて随時紹介。

履修コード	406501
科目名	グローバルメディア概論
担当者名	川崎 賢一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル化が進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>グローバルメディアを考えるにあたり、まずは、その前史でもある印刷術の歴史を振り返り、それとの比較を踏まえて、現代のメディアとグローバル化する社会の関係について考察する。したがって、講義の内容は、下記の3つに分けられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 印刷術の、起源、発展のプロセス、と近代社会の諸特性との関わりについて (2) 文化産業としての出版と国民国家の様々な仕組みとの関わりについて (3) 電子メディアの特性とポスト近代社会の諸特性との関わり、そして、グローバル化と関わりについて <p>以上3点を具体的事例を挙げながら、学習する。</p>
----------	---

〈スケジュール〉

1. イントロダクション
2. 近代社会とマスメディアの誕生
3. 印刷術と近代社会：声の文化と文字の文化
4. グローバル化マスメディアの発達
5. 国民国家・国民文化・マスメディア
6. 近代社会とジャーナリズム
7. 新聞：世論の形成
8. 雑誌と書籍：教養とエンターテインメント
9. ラジオとテレビ：電子メディアの誕生
10. ニューメディアの誕生と展開
11. インターネットの登場
12. 通信技術と計算技術の融合
13. 電子メディアとメディア環境のトランスフォーメーション (その1)
14. 電子メディアとメディア環境のトランスフォーメーション (その2)
15. まとめ

準備学習	授業内で指示するので、それに従うこと。
履修上の留意点	授業の内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。
教科書/テキスト	授業の中で指示する。
参考書	小林・熊谷・三浦(編)、「グローバル文化学」(第8章)、2011年、法律文化社、2300円、ISBN978-4-589-03339-0。なお、これ以外については、授業の中で指示する。

履修コード 432301

科目名 グローバルメディアガバナンス論

担当者名 西岡 洋子

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本講義では、インターネットを含む電気通信およびコンテンツ流通に関するグローバルなガバナンスの問題を扱う。中心的な役割を果たす国際組織の役割を把握したうえで、ガバナンス体制の変化の歴史をたどり、過去および現在の主要な論点および変化の要因を理解する。

授業スケジュール

1. イントロダクションおよび概念の整理
 - (1) イントロダクション
 - (2) グローバルガバナンスとプレイヤー
 - (3) ITUと国際電気通信レジーム
 - (4) 秩序変化をみる枠組み
2. 電気通信（インターネットを含む）のガバナンス
 - (5) ITUの成立と成長
 - (6) ITUの確立と役割の拡大
 - (7) ITUをとりまく環境の変化
 - (8) WTOの設立と市場の自由化
 - (9) インターネット・ガバナンス
3. コンテンツ流通のガバナンス
 - (10) 世界のコンテンツ流通
 - (11) 各国のコンテンツ振興策
 - (12) WIPOと著作権
 - (13) UNESCOとNWICO論争
 - (14) 文化多様性条約とグローバリゼーション
4. まとめ
 - (15) グローバル・メディア・ガバナンスの展開

準備学習

講義にて紹介する国際組織については、それぞれのホームページで、その役割や歴史などについて確認しておくこと

履修上の留意点

メディア制度論または、同様の科目を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

テスト50% 平常点50%

教科書/テキスト

西岡洋子『国際電気通信市場における制度形成と変化』慶應義塾大学出版会、2007年、4,725円、ISBN: 978-4-7664-1425-7

参考書

講義中に指示する。

履修コード	406101
科目名	グローバルメディアスタディーズ概論
担当者名	福家 秀紀 川崎 賢一 山口 浩 石橋 直樹 クボタ, L. 芝崎 厚士 南 政樹 絹川 真哉 白水 繁彦 リンスキー, M. 石川 憲洋 杉森 建太郎 西岡 洋子 高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本学部の名称を体現し、学部における学習のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義をします。本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築へのアプローチ、基本的な方法論や手法について、理解できるように構成されています。
---------------------	--

	(到達目標) インターネットと携帯電話という新しいメディアの普及に伴って、情報・コンテンツはグローバルに流通し、活用されています。テレビ・新聞などのマスメディアが伝える情報に加えて、普通の人が、普通に情報を発信し、それを世界中の人が受信しています。またスマートフォンや電子書籍端末の登場によって、電子化した情報が当たり前のように利用されています。本講義では、第一に、こうした新しい現象とその社会的な影響を、既存の学問の枠を超えた多様な視点から分析し、自らの力で選択・活用するリテラシーを身につけることを目標とします。第二に、新しいメディアを使いこなし、グローバルな舞台で活躍するために、実践的な英語でのコミュニケーション能力を磨くことの意義を入学当初によく理解し、また、分野間の相互関係や相互作用を体験的に習得していくことを目標とします。
--	--

授業スケジュール	以下のスケジュールとテーマで、講義を進めますが、教員の日程上の都合で一部変更する場合があります。
----------	--

1. グローバリゼーションとメディア文化研究
2. ネットの力、みんなのチカラ：社会、ビジネス、人はどう変わるか
3. グローバル・メディアとエコロジー
4. From Media to Transmedia to Transvergence: Stories and Cultural Change
5. 世界政治・国際関係とメディア入門 グローバル社会を生きるための思想と行動
6. Internet of Things : For ambient, tangible and translucent Media
7. 知的財産と経済学
8. イノベーション社会学「日本製品の海外普及」
9. New Media and the Exponential Growth of Information
10. フロードバンド・携帯電話の普及と情報メディア産業の構造変化
11. メディア都市論
12. 世界共通言語としての英語の多様性、電子メディアの英語情報に見られる地域差、文体差の考察
13. グローバル化とメディア産業
14. モバイルインターネットからユビキタスネットワークへ
15. まとめ

準備学習	教材が、授業支援システムに掲載されることがありますので、掲載された場合には、目を通しておいて下さい。
------	--

履修上の留意点	ここでは、専任教員が交替で講義を行っています。その中で、前期終了時には学部の教員の主な専門領域が分かる仕組みになっており、2年次以降に開講される演習の選択の参考にすることが望ましい。
---------	---

成績評価の方法	講義ごとに課すレポートを総合的に評価します。
---------	------------------------

教科書／テキスト	必要な教材は、授業支援システムに掲載します。
----------	------------------------

参考書	必要に応じて随時紹介します。
-----	----------------

その他	講義の担当者については、第1回目に発表します。
-----	-------------------------

履修コード	435311
科目名	広告文化論
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義は、重要な視覚メディアの一つである「広告」に焦点を当て、広告史における国家の関与と消費社会との関係を明らかにし、ジェンダー、人種、階級といった様々な角度から、広告の持つ社会的意味を読み解く。</p> <p>(到達目標) 日本と海外のさまざまな実例を通して、メディア論や文化研究など多様な視点から広告と文化との関係を実践的に検討し、広告が持つ社会的機能への理解を深めることが、本講義の基本的な目標である。具体的には、(1)歴史の視点から広告の変容について読み解く基礎体力を養うこと。(2)グローバルな文脈のなかで、広告制度や広告表現における日本と海外との差異について考察を深めること。(3)日常生活におけるさまざまな広告メディア・広告表現について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 概説：広告文化論の基本理論</p> <p>第2回 広告の歴史</p> <p>第3回 戦争とプロパガンダ</p> <p>第4回 商業ポスター</p> <p>第5回 新聞広告</p> <p>第6回 雑誌広告</p> <p>第7回 交通広告</p> <p>第8回 ラジオ・コマーシャル</p> <p>第9回 テレビ・コマーシャル</p> <p>第10回 公共広告</p> <p>第11回 ネット時代の広告の変容(1)：検索エンジン広告</p> <p>第12回 ネット時代の広告の変容(2)：SNS広告</p> <p>第13回 グループワーク(1) 草案の作成</p> <p>第14回 グループワーク(2) グループ発表</p> <p>第15回 総括</p>
----------	--

準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず十分に予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	---

成績評価の方法	<p>授業時の発言と討論への参加状況の評価：30%</p> <p>レスポンスカードの内容の評価：30%</p> <p>期末レポート：40%</p>
---------	---

教科書／テキスト	特になし
----------	------

参考書	<p>・ジャン・ボードリヤール著、今村仁司、塚原史訳『消費社会の神話と構造』(紀伊国屋書店、1995年)、2,039円、ISBN: 4314007001</p> <p>・山田奨治『文化としてのテレビ・コマーシャル』(世界思想出版社、2007年)、3,150円、ISBN: 4790712540</p>
-----	--

履修コード	435511
科目名	国際移動とメディア
担当者名	白水 繁彦
授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 国際移動の実態を移民の文化形成と観光という観点から学びます。 多文化社会、そして国際観光地として著名なハワイはどのようにして形成されたのか、歴史と民族関係の視点から概説します。 (到達目標) 講義の目標は、ハワイという地域を事例に、地域の文化はどのように形成されるのか。またその中のエスニック集団の文化はどのように形成され変化するのか。その変化にリーダーやメディアはどのような機能をはたすのか、といった点を理解することです。
授業スケジュール	第1週～第2週 イン트로ダクション この授業の概要説明 観光コミュニケーションの視点からハワイを捉える 第3週 ハワイ社会の起源 第4週 欧米白人の渡航とハワイ文化の変化 第5週 プランテーションの始まり：多民族社会へ 第6週 日系人の文化 第7週 ウチナーンチュ(沖縄系)の文化 第8週 中国系の文化 第9週 コリアンの文化 第10週 越境者の光と影 アメラジアン、帰米二世 第11週～第12週 国際観光の実態 日本とアジア 第13週～第15週 移民・メディア・観光 まとめ
準備学習	まず教科書の当該の章を事前に読んでおくこと。したがって教科書の入手は必須です。さらに、GMSの授業支援システムに前もってパワーポイントの内容を掲示しますので、授業の前に読んでおき、現代史などの本でその時代を調べておくとう理解が深まります。そうすれば、大学生としての「常識」も得られて一挙両得。
履修上の留意点	画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思えます。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思えます。なお、しばしば課題エッセイを書かせます。それに対応するために必要なことは第1に教科書を前もって読んでおくこと。これを守れば問題ありません。
成績評価の方法	授業時間中にしばしばエッセイを書かせます(5回前後の予定)。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。さらに、授業中の質問に率先して答えること。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価します。 エッセイの評価：80% 授業参加度(質問への回答の量と質)：20%
教科書/テキスト	白水繁彦編著『多文化社会ハワイのリアリティー』(御茶の水書房、2011年)、及びパワーポイント
参考書	矢口祐人『ハワイの歴史と文化』中公新書、2002年 白水繁彦『白水繁彦『イノベーション社会学』御茶の水書房、2011年 後藤明、松原好次ほか編『ハワイ研究への招待』関西学院大学出版会、2011年(第2刷)
その他	能動的で積極的で、遅刻や欠席しない人の受講を望む。

履修コード	416801
科目名	国際関係とメディア
担当者名	芝崎 厚士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。
授業スケジュール	<p>講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。(1) ニュースウォッチ (新聞記事要約)、(2) リーディング (テーマ論文要約)、(3) メディアウォッチまたはワード・データウォッチ (音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータ、10秒クイズなど)、の3部構成で行う。</p> <p>授業スケジュール：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 ガイダンス 2回目 国際関係の歴史その1 3回目 国際関係の歴史その2 4回目 映像分析その1 5回目 主権国家と国民国家 6回目 多国籍企業・NGO 7回目 戦争・テロリズム・平和 8回目 映像分析その2 9回目 外交と対外政策 10回目 貧困と開発 11回目 環境問題 12回目 映像分析その3 13回目 ナショナリズムと民族紛争 14回目 日米安保とは何か 15回目 グローバル・ガバナンス

準備学習	基本的に予習は不要だが、次回の学習につなげるため、前回配付した教材、スライド類を再読すること。
履修上の留意点	テスト方式なので、成績は、基本的に毎回回収する答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回回収する答案用紙の出来 (読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか) が60%、学期末試験 (答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却) が30%、授業支援システムを経由して提出する課題が10% ・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。
教科書/テキスト	開講時に指示。
参考書	授業中に随時指示。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は毎回プリントで配布。プリントの配布、回収には協力してください。 ・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、カリキュラム上可能であれば、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。本科目を履修したあとで「世界政治とメディア」を履修することも薦める。 ・2年次以降の演習で国際関係研究を履修したい場合には、「世界政治とメディア」または本科目を履修していることが望ましい。

履修コード	434761
科目名	国際協力法
担当者名	山村 恒雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日では、国際関係が重要となっている。我々の日常生活で関係のある他国との協力関係を規律する基本的ルールについて学習することを目的とする。
授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：国際貢献とは何か。第3回：東日本大震災で日本が受けた国際協力、第4回：人的貢献と物的貢献、第5回：日本が行ってきた国際協力、第6～9回：政府開発援助大綱について、第10～11回：PKO協力法について、第12～13回：国際緊急援助隊について、第14～15回：資金援助に関わる組織について
準備学習	Yestudyに授業に必要なプリントはアップロードしておくので、授業までに各自でダウンロードして、目を通しておくこと。
履修上の留意点	配布するプリントの該当部分に、授業前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。授業を受けると疑問点が解消しない場合は、授業後に質問すること。
成績評価の方法	学期末試験だけで評価します。
教科書/テキスト	とくに指定はしません。
参考書	授業中、必要に応じて指示します。

履修コード	437401
科目名	国際標準化論
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) メディア情報の有効利用を促進するためには、情報の符号化、物理媒体への格納、ネットワーク上の通信と相互運用等に関する技術を相互に共通化する必要がある。また、情報の品質と安全性を確保するためには、関連組織における情報の取り扱いに関する管理手続き等の標準化を行うことが望ましい。グローバル・メディア環境では、これらの標準の開発と適用の推進を国際レベルで推進することが必要である。先進国の中で日本はこの面で立ち後れていたが、近年には顕著な進展を見せている。その意義と課題を明確化し、今後の方策について学ぶ。 (到達目標) メディアとコンテンツに関する技術及び産業の急速な進展に伴い、日本の競争力強化、企業のビジネス戦略における、国際標準化戦略の重要性が増大している。この授業では、国際標準化の歴史、国際標準化組織、国際標準化の進め方、国際標準化戦略などについて、基本的な知識を習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 標準・規格の意義とその変化 第2回 情報通信分野における標準化の意義とその変化 第3回 国内および国際標準化組織の役割とその変遷 第4回 デファクト標準、フォーラム標準の増加の背景と動向 第5回 政府調達と国際標準化との関連 第6回 知的財産戦略における標準化の意義 第7回 標準に関わる知的財産権を巡る課題 第8回 マネジメントシステムに関する国際標準化 第9回 情報セキュリティに関する国際標準とガイドライン 第10回 情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際標準化 第11回 情報セキュリティ評価基準に関する国際標準化 第12回 暗号アルゴリズムとデジタル署名の標準化 第13回 電子的権利管理 (DRM) 技術の現状と展望 第14回 プライバシー分野の国際標準とガイドライン 第15回 まとめ
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート(前期レポート、後期レポート)75%、平常点(授業への積極的な参加、授業での積極的な発言など)25%とする。
教科書/テキスト	講義資料をGMS授業支援システムを利用して、公開、配布する。
参考書	下記の参考書の他、授業中にホームページ等を紹介する。 ・矢野啓介著『文字コード技術入門』技術評論社、2580円、ISBN 978-4-7741-4164-0

履修コード	434751
科目名	国際法
担当者名	山村 恒雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際社会は、分権的な社会であり、統一政府などは存在しない。そのために、国際社会を規律するルールが複雑になっている。本講義では、その国際社会の基本的なルールの修得を目的とする。
授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：国際法の成立と発展の歴史について、第3回：国際法について、第4～5回：国際法の主体について、第6～8回：国家とその権利義務について、第9～11回：国家領域とそれに対する権限について、第12回：国家の権限が及ばない領域について、第13～15回：海の制度について
準備学習	初回の授業の際に、授業予定表を配布する。そこには各授業回に該当する教科書の頁が記されているので、授業前にその部分に目を通しておくこと。
履修上の留意点	国際法は、理解が難しいといわれている教科のひとつです。そのため、授業に確実に出席し、理解しようと心がけるようにすること。
成績評価の方法	学期末の筆記試験のみによる。
教科書/テキスト	『国際法入門 第二版』横田洋三編 有斐閣 2000円+税 ISBN4-641-12248-2
参考書	出版社や年度は問わないが、『条約集』があれば便利である。

履修コード	431011
科目名	コミュニケーション社会史
担当者名	白水 繁彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) メディアのイメージ形成 ～歴史を作ったメディア～ 近代、現代の歴史とメディアはどうかかわってきたか。われわれのイメージする歴史がいか メディアによって形作られているかを明らかにする。貴重な映像を多用して説明します。</p> <p>(到達目標) 講義全体の目標は、メディアがつくりだす環境がわれわれ大衆の行動とどのように結びついて いるか、実際の報道やイベントの映像を通して理解すること。そしてメディアのもたらす「環境」 が時としてきわめて偏ったものであることを理解し個々のメディアリテラシーを高めることであ る。そのために第1に、われわれの認識のメカニズムに関する社会学的な理論を理解すること。 第2に、近代のマスメディアがどのようなプロセスを経て進化してきたのかを理解すること。第 3に、メディアの送り手たちはどのような手法を用い、どのような効果をねらってメッセージを 送るのか、その戦略・戦術を理解すること。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション この授業の全体像</p> <p>2 大衆新聞の誕生 メディア王 ビュリツァーとハースト：擬似環境の実験</p> <p>3 イメージ形成の理論：擬似環境</p> <p>4 メディアが作り出す「リアリティ」</p> <p>5 広がる擬似環境：世界につながるメディアのネットワーク</p> <p>6 有名人、メディアセレブの誕生：20世紀型の有名人の誕生</p> <p>7 中間まとめ</p> <p>8 メディアが作り出したヒーロー：1933-1940 ファシズムの時代</p> <p>9 プロパガンダの天才：ゲッベルスの戦略</p> <p>10 日本のプロパガンダ：第二次大戦中の映画、アニメ</p> <p>11 日本のプロパガンダ：報道</p> <p>12 テレビ受像機が大衆のものに：1950年代 テレビ的なヒーローの誕生</p> <p>13 メディアと政治：メディアがつくる政治家 スピン・ドクター アメリカ編</p> <p>14 メディアと政治：スピンドクター ヨーロッパ編</p> <p>15 まとめ</p>
準備学習	GMSの授業支援システムに前もって資料を提示する。英文の資料がほとんど。それを読了しておく必要がある。パワーポイントの内容も提示するので、授業の前に読んでおき、現代史などの本でその時代を調べておくとう理解が深まる。そうすれば、大学生としての「常識」も得られて一挙両得。
履修上の留意点	<p>超重要：第1に、英語の資料を読みこなす英語力と持続して行う精神力が必要。それができないとたびたび授業中に課されるエッセイが書けない。</p> <p>第2に、毎回出席する必要がある。なぜなら毎回提示する映像資料を見ていないと課題に答えられないから。</p> <p>第3に、しばしば質問をする（問題を出す）からそれに率先して答えないと点数が伸びない。要するに学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思うので、勉強意欲に燃え、参加意識の高い学生に受講してもらいたいと思います。</p>
成績評価の方法	<p>授業時間中にしばしばエッセイを課す（5回前後の予定）。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。授業中しばしば質問をするので率先して挙手をして答えること。</p> <p>エッセイの評価：80%</p> <p>授業参加度の評価（質問への回答の量と質）：20%</p>
教科書／テキスト	<p>①授業支援システム上に提示するパワーポイントによる資料、同じく英文資料</p> <p>②ビデオ資料を見ながら分析</p>
参考書	<p>Sklar, Robert, MOVIE-MADE AMERICA, Revised and Updated edition, Vintage Books, 1994.</p> <p>Rothenbuhler, E.W., Mihai Coman, MEDIA ANTHROPOLOGY, Sage Publications, 2005.</p> <p>Blanchard, Margaret, HISTORY OF MASS MEDIA IN THE UNITED STATES, Fitzroy Dearborn Publishers, 1998.</p>
その他	能動的で積極的で、遅刻や欠席しない学生でないと単位が取れないことを了解しておいてください。

履修コード	433811
科目名	コンテンツデザイン演習
担当者名	高橋 克三

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>誰にでも小説が書けるし、見やすいデザインを作ることができる。言葉に文法があるように、表現には法則がある。小説、映画、アニメ、視覚的広告などを創造する上で使われている法則を学ぶことは、小説や美術の制作活動をしたことのない人たちが短期間でその創造力を磨くためには一番良い方法である。</p> <p>人間の想像や物語は意外と典型的である。ウラジミール・プロップは、物語の構造を31のプロトタイプで説明できるとし、C. G. ユングは、世界の神話や昔話が似ていることから元型という概念を提出した。この普遍性の力を的確に使い世界の人々を楽しませているのがハリウッド映画である。</p> <p>しかし、コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。今風に言うならエッジ)なもの両方から生まれる。ブルース、タンゴ、ジャズ、ロック、レゲエ、ヒップホップなど、町の一角、それもけて上品なところではなく、悪場所的なところで生まれた音楽が、なぜか世界性を獲得している。マージナルな力である。コンテンツの核心、表現と感動の関係を学ぶ。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>自己を理解し、他者を認識するコミュニケーションの原則を演劇で体験した後、表現の普遍的な法則を学ぶ。創造性とマージナルな力との関係についても検証していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇によるロールプレイング。 ・物語の構造。 ・ビジュアル・コミュニケーションの法則。 ・学習障害者の作品の力。
----------	--

準備学習	<p>履修者は、履修する前の準備として、どんな時に新しいアイデアを思いつくか、また、どうやったらアイデアを生み出せるかなどの自分なりの方法をまとめておく。そして、目標にしている人、他人に紹介したい人が、あなたをどう見ているのかを想像して書いておく。各回の授業での課題は、事前に告知し、表現方法や体験方法の紹介などの資料を毎回配布する。</p>
------	---

履修上の留意点	写真や物語、コラージュ作品を制作する。技術力は問わない。発想力を評価する。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	<p>出席 40%</p> <p>質疑応答など演習への参加度 20%</p> <p>課題作品提出 40%</p>
---------	--

教科書/テキスト	『神話の力』 ジョーゼフ キャンベル、他 ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ¥1,000(税別)
----------	---

参考書	『ビジュアル・コミュニケーション』 藤澤英昭 ダビッド社 ¥1,600(税別)
-----	---

履修コード	434201
科目名	コンテンツデザイン概論
担当者名	岡田 智博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>コンテンツの発展を情報技術の発展とその普及のために用いられてきた、ビジネスにおける「デザイン」とイノベーションという視点から、これまで、現在、将来の可能性を解説することを通じて、これからコンテンツに関わる諸君に向けて、社会やビジネスとコンテンツを扱う人との間の関係やそれを取り巻く環境について基本的な理解を自身で行うための材料を提供したい。本講座を通じて、諸君がこれから経験していくことになるであろうダイナミズムに富んだコンテンツを取り巻く生々しい現実の中での処方方の「デザイン」をこの講座を通じて自身の手で組み立ててもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	現在のビジネスモデルにつながる、コンテンツを取り巻く現在進行中の事象やワークモデルの構造を論じてゆく。内容は諸君の理解度に応じて柔軟に変える。
----------	---

準備学習	授業を通じて、学習材料を提供してゆくの、特に準備の必要はない。
------	---------------------------------

履修上の留意点	講義において出てきた事象などで分からなかったり、触れたことの無いものであったら、必要な限り自身で体験し、自身の力で理解するトレーニングをしてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	試験において、授業において思考するために提供した材料をもとに課題を提供する。課題に対する理解と思考力を成績評価の主たる判断材料とする。授業では随時、試験に準じたロールプレイを行い、諸君の学びのベンチマークとして考慮する。
---------	--

教科書/テキスト	なし。授業を通じて、教育素材を随時提供する。
----------	------------------------

参考書	参考書を求めなくとも学べるよう設計するが、授業中にでたURLやイベント、コンテンツや書籍に対し、関心を持ったらなるべく自ら調べ、目を通したり体験するように。
-----	--

その他	本講座は覚えるものではなく、理解し考えることに主眼を置いている。授業中においては記録することよりも、自身の力で理解し、考えることに注意を払ってもらいたい。
-----	---

履修コード	433711
科目名	コンテンツデザイン各論
担当者名	高橋 克三

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>世界は小さく、よりシンプルになったと考えるか、いや、より複雑になったと考えるかは、その個人や企業がどこまでの広がりをもって世界と関わろうとしているかによる。最初から世界全体と関わろうとしていた人や企業にとっては、現代の情報革命は、様々な障壁を取り除き、地球を小さく、シンプルにしてくれる魔法の杖の一振りであったろう。しかし、この一振りは、地域の自然や営みと深く関わり、穏やかに生きていこうとしていた人々にも否応無く大量な情報を伴った世界と直接対峙させることになった。</p> <p>メディアを通して地球規模のサイズに拡張された人間と、田舎町の川のせせらぎや青空をよぎる白い雲の時空に生きる人間を比較すると、メディアが人間の想像力や価値観を規定していくことが十分に理解できるだろう。</p> <p>しかし、世界は変わった、人間も変わるべきと単純には言えない。コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。エッジ)なもの両方から生まれるからである。コンテンツの根本には、幸せや感動があることは言うまでも無い。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>このフラット化された世界の秩序をメディアの側面から読み解くとともに、自らの感性に依拠したコンテンツを自由に発信するための基礎となる知識と考え方を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアはメッセージである。 ・フラット化する世界。 ・宇宙船地球号。 ・地域から考える。
----------	--

準備学習	<p>履修者は、履修する前の準備として、物事が、事実であるかないかをどのような方法で検証するか、また、真実と判断する基準は何か、まとめておく。そして、あなたの人生を左右するであろう、またはした、一言を書いておく。各回の授業での課題は、事前に告知し、参考文献の提示と資料の配布を毎回行う。</p>
------	---

履修上の留意点	美術館、博物館、ゲストなど大学外からの知恵を得る機会を持つ。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	<p>出席 40%</p> <p>質疑応答など講義への参加度 20%</p> <p>レポート提出 40%</p>
---------	--

教科書/テキスト	『宇宙船地球号 操縦マニュアル』バックミンスター・フラー ちくま学芸文庫 ￥900(税別)
----------	---

参考書	『マクルーハン理論』 マーシャル・マクルーハン、他 平凡社ライブラリー-461 ￥1,200 (税別)
-----	---

履修コード	416201
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	クボタ L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.
---------------------	---

授業スケジュール	This course will meet one period a week. In this course, students will be provided with an overview of the content creation industry, and examine case studies of various content creating companies. Additional readings will be assigned.
----------	---

準備学習	Read articles and case studies on content businesses.
------	---

履修上の留意点	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading and case study assignments are required and essential.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation will be based on quizzes, final exam, and participation.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbooks as readings will be provided on the class website
----------	---

参考書	<p>Professor will provide materials from the following:</p> <p>Forfa' s report, A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland, February 2005</p> <p>Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005</p> <p>Japan' s Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, # 9, Summer 2005.</p> <p>Report on Japan' s Movie Industry</p> <p>Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, New York, Cambridge University Press, 2010</p> <p>Jason E. Squire, The Movie Industry Book, 3rd Edition, Simon and Schuster, 2004</p> <p>Case Studies</p> <p>Anita Elberse, Marvel Enterprises, Inc., Harvard Business School Press, 9-505-001, May 5, 2005</p> <p>Jordan Siegel and Yi Kwan Chu, The Globalization of East Asian Pop Music, Harvard Business School Press, 9-708-479, April 22, 2010</p> <p>Victoria Chang, Bill Guttentag and Rod Kramer, Denise Di Novi: Movie Producer, Stanford Graduate School of Business, EM-3, February 28, 2007</p> <p>Gary Pisano and Alison Berkley Wagonfeld, Pacific Coast Studios, Harvard Business School Press, 9-605-016, January 10, 2006</p> <p>Juan Alcacer, David Collis and Mary Furey, The Walt Disney Company and Pixar Inc.: To Acquire or Not to Acquire?, Harvard Business School Press, 9-709-462, January 15, 2010</p> <p>Cary Pisano and Alison Berkley Wagonfeld, Warner Bros. Entertainment, Harvard Business School Press, 9-610-036, November 3, 2009</p>
-----	--

履修コード	416101
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 アニメ、映画、ゲーム、音楽その他、日本のコンテンツは、国内外から注目を集めています。本科目では、これらのコンテンツを作る側、すなわち企業やその他の担い手たちに注目して、コンテンツを作り、伝える活動をビジネスの視点でとらえます。併せて、コンテンツビジネスと関連のある法制度や政策、技術や文化などを取り上げ、このビジネスの影響力の裾野の広がりを観望します。</p>
---------------------	--

【到達目標】
コンテンツビジネスを概括的に理解すること、及び、これを題材として、経営学の基礎を身につけることを目標とします。

授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション 第2回 企業とコンテンツビジネス 第3回 映画業界 第4回 音楽業界 第5回 アニメ業界 第6回 ゲーム業界 第7回 海外のコンテンツビジネス：米国 第8回 海外のコンテンツビジネス：米国以外 第9回 コンテンツビジネスの国際展開 第10回 コンテンツビジネスと知的財産権 第11回 コンテンツビジネスの資金調達 第12回 コンテンツビジネスの波及効果 第13回 コンテンツビジネスにおけるテクノロジーとイノベーション 第14回 コンテンツビジネスとインターネット 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>テキストその他の資料等で事前に指定したものは読んできてください。 テレビや雑誌、新聞などを見て、今どんなコンテンツに人気があるのか、どんな新しいことが起きているのかなど、意識して情報を取り入れるようにしてみてください。 自分が好きなコンテンツ、本でも映画でもゲームでもなんでもいいので、それらが誰によって作られているか、どのようなルートでいくらで売られているか、なぜそうなっているのかなどについて、考えてみてください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、平常点の一部として成績にも反映します。逆に、授業を妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 小テストその他で携帯電話ないしスマートフォンの機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>配点は次の通り。 レポート50% 平常点50% (小テスト (複数回合計) 、及び授業への参加)</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>長谷川文雄・福富忠和編『コンテンツ学』 (世界思想社、2007年) 2,625円 ISBN: 978-4790712817</p>
----------	--

授業中に使用したスライドは配布します。

参考書	
-----	--

履修コード	428001
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	明田 守正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	コンピュータ上で特定の問題に対する一般的な解決策を、自らの考え方で論理的に実現する手法であるプログラミングの概念を習得する。情報機器が機能する根本的な仕組みを理解し体得することで、情報社会における現場対応力を高める。具体的には、基礎的なグラフィックス生成の仕組みを使いこなす能力を身につける。
授業スケジュール	グラフィックス生成の記述が簡易なプログラミング言語、Processingを用いてプログラミングを学習していく。プログラムとは、プログラミング言語でコンピュータの動作手順を記述したものである。授業では、ブレインテキストのプログラムを記述し、実際にプログラムを動かして動作や振る舞いの変化を観察し、身につけて行く。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 ウィンドウに線を引く 【第3回】 変数 【第4回】 繰り返し 【第5回】 計算 【第6回】 条件分岐とサブルーチン 【第7回】 反応 【第8回】 色と乱数 【第9回】 資料の使い方 【第10回】 パウンス 【第11回】 ペイント 【第12回】 配列 【第13回】 クラスとインスタンス 【第14回】 最終課題制作 【第15回】 最終課題発表
準備学習	キーボード・マウス操作、ブレインテキスト(メモ帳)の編集操作に不自由がないことを前提とする。
履修上の留意点	本講義は「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の履修を前提とする。各自のPCを毎時間持参する。 講義内での実習課題、および次回授業までの課題を課す。なれていなければ課題を多いと感じる場合もある。毎回出席しなければついて行けなくなることを留意すること。
成績評価の方法	ワークショップであるため、毎回の講義における出席、課題および最終課題を評価材料とする。
教科書/テキスト	ワークショップ内でハンドアウトを配布し、web上に設定する。
参考書	前川 峻志 & 田中 孝太郎 [2007] : "Built with Processing デザイン/アートのためのプログラミング入門", ビー・エヌ・エヌ新社 Fry, Ben [2007] : "Visualizing Data", O'Reilly & Associates Inc. (邦訳が2008年にオライリージャパンから出ている) Ben, Fry & Reas, Casey [2007] : "Processing: A Programming Handbook for Visual Designers and Artists", The MIT Press Maeda, John [2001] : "Design By Numbers", The MIT Press (邦訳が2001年にソフトバンククリエイティブから出ている)
その他	数学に対して苦手意識をもつ文系の学生を考慮した授業進行とする。
関連リンク	http://www.processing.org/

履修コード	428201
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	石川 憲洋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この授業では、特定分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、Java言語の実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。</p> <p>(到達目標) Java言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けること、Java言語によるプログラミング実習を通してプログラミング言語に関する理解を深めることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 主なプログラム言語とJavaの位置付け、JDKのインストール 第2回 Javaプログラムの作成、保存、コンパイル及び実行 第3回 Javaで扱うデータの種類、主な演算子（計算） 第4回 Javaで扱う変数の種類と使い方 第5回 第1回～第4回の復習、練習問題の実習 第6回 Javaの制御構造1/3：if文、if else文の概要 第7回 Javaの制御構造2/3：for文の概要 第8回 Javaの制御構造3/3：While文、do while文の概要 第9回 第6回～第8回の復習、練習問題の実習 第10回 クラスライブラリの利用方法、Javaの例外処理 第11回 Javaのクラスの概要1/2 第12回 Javaのクラスの概要2/2 第13回 第10回～第12回の復習、練習問題の実習 第14回 Javaプログラム作成課題の作成 第15回 まとめ</p>
準備学習	特になし
履修上の留意点	<p>情報リテラシー及び実習を履修済みであること。 GMS授業支援システム及びノートPCの利用ができること。 この科目では、Java環境を設定したノートPCを使用する。</p>
成績評価の方法	レポート（4回）75%、平常点（授業への積極的な参加、授業での積極的な発言など）25%とする。
教科書／テキスト	講義資料をGMS授業支援システムを利用して、公開、配布する。
参考書	<p>下記の参考書の他、授業中にホームページ等を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐々木整著『ゼロからわかるJava超入門』技術評論社、1980円、ISBN 978-4-7741-3946-3 ・高橋麻奈著『やさしいJava第4版』ソフトバンク クリエイティブ、2600円、ISBN 978-4-7973-5572-7
その他	講義と実習を併せた形式で行う。

履修コード	428301
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	石橋 直樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。具体的には、言語としてPerlを学ぶことで、近年ますます重要となっているWorld Wide Web環境を対象としたCommon Gateway Interface(CGI)プログラミングを学ぶ。</p> <p>(到達目標) 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。同時に、インターネット環境における情報の獲得・集約・発信を実現するための、ソフトウェア開発能力の獲得を目指す。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入-Perlを用いたプログラミング 2. WWWにおけるサーバ・サイド・プログラミング-CGI 3. Perlの基本構造 4. CGI入門-Hello, World. 5. 変数を用いたProgramming 6. HTMLとの連携-GETとPOST 7. Perlにおけるif構文-分岐 8. Perlにおけるwhile構文、for構文-繰り返し 9. Perlにおける文字列処理-正規表現 10. ファイルの読み書き 11. Perlにおけるサブルーチン-部品化 12. 応用-チャット・システムの構築 13. 各自のテーマに応じたシステム設計 14. 各自のテーマに応じたシステム開発 15. まとめ
準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	情報リテラシー実習を履修済みであること。また、本講義は各自のPCを用いて実習を行なうため、講義へは必ずPCを持参すること。
成績評価の方法	レポート、ならびに、毎回の講義における課題や実習の進捗を総合的に評価する。
教科書/テキスト	次のものに加え、Webにおいて電子教材を提供する。 Scott Guelich(著), Gunther Birznieks(著), Shishir Gundavaram(著), 田辺 茂也(訳), 大川 佳織(訳): 「CGIプログラミング」, オライリージャパン, (2001) Randal L. Schwartz(著), Tom Phoenix(著), brian d foy(著), 近藤 嘉雪(訳): 「初めてのPerl」, 第5版, オライリージャパン, (2009)
参考書	Chuck Musciano(著), Bill Kennedy(著), 原 隆文(訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003) (株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007) (株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007)
その他	本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

履修コード	428101
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	松原 大悟
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業の目標は、現在用いられている情報システムがどのように動作しているか、どのように開発されているかを理解することである。コンピュータシステムの動作原理、ソフトウェアの開発手法、プログラミング技法について、実際にプログラムを作成し動作させていくことで理解していく。履修対象者はプログラミング初心者（未経験者）を想定しており、ソフトウェア開発がどのようなものであるかを体験することにより、今後の授業・進路選択の一助となることも目標とする。
授業スケジュール	<p>初めにコンピュータの動作原理とプログラミング言語の基礎的な文法を学び、次いでいくつかのプログラムを作成する。プログラミング言語にはコンピュータの基礎の理解に適したCASL言語と、実用性と学習の容易さのバランスがとれているC#言語を採用し、後者では現在のソフトウェア開発で一般的な統合開発環境を利用する。作成プログラムの題材は履修者が日常的に使用しているアプリケーションを単純化したものを多く選び、履修者の理解の助けになるようにしている。</p> <p>【第1回】コンピュータとプログラム実行の仕組み（1）： デジタル情報表現、コンピュータの構成と動作方式、ハードウェア構成について解説する。2進数による演算、ブール代数の基礎について理解する。</p> <p>【第2回】コンピュータとプログラム実行の仕組み（2）： 現在のコンピュータの基本構造とアーキテクチャの概念、プログラムの実行方式について説明した後、CASL言語とエミュレータを用いたプログラミングの初歩として単純な計算プログラムを作成する。</p> <p>【第3回】コンピュータとプログラム実行の仕組み（3）： 命令的プログラミングと状態の概念について学び、CASL語で条件分岐など状態変化を伴うプログラムを作成し実行することで、体験的に理解する。</p> <p>【第4回】プログラミング言語と開発モデル： プログラムの設計と開発について、そのプロセスを説明し、現在用いられているいくつかの手法を紹介する。また、主要なプログラミング言語を紹介する。</p> <p>【第5回】C#言語入門（1）： 最初のC#プログラムを作成する。式、変数、演算子の概念を説明し、簡単な計算を実行するコンソールプログラムを作成する。</p> <p>【第6回】C#言語入門（2）： 繰り返し、条件分岐などの制御構造について説明し、金利計算プログラムを作成する。</p> <p>【第7回】C#言語入門（3）： メソッドによる機能分割と利用の方法を学び、テキストによる棒グラフ表示プログラムを作成する。</p> <p>【第8回】C#言語入門（4）： データ構造理解の初歩として配列を学び、成績データの統計処理プログラムを作成する。</p> <p>【第9回】ファイル操作と例外処理： ファイル操作の方法と例外の概念について学び、行数カウントプログラムを作成する。</p> <p>【第10回】GUIプログラミング（1）： GUIを用いるプログラムについて、コンソールプログラムとの違いを中心に説明し、最初のGUIプログラムとしてウィンドウといくつかのボタンを表示するプログラムを作成する。</p> <p>【第11回】GUIプログラミング（2）： GUIを用いた操作を処理する際に必要となるイベント処理について説明し、簡単なテキストエディタを作成する。</p> <p>【第12回】GUIプログラミング（3）： GUIプログラムの応用例として、電卓アプリケーションを作成する。</p> <p>【第13回、14回】GUIプログラミング（4、5）： GUIプログラミングのまとめとして、GUIベースのユーザー状況公開アプリケーションを作成する。あらかじめネットワーク上に用意されたサーバが提供する機能を用いて、簡単なユーザー状況公開アプリケーションを作成する。</p> <p>【第15回】まとめ</p>
準備学習	使用するソフトウェアのインストールなど、時間がかかる作業は事前に準備内容を指示するので、指定された授業回までに終えておくこと。プログラミングは知識の積み上げが必須な分野であるため、毎回の課題を期限までに確実に終えること。
履修上の留意点	ある程度の授業時間外作業が必要となる（授業時間と同程度を想定）。「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済であること。プログラミングについての事前知識は必要としない。実習は各自のノートPCに開発環境を構築して行うため、初回授業までに必ずKOMAnetに接続して利用可能な状態で用意しておき、毎回必ず持参すること。OSはWindowsでもMacでもかまわない。
成績評価の方法	成績評価対象は各回の課題とする。原則としてすべての授業回で出題し、各回の点数配分は同等とする。課題の提出をもって出席とみなし、提出率が大学の基準に達しない場合は不可とする。
教科書／テキスト	教科書は使用せず、資料を毎回配布する。実習ではプログラムのテンプレートを用意することで難易度を下げ、作業手順を詳しく示し、初学者でも課題を達成できるようにする。
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。
その他	授業終了後を中心に質問時間を設けるので、不明な点は積極的に質問してほしい。

履修コード	433901
科目名	実践メディアビジネス講座I
担当者名	各務 洋子 山口 浩

授業概要/ 到達目標（ねらい）	メディアやコンテンツに関する企業に実際に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践講義を提供します。本年度は、前半にアニメ関連、後半には、大手広告代理店で映像、音楽、出版、インターネットなどの様々なメディアをミックスした、最も技術革新の激しい産業郡で実務を担う企業人を招き、担当教員との共同講義により、最先端のコンテンツビジネス、メディアビジネスを紐解く。
--------------------	---

授業スケジュール	前半は、主にロコミマーケティングの可能性を探るために、ロコミに関係する企業の実務家を招く。後半は、主としてメディア産業に携わる実務家を招くが、前半のロコミマーケティングを応用するメディアで、最新の動向を掴む。大手広告代理店で働く実務家を中心に、新聞、雑誌、テレビ、インターネット、ラジオなどの様々なメディアをクロスさせた分野で仕事を担う企業人をお招きする。
----------	--

実務家の都合上、講師の日程は、4月の第一回の授業でアナウンスいたします。

最終日は、お話を頂いて実務家から学んだことをまとめ、現代のメディア産業の現在と、今後の課題を考察する。

準備学習	第1回目の講義で、全体の内容説明を実施します。 お招きいただく実務家の勤務する職場の業界や、企業の情報事前に調べておくこと。
------	---

履修上の留意点	企業の方々をお招きしてお話を伺う貴重な機会を提供する授業です。 遅刻、私語は厳禁です。失礼な態度が明らかな場合、授業の途中で、退出してもらいます。
---------	--

成績評価の方法	各授業で、レポートを書いてもらいます。 レポートの形式は、第1回授業で指示しますので、必ず出席してください。
---------	---

教科書/テキスト	実務家に関連するコンテンツや、メディア関連の情報は、あらゆるメディアから集めて、事前に読んでおくこと。
----------	---

参考書	授業中に適宜指示します。
-----	--------------

履修コード	436801
科目名	実践メディアビジネス講座III
担当者名	石川 憲洋 吉田 尚史 石橋 直樹 南 政樹

授業概要/ 到達目標（ねらい）	(授業概要) メディアを活用したビジネスを支える中核の技術としてメディア技術、システムソフトウェア、インターネット、セキュリティ、データベース、知的財産権などについてビジネスの視点から学び、同時に、グローバルなビジネスの創出・起業の基礎を技術的な視点から学習する。本講義では、ビジネスにおける成功者からのゲスト講演を交えて行う。また、実践的なビジネスについてケーススタディーにより学ぶ。
--------------------	--

(到達目標)	本講義では、ゲストスピーカーの講義により、実践的なビジネスについて習得し、メディアとインターネットの新しい時代のビジネスの本質を実践的な成功例と共に習得することを目的とする。
--------	---

授業スケジュール	本講義において取り上げるテーマと、半期15回、各回の内容は次のとおりである。 順序については変更される場合がある。
----------	--

- 第1回：本講義の狙い、進め方、ゲストスピーカー紹介などの概要説明
 第2, 3, 4回：サーチエンジン、ソーシャルネットワークなどのインターネット上のビジネスを起業、運営する方々をお招きし、それらの体験について議論する。
 第5, 6回：IT・メディアには通信は必要不可欠であり、通信会社・インターネットプロバイダなどの企業の方々に講演頂き、そのビジネスモデル、運営などについて議論する。
 第7, 8回：社会的に重要な著作権について、それを管理する立場、それを利用してビジネスする立場、様々な方に講演して頂き、多角的な視点から議論する。
 第9, 10回：ゲームコンテンツや、ソフトウェアを扱うビジネスについて、実際的に携わっておられる様々な方に講演して頂き、議論する。
 第11, 12, 13回：環境問題を取り上げるメディアや公的組織の方々に講演を頂き、環境問題とビジネスの現状について議論する。また、ネットワーク時代の金融ビジネスの課題を知る。
 第14, 15回：IT・メディア系の研究所の方々をお招きし、ビジネスと研究の接点、あるいは企業と大学の接点などについてお話し頂く。

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	教場の座席に空きがある限り、すなわち履修者の妨げにならない限り、履修者以外の学生の聴講を可能とする場合がある。
---------	---

成績評価の方法	レポート（14回のミニレポート、中間レポート、最終レポート）100%とする。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システム上に教材、講演資料を登録し、ダウンロードにより配布する。
----------	---

参考書	使用しない。
-----	--------

その他	ゲストスピーカーに関する最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	--------------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	436901
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅳ
担当者名	福家 秀紀 絹川 真哉 西岡 洋子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) ブロードバンドインターネットの普及と携帯電話の高度化に伴って急速に進展している通信放送の融合を踏まえて、電気通信事業者、放送事業者、ISP、およびコンテンツ事業者などがどのような事業展開を図っているのかを、各業界の専門家を招聘して講義して頂き、現状と課題について説明することを主眼とします。</p> <p>(到達目標) 情報メディア産業界の専門家の講義と、講師との議論を通して、情報メディア産業の現状と課題、および今後の方向性を把握することを目標とします。同時に、情報メディア産業で、実務に携わっている専門家との交流を通して、就業力の視点から、仕事の実態を理解することも目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>以下のような内容を取り上げて、外部企業の幹部の方に講義して 頂きますが、講師の都合によっては、変更になる場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受講のための予備知識 ② 固定電気通信事業の現状と課題 ③ 携帯電話事業の現状と課題 (1) ④ 携帯電話事業の現状と課題 (2) ⑤ 携帯電話事業の現状と課題 (3) ⑥ インターネット事業の現状と課題 ⑦ インターネットとセキュリティ ⑧ 法人向け情報通信事業の動向 ⑨ 放送事業者のインターネットへの取り組み (1) ⑩ 放送事業者のインターネットへの取り組み (2) ⑪ ケーブルテレビの現状と課題 ⑫ 専門放送事業の現状と課題 ⑬ わが国における検索サービスの展開 ⑭ まとめ (1) ⑮ まとめ (2)
準備学習	授業に臨むに当たっては、講師の所属する企業のHP等を通して、事前に各業界の現状を把握しておいて下さい。
履修上の留意点	<p>毎回、テーマごとに異なる専門家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一貫したメッセージを学び取るためには、毎回の出席を重視します。</p> <p>なお、授業の最後に、質疑応答の時間を取りますので、積極的に質問を用意して下さい。また、講師は一流企業の幹部なので、遅刻をしない、私語は慎むなどの基本的なマナーを遵守して下さい。</p>
成績評価の方法	<p>各回の講義のまとめ：50%</p> <p>最終試験：50%</p>
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	講義の中で、適宜指示します。
その他	講義の日程とテーマは講師の都合で、変更される場合があります。

履修コード	443001
科目名	Journalism I
担当者名	前田 利継

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	To introduce students to the key issues and methodology of modern journalism. To allow students to obtain reporting skills practical enough for them to work as interns in a real newsroom.
---------------------	---

国際ジャーナリズムの基礎的なスキルと知識を身につけること。報道機関でインターンとして働けるくらいのレベルに到達することをめざす。

授業スケジュール	At each lesson students will receive assignments based on current events and media coverage, progressing over the term towards their own reporting content and style. This semester, we would also aim to produce TV news reports with the use of smartphones.
----------	--

基本的に毎週、時事問題やクラスの進捗状況にあわせて課題が与えられる、実践型の授業を予定しています。今年度はスマートフォンを活用したテレビリポートの制作なども取り入れていく予定です。

TENTATIVE SCHEDULE (Subject to change):

Week1
Introduction to Journalism -- Class Overview, Key Terms, Assignments

Week2
Focus on Japanese Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services, Radio, Internet
Look at Japanese Media Audience and Industry Revenues

Week3
Focus on Japan-based International Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services
Impact of Media Industry Economic Downturn on Japan Reporting

Week4
Review; Golden Week Holiday

Week5
Journalism Techniques -- Interviewing and Reporting for Text, TV and Radio; Photo-Journalism, Blogging; Developing a Style

Week6
What Makes News? Journalism Beat Reporting -- General News, Business, Sports/Leisure, Column Writing

Week7
Profile Report on Music, Arts or Sports

Week8
Technology and Journalism: the Future of Media

Week9
Local Reporting Assignment -- Komazawa University, Setagaya Ward, Tokyo News Coverage

Week10
Feature on Local Personality

Week11
Japanese Politics Update

Week12
Reporting on Business and the Economy; Corporate Profile

Week13
Multi-media Reporting Introduction

Week14
Course Summary; Make Up Classes

準備学習	Self-study of current events and daily review of Japanese and foreign media are essential for class participation, which will be key to grading. School will vet students prior to enrollment to ensure level appropriate for class, which will be taught in both English and Japanese.
------	---

最新の時事問題（ニュース）や国内外のメディアの動向に常に目を配り、授業にどんどん「参加」してください。参加というのは、ただその場にいることではなく、人の意見や情報を聞き、自分なりに消化し、考え、それに基づいて自分の意見を述べ、アウトプットを行うという一連のプロセスです。この授業への「参加」を、このクラスでは重視しますので、それなりの準備が必要になります。クラスは英語と日本語を混ぜた形で行われます。

履修上の留意点	<p>Students are expected to use English and be prepared to participate. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades.</p> <p>授業に使う教材や出される課題は英語中心になるため、英語で授業に積極的に参加していく姿勢が必要です。授業への出席と参加の度合いを重視します。欠席や遅刻は、評価にマイナスに影響することになります。</p>
成績評価の方法	<p>Evaluation is based on attendance, class participation, ability, and effort using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Current Grade}$ </p> <p>評価は、出欠席、クラスへの参加度（積極性）、パフォーマンス、能力および努力を総合的に勘案して判断されます。</p>
教科書／テキスト	<p>There are no assigned textbooks for this class, but English-language periodicals and web-based English media should be reviewed daily.</p> <p>特に必要となる教科書はありませんが、授業では英文記事やインターネットメディアからの情報を毎回読み、議論します。</p>
参考書	<p>Key reading will be posted on Komazawa class Internet page.</p> <p>必要な読み物や情報は、駒沢大学のインターネットサイトなどを通じて共有するようにします。</p>
その他	<p>If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.</p> <p>欠席、遅刻などに対しては、病気や交通機関の乱れによる遅れを証明するものがない限り、厳しく対処します。裏返せば、繰り返しになりますが、それだけ出席点や参加度を重要視するということです。</p>

履修コード	443101
科目名	Journalism II
担当者名	前田 利継

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Expanding on skillsets acquired in Journalism I, practical considerations for careers in journalism.
---------------------	--

ジャーナリズム I で学んだスキルや知識をさらに伸ばし、実際に国際報道やメディアの現場で働くことをイメージしながら、より実践的なジャーナリズムの世界を学生の皆さんに体験してもらうこと。

授業スケジュール	Students will have completed Journalism I, with a steeper learning curve and expectations in Journalism II.
----------	---

This semester, we plan to launch an Internet-based TV station for the class where students will be asked to help contribute their own news reports and programs.

ジャーナリズム I を履修していることが前提となります。

今学期は疑似インターネットテレビ局をクラスで立ち上げ、そこで放送するTVニュース番組(日英バイリンガルを予定)をグループワークとして制作していくことなどを予定しています。

TENTATIVE SCHEDULE (subject to change):

Week1

Course Outline: Overview of Key Issues of Journalism: Making News

Week2

Holiday: Multi-Media Production -- Text, Video, Audio, Pictures: Citizen Journalism

Week3

Writing Profiles/Interviewing Techniques

Week4

Reporting on Japanese Current Events, Local News

Week5

Holiday: Non-text Story-telling

Week6

International Reporting - U.S.-Japan Ties, Japan-Korea, Japan-China

Week7

Focus on International Trade and Business; Corporate Profile

Week8

Reporting on Sports/Arts & Leisure

Week9

Reporting on Technology -- New Products and Gadgets

Week10

Using Technology to Report

Week11

Video Reporting: Holiday

Week12

Radio Reporting: Interview Techniques

Week13

Make Up Classes

準備学習	As with Journalism I, students will be expected to have read, watched and heard the top news of the day at class start, with participation and interaction key to grading.
------	--

履修上の留意点	Students are expected to use the skills acquired in Journalism I, elevating levels and working towards newsroom level competencies. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice and study outside of class is important and field reporting will be part of the semester assignments.
---------	--

成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, participation, ability and effort.
教科書/テキスト	There are no assigned textbooks for this class, but handouts and reading assignments will be part of weekly workloads.

参考書	Weekly assignments and reading will also be posted on the Komazawa Internet class page.
-----	---

その他	If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.
履修コード	434811
科目名	社会調査法入門
担当者名	廣瀬 毅士
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業は、社会調査の理論を概観するとともに、仮説の構築や質問紙の設計などの方法の理解に主眼をおく。特に、統計的な処理を目的とする量的な調査を中心に講義をする。 科学的な社会調査の理論と方法について理解することで、自力で適切な調査のデザインが出来るようになることを目標とする。上級学年での研究活動の基礎となるデータ収集・整理の実施技術を身に付ける、「調査リテラシー」の科目である。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か：概説 2. 社会調査の歴史と目的 3. 社会調査の種類 4. 統計的調査の一般的手順 5. 研究と調査課題：仮説の作り方 6. 質問紙の作り方：構成とフロー 7. 質問紙の作り方：質問のワーディング 8. 質問紙の作り方：選択肢の設け方 9. 標本設計：クオータ法、無作為抽出法 10. 標本抽出法 11. 実査の方法 12. 集計と統計的分析の基礎 13. まとめ
準備学習	総合情報センターのページ等を参考にして、学内ネットワーク (KOMAnet) やGMS学部のシステムに習熟しておくこと。履修者は、事前にGMS学部の「授業支援システム」にある資料を入手して授業に臨むこと。また、できれば各自のパソコンを持参するのが望ましい。
履修上の留意点	講義資料の提示・課題の提出などについては、GMS学部の「授業支援システム」を利用するので、「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであることが望ましい。
成績評価の方法	定期試験の成績 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%) とする。
教科書/テキスト	特に指定しないが、適宜参考文献などの購読を指示する。
参考書	森岡清志編『ガイドブック社会調査』 (日本評論社, 2009年) 大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ 第2版』 (ミネルヴァ書房, 2005年) 安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック 第3版』 (有斐閣, 1982年)
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	450101 450102
科目名	就業力基礎III
担当者名	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の2年次科目です。2年次では進路に合わせて受講科目を選択する等の履修選択を行える、学外での実習と振り返りにより、多様な職業・生き方を理解し、ワークライフバランスを考えることができる、キャリアガイダンスなどを自立的に活用し働くことの意義の理解を深められることを目標とします。</p> <p>この科目で、皆さんに考えてほしいことは、仕事の面から見た「人生そのもの」といえます。ですからこの科目が目指すものは、単に優れた就職先にみなさんが採用されればよいというものではありません。「人生をどう生きていくのか」「そもそも自分はなぜ生まれてきたのか」「何をすべきなのか」を考え、それに基づいて職業を考えるということなのです。</p>
授業スケジュール	<p>① 4/12 オリエンテーション・システム説明・ディスカッションの進め方・他人紹介</p> <p>② 4/19 ライフプランをつくろう</p> <p>③ 4/26 働くことの意味</p> <p>④ 5/10 社会人から仕事の話聞くことの意義</p> <p>⑤ 5/17 産学連携プロジェクト(中小企業庁の取り組み)</p> <p>⑥ 5/24 キャリア講座に参加</p> <p>⑦ 5/31 中間報告</p> <p>⑧ 6/7 ケーススタディ</p> <p>⑨ 6/14 自己分析(前編:過去を振り返ろう)</p> <p>⑩ 6/21 自己分析(後編:未来を考えよう)</p> <p>⑪ 6/28 産学協同プロジェクトの準備</p> <p>⑫ 7/5 産学協同プロジェクト(7月4日)</p> <p>⑬ 7/12 産学協同プロジェクトを受けてのディスカッション</p> <p>⑭ 7/19 第1回~第13回のまとめ</p> <p>⑮ 後期に向けてのガイダンス</p>
準備学習	<p>経済学部は、基礎ゼミ(商・現代応用)や基礎情報処理、情報入門の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>ポートフォリオ(行動計画)は前週の反省を踏まえ毎週行う。</p>
履修上の留意点	<p>1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) この科目はグループ単位で、自習形式で課題に取り組む。その際先輩(学生サポーター)がアドバイスをする。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。</p> <p>3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れないこと。</p> <p>4) 平成23年度入学生のみ対象の科目です。</p> <p>5) 定期試験および追試験は行わない。</p> <p>6) 定期試験期間に就業力を測定するためのテストを行う予定である。</p> <p>7) 産学連携プロジェクトの日程は変更される場合がある。</p>
成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に配布
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	平成23年度入学生のみ対象の科目です。昨年度の就業力基礎Iのコラムのテーマを元に木曜5限に「現代経済事情I」を現開講します。ぜひ受講して下さい。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gp/

履修コード	450151 450152
科目名	就業力基礎Ⅳ
担当者名	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の2年次科目です。2年次では、進路に合わせて受講科目を選択する等の履修選択を行える、学外での実習と振り返りにより、多様な職業・生き方を理解し、ワークライフバランスを考えることができる、キャリアガイダンスなどを自立的に活用し働くことの意義の理解を深められることを目標とします。</p> <p>この科目では、企業研究、職種についての理解、ケーススタディを通じて仕事に対する心構えや希望する進路に就くために何をすべきかなどについて考え、自ら準備を進められるようにサポートをしていきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>① 9/20 夏休みの課題発表 (ビジネス漫画・小説を読んだ感想)</p> <p>② 9/27 わが国の企業について、業種・業界について</p> <p>③ 10/4 働く場について知ろう! ~企業について~、組織</p> <p>④ 10/11 中小企業で働くということ</p> <p>⑤ 10/18 四季報・会社情報の読み方</p> <p>⑥ 10/25 産学協同プロジェクト</p> <p>⑦ 11/1 産学協同プロジェクトを受けて</p> <p>⑧ 11/8 キャリア講座</p> <p>⑨ 11/15 キャリア講座を受けて</p> <p>⑩ 11/22 ケーススタディ1</p> <p>⑪ 11/29 グループディスカッション</p> <p>⑫ 12/6 ケーススタディ2</p> <p>⑬ 12/13 チェックポイントレビュー</p> <p>⑭ 12/20 まとめ</p> <p>⑮ 次年度へ向けてのアドバイス</p>
----------	--

準備学習	<p>経済学部は、基礎ゼミ (商・現代応用) や基礎情報処理、情報入門の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習の単位を取得していることが望ましい。</p> <p>ポートフォリオ (行動計画) は前週の反省を踏まえ毎週行う。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) この科目はグループ単位で、自習形式で課題に取り組む。その際先輩 (学生サポーター) がアドバイスをする。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。</p> <p>3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れないこと。</p> <p>4) 平成23年度入学生のみ対象の科目です。</p> <p>5) 定期試験および追試験は行わない。</p> <p>6) 定期試験期間に就業力を測定するためのテストを行う予定である。</p> <p>7) 産学連携プロジェクトは日程を変更する場合がある。</p>
---------	---

成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に配布
----------	--------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	平成23年度入学生のみ対象の科目です。
-----	---------------------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gp/
-------	---

履修コード	430801
科目名	情報社会論
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(講義概要) 本講義は、新聞、ラジオ、映画、テレビ、写真、インターネットなどのメディアの歴史を辿りながら、それらを誕生させた時代状況と、その誕生が人間社会にもたらした変化について解説する。</p> <p>(到達目標) 高度情報化が進む現代において、メディア技術の革新はコミュニケーションだけでなく、エンターテインメント、アート、ビジネスなどを通じてわれわれの日常生活や人間関係のありかたを大きく変えつつある。メディアの変容がどのような社会的諸条件のもとで要請されたのか、そしてそれが人間の知覚や精神にいかなる影響を与えたのかを、歴史的・文化論的な視点から掘り下げていく。本講義の基本的な目標は、日本と海外のさまざまな実例を通して、メディアの持つ社会的機能への理解を深めることである。具体的には、(1) グローバルな視点から情報社会について読み解く基礎体力を養うこと。(2) 歴史の文脈から、情報空間の変貌が身体感覚の変容に与える影響について考察を深めること。(3) 日常生活におけるさまざまなメディア現象について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 概説：情報社会論の基本理論 第2回 導入部：「ケータイ小説」現象について 第3回 出版の歴史と変容 第4回 新聞の歴史と変容 第5回 雑誌の歴史と変容 第6回 映画の歴史と変容 第7回 写真の歴史と変容 第8回 ラジオの歴史と変容 第9回 テレビの歴史と変容 第10回 ネットとグローバルイゼーション 第11回 携帯電話と人間感覚の変容 第12回 SNSによるコミュニケーション変革 第13回 グループワーク (1) 草案作成 第14回 グループワーク (2) グループ発表 第15回 総括</p>
----------	--

準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず十分に予習しておくこと。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価：30% レスポンスカードの内容の評価：30% 期末レポート：40%
教科書／テキスト	特になし
参考書	・佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1998年）、2,300円、ISBN: 4000260154 ・吉見俊哉『メディア文化論』（有斐閣、2004年）、1,800円、ISBN: 4641121907
その他	

履修コード	434301
科目名	情報保護と社会
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会活動の全般的な情報化が進展するに従い、情報の価値が増大している。小説、映画、音楽、コンピュータプログラム、データベース、マルチメディア情報等のように経済的価値がありしかも公開された情報については、著作権法等の知的財産権法による保護に適している。企業秘密やプライバシー情報のように経済的価値がありしかも非公開の情報についてはセキュリティ上の対策が必要になる。また、危険な情報から子供を守るための対策も必要となる。この講義では、日本の知的財産戦略および情報セキュリティ政策との関連を含め、情報保護のニーズとこれに対応する種々の社会的方策について学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>コンテンツ産業、メディア産業だけでなく、あらゆる企業、官公庁などで仕事をする上で必要な知識となる、知的財産権法(著作権、特許、意匠権、商標権など)、営業秘密、個人情報保護、情報システムのセキュリティ対策などについて、基本的な知識を習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 情報化社会における情報の価値とその保護の必要性</p> <p>第2回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (1. 知的財産戦略)</p> <p>第3回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (2. 著作権制度)</p> <p>第4回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (3. 著作権保護技術)</p> <p>第5回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (4. 産業財産権の保護と課題)</p> <p>第6回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (5. 営業秘密の保護と課題)</p> <p>第7回 情報セキュリティに関する政策と技術 (1. 個人情報保護政策)</p> <p>第8回 情報セキュリティに関する政策と技術 (2. 情報セキュリティ政策)</p> <p>第9回 情報セキュリティに関する政策と技術 (3. 情報セキュリティ・マネジメント)</p> <p>第10回 情報セキュリティに関する政策と技術 (4. 暗号技術)</p> <p>第11回 情報セキュリティに関する政策と技術 (5. 情報セキュリティ技術の高度化と応用)</p> <p>第12回 グローバル環境における情報保護の課題 (1. 国際機関の果たす役割)</p> <p>第13回 グローバル環境における情報保護の課題 (2. 有害情報からの児童の保護)</p> <p>第14回 グローバル環境における情報保護の課題 (3. 情報保護の新たな展望)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート(前期レポート、後期レポート)75%、平常点(授業への積極的な参加、授業での積極的な発言など)25%とする。
教科書/テキスト	講義資料をGMS授業支援システムを利用して、公開、配布する。
参考書	下記の参考書の他、授業中にホームページ等を紹介する。 ・ロバート・レッシング著『CODE 2.0』社、2800円、翔泳社 ISBN 978-4-7981-1500-9

履修コード	432001
科目名	情報メディア産業論I
担当者名	福家 秀紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報メディア産業の範囲を定義し、情報メディア産業を理解するためのキーワードを解説します。その上で、電気通信、携帯電話、インターネット、放送、新聞、出版、広告、音楽・映像コンテンツなど主要な情報メディア産業の構造と特徴、および課題について理解できるように構成します。
---------------------	--

(到達目標)
インターネットをはじめとした様々なネットワークの特性を理解するとともに、ブロードバンド・インターネットとスマートフォンの急速な普及により大きく変化している、日本の情報メディア産業の現状と課題を理解することを基本的な目標とします。具体的には、以下の2点を理解することを目標とします。①伝統的な情報メディア産業においては、コンテンツ、ネットワークサービス、及び物理的なネットワークの3つのレイヤーごとに垂直統合されていること。②インターネットのブロードバンド化とスマートフォンの普及に伴って、情報メディア産業がこれら3つのレイヤーごとに水平分離され、メディア融合が進行していること。

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報メディア産業とは ② 情報メディア産業を理解するためのキーワード (1) : ネットワーク ③ 情報メディア産業を理解するためのキーワード (2) : デジタル化とモジュール化 ④ 電気通信産業 ⑤ 携帯電話産業 ⑥ インターネット (1) ⑦ インターネット (2) ⑧ 放送産業 (1) ⑨ 放送産業 (2) ⑩ 新聞産業 ⑪ 出版産業 ⑫ 広告産業 ⑬ 音楽・映像コンテンツ産業 ⑭ まとめ (1) ⑮ まとめ (2)
----------	--

準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
------	---

履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。
---------	--

成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義のまとめ: 40% レポート・小テスト: 10% 定期試験: 50%
---------	---

教科書/テキスト	教材を授業支援システムに掲載します。
----------	--------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・村井純[1995]、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4 ・(株)情報通信総合研究所[2011]、『情報通信データブック2012』、NTT出版、2,520円、978-4757103160 ・(株)情報通信総合研究所[2011]、『情報通信アウトlook2012』、NTT出版、2,310円、978-4757103153 ・総務省『各年版 情報通信白書』 ・その他講義の中で適宜紹介します。
-----	--

その他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。
-----	----------------------------

履修コード	432101
科目名	情報メディア産業論II
担当者名	福家 秀紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) インターネットのブロードバンド化、スマートフォンの普及による情報メディア産業の構造変化を分析します。さらに、こうした構造変化の背景にあるピア・ツー・ピア通信、ロングテール、プラットフォームなどの基礎的な概念を解説します。そのうえで、グーグル、アップル、アマゾンなどによる新しいプラットフォーム機能・クラウドコンピューティングサービスの提供が伝統的な情報メディア産業に与える影響と課題を抽出するとともに、情報通信政策の方向性を考察します。</p> <p>(到達目標) インターネットのブロードバンド化、スマートフォンの普及に伴って、情報メディア産業の構造が、従来の垂直統合からレイヤー別分離に大きく変化していることを理解することが、本講義の基本的目標です。具体的には、以下の3点を理解することを目標とします。①インターネットのブロードバンド化、スマートフォンの普及に伴って、情報メディア産業が、コンテンツ、ネットワークサービス、及び物理的なネットワークの3つのレイヤーごとに分離され、メディア融合が進行していること。②情報流通におけるプラットフォーム機能の担い手が、伝統的な情報メディア事業者から、グーグル、アップル、アマゾンなどの米国IT事業者に移行しつつあること。③メディア別の規制体系を見直し、メディア融合に対応した規制体系の再構築が必要であること。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報メディア環境の変化 (1) : ブロードバンドインターネットの普及 ② 情報メディア環境の変化 (2) : 携帯電話の高度化とスマートフォンの普及 ③ 情報メディア環境の変化 (3) : テレビ放送のデジタル化 ④ 情報メディア環境の変化 (4) : ケーブルTVとトリプルプレー ⑤ 情報メディア産業の構造変化 ⑥ ピア・ツー・ピア通信とCGM ⑦ ロングテール現象と情報メディア ⑧ 情報メディア産業とプラットフォーム ⑨ グーグルと情報メディア産業 ⑩ iPhone・スマートフォンと情報メディア産業 ⑪ アマゾンと電子書籍 ⑫ クラウドコンピューティングの現状と課題 ⑬ IPテレビとメディア融合への対応 ⑭ まとめ (1) ⑮ まとめ (2)
準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Iの履修済みを前提として授業を行います。
成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義のまとめ: 40% レポート・小テスト: 10% 定期試験: 50%
教科書/テキスト	特に指定しません。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・Auletta, Ken [2009], 'Googled', Virgin Books, 土方奈美訳 [2010], 『グーグル秘録』、文藝春秋、1,900円、978-4-16-372500-0 ・Anderson, Chris, 'The Long Tail', Hyperion, 篠森ゆりこ訳『ロングテール』、早川書房、1,700円、4-15-208761-7 ・その他、授業中に適宜紹介します。
その他	レジュメを配布する他、政府の各種審議会の報告書や新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	407701
科目名	情報リテラシー
担当者名	明田 守正

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)
本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール	<p>第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word) 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint) 第8回：メディア・データベースの基礎 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel) 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1) 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2) 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3) 第13回：メディアとセキュリティ (1) 第14回：メディアとセキュリティ (2) 第15回：まとめ</p>
----------	--

準備学習 総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点 本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法 毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書
 * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
 * 川合慧: 「情報」, 東京大学出版会, 288ページ, 2006. ISBN4-13-062451-2
 * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
 * 「情報学辞典」弘文堂, ISBN: 4335550812, 2002.
 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), 入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-, ISBN: 4844370219, 2006.
 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-, ISBN: 4844370200, 2006.

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他 授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク <https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	407201
科目名	情報リテラシー
担当者名	石川 憲洋

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
 - 各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
 - 近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
 - メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
 - 多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
 - WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
 - ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)
本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

- * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
- * 川合慧：「情報」、東京大学出版会、288ページ、2006。ISBN4-13-062451-2。
- * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
- * 「情報学辞典」弘文堂、ISBN: 4335550812、2002。
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-、ISBN: 4844370219、2006。
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-、ISBN: 4844370200、2006。

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	407301
科目名	情報リテラシー
担当者名	石橋 直樹

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)
本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール

- 第1回: 「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回: コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回: コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回: コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回: ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回: マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回: プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回: メディア・データベースの基礎
- 第9回: スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回: メディアとセキュリティ (1)
- 第14回: メディアとセキュリティ (2)
- 第15回: まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

- * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
- * 川合慧: 「情報」, 東京大学出版会, 288ページ, 2006. ISBN4-13-062451-2
- * 情報処理学会 「情報処理ハンドブック」
- * 「情報学辞典」弘文堂, ISBN: 4335550812, 2002.
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), 入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-, ISBN: 4844370219, 2006.
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-, ISBN: 4844370200, 2006.

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	407801
科目名	情報リテラシー
担当者名	廣瀬 毅士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。
---------------------	---

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

ーノートパソコンの利用

各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。

ーメディアとコンピュータ・ネットワーク

近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。

ーファイルシステムとメディア

メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係性を体得する。

ーメディア・データベースの基礎

多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。

ーWWWとHTML

WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。

ーメディアとセキュリティ

ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)

本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール	第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word) 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint) 第8回：メディア・データベースの基礎 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel) 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1) 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2) 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3) 第13回：メディアとセキュリティ (1) 第14回：メディアとセキュリティ (2) 第15回：まとめ
----------	---

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	* 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet * 川合慧：「情報」、東京大学出版会、288ページ、2006。ISBN4-13-062451-2 * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」 * 「情報学辞典」弘文堂、ISBN：4335550812、2002。 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-、ISBN：4844370219、2006。 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-、ISBN：4844370200、2006。
-----	---

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	407501
科目名	情報リテラシー
担当者名	松原 大悟

授業概要/ 到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)

本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

- * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
- * 川合慧: 「情報」, 東京大学出版会, 288ページ, 2006. ISBN4-13-062451-2
- * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
- * 「情報学辞典」弘文堂, ISBN: 4335550812, 2002.
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), 入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-, ISBN: 4844370219, 2006.
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会), マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-, ISBN: 4844370200, 2006.

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード 407601

科目名 情報リテラシー

担当者名 松原 大悟

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

ノートパソコンの利用

各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。

メディアとコンピュータ・ネットワーク

近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。

ファイルシステムとメディア

メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係性を体得する。

メディア・データベースの基礎

多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。

WWWとHTML

WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。

メディアとセキュリティ

ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)

本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

- * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
- * 川合慧：「情報」、東京大学出版会、288ページ、2006。ISBN4-13-062451-2
- * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
- * 「情報学辞典」弘文堂、ISBN: 4335550812、2002。
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-、ISBN: 4844370219、2006。
- * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-、ISBN: 4844370200、2006。

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード 407401

科目名 情報リテラシー

担当者名 南 政樹

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)
本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール

- 第1回: 「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回: コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回: コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回: コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回: ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回: マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回: プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回: メディア・データベースの基礎
- 第9回: スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回: WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回: メディアとセキュリティ(1)
- 第14回: メディアとセキュリティ(2)
- 第15回: まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

- * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
- * 川合慧: 「情報」, 東京大学出版会, 288ページ, 2006. ISBN4-13-062451-2
- * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
- * 「情報学辞典」弘文堂, ISBN: 4335550812, 2002.
- * CG-ARTS協会(画像情報教育振興協会), 入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-, ISBN: 4844370219, 2006.
- * CG-ARTS協会(画像情報教育振興協会), マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-, ISBN: 4844370200, 2006.

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	407101
科目名	情報リテラシー
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。
---------------------	---

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係性を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

(到達目標)

本講義は、情報とメディアの利用者、推進者としての基本的なリテラシーの体得を目的とする。そのために、第一に本学部で履修する科目の基礎となるコンピュータやネットワークに関する知識の習得、第二に関連するメディアや社会との関係性、これまで明らかになっている種々の課題の理解を目標とする。

授業スケジュール	<p>第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word) 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint) 第8回：メディア・データベースの基礎 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel) 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1) 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2) 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3) 第13回：メディアとセキュリティ (1) 第14回：メディアとセキュリティ (2) 第15回：まとめ</p>
----------	--

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> * 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet * 川合慧：「情報」、東京大学出版会、288ページ、2006。ISBN4-13-062451-2 * 情報処理学会「情報処理ハンドブック」 * 「情報学辞典」弘文堂、ISBN: 4335550812、2002。 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-、ISBN: 4844370219、2006。 * CG-ARTS協会 (画像情報教育振興協会)、マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-、ISBN: 4844370200、2006。
-----	--

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	408501
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	明田 守正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。</p>
---------------------	--

(到達目標)

本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。

授業スケジュール	この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
----------	-------------------------------

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	408001
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。 (到達目標) 本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
----------	-------------------------------

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	408101
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
----------	-------------------------------

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	408601
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	廣瀬 毅士

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

(到達目標)

本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。

授業スケジュール

この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	408301
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	松原 大悟

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

(到達目標)
本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。

授業スケジュール

この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。

教科書/テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	408401
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	松原 大悟

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。</p> <p>(到達目標) 本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。</p> <p>第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word) 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint) 第8回：メディア・データベースの基礎 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel) 第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (1) 第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (2) 第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (3) 第13回：メディアとセキュリティ (1) 第14回：メディアとセキュリティ (2) 第15回：まとめ</p>
----------	--

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	408201
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。</p> <p>(到達目標) 本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
----------	-------------------------------

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ(1)
- 第14回：メディアとセキュリティ(2)
- 第15回：まとめ

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点（課題提出など50%）、レポート(50%)により評価する。
---------	---

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	407901
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。</p> <p>(到達目標) 本講義は、情報社会の担い手としてのスキル、知識、判断力の体得を目的とする。そのため、第一にコンピュータやネットワークが提供する様々な機能を効率的に利用するスキルの習得、第二にスキルを駆使した情報発信と収集の実践を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
----------	-------------------------------

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW (World Wide Web) とHTML (Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

準備学習	総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義における平常点 (課題提出など50%)、レポート (50%) により評価する。
---------	--

教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
----------	-----------------------------------

参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
-----	--------------------

その他	授業内容の最新情報を、GMS授業支援システム上に公開する。
-----	-------------------------------

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	416701
科目名	世界政治とメディア
担当者名	五野井 郁夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義では、世界政治を読み解く基礎体力を養い、自身の日常生活と世界政治を結びつける回路をつくることを目的とする。 2. 具体的には、世界政治の現在と学問としての政治学、国際関係論の基礎を学ぶことを通じて、社会で通用する読む力、理解する力、書く力のトレーニングを行う。 3. これによって、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ネット上のニュースはもちろん、文化、芸術まで、広く世界政治とメディアに関連する事象について自分で考え、解釈するための手がかりをつかみ発信することが、本講義のねらいである。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：政治とは何か？ 世界の捉え方、世界政治とメディア 2. 世界政治のしくみ 世界政治の形成と変容：メディアの変遷と統治形態の変容、グローバル化 安全保障：核抑止、知識人と権力、人間の安全保障 国際組織：国連、国際政治経済、地域統合、多国籍企業、NGO 3. 世界政治の諸相 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権と民主化、ポピュリズム、エコロジー、宇宙開発 ・ 貧困と飢餓、植民地主義、南北問題 ・ ジェンダー、文化、オルタナティブ・メディア 4. 世界政治のなかの日本 5. 世界政治への参加 <p>* 適宜、映像等を鑑賞する</p>
----------	--

準備学習	日々の生活のなかでニュース等にふれる機会を意識的につくること。
------	---------------------------------

履修上の留意点	本講義は双方向的な演習形式をとるため、講義内容の変更もある。積極的な出席と講義への参加を重視する。
---------	---

成績評価の方法	1. 毎回の講義への参加と答案用紙の出来 (出席・平常点も兼ねる) 2. 定期試験
---------	---

教科書/テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小田川大典・五野井郁夫・高橋良輔 編『国際政治哲学』（ナカニシヤ出版、2011年） [http://www.nakanishiya.co.jp/modules/myalbum/photo.php?id=749] 2. 苅部直・宇野重規・中本義彦 編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011年） [http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641053779]
----------	--

参考書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・来栖薫子・秋山信将 編『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2011年）[http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641177123]
-----	--

その他	本講義は後期科目「国際関係とメディア」とあわせて通年で完結する内容である。したがって、「国際関係とメディア」を継続して受講することが望ましい。
-----	---

履修コード	431201
科目名	知識経営論
担当者名	リンスキー M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is an introduction to the subject of innovation and knowledge management from both managerial and theoretical points of view. Students will be introduced to practical issues related to the processes of managing and creating knowledge in teams and organizations, as well as to theories and research on innovation and organizational learning. Theoretical frameworks are derived from economics, philosophy, and organizational behaviour.
---------------------	---

授業スケジュール	This course is based on lectures and short reading assignments provided by the teacher.
----------	---

準備学習	It is useful to be aware of current economic affairs by reading newspaper articles.
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination.
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	Materials will be provided by the teacher.
-----	--

履修コード	436001
科目名	著作権の経済分析
担当者名	絹川 真哉
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 著作権制度は、映画・音楽・アニメ等、今後の日本経済の成長を支える産業の一つと考えられているコンテンツ産業のビジネスを支える重要な制度である。本講義では、著作権制度とコンテンツビジネスについて、「法と経済学」の視点から理解する。</p> <p>(到達目標) 本講義は、単に法律知識を身につけるのではなく、コンテンツビジネスの発展のためにどのような著作権制度・企業戦略が望ましいのかという観点から、以下の3つを主な到達目標として講義を行う。(1)著作権法の理解、(2)著作権制度の経済学的理解、(3)著作権ビジネス戦略の理解。(1)については、一般の企業人にとって最小限必要な著作権法の知識を得ることが目標。(2)については、望ましい著作権制度の制度設計の理解が目標。(3)については、著作権を用いたビジネス法務について民法(財産法)も含めて解説する他、デジタル化に伴う著作権ビジネスの変化、そして、著作権を行使しないという著作権ビジネスの経済合理性についても理解することを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 「イントロダクション」 知的財産権、著作権の特質など 第2回 「著作権法概説(1)」 著作物 第3回 「著作権法概説(2)」 著作権 第4回 「著作権法概説(3)」 著作隣接権 第5回 「著作権の経済学(1)」 ミクロ経済学の復習 第6回 「著作権の経済学(2)」 著作権法の経済学的根拠 第7回 「著作権の権利制限」 日本の「自由利用」と米国の「フェアユース」 第8回 「著作権の保護期間(1)」 著作者利益の現在価値の計算 第9回 「著作権の保護期間(2)」 保護期間延長の経済モデル 第10回 「著作権ビジネス(1)」 民法入門 第11回 「著作権ビジネス(2)」 著作権にもとづくビジネスについて 第12回 「デジタル社会と著作権(1)」 デジタル著作物とその問題点 第13回 「デジタル社会と著作権(2)」 デジタル著作物の経済分析 第14回 「著作物の無償開放」 日本の同人誌、クリエイティブ・コモンズ 第15回 まとめ</p>
準備学習	選択必須科目「知的財産権と経済」で学ぶミクロ経済学の知識を前提として講義を行う。「知的財産権と経済」を履修してない場合は、指定教科書を購入し、予習すること。
履修上の留意点	指定教科書は著作権法の解説にのみ用い、他の内容についての参考資料は、授業支援システムにてPDFで配信する。
成績評価の方法	学期末定期試験によって評価を行う。
教科書/テキスト	角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版(有斐閣アルマ)』、有斐閣、2700円+税、ISBN4-641-12294-6
参考書	

履修コード	437001
科目名	テクノロジーマネジメント
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 国際的な産業技術の発展史を示すことで、新しい社会の創出を目指すプロジェクト推進の過程を学ぶ。ビジネス、政治など分野にかかわらず、我々の生活/社会は多様な技術を前提として成り立っている。本講義では、社会と技術の接点、具体的には、多様なケーススタディを通じ、問題の設定、問題の解決を含む社会のニーズに基づいた技術開発プロジェクトの推進過程や、技術が社会に与える影響を明らかにする。</p> <p>(到達目標) 産業における技術の根幹にある原理・原則を学ぶことで、技術を理解する能力の獲得を目指す。これはすなわち、技術を開発するための基本的な視点であると同時に、技術に関する情報を評価するための基礎能力であるといえる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本講義のスケジュールは以下のケーススタディを予定している。なお、講義の進捗に応じて、関連するゲストを外部から招聘する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入-テクノロジーと国家の隆盛 2. エネルギー産業の発展と技術 3. 三種の神器と高度経済成長 その1 4. 三種の神器と高度経済成長 その2 5. 重工業-高度経済成長と日本の自動車産業 6. コンピュータ産業-IT革命の萌芽期 7. ITビジネス-Webビジネスの今日 8. エンターテインメントビジネス-ソフトウェア産業の動向 9. 携帯電話の進化とコンピュータ産業 10. エコ産業に見る技術開発 その1-持続可能な社会に向けて 11. エコ産業に見る技術開発 その2-企業・行政の取組み 12. エコ産業に見る技術開発 その3-今日のエコ技術 13. ゲスト その1-技術開発とビジネス 14. ゲスト その2-技術開発とビジネス 15. まとめ-技術と社会の行く末
----------	--

準備学習	19世紀から現在にいたる多様な技術について扱うため、特に近年のビジネスに関する記事・ニュース等を出来る限り読んでおくことが望ましい。また、物理学の基礎を前提とするため、復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	特になし。
---------	-------

成績評価の方法	毎回の講義におけるミニレポート、学期末のレポート、ならびに、毎回の講義におけるディスカッションへの参加状況等を総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	吉川弘之、内藤耕：「『産業科学技術』の哲学」, 東京大学出版会. (2005)
----------	---

参考書	Scott Berkun(著), 村上 雅章(訳): 「イノベーションの神話」, オライリージャパン. (2007) 薬師寺泰蔵: 「テクノヘゲモニー—国は技術で興り、滅びる」, 中央公論社. (1989)
-----	--

履修コード	431511
科目名	デジタルコンテンツビジネス論
担当者名	クボタ L.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	In the era of digital convergence, with its rapid and chaotic change, how can companies formulate strategy? The objective of this course is to familiarize the students with the concept of digital convergence and the strategies that companies are undertaking to cope with these challenges.
授業スケジュール	This course will meet one period per week. In this course, various views of digital convergence will be examined, as well as comparative studies of company strategies. Restructuring of these industries involves strategic implications suggesting that there are winners and losers. Analysis of key factors in this chaotic industrial environment and corporate responses will be studied.
準備学習	Read articles and cases studies on digital convergence and the digital industry.
履修上の留意点	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
成績評価の方法	Evaluation will be based class participation, quizzes, and the final exam.
教科書/テキスト	David B. Yoffie, <i>Competing in the Age of Digital Convergence</i> , Harvard Business School Press, Boston, MA, 1997
参考書	Professor will provide materials from the following: Sangin Park, <i>Strategies and Policies in Digital Convergence</i> , Hersey, PA, Idea Group Reference, 2007 Milton L. Mueller, <i>Digital Convergence and Market Structure</i> , June 1999 Gerard, Damien & Luff, David (editors) (2004) - <i>The WTO and Global Convergence in Telecommunications and Audio-Visual Services</i> Cambridge U. Press Gershon, R. A. and Kanayama, T. (2002) <i>The SONY Corporation: A Case Study in Transnational Media Management</i> , <i>International Journal of Media Management</i> 4(2). By Stephen Baker and Heather Green With Bruce Einhorn in Hong Kong, Moon Ihlwan in Seoul, Andy Reinhardt in Paris, Jay Greene in Seattle, and Cliff Edwards in San Mateo, Calif., <i>Big Bang</i> , <i>Business Week OnLine</i> , June 21, 2004 Andy Covell, <i>Digital Convergence Phase II, Campaign</i> , Illinois, Stipes Publishing, L. L. C., 2004 The <i>ANNALS</i> of the American Academy of Political and Social Science, Vol.597, No. 1, 32-47 (2005) Pablo J. Boczkowski, <i>Multiple Media, Convergent Processes, and Divergent Products: Organizational Innovation in Digital Media Production at a European Firm</i> Case Studies John A. Quelch and Carin-Isabel Knoop, <i>BBC Worldwide: Global Strategy</i> , 9-507-034, Harvard Business School Press, January 11, 2008 Ali Farhoomand, <i>Nintendo's Disruptive Strategy: Implications for the Video Game Industry</i> , HKU814, Asia Case Research Centre, The University of Hong Kong. Joel Thompson, Sylvie Weeks and David W. Conklin, <i>Malaysia's Multimedia Development Corporation (A and B)</i> , 998G01, Richard Ivey School of Business, The University of Western Ontario, 1998

履修コード	435701
科目名	統合リスクマネジメント論
担当者名	山口 浩
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 この科目は、企業が直面するリスクとリスクへの対処の手法について学ぶことを目的とします。リスクをできるだけ少なくしようとする従来型のリスクマネジメントだけでなく、不確実性をチャンスととらえるアプローチなども含め、企業とリスクとの関わりを広く浅く概観していきます。</p> <p>【到達目標】 リスクマネジメントの基礎、及びリスクと企業のさまざまな関わりについて概括的に理解することを目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>企業とリスク、リスクマネジメントの基礎、リスクマネジメントのさまざまな手法、VaR、失敗学、モンテカルロシミュレーション、リアルオプション、リスクコミュニケーション、他。</p> <p>第1回 インTRODダクション 第2回 企業のリスクマネジメント(1) 第3回 企業のリスクマネジメント(2) 第4回 リスクマネジメントの実務 第5回 リスクマップ 第6回 シナリオ・アプローチ 第7回 経済学におけるリスクの考え方 第8回 保険 第9回 モンテカルロ・シミュレーション 第10回 ベイズ推定 第11回 失敗学(1) 第12回 失敗学(2) 第13回 リアルオプションとチャンスのマネジメント(1) 第14回 リアルオプションとチャンスのマネジメント(2) 第15回 まとめ</p>
準備学習	<p>履修の前提として、「ファイナンスと経営学I」、及び「ファイナンスと経営学II」を履修し単位を取得していることを原則とします。 中学校までの数学に不安がある人は復習しておいてください。 事前に指定したテキストないし資料は必ず読んできてください。</p>
履修上の留意点	<p>授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算(最低限、平方根の計算ができるレベルのもの)のできる機器を持参してください。PGの持参を指示することもあります。 小テストその他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。</p>
成績評価の方法	<p>配点は次の通り。 レポート50% 平常点50% (小テスト(複数回合計)、及び授業への参加)</p>
教科書/テキスト	授業中に使用したスライドは配布します。
参考書	

履修コード	442901
科目名	TOEIC(R) prep
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>1、授業概要 ビジネスシーンで使用される英語の習熟度をはかるTOEIC試験は、リスニングとリーディングの2セクションで構成されています。TOEICのスコアを伸ばすためには、出題傾向を知った上で、時間と労力をかけて英語学習の努力をし続けること以外ありません。 この授業は、TOEICのスコアを伸ばすためにそのように時間と労力をかけることを厭わない履修者を対象としています。</p> <p>2、到達目標 この授業では、以下の3点を主な目標としています。</p> <p>(1) TOEICテストの2セクション(リスニング及びリーディング)の出題形式を理解できるようになる。 (2) TOEICの様々な問題に慣れることができるようになる。 (3) 英語の語彙を増やすことができるようになる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	授業回数	内容
	1	導入、TOEIC TESTの解説、勉強方法
	2-6	Part 1 (写真描写問題)の解き方
	7-14	Part 2 (応答問題)の解き方
	15-22	Part 3 (会話問題)の解き方
	23-28	Part 4 (説明文問題)の解き方
	29-30	Part 5 (短文穴埋め問題)の解き方
		*ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

準備学習	特になし。TOEIC試験未受験者は、なるべく早く受験してください。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	<p>(1) 履修者のレベル制限 以下のa. ~ d. のいずれかに該当する方が履修できます。</p> <p>a. TOEIC試験(1P試験を含む)において450点以上取得済みの方。 b. 本学実施のTOEIC Bridge試験において、145点以上取得済みの方。 c. TOEFL試験(iBT)において、45点以上取得済みの方。 d. 英語検定準2級以上(1級、準1級、2級、準2級)取得済みの方。</p> <p>(2) 座席について 私が皆さんの名前を覚えるために、座席は指定制とさせていただきます。</p> <p>(3) この授業は、真剣にTOEICスコアを伸ばしたいと考えていて、そのための努力を厭わない方向けです。授業への真剣な取り組みは勿論のこと、自分で主体的に勉強を進めていくモチベーションの高さが求められます。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>(1) 成績評価 平常点100%(授業への取り組み及び小テスト) なお、すでにTOEICテスト(1Pテストを含む)を受験している履修者は、もし学期中に自身でTOEIC試験を受験して大幅なスコアアップを達成したならば、その証明書を提出することにより(スコアシートコピー)、それを成績に反映させることができます。</p> <p>(2) 欠席について 授業の最初に欠席をとります。6回以上の欠席で、単位は認められなくなります(特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は(要証明書)、例外とします。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します)。なお3・4年生の就職活動については、特に公欠とするような措置はとりませんので、注意してください。</p> <p>(3) 遅刻について もし授業に遅刻してきたら、教員の話のきりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出てください。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますの注意してください。3回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。なお、JRや私鉄等が発行する「遅延証明書」は受け取りませんので注意してください。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>●キム・スヒョン著、『新TOEICテストが簡単になる本 リスニング編』、アルク、2,940円、ISBN-13: 978-4757411814</p> <p>●キム・ジヨン著、『新TOEICテストが簡単になる本 リーディング編』、アルク、2,310円、ISBN-13: 978-4757411821</p> <p>なお、リスニング編については初回の授業から使用しますので、必ずあらかじめ購入し、初回の授業に持ってきてください。またこの授業は後期開講ですが、本学では教科書販売期間は前期のみです。そのため、必ず前期の教科書販売期間中に教科書売場で上記2冊のテキストを購入しておいてください。</p>
----------	--

参考書	
その他	授業では主にリスニングを扱いますが、リーディング編も自習してってください。

履修コード	442801
科目名	TOEFL(R) prep
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/
到達目標 (ねらい)

1、授業概要
TOEFL iBT (internet-based TOEFL Test) は、英語圏の大学に長期留学 (交換留学、認定校留学等) を行うために必要な試験で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能から構成されています。この授業は、そのTOEFL iBTを受験し、長期留学を希望している履修者を対象としています。
しかし、このような出題範囲の広いTOEFL試験をわずか1学期間で網羅することは不可能であるため、この授業ではTOEFLの4セクションの出題傾向を学んだ上で、特にリスニングとスピーキングセクションに的を絞って、実際のTOEFL問題に慣れていきます。

2、到達目標
この授業では、以下の3点を主な目標としています。

- (1) TOEFL iBTテストの4セクション (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) の出題形式が理解できるようになる。
- (2) リスニング及びスピーキングセクションの様々な問題に慣れることができるようになる (*注1)。
- (3) 英語の語彙を増やすことができるようになる (*注2)。

*注1 :
TOEFL iBTでは、リスニングは「リスニングセクション」においてのみならず、「スピーキングセクション」や「ライティングセクション」の多くの問題においても必要となっている、重要なスキルです。また「スピーキングセクション」は、日本人受験者が特に苦手としているセクションであると言われています (2005-2006年集計では、日本人受験者の「スピーキングセクション」の平均スコアは、世界147カ国中最下位)。

*注2 :
TOEFLでは、高い語彙力を必要とします。例えば、日本の大学生の平均語彙サイズが3700語程度であるのに対し、TOEFLでは12,000語程度の語彙力が必要という説もあります (内宮慶一著「TOEFL テスト一発で合格スコアをとる勉強法」(中経出版)より)。このことは、私 (杉森) がかつて留学に備えてTOEFLを受験していた時の経験からも、納得できます。ある程度の語彙力がないと、歯が立たない試験であるというのが正直な感想です。

授業スケジュール

授業回数	内容
1	導入、TOEFL iBTの解説、勉強方法
2	リーディングセクションの問題形式
3	ライティングセクションの問題形式
4	リスニングセクションの問題形式
5-8	リスニングセクションのPart A (短い会話) 問題練習
9-12	リスニングセクションのPart B (長い会話) 問題練習
13-16	リスニングセクションのPart C (講義・アナウンスメント) 問題練習
17	スピーキングセクションの問題形式
18-20	スピーキングセクションのタイプI (自分の経験から答える問題) 練習
21-23	スピーキングセクションのタイプII (パッセージを読んで、会話かレクチャーを聴いた後、質問に答える問題) 練習
24-26	スピーキングセクションのタイプIII (長い会話やレクチャーを聴いた後、質問に答える問題) 練習
27-30	レビュー及び学期末試験

*ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

準備学習

特になし。

履修上の留意点

- (1) 履修者のレベル制限
以下のa. ~ c. のいずれかに該当する方が履修できます。
 - a. TOEFL試験 (iBT) で、45点以上取得済みの方。
 - b. TOEIC試験で、500点以上取得済みの方。
 - c. 英検2級以上 (1級、準1級、2級) を取得済みの方。

(2) この授業は、真剣に英語圏への長期留学を考えている方向きの授業です。TOEFL iBT試験は難解な試験で、かなりの語彙力を要求されます。そのため、元々英語がある程度得意であり、かつ英語力を伸ばすためには努力を厭わない方でないと、受験勉強を行っていくモチベーションを維持していくことは難しいでしょう。授業への真剣な取り組みは勿論のこと、自分で主体的に勉強を進めていく志の高さが求められます。

(3) PC使用
TOEFL iBT試験はパソコンを使用する試験であるため、最初の方の数回の授業は、問題に慣れるためCD-ROMが使用可能なラップトップを持参していただきます。

成績評価の方法

(1) 成績評価
平常点100% (授業への取り組み、小テスト)

(2) 欠席について
授業の最初に出欠をとります。6回以上の欠席で、単位は認められなくなります (特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は (要証明書)、例外としま

す。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します)。なお3, 4年生の就職活動について、特に公欠の措置は取りませんのでご注意ください。

(3) 遅刻について

もし授業に遅刻してきたら、教員の話のきりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出てください。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますので注意してください。3回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。なお、JRや私鉄等が発行する遅延証明書は受け取りませんので注意してください。

教科書／テキスト	Deborah Phillips (著)、『Longman Introductory Course for the TOEFL(R) Test: iBT (Student Book with CD-ROM and Answer Key)』、Pearson、5,684円、ISBN-13: 978-0137135783
参考書	
その他	初回の授業から、テキストを購入しもってきてください。

履修コード	436511
科目名	ドキュメンタリー制作演習
担当者名	テヅカ ヨシハル

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：ドキュメンタリー映画制作の演習です。多くの学生にとって、ビデオ・カメラはすでに身近なものだと思いますが、初めての人も歓迎します。学生各自の生活圏において、身近なテーマと撮影対象を見つけ、映像作品を制作します。</p> <p>カメラを持つこと、撮影対象に関わることによって、「私」がいかに他者、そして社会との接点を見つけていくのか? 「私」そして「他者」を記録し映像作品をつくるとはどういうことなのかを各自考察し、社会的実践としての私的映像制作を目指します。</p>
---------------------	--

到達目標：学期末までに学生は各自短編ドキュメンタリー映画を制作します。

授業スケジュール	<p>初歩的な映像の文法を学んだあと、学生は各自のプロジェクトを考案し、3-10分程度のドキュメンタリー作品を制作します。</p> <p>授業は経過報告と教員からアドバイスを受けるための時間で、主な制作作業は授業時間外に各自学生が行うこととなります。</p> <p>第1-3週 制作準備 第4-10週 撮影および途中経過報告 第11-15週 編集と講評</p>
----------	--

準備学習	「ドキュメンタリーの視線と実践」を必ず履修してください。
履修上の留意点	履修人数に制限がありますので、希望者は担当教員テヅカヨシハルまで事前に連絡をお願いします。
成績評価の方法	制作への取り組みと、作品によって総合的に評価します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	436411
科目名	ドキュメンタリーの視線と実践
担当者名	テヅカ ヨシハル

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要： ドキュメンタリー映画における「真実」とは何か？ ドキュメンタリーとフィクションの違いとは？ ドキュメンタリーに客観性はどの程度必要か？ 映像発展の歴史を振り返り、ドキュメンタリー映画におけるCinema Verite(映画的真実)とは何か検証します。フランスとアメリカの異なる文脈で発展してきたドキュメンタリー映画の客観性と主観性に関する議論、見るものと見られるもの間に成立する力学関係、カメラを他者に向けてることの倫理的問題、撮影するものの自己再帰性等について考察し、ディスカッションを行います。</p>
---------------------	--

到達目標：
この授業は「ドキュメンタリー制作演習」のための準備講座です。学生はさまざまなドキュメンタリー映画を鑑賞して、自分なりの「ドキュメンタリー」を作るための準備をします。

授業スケジュール	さまざまなドキュメンタリー映画を鑑賞して、ディスカッションを行います。
----------	-------------------------------------

上映作品例：
Don't Look Back-ボブ・ディラン(1967) ペネバガー
カート&コートニー：カート・コバーン (1998) ブルームフィールド
ゆきゆきて神軍 (1985) 原一男
新しい神様 (1999) 土屋豊

- 第一週 コース紹介
- 第二週 映像のモード：リアリスティックとファンタスティック
- 第三週 ストーリーとは？
- 第四週 映像の語り口
- 第五週 ドキュメンタリーの原点と最前線
- 第六週 開示するドキュメンタリー
- 第七週 観察するドキュメンタリー
- 第八週 リーディング・ウィーク
- 第九週 相互作用するドキュメンタリー
- 第一〇週 反省するドキュメンタリー
- 第十一週 演技するドキュメンタリー
- 第十二週 ドキュメンタリーは嘘をつく
- 第十三週 日本のドキュメンタリー1
- 第十四週 日本のドキュメンタリー2
- 第十五週 まとめ

準備学習	授業支援システム上に掲載された「必読文書」や教科書を授業前に読んでくること。
履修上の留意点	単独でも履修は可能ですが、この講座は本来「ドキュメンタリー制作演習」のための準備講座です。「ドキュメンタリー制作演習」の継続履修を推奨します。
成績評価の方法	授業への貢献度とレポートにより総合的に評価します。
教科書/テキスト	フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ：ウォーレン・バックランド/著 前田茂/訳 要真理子/訳 晃洋書房
参考書	

履修コード	432501
科目名	都市とメディア
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義は、都市とメディアに関する基本的な理論を提示した上で、歌、映画、CM、テレビドラマに登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、都市とメディアの関係を欲望、資本、国家、権力、ジェンダーなどの視点から読み解いていく。</p> <p>(到達目標) 現代の都市は、さまざまなメディアに媒介された関係の空間であると同時に、メディアを通じて生産・流通・消費される様々なイメージや表象を構成要素とする空間でもある。本講義の基本的な目標は、日本と海外のさまざまな実例への考察を通して、メディアと都市との関係への理解を深めることである。具体的には、(1) グローバルな視点から、都市というコミュニケーション空間について読み解く基礎体力を養うこと。(2) 歴史の文脈からメディアによって都市がいかに表現されてきたかについて考察を深めること。(3) 身近なところにあるさまざまな都市とメディアの関係について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 概説：都市とメディアの基本理論</p> <p>第2回 メディア都市 (1) 東京</p> <p>第3回 メディア都市 (2) 上海</p> <p>第4回 メディア都市 (3) ベルリン</p> <p>第5回 都市とメディア・イベント</p> <p>第6回 都市とジェンダー</p> <p>第7回 都市と民族</p> <p>第8回 都市と移民</p> <p>第9回 都市と人種</p> <p>第10回 都市と階級</p> <p>第11回 都市間の情報格差</p> <p>第12回 人工都市・仮想都市</p> <p>第13回 グループワーク (1) 草案作成</p> <p>第14回 グループワーク (2) グループ発表</p> <p>第15回 総括</p>
----------	--

準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず十分に予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	---

成績評価の方法	授業時の発言と討論への参加状況の評価：30% レスポンスカードの内容の評価：30% 期末レポート：40%
---------	--

教科書／テキスト	特になし
----------	------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー——東京・盛り場の社会史』（弘文堂、1987年）、2,300円、ISBN：4335550294 ・前田愛『都市空間のなかの文学』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1992年）、1,600円、ISBN：4480080147 ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣、2000年）、2,300円、ISBN：4641121036
-----	---

その他	
-----	--

履修コード	436101
科目名	特許権の経済分析
担当者名	絹川 真哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 特許制度は、インターネットビジネスをはじめとする、技術知識をベースとした新しいビジネスモデルの発展を支える重要な制度である。本講義では、特許制度と技術知識経営について、「法と経済学」の視点から理解する。</p> <p>(到達目標) 本講義は、単に法律知識を身につけるのではなく、新しい技術知識の発展のためにどのような特許制度・企業戦略が望ましいのかという観点から、以下の3つを主な到達目標として講義を行う：(1) 特許法の理解、(2) 特許制度の経済学的理解、(3) 特許ビジネス戦略の理解。</p> <p>(1) については、一般の企業人にとって最小限必要な特許法の知識を得ることが目標。(2) については、望ましい特許制度の制度設計の理解が目標。(3) については、特許を用いたライセンスビジネスにとどまらず、他社の特許技術等を自社の研究開発に積極的に取り入れるオープン・イノベーション戦略、特許に依存せずに研究開発を進めるオープン・ソースについても理解することを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「イントロダクション」 特許の理解がビジネスにおいて重要な理由</p> <p>第2回 「特許法概説」 (1) 特許法とは?</p> <p>第3回 「特許法概説」 (2) 特許権の取得手続</p> <p>第4回 「特許法概説」 (3) 特許権の効力</p> <p>第5回 「ソフトウェア・ビジネス方法特許」</p> <p>第6回 「日本の特許制度の変遷」 日本の特許制度の歴史について</p> <p>第7回 「特許の経済学」 (1) イノベーションの経済学</p> <p>第8回 「特許の経済学」 (2) 特許制度と賞金制度との比較</p> <p>第9回 「特許の経済学」 (3) 最適な賞金制度の設計</p> <p>第10回 「特許の経済学」 (4) 最適な特許制度の設計</p> <p>第11回 「特許ライセンス」 特許ライセンスの経済モデル、特許流通の現状・課題</p> <p>第12回 「オープンイノベーション」 (1) オープンイノベーションの概念</p> <p>第13回 「オープンイノベーション」 (2) 企業の技術公開戦略</p> <p>第14回 「オープンイノベーション」 (3) オープンソース</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	選択必須科目「知的財産権と経済」で学ぶミクロ経済学の知識を前提として講義を行う。「知的財産権と経済」を履修していない場合は、指定教科書を購入し、予習すること。
------	---

履修上の留意点	指定教科書は特許法の解説にのみ用い、他の内容についての参考資料は、授業支援システムにてPDFで配信する。
---------	--

成績評価の方法	学期末定期試験によって評価を行う。
---------	-------------------

教科書/テキスト	角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版 (有斐閣アルマ)』、有斐閣、2700円+税、ISBN4-641-12294-6
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	435801
科目名	ネットワーク経済論
担当者名	福家 秀紀

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
本講義ではまず、ネットワークを定義した上でネットワークの外部性などのネットワークの特性を示します。その上で、参入規制、料金設定原則、相互接続規制、ユニバーサル・サービスなどの基礎的な規制理論を、わが国の情報通信産業の発展動向に即して、具体的に解説し、身近な変化を説明するツールとしての理論の重要性を示します。最後に、インターネットの普及に伴うレイヤー別分離、インターネットのプラットフォーム化、「フリー経済」などの最新動向を分析します。

(到達目標)

本講義では、以下の4点を基本的な目標とします。①ネットワークの外部性、相互接続、及びレイヤーなどのネットワークに関連する基礎的な経済理論を修得する。②参入規制、料金規制、相互接続規制、及びユニバーサルサービス等の基礎的な規制理論を理解する。③情報通信産業等のネットワーク産業が、公益事業として政府によって規制されてきたが、ITの発展を受けた1980年代以降の規制緩和・自由化の中で、新しい進展を見せていることを把握する。④インターネットのブロードバンド化とスマートフォンの普及に伴いネットワークの輻輳、コンテンツ流通の「フリー化」等の新しい問題が出現してきていることを実証的に理解する。

授業スケジュール

- ① ネットワークとは
- ② ネットワークの特性
- ③ ネットワークの外部性とデファクトスタンダード
- ④ 民営化と競争導入
- ⑤ 料金規制
- ⑥ 相互接続規制
- ⑦ 「希少資源」電波周波数の割り当て
- ⑧ ユニバーサル・サービスとデジタルディバイド
- ⑨ 垂直統合とレイヤー別分離
- ⑩ コンテンツビジネスとプラットフォーム
- ⑪ インターネットとコモンズの悲劇
- ⑫ デジタル化とフリー経済 (1)
- ⑬ デジタル化とフリー経済 (2)
- ⑭ まとめ (1)
- ⑮ まとめ (2)

準備学習

レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。

履修上の留意点

ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱの履修済みも前提として授業を進めます。

成績評価の方法

各授業時間終了時に作成する講義のまとめ：40%
レポート・小テスト：10%
定期試験：50%

教科書/テキスト

基本的な教材を授業支援システムに掲載します。

参考書

- ・福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、NTT出版、3,600円、978-4-7571-0203-3
- ・Anderson, Chris [2009], 'Free', Hyperion, 小林則明監修[2009], 『フリー』、NHK出版、1,800円、978-4-14-081404-8
- ・その他講義の中で適宜紹介します。

その他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432201
科目名	ネットワークコミュニケーション論
担当者名	菅谷 実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。</p> <p>前半は、「ネットワークとコミュニケーション」というテーマで、社会的コミュニケーション活動とネットワークの関係を明らかにする。具体的には、組織とネットワーク、組織コミュニケーション、ネットワーク産業の特質などを論じる。</p> <p>後半は、「情報ネットワーク発展の歴史」を、各ネットワーク産業ごとに明らかにする。具体的には、郵便、交通、通信、放送、インターネットなどのネットワークの発展過程を論じる。まとめの部分においては、今後、ますます進化が期待されている「ネットワークの融合と社会的コミュニケーション」を取り上げる。具体的には、融合化したネットワーク環境のなかで社会的コミュニケーション活動がどのような影響を受け、変容していくかを展望する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1部 ネットワークとコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークと経営 企業経営とは、企業活動にとっての情報基盤の重要性 クローズネットワークとオープンネットワーク 2. 企業組織とネットワーク 企業組織と組織コミュニケーション 3. ネットワーク産業の特質 ネットワーク産業の構造と変容 <p>第2部 情報ネットワーク発展の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 郵便ネットワーク 物流と情報流を支える情報ネットワークとして郵便ネットワーク 郵便料金、郵便局制度、民営化問題など 5. 交通ネットワーク 情報財の流通を支える貨物ネットワーク、情報を提供する人を運搬する旅客ネットワーク 6. 放送ネットワーク 放送ネットワークの種別、放送規制、テレビ放送ネットワークの発展 7. 通信ネットワーク 通信事業者の種別、通信ネットワークの構造、通信制度の変容 8. インターネット インターネット発展の歴史、インターネットを支えるブロードバンド・ネットワーク <p>第3部 ネットワークの融合</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ネットワークの融合 10. ネットワークの高度化と経営環境の変化
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義には毎回出席してください。
成績評価の方法	平常点（20％）と期末テスト（80％）を基準とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	初回講義時に紹介する。

履修コード	437201
科目名	ネットワーク進化論
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義はデジタルコミュニケーションを支えるコンピュータネットワークとしてインターネットを取り上げ、今日に至る進化の過程と、今後の可能性および課題について考察する。単に仕組みや構造と言った技術的な知識を身につけるだけでなく、グローバルな空間を対象としつつも特定の主体が存在しない自律・分散・協調の考え方、国を越えた課題の解決事例など、維持・運用の工夫についても取り上げる。
---------------------	---

	(到達目標) まず、第一にインターネットを構成している技術とその具体的な運用方法などを深く理解する。その際、学んだ知識を自身の言葉・考え・表現手法を駆使して、理解していない人に理解させることを目指す。第二にグローバル社会において共通基盤を維持するために共有している考え方や事例などから、どのような工夫が存在するのか読み解いていく。最終的に、これまでの事例からデジタルコミュニケーションのこれまでに振り返り、現在進行形で取り組まれている事例を根拠として、今後のインターネットの進化を予測する。
--	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータネットワーク 2) デジタルコミュニケーション ～デジタルとは何か?～ 3) インターネットの通信 ～ブラウザでURLを入力してWebサイトを閲覧するまで～ 4) パケットとパケットリレー ～データ転送の原理と仕組み～ 5) インターネットの技術 ～TCP/IPによるデータ転送～ 6) TCP/IP ネットワーク層 ～なぜコンピュータ同士で通信できるのか?～ 7) TCP/IP トランスポート層 ～なぜコンピュータ上のアプリケーションへ正確にデータが届くのか?～ 8) TCP/IP アプリケーション層 ～サーバ・クライアントモデル～ 9) TCP/IP 物理層・データリンク層 ～なぜ電線や光ファイバー、電波を組み合わせで通信できるのか?～ 10) インターネットアプリケーション ～P2P技術:Skype, ファイル共有ソフトの仕組み～ 11) 自律・分散・協調 ～インターネット全体が安定して動作できるのは?～ 12) インターネットが与えたインパクト (1) ～人々のつながりの変化～ 13) インターネットが与えたインパクト (2) ～規則・ルールの変化～ 14) インターネットが与えたインパクト (3) ～規模感の変化、twitter、facebook、mixiが大人数に耐えられる理由～ 15) インターネットの未来
----------	---

準備学習	情報リテラシー・情報リテラシー実習で学んだことを前提に講義が進むので、一度復習しておくこと。また、講義中に次回の講義に必要な資料と範囲を指定する。熟読し講義に備えること。
------	---

履修上の留意点	毎回、授業支援システム上の「講義日誌」に、受講した講義の要約とコメントを記述する。なお、講義中に時間は設けないので、授業時間外に記述すること。就職活動や部活動などやむを得ない事情で欠席した場合は、「講義日誌」にその旨を記述して提出すること。なお、証明書類や依頼状などの提出は不要である。講義で利用する資料は、授業支援システムに電子的に掲載するため、講義中にインターネットに接続し資料を閲覧できるようにしておくこと。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (40%) とレポート (60%) で評価する。定期試験は行わない。平常点には、単元ごとに理解度を問う小テストを行う、毎回記述する「講義日誌」が含まれる。
---------	---

	レポートは3題提出する。すべて提出されていることが単位取得の最低条件である (レポートがすべて提出されていても必ず単位が取得できるわけではない)。
--	---

教科書/テキスト	教科書は授業支援システム上に公開する。
----------	---------------------

参考書	インターネットの技術を体系的に学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。 ・長橋賢吾著 「これならわかるネットワーク ― インターネットはなぜつながるのか? (ブルーバックス)」 講談社 ISBN-13: 978-4062575997
-----	---

	インターネットが今日に至る経緯や背景にある考え方や原理を理解する副読本として以下を参考書に指定する。 ・村井純著 「インターネット新世代 (岩波新書)」 岩波書店 ISBN-13: 978-4004312277
--	--

	インターネットの構造や運用の実際を理解した後、より実践的な知識を学ぶ副読本として以下を参考書に指定する。
--	--

	あきみち、空閑洋平著 「インターネットのカタチ―もろさが織り成す粘り強い世界」 オーム社、2011年6月、ISBN-13: 978-4274068249
--	--

その他	・質問などがある場合はオフィスアワー (水曜日 13:00~14:30 第一研究館6階1615) を利用すること。
-----	---

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	432401
科目名	比較メディア制度論
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>放送の世界的な競争の歴史および、日本、米国、EU主要国、アジア主要国の放送制度とその変化の方向性について、特徴および制度形成の背景を学ぶ。これにより、各国の制度が互いに独自性を保ちながらも影響し合いグローバルなレベルで進化していくことを理解する。なお、ここで言う制度には、市場の状況および法制度を含む。</p> <p>各国の間の制度の違いとその背景を知ること、単純な海外の模倣が無意味であることを理解するほか、海外の情報の収集の仕方などについても学ぶ。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 本講義のアプローチ (2) 放送の歴史 (3) 放送を巡る国際競争 (4) 日本の放送制度 (1) (5) 日本の放送制度 (2) (6) 米国の放送制度 (1) (7) 米国の放送制度 (2) (8) EUの放送制度 (9) 英国の放送制度 (1) (10) 英国の放送制度 (2) (11) フランスの放送制度 (12) ドイツの放送制度 (13) 韓国の放送制度 (14) 中国の放送制度 (15) まとめ
----------	--

準備学習	「メディア制度論」または、同様の科目の履修によって日本の放送制度について整理しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	メディア制度論または同様の講義を受講していることが望ましい。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	テスト30%、平常点70%
---------	---------------

教科書／テキスト	講義中に指示する。
----------	-----------

参考書	講義中に指示する。
-----	-----------

履修コード	434911
科目名	表象メディア論
担当者名	テヅカ ヨシハル
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要： カルチュラル・スタディーズの入門講座です。メディア文化の現在を理解し、使いこなすための基本的な理論を紹介します。</p> <p>この講座では、メディアによっていかにある事象の「意味」が構築され社会的に承認されるのかを、ソシュールの「差異」の理論、ロラン・バルトの「記号論」、アルチュセールの「イデオロギー論」、グラムシの「ヘゲモニー論」、フーコーの「力・知識・言説論」により説明します。</p> <p>到達目標： 「文化」とは何か、我々の「文化」と「メディア」はいったいどういう関係にあるのか？メディア文化産業が生産する表象 (representation) を分析し、より多様で豊かな文化状況を創り出すために必要な批判的態度を身につけることを目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>「文化」とは何か？「我々」と我々の「文化」の関係は？言葉の「意味」はいかにして伝わるのか？「意味」はいかにして共有されるのか？「文化」は誰が創り出すのか？「我々」は何によって出来ているのか？</p> <p>メディア&カルチュラル・スタディーズ(メディア文化研究)の基本的な文献を紹介し、テキスト分析の方法を紹介します。</p> <p>第1週 コース紹介 第2週 表象 (representation) とは？ 第3週 英国のカルチュラル・スタディーズとその歴史的背景 第4週 言語論的・文化論的回転と文化研究 第5週 文化の回路 第6週 表象とアイデンティティ 第7週 リーディング・ウィーク 第8週 表象と文化生産 第9週 表象と文化の消費、そして統制 第10週 構造主義と意味論 (ソシュール/バルト) 第11週 イデオロギー理論 (アルチュセール) 第12週 ヘゲモニー理論 (グラムシ) 第13週 コード化・脱コード化理論 (ホール) 第14週 知識・権力・言説 (フーコー) 第15週 まとめ</p>
準備学習	授業支援システムに掲載する「必読文書」を毎週必ず授業前に読んでおくこと。
履修上の留意点	現代思想や、文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度すでに学んでいることが望ましい。
成績評価の方法	授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末のレポートによって総合的に評価する。
教科書/テキスト	教科書として指定はしませんが、この講義は、Stuart Hall (ed) (1997) Representation: Cultural Representation and Signifying Practices, London: Sage Publicationsを下敷きにしています。
参考書	グレアム・ターナー著、金智子他訳、『カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展』(1999) 作品社

履修コード	431811
科目名	ファイナンスと経営学Ⅰ
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 この科目は、後期の「ファイナンスと経営学Ⅱ」と合わせて、企業をめぐるお金の流れやそのしくみ、及び、企業や事業、株式や債券、投資プロジェクトやデリバティブなどをどのように評価するのか、そしてそれらが企業経営上持つ意義などについての基礎を扱います。題材として、コンテンツ企業、メディア企業の事例を積極的に用います。</p>
---------------------	---

到達目標	<p>【到達目標】 企業の基本的な財務構造やその分析、主な資金調達手段の特徴、現在価値の考え方やリスクの概念、など、ファイナンスの基礎的な考え方を理解し、簡単な分析を行える状態になることを目標とします。</p>
------	---

授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 企業の構造と資金調達 第3回 株式 第4回 負債と担保 第5回 財務分析 第6回 現在価値 第7回 債券の評価 第8回 株式の評価 第9回 資本コスト 第10回 資本構成 第11回 投資の意思決定 第12回 リスクとポートフォリオ(1) 第13回 リスクとポートフォリオ(2) 第14回 リスクとポートフォリオ(3) 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>原則として、後期の「ファイナンスと経営学Ⅱ」とセットで受講してください。 履修の前提として、「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることが必要です。 中学校までの数学に不安がある人は復習しておいてください。 テキストやその他の資料で事前に読んでおくべきものはあらかじめ指示しますので、必ず読んできてください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績にも反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。必要に応じPCの持参を指示することがあります。 小テストその他で携帯電話ないしスマートフォンの機能を使うことがあります。必ず使える状況で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>配点は次の通り。 レポート50% 平常点50%（小テスト（複数回合計）、及び授業への参加）</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>井出章介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門（第4版）」（日本経済新聞社、2009年）3,780円。 ISBN: 978-4532133689</p>
----------	--

参考書	<p>授業時に使ったスライドその他の資料は別途配布します。</p>
-----	-----------------------------------

履修コード	431911
科目名	ファイナンスと経営学ⅠⅡ
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 この科目は、前期の「ファイナンスと経営学Ⅰ」と合わせて、企業をめぐるお金の流れやそのしくみ、及び、企業や事業、株式や債券、投資プロジェクトやデリバティブなどをどのように評価するのか、そしてそれらが企業経営上持つ意義などについての基礎を扱います。 題材として、コンテンツ企業、メディア企業の事例を積極的に用います。</p>
---------------------	--

【到達目標】
前期の「ファイナンスと経営学Ⅰ」をふまえた上で、オプションを含むデリバティブやファンド形式の資金調達、日米のコンテンツビジネスで使われる資金調達などを理解し、最終的に経営学の一部としてのファイナンスの位置づけを理解することを目標とします。

授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション 第2回 多様な資金調達 第3回 格付けと証券化 第4回 デリバティブとリスク管理 第5回 オプションとリアルオプション 第6回 オプションの評価 第7回 事業への資金調達とファンド 第8回 日本のコンテンツファイナンス(1) 第9回 日本のコンテンツファイナンス(2) 第10回 米国のフィルムファイナンス(1) 第11回 米国のフィルムファイナンス(2) 第12回 経営戦略とEVA 第13回 経営戦略とM&A 第14回 インセンティブ制度とストックオプション 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>原則として、「ファイナンスと経営学ⅠⅡ」とセットで受講してください。 履修の前提として、「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることが必要です。 中学校までの数学に不安がある人は復習しておいてください。 テキストやその他の資料で事前に読んでおくべきものはあらかじめ指示しますので、必ず読んできてください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。 授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。必要に応じPCの持参を指示することがあります。 小テストその他で携帯電話ないしスマートフォンの機能を使うことがあります。必ず使える状況で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>配点は次の通り。 レポート50% 平常点50% (小テスト (複数回合計)、及び授業への参加)</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>井出章介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門(第4版)」(日本経済新聞社、2009年) 3,780円。 ISBN: 978-4532133689</p>
----------	---

参考書	<p>授業時に使ったスライドその他の資料は別途配布します。</p>
-----	-----------------------------------

履修コード	434501
科目名	複合ドキュメント概論
担当者名	吉田 尚史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 多種多様なメディアをコンピュータ上で実際に実現可能な状況となり、今後、それらを組み合わせた複合ドキュメントを制作・編集・検索することが重要な技術となる。この講義では、それらを制作・編集・検索を行う要素技術として、XMLを作成および編集を行う方法論、XML対象とした検索の方法論、全文検索技術、ベクトル空間モデルなどについて実習を伴って学習する。また、複合ドキュメントを対象とした分析および可視化を行うためのデータマイニングの技術についても学ぶ。</p> <p>(到達目標) 複合ドキュメントを対象とした、基礎事項、検索の原理や方法論、データマイニングに関する事項を、実習を伴って理解することを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1週～第4週: 複合ドキュメントに関する基礎的な技術</p> <p>第1回: 複合ドキュメントの導入, SIML: Synchronized Multimedia Integration Language 第2回: 複合ドキュメントの分類, XML: eXtensible Markup Language 第3回: SGML (Standard Generalized Markup Language) と XML 第4回: デジタル放送における複合ドキュメント, 集合論, 線形代数 (第4回が終了する時期に、第1回レポートを課す。)</p> <p>第5週～第8週: 複合ドキュメントを対象とした検索技術・ベクトル空間モデルの技術</p> <p>第5回: 全文検索 第6回: マルチメディアデータの検索 第7回: メタデータ, MPEG-7 第8回: Question Answering, メタ検索エンジン (第8回が終了する時期に、第2回レポートを課す。)</p> <p>第9週～第13週: 複合ドキュメントを対象とした分析および可視化によるデータマイニング技術</p> <p>第9回: データマイニングの基礎, 相関ルール抽出 第10回: 時系列分析 第11回: 可視化: Visualization 第12回: クラスタリングとクラシフィケーション 第13回: データマイニングの応用 第14回: まとめ・最終レポート出題 第15回: まとめ・解説</p>
----------	---

準備学習	必修科目「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の内容を前提として授業を行う。
履修上の留意点	「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。留学など履修計画に困難な場合を除き、なるべく3年次以降に履修の方が効率的である。
成績評価の方法	毎回の講義における平常点、および、合計3回のレポートにより評価する。
教科書/テキスト	GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
参考書	講義中あるいは教材中に適宜指示する。
その他	本講義は、講義と各自のノートパソコンを用いた実習を併せた形式で行う。各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	435101
科目名	放送メディア論
担当者名	増淵 敏之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放送メディアが誕生して以来、その影響力が大きなものになると共に、様々な形で社会システムにも変化を与えてきました。放送メディアの現在までを経年的に追いながら、デジタル化、コミュニケーションメディアを含めた今後のあり方についても考察していきます。
授業スケジュール	ガイダンス (1)、メディアとしての放送の特性 (2~3)、放送メディアの歴史 (4~6)、産業としての放送メディア (7~8)、ラジオメディア (9)、テレビメディア (10~12)、ソーシャルメディアの台頭 (13~14)、まとめ (15)
準備学習	日常で接する様々な放送メディアを単に観たり、聴いたりするだけではなく、個人的な問題意識を持って接してください。とくに放送メディアの持つ信頼性について考えてみてください。
履修上の留意点	放送メディアと社会の関わりは密接なものになっています。日常で放送メディアを客観的に捉える習慣を身につけて下さい。
成績評価の方法	学期末テストと出席状況により評価します。
教科書/テキスト	特にありません。レジュメ配布。
参考書	授業内で適宜紹介します。

履修コード	436771
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン演習
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツの開発を実習する。具体的には、まず、画像、音楽、アニメーションなどの作成法等を学ぶ。さらに、これらをHTMLへ統合することで、実践的なWeb開発を概観する。
---------------------	--

到達目標	(到達目標) 基本的な概念やデータ構造を学んだ上で、各種ツールを学び、デザイン、ならびに、コーディングを含む、Webの実践的な開発能力の獲得を目指す。ツールとしては、今日広く使われている、Adobe Creative Suiteを用いる。
------	--

授業スケジュール	本講義は、Webコンテンツのデザインに関する技法の習得を目的として、履修者各自に対して製作を課す。なお、スケジュールは以下のものを予定している。 1. 導入 - マルチメディアデータとWebデザイン 2. 音声データとWebデザイン 3. 音楽作成とWebデザイン 4. ベクター画像処理とWebデザイン 5. Adobe Illustrator演習 6. ラスター画像処理とWebデザイン 7. 写真ワークショップ 8. Adobe Photoshop演習 9. アニメーション作成とWebデザイン 10. Adobe Flash演習 11. Flashを用いたWebナビゲーション 12. HTML, CSSを用いたデザイン技法 13. Adobe Dreamweaver演習 14. Web環境におけるマルチメディアデータの統合 15. まとめ
----------	--

準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、構築したいWebサイトの企画を事前に考えておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	マルチメディアコンテンツデザイン各論と同時履修であること。また、本講義は各自のPCにAdobeの評価版ソフトをインストールして使用するため、講義へは必ずPCを持参すること。
---------	--

成績評価の方法	期末までに構築する作品、毎回の講義における課題や実習の進捗を総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	Robin Williams (著), 吉川 典秀 (訳): 「ノンデザイナーズ・デザインブック」, 毎日コミュニケーションズ, (2008)
----------	---

参考書	Chuck Musciano (著), Bill Kennedy (著), 原 隆文 (訳): 「HTML & XHTML」, 第5版, オライリー・ジャパン, (2003) (株)アंक: 「HTMLタグ辞典」, 第6版, 翔泳社, (2007) (株)アंक: 「スタイルシート辞典」, 第4版, 翔泳社, (2007) ランディング, TART DESIGN: 「Illustrator レッスンブック」, ソシム, (2010) スタジオイーススペース: 「Photoshop レッスンブック」, ソシム, (2010) 佐藤 好彦: 「Flash レッスンブック」, ソシム, (2010) 渥美 聡子: 「Dreamweaver レッスンブック」, ソシム, (2010)
-----	--

履修コード	436611
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン各論
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 最も一般的な高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、原理について学ぶ。実際には、マルチメディアデータのデザイン技法として、画像処理、イラスト描画、音楽データ作成法、アニメーション作成法等を概観する。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。</p> <p>(到達目標) 基本的な概念やデータ構造を学んだ上で、各種ツールを学び、デザイン、ならびに、コーディングを含む、Webの実践的な開発能力の獲得を目指す。ツールとしては、今日広く使われている、Adobe Creative Suiteを用いる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本講義は、Webコンテンツのデザインを学ぶことを目的として、次のスケジュールで行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 - マルチメディアデータの基礎 2. 音声の標準化、量子化 3. 音楽データ作成と圧縮 4. ラスター画像における標準化、量子化 5. 写真ワークショップ 6. Adobe Photoshopを用いた画像の加工 7. Adobe Illustratorを用いたベクター画像の作成 8. ロゴ・デザインに見る記号論 9. 動画データの構造と応用 10. Adobe Flashを用いたベクターアニメーション 11. 多様なメディアデータとAdobe Flash 12. HTML、CSS、メタデータとマルチメディア 13. Adobe Dreamweaverを用いたHTML作成 14. WWW環境における各種メディア統合 15. まとめ - デザインという行為とコンピュータ
----------	---

準備学習	HTML、CSSは前提知識として必要であるため、情報リテラシーで学んだ内容をよく復習しておくこと。また、構築したいWebサイトの企画を事前に考えておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	マルチメディアコンテンツデザイン演習と同時履修であること。また、本講義は各自のPCにAdobeの評価版ソフトをインストールして使用するため、講義へは必ずPCを持参すること。
---------	--

成績評価の方法	レポート、ならびに、毎回の講義における課題や実習の進捗を総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト	Robin Williams(著)、吉川 典秀(訳)：「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ。(2008)
----------	---

参考書	<p>Chuck Musciano(著)、Bill Kennedy(著)、原 隆文(訳)：「HTML & XHTML」、第5版、オライリー・ジャパン。(2003)</p> <p>(株)アंक：「HTMLタグ辞典」、第6版、翔泳社。(2007)</p> <p>(株)アंक：「スタイルシート辞典」、第4版、翔泳社。(2007)</p> <p>ランディング、TART DESIGN：「Illustratorレッスンブック」、ソシム。(2010)</p> <p>スタジオイーススペース：「Photoshop レッスンブック」、ソシム。(2010)</p> <p>佐藤 好彦：「Flashレッスンブック」、ソシム。(2010)</p> <p>渥美 聡子：「Dreamweaverレッスンブック」、ソシム。(2010)</p>
-----	--

履修コード	431401
科目名	マルチメディアビジネス論
担当者名	クボタ, L.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The purpose of this course is to prepare students to become "managers " " in corporations that will increasingly face the challenges of a digital, multimedia world
---------------------	---

授業スケジュール	This course will meet one period a week. A highly important facet of the course will be case study work, in which students will gain exposure to companies engaged in various forms of multimedia business. The course will be geared toward creating a dynamic interactive learning process in which emphasis will be placed on "real-world" managerial and program challenges. The key to acquiring useful knowledge here is active participation and involvement in the form of class discussions, case study work, and analysis of programs, as well as formulating corporate strategies for the rapidly changing field of multimedia, i.e. the digital content industry. Guests who are leaders in various aspects of the multimedia field will be invited to engage in conversations with the students to share their practical and real-life
----------	---

準備学習	Read articles and cases on multimedia businesses. Be prepared to discuss these in class.
------	--

履修上の留意点	Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.
---------	---

成績評価の方法	Evaluation will be based on quizzes, final exam and case study participation.
---------	---

教科書/テキスト	There are no required textbook as readings will be provided on the class website.
----------	---

参考書	Professor will provide materials from the following:
-----	--

- Nigel Chapman and Jenny Chapman, Digital Multimedia, West Sussex, England, John Wiley & Sons Ltd, 2009
- Terry Flew, Understanding Media, New York, NY, Palgrave Macmillan, 2007
- Milton L. Mueller, Digital Convergence and its Consequences,
- Harold Vogel, Entertainment Industry Economics, Cambridge, MA, Cambridge University Press, 2011
- Alex Lowy and David Tocoll, Blueprint to the Digital Economy, New York: McGraw-Hill, 1998.
- William J. Mitchell, City of Bits, Cambridge, MA: The MIT Press, 1995.
- David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Boston, Harvard Business School Press, 1997.
- Hollywood Unstrung: The Emerging Digital Challenge—D Cinema and Beyond, Iarta, Los Angeles: Iarta Publications, 2001.
- Jean Lipman-Blumen & Harold J. Leavitt, Hot Groups, New York: Oxford University Press, 1999.
- Media Trends 2001, Paul Kagan Associates, Carmel, CA: Paul Kagan Associates, September 2000
- Tay Vaughn and Scott Rogers Osborne, Multimedia, New York: McGraw-Hill, 1998.
- Warren Bennis and Patricia Ward Biederman, Organizing Genius, Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1997.
- Ken Auletta, The Highwaymen: Warriors of the Information Superhighway, New York: Random House, 1997.
- Case Studies
- Anita Elberse, Marvel Enterprises, Inc., Harvard Business School Press, May 5, 2005
- Alan MacCormack and Enrico D' Angelo, Activision: The Kelly Slater's Pro Surfer Project, Harvard University Press, 9-605-020, July 18, 2005
- Ron Meyer: Universal Studios President and COO, Stanford Graduate School of Business, Case: EM-4, February 8, 2008
- Juan Alcacer, David Collis and Mary Furey, The Walt Disney Company and Pixar Inc.: To Acquire or Not to Acquire?, Harvard Business School Press, 9-70-462, January 15, 2010
- Cary Pisano and Alison Berley Wagonfield, Warner Bros. Entertainment, 9-610-036, November 3, 2009
- Anita Elberse and Sunil Gupta, Hulu: An Evil Plot to Destroy the World?, Harvard Business School Press, 9-510-005, June 29, 2010
- Victoria Chang, Bill Guttentag and Rod Kramer, Ron Meyer: Universal Studios President and COO, EM-4, Stanford Graduate School of Business, February 8, 2008
- Victoria Chang, Bill Guttentag and Rod Kramer, Denise Di Novi: Movie Producer, EM-3, Stanford Graduate School of Business, February 28, 2001

履修コード	427501
科目名	メディア・コミュニケーション概論
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション（個人、グループ、マスのレベル）があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) コミュニケーション・モデル 2. パーソナル・コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (3) 対面コミュニケーション (4) 遠隔コミュニケーション①：電話の進化 (5) 遠隔コミュニケーション②：携帯電話 3. グループ・コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (6) 集団・組織のコミュニケーション：企業の例を中心にして (7) コミュニティのコミュニケーション (8) 集団行動のコミュニケーション：噂とクチコミ 4. マス・コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (9) マス・メディアの変貌 (10) マス・コミュニケーション研究 (11) マーケティング・コミュニケーション①：広告 (12) マーケティング・コミュニケーション②：PR 5. グローバル・コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (13) メディアの進化とグローバル・コミュニケーション (14) 異文化間コミュニケーション 6. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (15) コミュニケーションとメディアの進化
----------	--

準備学習	社会における様々なコミュニケーション行為とメディア、その使い分けについて意識を持つように心がけて欲しい。
------	--

履修上の留意点	メディアおよびコミュニケーションについて概観する基本的な科目であるため1、2年生での履修を勧める。
---------	---

成績評価の方法	テスト40%, 平常点60%.
---------	-----------------

教科書/テキスト	船津 衛『コミュニケーション・入門 改訂版』有斐閣アルマ、2010年、1,890円、ISBN 978-4-641-12396-0
----------	--

参考書	講義中に指示する。
-----	-----------

履修コード	435401
科目名	メディアイベント論
担当者名	高 媛
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 芸能人の結婚会見からスポーツの祭典まで、現代社会にはメディアによって報道あるいは創出されるイベントが数多く存在する。この授業では、具体例を通して、メディア・イベントの歴史、類型とメカニズムを、国家の権力と消費社会の構造のなかで学んでいく。</p> <p>(到達目標) 日本と海外のさまざまな実例を通して、メディアとイベントとの関係を読み解き、メディア・イベントの仕組みを理論的に考察し、メディアが持つ社会的機能への理解を深めることが、本講義の基本的な目標である。具体的には、(1) 歴史の文脈からメディア・イベントの変容について読み解く基礎体力を養うこと。(2) 国家の権力と消費社会の構造のなかで、メディア・イベントはいかに創出されてきたのかについて考察を深めること。(3) 日常生活におけるさまざまな現在進行形のメディア・イベントについて、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 概説：メディア・イベントの基本理論 第2回 政治イベント(1) 選挙キャンペーン 第3回 政治イベント(2) 選挙プランナー 第4回 政治イベント(3) 選挙CMの歴史と類型 第5回 スポーツビジネスとメディア・イベント 第6回 スポーツイベント(1) オリンピック 第7回 スポーツ・イベント(2) 大学とスポーツイベント 第8回 イメージキャラクター(1) キャラクタービジネス 第9回 イメージキャラクター(2) ゆるキャラブーム 第10回 イメージキャラクター(3) 大学とキャラクター 第11回 有名人の追悼イベント 第12回 ネット時代のメディア・イベント第1回 異文化間コミュニケーションの基本理論 第13回 グループワーク(1) 草案の作成 第14回 グループワーク(2) グループ発表 第15回 総括</p>
準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず十分に予習しておくこと。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
成績評価の方法	平常点(授業内の発表・発言)：30% レスポンスカードの内容の評価：30% 期末レポート：40%
教科書/テキスト	特に指定しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント—歴史をつくるメディア・セレモニー』(青弓社、1996年)、4,200円、ISBN: 4787231154 ・有山輝雄『甲子園野球と日本人—メディアのつくったイベント』(吉川弘文館、1997年)、1,785円、ISBN: 4642054146

履修コード	427811
科目名	メディア制度論
担当者名	西岡 洋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	放送および通信事業者は、ネットワーク産業であり公益事業であるということから、様々な規制を受けながら事業を展開している。本講義では、放送および通信産業がネットワーク産業として持つ産業の特徴および政策の基本的内容、さらに産業の概況を、全体としてひとつの制度として理解することを目的とする。また、政府資料などを参照するなど情報通信産業に関する情報収集に役立つ基礎知識を身につけられるように配慮する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション <ul style="list-style-type: none"> (1) メディアとは、制度とは (2) ネットワーク産業としての特徴と規制とは (3) 政策とは、関与する組織とは 2. 放送 <ul style="list-style-type: none"> (4) 放送産業の概要 (5) 放送における各種規制 (6) 地上放送 (7) 衛星放送 (8) ケーブルテレビ 3. 通信 <ul style="list-style-type: none"> (9) 通信産業の概要 (10) 通信における各種規制 (11) 日本の通信政策の流れ①：固定系市場を中心に (12) 日本の通信政策の流れ②：移動系市場を中心に (13) 日本の通信政策の流れ③：グローバル市場における日本 4. まとめ <ul style="list-style-type: none"> (14) 日本のメディア産業の課題 (15) メディア産業の進化と制度
----------	---

準備学習	メディア産業は非常に速いテンポで変化を遂げている。日常的に関連ニュースに注意を払うこと。
------	--

履修上の留意点	本講義の履修に先立ち経営学や経済学の基本的な科目を履修することを勧める。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	テスト40%、平常点60%で総合的に評価する。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	毎年発行の総務省『情報通信白書』（総務省サイトより取得可能）
----------	--------------------------------

参考書	適宜、講義中に指示する。
-----	--------------

履修コード	416301
科目名	メディアと企業
担当者名	山口 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 この科目では、テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業とのかかわりをおおまかにとらえます。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して情報やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。こうしたメディアをめぐる企業の活動の概況やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動きを概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することをめざします。</p>
---------------------	--

【到達目標】
メディアビジネスを概括的に理解すること、及び、これを題材として、経営学の基礎を身につけることを目標とします。

授業スケジュール	<p>さまざまなメディアビジネスの現状と課題、メディアとコンテンツ、情報技術の発達とメディアビジネス、他。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 企業とメディアビジネス 第3回 出版業界 第4回 放送業界 第5回 通信業界 第6回 インターネット業界 第7回 新聞業界 第8回 広告業界 第9回 企業とメディアの関係 第10回 メディア企業の倫理と社会的責任 第11回 メディア企業と個人の関係 第12回 メディア企業と財務 第13回 情報技術の発達とメディアビジネスの変化 第14回 メディアビジネスの未来 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>事前に指定した資料は必ず読んできてください。 テレビや雑誌、新聞、電話、インターネットなど、今どんなメディアがあつてどんなサービスが提供され、それを誰が利用しているのか、どんな新しいことが起きているのかなど、意識して情報を取り入れるようにしてみてください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、平常点の一部として成績にも反映します。逆に、授業を妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 小テストその他で携帯電話ないスマートフォン機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>配点は次の通り。 レポート50% 平常点50% (小テスト (複数回合計)、及び授業への参加)</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>なし。 授業中に使用したスライドは配布します。</p>
----------	------------------------------------

参考書	<p>電通総研編「情報メディア白書2012」 15,750円 ISBN: 978-4478017807 (GMS学部事務室にありますので購入の必要はありません)</p>
-----	--

履修コード	417201
科目名	メディアと情報
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「情報」とは、古くから「事象、事物、過程、事実などの対象について知り得たこと」や「知らせ」などとして理解されてきた。一方、「メディア」とは、情報の「記録」「伝達」「保存」などに用いる物や装置である。日本語では「媒体」と訳されることが多い。 情報が社会に流通するためにはメディアは欠くことの出来ない存在である。特にコンピュータが世界中に広まっている今日においては、その基盤となるデジタルメディアが、社会のあらゆる活動に密接な関係を持っている。本講義ではまず「情報」と「メディア」について古くから展開されてきた議論に基づいて定義する。そして、デジタル化の概念や具体例、それによるメリット・デメリットについて簡単な演習を通じて体験的に理解していく。</p>
---------------------	---

(到達目標)
第一に「情報」と「メディア」にまつわる歴史的な流れや議論を理解する。第二に今日のデジタルメディアの原理と特徴を理解し、応用する力を身に付ける。第三にデジタルメディアを利用したコミュニケーションによってもたらされる情報氾濫に対して、我々がどのように対応したらよいか自ら考え実践する力を身に付ける。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義 ガイダンス 2) メディアの歴史、情報の歴史 3) メディアとは 4) 情報とは 5) アナログとデジタル 6) 文字のデジタル表現 符号化とは 7) 音声のデジタル表現 量子化と標本化 8) 画像・映像のデジタル表現 9) 情報の量 10) 数学とデジタル技術 ～暗号・圧縮・ハッシュ～ 11) デジタルメディアによる社会の変化 (1) 12) デジタルメディアによる社会の変化 (2) 13) メディアと情報の新しい関係 (1) 14) メディアと情報の新しい関係 (2) 15) メディアと情報 まとめ
----------	--

準備学習	<p>情報リテラシー・情報リテラシー実習で学んだことを前提に講義が進むので、一度復習しておくこと。 また、講義中に次回の講義に必要な資料と範囲を指定する。熟読し講義に備えること。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>毎回、授業支援システム上の「講義日誌」に、受講した講義の要約とコメントを記述する。なお、講義中に時間は設けないので、授業時間外に記述すること。 就職活動や部活動などやむを得ない事情で欠席した場合は、「講義日誌」にその旨を記述して提出すること。なお、証明書類や依頼状などの提出は不要である。 講義で利用する資料は、授業支援システムに電子的に掲出するため、講義中にインターネットに接続し資料を閲覧できるようにしておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点 (40%) とレポート (60%) で評価する。定期試験は行わない。 平常点には、単元ごとに理解度を問う小テストを行う、毎回記述する「講義日誌」が含まれる。 レポートは合計3題提出する。すべて提出されていることが単位取得の最低条件である (レポートがすべて提出されていても必ず単位が取得できるわけではない)。</p>
---------	---

教科書/テキスト	教科書は授業支援システムに公開する。
----------	--------------------

参考書	<p>メディアや情報と我々の生活との関わり方や、デジタルによる表現、コミュニケーションなど本講義の多くの部分に関連する副読本として以下を参考書に指定する。 ・山口治男「IT Text メディア学概論 (情報処理学会編集)」オーム社 2,400円 ISBN-13: 978-4-274-21003-7</p>
-----	---

インターネット以降のマスメディア、特に新聞・雑誌など出版物に関する今後の様相が思慮深く記述されており、今後のメディアのあり方を考える副読本として以下を参考書に指定する。
・小林弘人「新世紀メディア論 新聞・雑誌が死ぬ前に」basilico 1,500円 ISBN-13: 978-4-86238-129-3

「メディア」をより深く理解した履修者には、以下の古典を熟読することを進める。難解な文章だがデジタル化されたメディアがますます発展する今後に様々な示唆を与えてくれる。
・M. マクルーハン (栗原裕、河本仲聖訳)「メディア論 人間の拡張の諸相」みすず書房 5,800円 ISBN-13: 4-622-01897-7

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	437301
科目名	メディアとセキュリティ
担当者名	石川 憲洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>コンピュータネットワークは、電子政府、電子商取引、遠隔教育等を含む社会全般を支える重要な社会基盤となった。その適用分野と機能範囲が拡大する一方で、その安全性は確保されているとは言いがたい。犯罪行為、意図的攻撃等によるメディア情報の漏洩・改ざん、システム停止等の被害を最小化するため、情報セキュリティの技術、法律、規格、倫理、組織、教育等の多面的な対策が必要となる。この授業では、情報システムの安全性を確保するための基本的な対策に重点を置いて学習し、その現状と課題について学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>インターネット、携帯電話の普及に伴い、様々な脅威から情報システムを守る情報セキュリティの重要性が増大している。本授業では、情報システムのセキュリティを守る基盤技術である暗号技術、電子署名、認証・アクセス制御技術などそのインターネットへの応用について、その基本的な知識を習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 リスクと対策</p> <p>第2回 情報セキュリティのガイドラインと法制度</p> <p>第3回 暗号の技術と制度</p> <p>第4回 共通鍵暗号技術 (1/2)</p> <p>第5回 共通鍵暗号技術 (2/2)</p> <p>第6回 公開鍵暗号技術 (1/2)</p> <p>第7回 公開鍵暗号技術 (2/2)</p> <p>第8回 認証の技術 (1/2)</p> <p>第9回 認証の技術 (2/2)</p> <p>第10回 認証に関わる法制度</p> <p>第11回 不正アクセス対策の技術と法制度</p> <p>第12回 情報セキュリティの応用 (1/2)</p> <p>第13回 情報セキュリティの応用 (2/2)</p> <p>第14回 情報セキュリティを巡る新たな展開</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	「情報リテラシー及び実習」を履修済みであること。選択科目「情報保護と社会」を履修済みであることが望ましい。
成績評価の方法	レポート(前期レポート、後期レポート)75%、平常点(授業への積極的な参加、授業での積極的な発言など)25%とする。
教科書/テキスト	講義資料をGMS授業支援システムを利用して、公開、配布する。
参考書	<p>下記の参考書の他、授業中にホームページ等を紹介する。</p> <p>・結城浩著『新版 暗号技術入門』ソフトバンククリエイティブ、3000円、ISBN 978-4-7973-5099-9</p>

履修コード	437101
科目名	メディアと知識論
担当者名	南 政樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) メディアにより世界中の様々な情報が容易に生み出され、利用できるようになった。インターネットによってデジタル情報が容易に共有できる状態で、我々はそれ活用し、知識として利用することでより発展的かつ効率的な活動を行うことが可能である。知識は様々な情報を体系的に理解し、様々な論理的考察や類推によって体现される。そして、その知識こそが人間の知的活動における根源となる。</p> <p>本講義では、「知識処理」という概念に基づき、知識の表現、操作、管理の手法を学ぶと共に、具体的なデータをを用いた新たな知識の獲得や表現を処理する基本的な手法を取り上げる。</p> <p>(到達目標) 第一に認知科学の分野から「知識」に関する知識を学び、人間の概念や記憶、知覚、認知について理解する。第二に形式的に表現された知識を用いた例としてセマンティックWebを取り上げ、メタデータを利用したインテリジェントなWebの操作を学ぶ。具体的にはWikipediaから抜粋した情報を扱えるdbpediaを対象として、メタデータの作成、その操作、基本的な辞書構築(オントロジー)、自然言語処理機能の利用など知識表現やその処理を理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) この講義の目的 2) 知識の表現 3) 知識の利用 4) 知識の管理 5) 論理と推論 (1) ~命題論理と述語論理~ 6) 論理と推論 (2) ~推論の基礎~ 7) セマンティックWEB (1) ~基本機能、構造~ 8) セマンティックWEB (2) ~メタデータと知識~ 9) セマンティックWEB (3) ~記述言語RDF(Resource Description Framework)~ 10) オントロジーとその記述言語OWL (1) 11) オントロジーとその記述言語OWL (2) 12) 検索言語SPARCL (1) 13) 検索言語SPARCL (2) 14) Open DataとセマンティックWEB 15) まとめ
----------	---

準備学習	<p>情報リテラシー・情報リテラシー実習で学んだことを前提に講義が進むので、一度復習しておくこと。</p> <p>また、講義中に次回の講義に必要な資料と範囲を指定する。熟読し講義に備えること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>毎回、授業支援システム上の「講義日誌」に、受講した講義の要約とコメントを記述する。なお、講義中に時間は設けないので、授業時間外に記述すること。</p> <p>就職活動や部活動などやむを得ない事情で欠席した場合は、「講義日誌」にその旨を記述して提出すること。なお、証明書類や依頼状などの提出は不要である。</p> <p>講義で利用する資料は、授業支援システムに電子的に掲出するため、講義中にインターネットに接続し資料を閲覧できるようにしておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点(40%)とレポート(60%)で評価する。定期試験は行わない。</p> <p>平常点には、単元ごとに理解度を問う小テストを行う。毎回記述する「講義日誌」が含まれる。レポートは合計3題提出する。すべて提出されていることが単位取得の最低条件である(レポートがすべて提出されていても必ず単位が取得できるわけではない)。</p>
---------	--

教科書/テキスト	授業支援システムに公開する。
----------	----------------

参考書	<p>セマンティックWebを使った知識の獲得をプログラミングによって行う事例が豊富に掲載されている。講義ではプログラミングはほとんど扱わないが、より深く理解するための副読本として以下を参考書とする。</p> <p>・Toby Segaran他著、大向一輝他訳「セマンティックWeb プログラミング」オライリー・ジャパン 3,360円 ISBN978-4873114521</p>
-----	---

その他	質問などがある場合はオフィスアワー(水曜日 13:00~14:30 第一研究館6階1615)を利用すること。
-----	--

関連リンク	http://minamilab.jp/gms/
-------	---

履修コード	434101
科目名	メディアとデータベース
担当者名	石橋 直樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) データベースは、コンピュータの記憶空間に散在する膨大なデータから情報検索者が適切なデータを容易に検索する機能を提供する。近年、インターネット、Webの目覚ましい発展により、広域ネットワークに多種多様なデジタルコンテンツが提供されるようになってきた。本講義では、データベースの基礎的な概念、構成を学ぶと同時に、広域ネットワーク上に散在するデジタルコンテンツをコンテキストや感性などを用いて検索可能とする将来のデータベース像についても言及する。
---------------------	--

(到達目標)

本講義では、特に、Web環境を対象としたデータベース技術の適用を学ぶ。これにより、サーチエンジンなどWeb環境における情報の格納・集約・検索システムを実現するための基礎能力の習得を目指す。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 - データベースとは何か 2. リレーショナルデータベースの仕組み 3. SQLを用いたデータベース検索 4. データベース検索実習 5. リレーショナルデータベースの応用 6. オブジェクト指向データベースの構造 7. マルチメディアデータベースと感性情報処理 8. データベースの設計と正規化 9. SQLを用いたデータベース構築 10. データベース設計・構築実習 11. Perlを用いたCommon Gateway Interface 12. Webデータベースの構築 13. Web Database事例 1 - 掲示板の構築 14. Web Database事例 2 - サーチエンジンの構築 15. まとめ
----------	---

準備学習	情報リテラシーで学んだHTML、ならびに、CSSをよく復習しておくこと。また、Perlを用いたCGIプログラミングを行なうため、コンピュータワークショップで学んだPerlの基礎に関して各自確認しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	情報リテラシー実習を履修済みであることに加え、コンピュータワークショップを履修済みであることが望ましい。また、本講義は各自のPCを用いて実習を行なうため、講義へは必ずPCを持参すること。
---------	---

成績評価の方法	毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における課題や実習の進捗を総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	次のものに加え、Webにおいて電子教材を提供する。
----------	---------------------------

増永 良文：「リレーショナルデータベース入門—データモデル・SQL・管理システム」、サイエンス社。(2003)

参考書	<p>高塚 遙(著)、松田 亮一(著)、田中 ナルミ(著)、吉岡 肇(著)、SRA OSS 日本支社 (監修)：「新標準PostgreSQL」、ソフトバンククリエイティブ。(2009)</p> <p>Scott Guelich(著)、Gunther Birznicks (著)、Shishir Gundavaram (著)、田辺 茂也 (訳)、大川 佳織 (訳)：「CGIプログラミング」、オライリージャパン。(2001)</p> <p>Randal L. Schwartz(著)、Tom Phoenix(著)、brian d foy(著)、近藤 嘉雪(訳)：「初めてのPerl」、第5版、オライリージャパン。(2009)</p> <p>Chuck Musciano(著)、Bill Kennedy(著)、原 隆文(訳)：「HTML & XHTML」、第5版、オライリー・ジャパン。(2003)</p> <p>(株)アंक：「HTMLタグ辞典」、第6版、翔泳社。(2007)</p> <p>(株)アंक：「スタイルシート辞典」、第4版、翔泳社。(2007)</p>
-----	--

その他	本講義は、講義と実習を合わせた形式で行う。
-----	-----------------------

履修コード	417601
科目名	メディア文化論
担当者名	高 媛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 私たちが普段なにげなく暮らしている社会において、メディアはどのような「位置」を占めているのだろうか。本講義では、多言語・多ジャンルの映像資料を活用しながら、メディアに媒介された多様な文化現象を手がかりに、メディアと文化がどのような関係性を持ちながら変容してきたかについて考えていく。</p> <p>(到達目標) 本講義の基本的な目標は、政治、家族、ジェンダー、人種、国家、民族、戦争、ファッションなど、日本と海外のさまざまな実例への考察を通して、メディアと文化との関係を実践的に検討し、メディアが持つ社会的機能への理解を深めることである。具体的には、(1) グローバルな視点からメディアと文化との関係について読み解く基礎体力を養うこと。(2) 社会の隅々に網の目のように遍在している微細な権力の中で、文化変容がいかに行われてきたかについて考察を深めること。(3) 日常生活におけるさまざまな現在進行形のメディア現象について、受講者自身に自分の考え方を問いかけること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 概説：メディアと文化 第2回 アメリカの政治文化 第3回 日本の政治文化 第4回 メディアの中の家族像 第5回 メディアのジェンダー表現 第6回 日本のメディアにおけるLGBT表象 第7回 人種表現 第8回 移民とメディア 第9回 民族とメディア 第10回 「国家」の描かれ方 第11回 戦争とメディア 第12回 メディアにおけるファッション文化の変容 第13回 グループワーク (1) 草案作成 第14回 グループワーク (2) グループ発表 第15回 総括</p>
----------	---

準備学習	講義中に活発に発言することが求められるので、事前に授業支援システムに掲載する関連資料と文献を、必ず十分に予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。毎回授業の最後に、質問・感想を書き込むレスポンスカードの提出が求められる。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (授業内の発表・発言) : 30% レスポンスカードの内容の評価 : 30% 期末レポート : 40%
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』(新曜社、1994年)、2,800円、ISBN: 4788505061 ・阿部潔、難波功士編『メディア文化を読み解く技法』(世界思想社、2004年)、1,800円、ISBN: 4790710599
-----	--

履修コード	436301
科目名	メディア法
担当者名	新保 史生
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	情報メディアに関する法体系と法的諸問題を総合的に学びます。社会の情報化とネットワーク化の進行は、電子商取引の普及をはじめとして産業構造のみならず社会生活に多大な変化をもたらしています。その一方で、ネットワーク社会では新たな問題が生じており、それらに対応するために様々な法整備が行われています。本講義では、情報メディアに関する法整備の現状から個別の法律について解説し、ネットワーク社会における法的諸問題への対応を具体例を踏まえて講義します。
授業スケジュール	1. ネットワーク社会における法的諸問題の種類, 2. IT関連の法整備の状況, 3. 違法情報・権利侵害情報・有害情報の実状と法的対応の現状, 4. 権利侵害情報への対応, 5. ネットワーク社会における知的財産権の侵害, 6. ネットワーク社会における名誉毀損・プライバシー侵害, 7. 違法情報への対応, 8. サイバー犯罪の実状と対策 (ネットワーク関連型犯罪), 9. サイバー犯罪の実状と対策 (ネットワーク利用型犯罪), 10. ネットワーク社会の安全性確保のための法制度, 11. 電子商取引の推進と規制のための法制度, 12. ネットワーク社会における個人情報の保護, 13. 情報セキュリティと法, 14. 行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用の推進, 15. 講義期間中に新たに制定されたIT関連の新法解説
準備学習	講義資料は各自プリントアウトし、講義の解説を随時ノートすること。
履修上の留意点	成績評価について、就職活動や部活動等による欠席に伴う代替措置などは講じていません。成績調査など正式な手続による申請の場合を除き、単位の取得に関する個別相談は受け付けません。
成績評価の方法	レポート試験の成績によって評価します。
教科書/テキスト	
参考書	新保史生『情報管理と法』勉誠出版(2010)
その他	講義用資料は、グローバル・メディア・スタディーズ学部の授業支援システムにアップします。各自、アクセスをして確認してください。

履修コード	406701
科目名	メディアリテラシー
担当者名	小寺 敦之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人と人とのコミュニケーションを媒介するものを「メディア (medium)」と呼ぶならば、メディアと関わりを持たない人は存在しません。私たちはメディアに囲まれた生活を送っており、メディアから影響を受けたり、あるいはメディアを通して人々に影響を与えたりしています。皆さんがどのような学問に興味を持ち、どのような将来を描いていくにかかわらず、メディアと無関係の生活を送ることはできません。私たちには、主体的にメディアや情報に対峙していく能力が求められています。</p> <p>このクラスでは、メディアやそこから発せられる情報の性質を理解して、現代社会を賢く渡り歩くためのスキル「メディアリテラシー」を身につけていくことを目指します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義では、私たちの日常生活を取り巻く様々なメディアについて、具体例や理論を交えながらその仕組みと「読み方」を解説していきます。</p>
----------	--

第1回「メディアは世界をどのように変えたか」

私たちを取り巻くメディアが人間の生活にどのような影響を与えてきたのかについて考えます。私たちにとって「当たり前」の日常生活にメディアが大きく関わっていることを理解しましょう。

第2回～第4回「社会のイメージはどのようにして作られるのか」

私たちが社会について「知っていること」は、必ずしも私たちが「体験したこと」とは一致しません。社会のイメージはどのようにして作られるのか、メディアの影響力はどの程度大きいのか、そこにはどのような問題点があるのかについて考えていきましょう。

第5回～第9回「メディアを「読む」」

新聞やテレビニュースは、真実を伝える客観的な存在でしょうか。あるいは、そうあって欲しいと思う存在かもしれません。では「真実」「客観的」とは何でしょうか……。実際の新聞やテレビ番組を題材に、メディアを主体的に読むコツを学びましょう。

第10回～第15回「情報への対応力を身につける」

私たちは、メディアから流れる情報によって態度や行動を変えていくことがあります。「説得や誘導」「うわさ話」から「宣伝」「広告」に至るまで、心理学的理論を用いながら様々なテクニックを解説していきます。情報への対応力を磨いていきましょう。

準備学習	<p>予習の必要はありませんが、日頃から時事問題やメディアに関する話題に触れる習慣を身につけるよう心掛けてください。</p>
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞を授業内で使用することがあります。前週にアナウンスしますので、各自で用意してください。 2. 視聴覚教材を多く使用します。他の学生の迷惑になる行為が目立つ者は、その時点で単位修得を不可としますのでご了承ください。
---------	--

成績評価の方法	<p>講義テーマに関するミニレポートを毎回提出してもらいます。レポートのテーマについては講義の中で提示します。成績は、このミニレポートの総合点で判定します。</p> <p>なお、レポートは出席替わりではありません。講義内容を十分に理解しているか、主体的に課題に取り組んでいるかを判断します。毎回提出しても、その内容によっては単位を修得できない場合がありますのでご注意ください。</p>
---------	--

教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	406801
科目名	メディアリテラシー
担当者名	小寺 敦之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人と人とのコミュニケーションを媒介するものを「メディア (medium)」と呼ぶならば、メディアと関わりを持たない人は存在しません。私たちはメディアに囲まれた生活を送っており、メディアから影響を受けたり、あるいはメディアを通して人々に影響を与えたりしています。皆さんがどのような学問に興味を持ち、どのような将来を描いていくにかかわらず、メディアと無関係の生活を送ることはできません。私たちには、主体的にメディアや情報に対峙していく能力が求められています。 このクラスでは、メディアやそこから発せられる情報の性質を理解して、現代社会を賢く渡り歩くためのスキル「メディアリテラシー」を身につけていくことを目指します。
授業スケジュール	講義では、私たちの日常生活を取り巻く様々なメディアについて、具体例や理論を交えながらその仕組みと「読み方」を解説していきます。 第1回「メディアは世界をどのように変えたか」 私たちは取り巻くメディアが人間の生活にどのような影響を与えてきたのかについて考えます。私たちにとって「当たり前」の日常生活にメディアが大きく関わっていることを理解しましょう。 第2回～第4回「社会のイメージはどのようにして作られるのか」 私たちが社会について「知っていること」は、必ずしも私たちが「体験したこと」とは一致しません。社会のイメージはどのようにして作られるのか、メディアの影響力はどの程度大きいのか、そこにはどのような問題点があるのかについて考えていきましょう。 第5回～第9回「メディアを「読む」」 新聞やテレビニュースは、真実を伝える客観的な存在でしょうか。あるいは、そうあって欲しいと思う存在かもしれません。では「真実」「客観的」とは何でしょうか……。実際の新聞やテレビ番組を題材に、メディアを主体的に読むコツを学びましょう。 第10回～第15回「情報への対応力を身につける」 私たちは、メディアから流れる情報によって態度や行動を変えていくことがあります。「説得や誘導」「うわさ話」から「宣伝」「広告」に至るまで、心理学的理論を用いながら様々なテクニックを解説していきます。情報への対応力を磨いていきましょう。
準備学習	予習の必要はありませんが、日頃から時事問題やメディアに関する話題に触れる習慣を身につけるよう心掛けてください。
履修上の留意点	1. 新聞を授業内で使用することがあります。前週にアナウンスしますので、各自で用意してください。 2. 視聴覚教材を多く使用します。他の学生の迷惑になる行為が目立つ者は、その時点で単位修得を不可としますのでご了承ください。
成績評価の方法	講義テーマに関するミニレポートを毎回提出してもらいます。レポートのテーマについては講義の中で提示します。成績は、このミニレポートの総合点で判定します。 なお、レポートは出席替わりではありません。講義内容を十分に理解しているか、主体的に課題に取り組んでいるかを判断します。毎回提出しても、その内容によっては単位を修得できない場合がありますのでご注意ください。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	404821
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	エセックス. J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404831
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	エセックス J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	403701
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン. E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	403801
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404201
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3- to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404301
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404401
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3- to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404801
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	403901
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, J. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404501
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, J. G.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404101
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	スミス, G. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404701
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	スミス G. A.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書／テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404001
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404601
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404841
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404851
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
準備学習	Students are encouraged to listen to English-language broadcasts, podcasts, and videocasts to prepare for the course.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on a dedicated Integrated English website on the GMS server for student access.
参考書	An up-to-date English learner's dictionary is recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	402801 402802
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ヴァン ヴィーレン D.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.
----------	--

In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.

For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.
---------	--

1 essay 30%
7 mini tests on reading texts 35%
Vocabulary notebook 5%
Reading test gain 5%
Journal/blog 10%
Extensive reading (reading graded material) 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	403201 403202
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	エセックス, J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書／テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403611 403612
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	オーラ. B.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication I is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	---

準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
---------	--

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	402501 402502
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	クオック, R. Y. F.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	402601 402602
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	杉森 建太郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	402901 402902
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	パイプ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	---

準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
---------	--

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	405021 405022
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	パイプ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.
----------	--

In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.

For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	No specific preparation is required.
------	--------------------------------------

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.
---------	---

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.
---------	--

1 essay30%
7 mini tests on reading texts35%
Vocabulary notebook5%
Reading test gain5%
Journal/blog10%
Extensive reading (reading graded material)15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	403631 403632
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	フアロー、 D.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403301 403302
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ブーハー, U. J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403401 403402
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ボシュエ E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403501 403502
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ボシユー. E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	---

準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>

成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
---------	--

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	403661 403662
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ボシュー. E.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403651 403652
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ホニスツ グリーンズ J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	405011 405012
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ホニスツ グリーンス J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403641 403642
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication 1 is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication 1, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed. In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set. For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.
----------	--

準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%. 1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%
---------	---

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	403001 403002
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication I is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403601 403602
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	レオーネ, J. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication I is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403101 403102
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	ローズ S.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Written Communication I is an integrated-skills reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.</p> <p>In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	No specific preparation is required.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.</p> <p>1 essay30% 7 mini tests on reading texts35% Vocabulary notebook5% Reading test gain5% Journal/blog10% Extensive reading (reading graded material)15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	405101 405102
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ヴァン ヴィーレン D.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405601 405602
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	エセックス, J.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
授業スケジュール	<p>In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.</p> <p>In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
成績評価の方法	<p>The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.</p> <p>2 essays 30% x 2 = 60% 3 mini tests on IR texts 15% Reading test gain 5% Journal/blog 5% Extensive reading 15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406011 406012
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	オーラ. B.

**授業概要/
到達目標 (ねらい)**

This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.

授業スケジュール

In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習

Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.

履修上の留意点

Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法

The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参考書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	404901 404902
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	クオック, R. Y. F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405001 405002
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	杉森 建太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード 405201 405202

科目名 Written Communication II Introduction to Writing

担当者名 パイプ J.

授業概要/
到達目標 (ねらい)

This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.

授業スケジュール

In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習

Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.

履修上の留意点

Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法

The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.

2 essays 30% x 2 = 60%
3 mini tests on IR texts 15%
Reading test gain 5%
Journal/blog 5%
Extensive reading 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参考書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.

その他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406091 406092
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	パイプ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405901 405902
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	フアーロー, D.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405801 405802
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ブーバー, U. J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

r

履修コード	405301 405302
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ボシユー. E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405401 405402
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ボシュー, E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405701 405702
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ボシュー E.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.</p> <p>In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	--

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.</p> <p>2 essays 30% x 2 = 60% 3 mini tests on IR texts 15% Reading test gain 5% Journal/blog 5% Extensive reading 15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
---------	---

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406031 406032
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ホニスツ グリーンズ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.</p> <p>In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	--

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
3 mini tests on IR texts 15%
Reading test gain 5%
Journal/blog 5%
Extensive reading 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406081 406082
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ホニスツ グリーンズ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

- 2 essays 30% x 2 = 60%
- 3 mini tests on IR texts 15%
- Reading test gain 5%
- Journal/blog 5%
- Extensive reading 15%
- 250 ~ 300 pages = 5%
- 350 ~ 400 pages = 10%
- 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406041 406042
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.</p> <p>In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.</p> <p>As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.</p>
----------	--

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	<p>Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.</p> <p>2 essays 30% x 2 = 60% 3 mini tests on IR texts 15% Reading test gain 5% Journal/blog 5% Extensive reading 15% 250 ~ 300 pages = 5% 350 ~ 400 pages = 10% 450 pages or over = 15%</p>
---------	---

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406001 406002
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	レオーネ, J. V.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	406051 406052
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	レオーネ, J. V.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	405501 405502
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	ローズ S.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.
---------------------	--

授業スケジュール	In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.
----------	---

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習	Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.
------	---

履修上の留意点	Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.
---------	--

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy.

成績評価の方法	The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.
---------	--

2 essays 30% x 2 = 60%
 3 mini tests on IR texts 15%
 Reading test gain 5%
 Journal/blog 5%
 Extensive reading 15%
 250 ~ 300 pages = 5%
 350 ~ 400 pages = 10%
 450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
----------	---

参考書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated. You are also strongly encouraged to make full use of free online resources such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) which will help you understand how vocabulary is used in modern, everyday English.
-----	--

その他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
-----	--

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>